茨城県教育財団文化財調査報告第171集

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書1

下大井遺跡

平成13年3月

建設省
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第171集

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書１

下大井遺跡

平成13年3月

建設省
財団法人　茨城県教育財団

序

茨城県南部の茎崎町周辺地域には，国の首都圏整備計画による「土浦・筑波業務核都市構想」が計画されております。

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の建設は，県南・県西の交通の円滑化と，交流・連携が強化され，地域の自立性を高める拠点となる都市整備を目的に計画されたものであります。その予定地内には埋蔵文化財包蔵地である下大井遺跡が確認されております。

財団法人茨城県教育財団は，建設省と埋蔵文化財の発掘調査事業について委託契約を結び，平成11年４月から８月まで下大井遺跡の調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構，遺物が確認され，郷土の歴史を解明する上で多大な成果をあげることができました。

本書は，下大井遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究の資料としてはもとより，郷土史の理解を深め，ひいては教育，文化の向上の一助として広く活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である建設省からいただいた多大なる御協力に対し，心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，茎崎町教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力をいただいたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成13年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，建設省関東地方建設局（常総国道工事事務所）の委託により財団法人茨城県教育財団が平成11年度に発掘調査を実施した，茨城県稲敷郡茎崎町大字大井に所在する下大井遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　査　　平成11年４月１日～平成11年８月31日

整　理　　平成12年４月１日～平成12年９月30日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第一課長阿久津久の指揮のもと，調査第３班長仙波亨，首席調査員川津法伸，副主任調査員皆川修が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理課長川井正一の指揮のもと，首席調査員川津法伸が担当した。

5　本書の作成にあたり，墨書土器の釈文については，国立歴史民俗博物館の平川南教授に御指導いただいた。

6　発掘調査及び整理に際し，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，Ｘ軸＝＋1,560m，Ｙ軸＝＋27,960mの交点を基準点（A1 a1）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ１，２，３…とし，「Ａ１区」，「Ｂ２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へａ，ｂ，ｃ…ｊ，西から東へ１，２，３…０とし，名称は，大調査区の名称を冠し，「Ａ１a1区」，「Ｂ２b2区」のように呼称した。

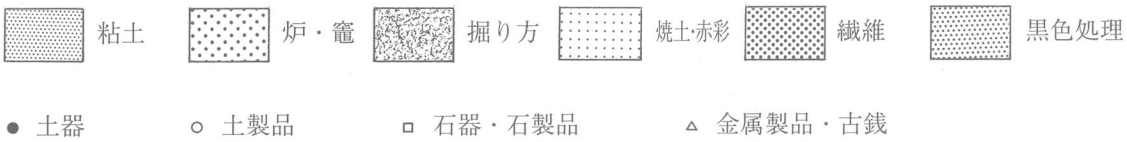
2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡－ＳＩ　土坑－ＳＫ　塚－ＴＭ　溝－ＳＤ　不明－ＳＸ

遺物　土器－Ｐ　土製品－ＤＰ　石器・石製品－Ｑ　金属製品・古銭－Ｍ　拓本土器－ＴＰ　その他－Ｙ

土層　撹乱－Ｋ

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。



4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺跡の全体図は300分の１の縮尺とし，各遺構の実測図は，60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては，個々に縮尺をスケールで表示した。

6　「主軸方向」は，炉・竈を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　Ｎ－10°－Ｅ）。なお，［　］を付したものは推定である。

7　土器の計測値は，口径－Ａ　器高－Ｂ　底径－Ｃ　高台径－Ｄ　高台高－Ｅ　つまみ径－Ｆ　つまみ高－Ｇとし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

8　遺物観察表の備考欄は，土器の残存率，出土位置，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

9　遺物番号については，土器，拓本のみ掲載の土器片，土製品，石製品，金属製品ごとに通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に付した番号は同一とした。

抄　　録

ふりがな	いっぱんこくどう468ごうしゅとけんちゅうおうれんらくじどうしゃどうしんせつこうじちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書1
副書名	下大井遺跡
巻次	
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第171集
著者名	川津　法伸
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL　029-225-6587
発行日	2001年（平成13年）3月21日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しもおおいいせき 下大井遺跡	いばらきけんいなしきぐんくきざきまち 茨城県稲敷郡茎崎町 おおあざおおいあざはしもと 大字大井字橋本1,387 ばんち 番地の1ほか	08445 ｜ 34	36度 00分 32秒	140度 08分 35秒	19 ～ 21m	19990401 ～ 19990831	4,136.78㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下大井遺跡	その他	旧石器	石器集中地点1か所	ナイフ形石器，剥片，石核	縄文時代から平安時代にかけての集落跡である。 遺物では，「上家」「上寺」と書かれた墨書土器，鉄鉢，三彩陶器が出土している。 遺構では，出入り口部に階段状施設を有する住居跡，コーナーに竈をもつ住居跡が検出されている。
	集落跡	縄文	竪穴住居跡　8軒 炉穴　1基	縄文土器（深鉢），石器（石鏃・磨石）	
		古墳	竪穴住居跡　4軒 土坑　1基	土師器（坏・甕・坩），石製品（紡錘車・勾玉・管玉・双孔円板）	
		奈良・平安	竪穴住居跡　16軒 ピット群　1か所	土師器（坏・甕・鉄鉢），須恵器（坏・高台付坏・蓋・椀・こね鉢・鉄鉢・高盤），墨書土器，三彩陶器，灰釉陶器，金属製品（刀子，鎌，鉸具），鉄滓，土製品（羽口・支脚），石製品（砥石）	
	塚墓	中世	塚　1基 土壙墓　1基	土師質土器，金属製品（火打金），石製品（火打石），古銭，陶器（小皿）	
	その他	不明	不明遺構　1基 土坑　58基 溝　3条		

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果 …… 7
　第１節　遺跡の概要 …… 7
　第２節　基本層序の検討 …… 7
　第３節　遺構と遺物 …… 8
　　1　旧石器時代 …… 8
　　2　縄文時代 …… 14
　　(1)　竪穴住居跡 …… 14
　　(2)　炉穴 …… 23
　　3　古墳時代 …… 24
　　(1)　竪穴住居跡 …… 24
　　(2)　土坑 …… 37
　　4　奈良・平安時代 …… 38
　　(1)　竪穴住居跡 …… 38
　　(2)　ピット群 …… 75
　　5　中　　世 …… 76
　　(1)　土壙墓 …… 76
　　(2)　塚 …… 78
　　6　その他の遺構 …… 80
　　(1)　土坑 …… 80
　　(2)　溝 …… 80
　　(3)　不明遺構 …… 80
　　7　遺構外出土遺物 …… 84
　第４節　まとめ …… 95
写真図版

挿　図　目　次

第１図　下大井遺跡調査区設定図 …… 2
第２図　下大井遺跡周辺遺跡分布図 …… 4
第３図　基本土層図 …… 7
第４図　旧石器集中地点平面図 …… 9
第５図　旧石器集中地点遺物実測図 …… 10
第６図　旧石器遺物実測図(1) …… 12
第７図　旧石器遺物実測図(2) …… 13
第８図　旧石器遺物実測図(3) …… 14
第９図　第４号住居跡出土遺物実測図 …… 14
第10図　第４号住居跡実測図 …… 15
第11図　第15・18号住居跡実測図 …… 16
第12図　第17・20号住居跡実測図 …… 18
第13図　第21号住居跡実測図 …… 19
第14図　第22号住居跡実測図 …… 20
第15図　第24号住居跡実測図 …… 22
第16図　第24号住居跡出土遺物実測図 …… 22
第17図　第１号炉穴・出土遺物実測図 …… 23
第18図　第１号住居跡実測図 …… 25
第19図　第１号住居跡出土遺物実測図 …… 26
第20図　第23号住居跡実測図 …… 28
第21図　第23号住居跡出土遺物実測図(1) …… 29
第22図　第23号住居跡出土遺物実測図(2) …… 30
第23図　第25号住居跡実測図 …… 32
第24図　第25号住居跡出土遺物実測図 …… 33
第25図　第26号住居跡実測図 …… 34
第26図　第26号住居跡出土遺物実測図 …… 35
第27図　第60号土坑・出土遺物実測図 …… 38
第28図　第２号住居跡実測図 …… 40
第29図　第２号住居跡出土遺物実測図(1) …… 41
第30図　第２号住居跡出土遺物実測図(2) …… 42
第31図　第３号住居跡実測図 …… 44
第32図　第３号住居跡出土遺物実測図 …… 45
第33図　第５号住居跡実測図 …… 48
第34図　第５号住居跡出土遺物実測図 …… 48
第35図　第６号住居跡実測図 …… 49
第36図　第７号住居跡実測図 …… 50
第37図　第７号住居跡出土遺物実測図 …… 51
第38図　第８号住居跡実測図 …… 53
第39図　第８号住居跡出土遺物実測図 …… 54
第40図　第９号住居跡実測図 …… 55
第41図　第９号住居跡出土遺物実測図 …… 56
第42図　第10号住居跡実測図 …… 57
第43図　第10号住居跡出土遺物実測図 …… 58
第44図　第11号住居跡実測図 …… 60
第45図　第11号住居跡出土遺物実測図 …… 61
第46図　第12・13・14号住居跡実測図 …… 63
第47図　第12号住居跡出土遺物実測図 …… 64
第48図　第13号住居跡出土遺物実測図 …… 64
第49図　第16号住居跡実測図 …… 66
第50図　第16号住居跡出土遺物実測図 …… 67
第51図　第19号住居跡実測図 …… 68
第52図　第19号住居跡出土遺物実測図 …… 69
第53図　第27号住居跡実測図 …… 70
第54図　第27号住居跡出土遺物実測図 …… 71
第55図　第28号住居跡実測図 …… 74
第56図　第28号住居跡出土遺物実測図 …… 75
第57図　第１号ピット群・出土遺物実測図 …… 76
第58図　第１号土壙墓・出土遺物実測図 …… 77
第59図　第１号塚・出土遺物実測図 …… 79
第60図　土坑実測図(1) …… 81
第61図　土坑実測図(2) …… 82
第62図　土坑実測図(3) …… 83
第63図　第１・２・３号溝実測図 …… 84
第64図　第１号不明遺構実測図 …… 84
第65図　遺構外出土遺物実測図(1) …… 85
第66図　遺構外出土遺物実測図(2) …… 86
第67図　遺構外出土遺物実測図(3) …… 87
付　図　下大井遺跡遺構全体図

表　目　次

表１　下大井遺跡周辺遺跡一覧表 …… 5
表２　竪穴住居跡一覧表 …… 92
表３　土坑一覧表 …… 93
表４　溝一覧表 …… 94
表５　墨書土器一覧表 …… 97

写真図版目次

ＰＬ１　下大井遺跡遠景，Ａ区遺構確認状況
ＰＬ２　第１・２号住居跡遺物出土状況，第２号住居跡完掘状況
ＰＬ３　第２号住居跡竈内遺物出土状況，第３号住居跡完掘状況，第３号住居跡遺物出土状況
ＰＬ４　第３号住居跡竈内遺物出土状況，第４・５号住居跡完掘状況
ＰＬ５　第５号住居跡遺物出土状況，第７・８号住居跡完掘状況
ＰＬ６　第８・９号住居跡遺物出土状況，第９号住居跡完掘状況
ＰＬ７　第９号住居跡竈内遺物出土状況，第10号住居跡遺物出土状況，第11号住居跡完掘状況
ＰＬ８　第11号住居跡出入り口施設完掘状況，第12・13・14号住居跡完掘状況
ＰＬ９　第13号住居跡遺物出土状況，第16号住居跡完掘状況，第16号住居跡竈内遺物出土状況
ＰＬ10　第21・22号住居跡完掘状況，第23号住居跡遺物出土状況
ＰＬ11　第26・27・28号住居跡完掘状況，第27号住居跡遺物出土状況，第27号住居跡竈内遺物出土状況
ＰＬ12　第28号住居跡完掘状況，第28号住居跡遺物出土状況，旧石器グリット調査状況
ＰＬ13　旧石器出土状況，第１号ピット群完掘状況，第１号塚確認状況
ＰＬ14　第１号塚土層断面，第１号炉穴遺物出土状況，第１号土壙墓人骨・遺物出土状況
ＰＬ15　第１・23号住居跡出土遺物
ＰＬ16　第23・25・26号住居跡，第60号土坑出土遺物
ＰＬ17　第２・３号住居跡，第60号土坑出土遺物
ＰＬ18　第３・５・７・８号住居跡出土遺物
ＰＬ19　第７・９・10・11号住居跡出土遺物
ＰＬ20　第13・16・19・27・28号住居跡，第１号土壙墓出土遺物
ＰＬ21　第28号住居跡，第１号ピット群，第１号塚，遺構外出土遺物
ＰＬ22　出土遺物（墨書・印花文）
ＰＬ23　住居跡・遺構外出土遺物
ＰＬ24　土製品出土遺物，旧石器出土遺物
ＰＬ25　旧石器出土遺物
ＰＬ26　石製品・金属製品出土遺物

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の通過する県南・県西地域は，国際研究学園都市“つくば”を中心に，首都機能の一翼を担う地域として多くのプロジェクトが進められており，圏央道の建設がこれらの地域の発展に大きく貢献することが期待されている。そうしたなか，建設省は茎崎町内を通る圏央道の新設工事を計画した。

工事に先立ち，建設省関東地方建設局常総国道工事事務所は，平成９年１月７日に茨城県教育委員会に工事予定地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。茨城県教育委員会は，平成10年４月20日に現地踏査，平成10年６月９日に試掘調査を実施し，平成10年６月17日に建設省関東地方建設局常総国道工事事務所あてに工事地内に下大井遺跡が所在する旨を回答した。建設省関東地方建設局常総国道工事事務所は，平成10年11月17日，茨城県教育委員会にその取り扱いについて協議を求めた。茨城県教育委員会は，建設省関東地方建設局常総国道工事事務所と遺跡の取り扱いについて協議を重ね，現状保存が困難であることから，平成11年３月15日，建設省関東地方建設局常総国道工事事務所に対し，下大井遺跡を記録保存とする旨の回答を行い，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

建設省関東地方建設局常総国道工事事務所と財団法人茨城県教育財団は，埋蔵文化財発掘調査に関する業務委託契約を結び，平成11年４月１日から平成11年８月31日にかけて，下大井遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節　調　査　経　過

下大井遺跡の発掘調査を平成11年４月１日から平成11年８月31日までの５か月間にわたって実施した。以下，調査の経過について，その概要を記述する。

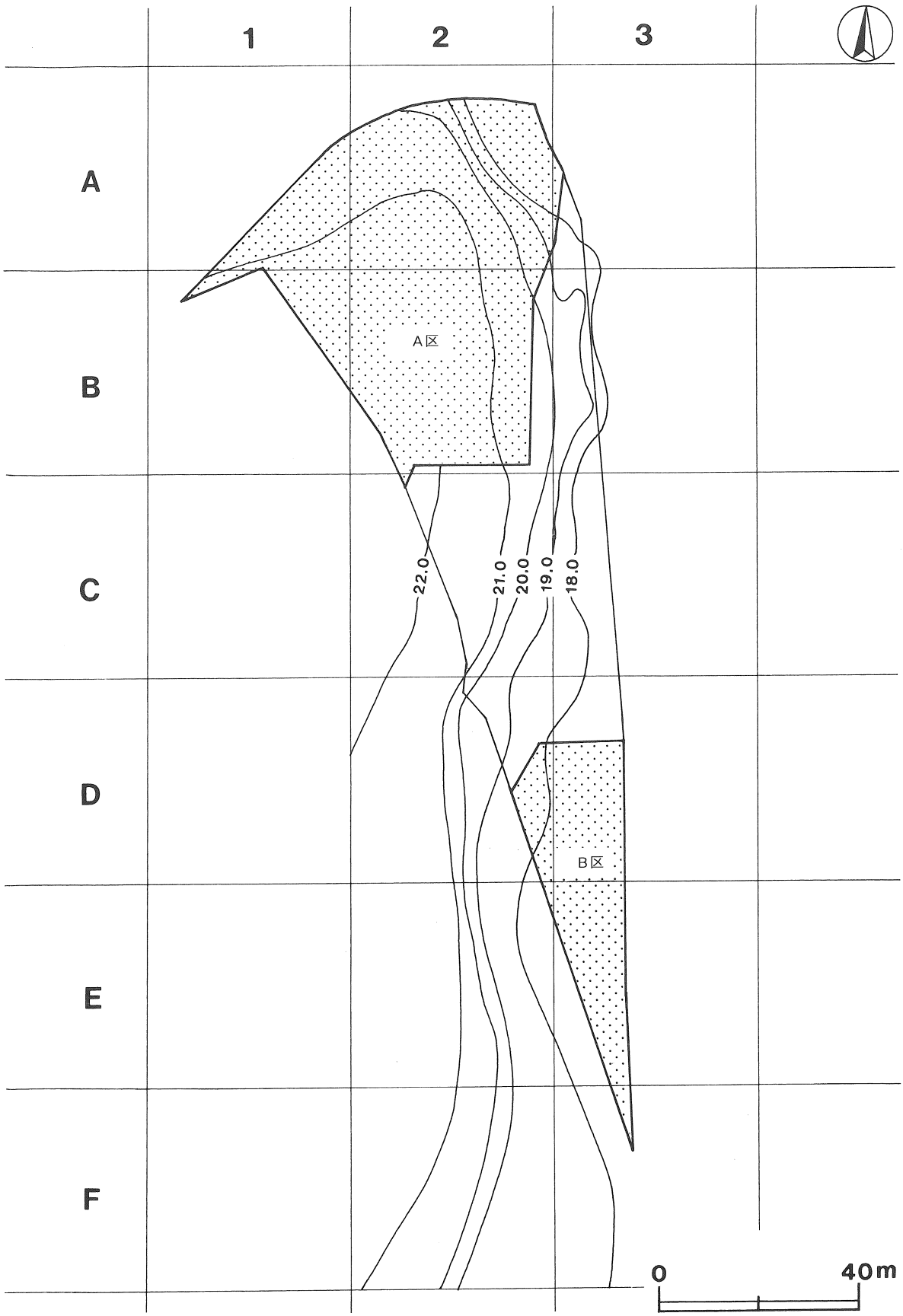
４月　発掘調査を開始するための諸準備を行う。４日に調査区域の現地踏査を行う。19日に発掘機材の搬入を行い，同日に補助員を投入して試掘を開始した。試掘の結果，縄文時代から平安時代の集落跡であることを確認した。28日から第１号塚の地形測量を開始した。

５月　６日から第１号塚の調査を開始し，17日からは重機による表土除去及び遺構確認作業を行った。Ａ区は杉等の切り株が多く，表土除去も思うように進まなかったが21日に終了した。引き続き24日からＢ区の表土除去を開始した。Ｂ区は，黒色帯で１ｍほど下げたところで湧水によりぬかるんでしまう状況であったが，住居跡１軒，土坑２基を確認した。

６月　１日にＢ区の表土除去も終了し，２日に遺構確認作業も終了した。４日からは遺構調査を開始し，８日に方眼杭打ち測量を行い，月末までに住居跡10軒，土坑21基，塚１基の調査を終了した。

７月　引き続き遺構調査を行い，月末までに住居跡12軒，土坑23基，溝２条の調査を終了した。

８月　２日からは，Ａ区とＢ区の遺構調査を並行して行い，９日にはＢ区の完掘全景の写真撮影を行い終了した。19日には，航空写真撮影を実施し，20日から補足調査と旧石器の調査，撤収の準備を行い26日には遺構調査が終了した。調査区域内の安全対策を行い，27日には現場事務所を撤収した。



第１図　下大井遺跡調査区設定図

第2章　位　置　と　環　境

第1節　地 理 的 環 境

下大井遺跡は，茨城県稲敷郡大字茎崎町字橋本1,387番地の１ほかに所在し，ＪＲ常磐線ひたちのうしく駅から北西に直線で約２㎞に位置している。

遺跡のある茎崎町は，関東平野の中央部からやや東に寄った，鹿島灘沿岸から約50㎞，南南西の東京湾から約40㎞の茨城県南部に位置し，東は牛久市，南は北相馬郡藤代町，西は筑波郡伊奈町，北はつくば市に接している。

地勢は，標高約23m前後の筑波・稲敷台地と呼ばれる平坦な台地となっている。この台地は，西を小貝川，東を桜川と南流する河川によって区切られ，その流域には沖積地が発達し，両河川の間には東から花室川，小野川，茎崎町の中央部を流れ牛久沼に注ぐ稲荷川，東谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れている。筑波・稲敷台地は，茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部であり，地質的には新生代第四紀更新世に形成された層が基盤となっている。下層から龍ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層が順次堆積している。茎崎町の台地は，ほぼ並行する稲荷川，東谷田川，西谷田川などによって形成され，小茎や上岩崎にある二つの細長い半島状の台地が東西に広い台地の間を北から南へ牛久沼に向かって延びている。

下大井遺跡は，小野川右岸の標高19～21mの台地縁辺部に位置している。台地は，４～６mの比高をもって小野川の流れる沖積地に臨み，南部は西から谷津が延びる。台地上はほぼ平坦であり，遺跡はこの台地の東部に形成されている。遺跡周辺の土地利用状況は，主として宅地・畑地・平地林であり，小野川流域の沖積地は水田として利用されている。遺跡の現況は，畑地・山林であった。

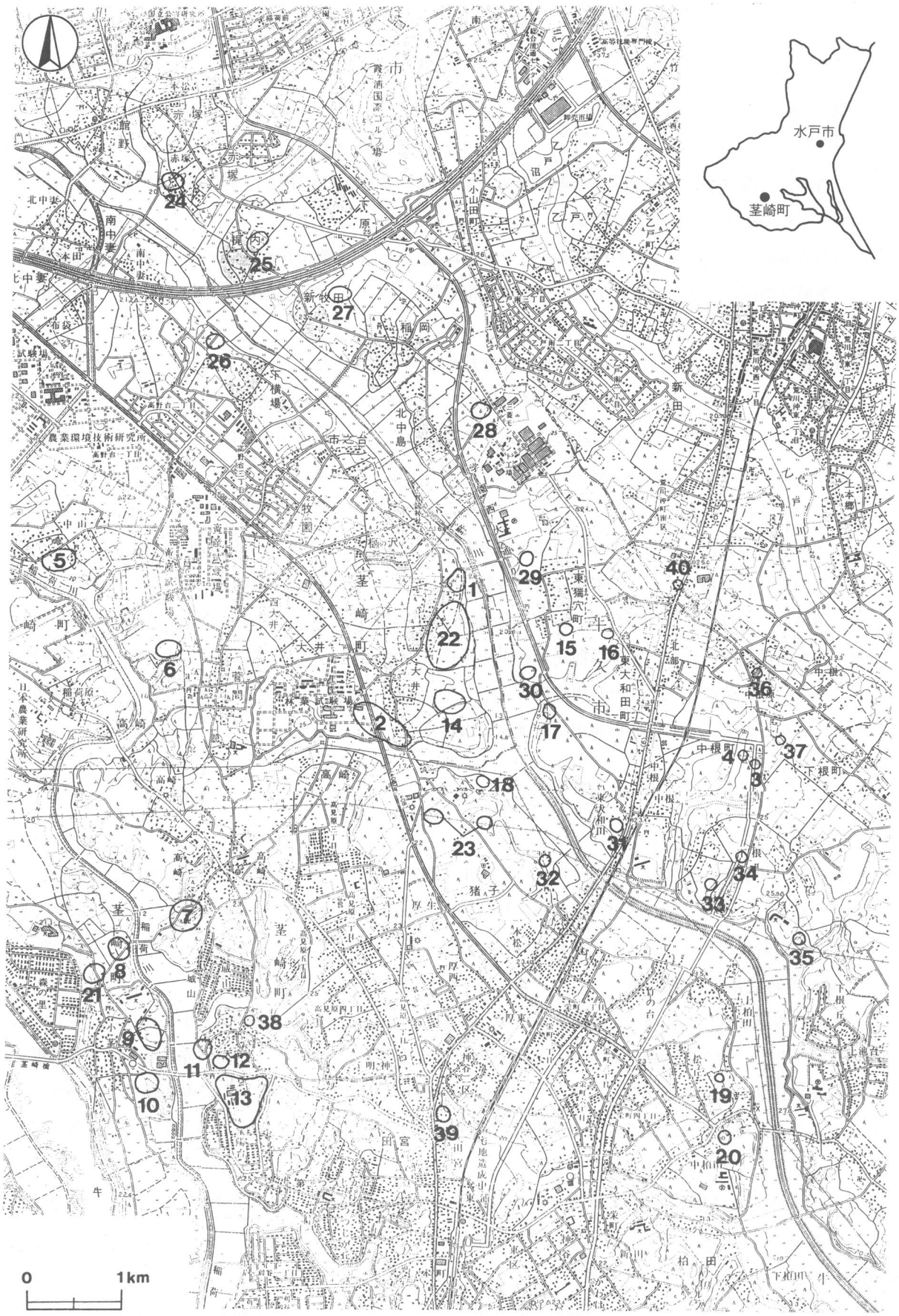
第2節　歴 史 的 環 境

下大井遺跡の所在する地域は，牛久沼周辺や小野川，稲荷川水系によって開析された台地上に位置し，数多くの遺跡が存在している。ここでは，小野川，稲荷川流域の当遺跡と関わりの深い遺跡について，大きく旧石器時代から古墳時代までと奈良・平安時代以降の二つに分けて述べることにする。

（１）旧石器時代から古墳時代

旧石器時代の遺跡は，茎崎町の大井五十塚古墳群内遺跡〈２〉，下岩崎泊崎城跡，小山台貝塚[1]，牛久市のヤツノ上遺跡[2]〈３〉，中久喜遺跡[3]〈４〉がある。大井五十塚古墳群内遺跡[4]は，小野川右岸に分布する古墳群であり，昭和48年12月から昭和49年３月にかけて学園都市街路牛久学園線の敷設に伴って発掘調査が実施され，全長43mの前方後円墳である。第５号墳の前方部周溝内から刃器が出土している。ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡からは，剥片・ナイフ形石器が出土している。

縄文時代の遺跡は，大小河川の流域及び牛久沼沿岸の台地上に20か所以上確認されており，貝塚も９か所が周知されている。稲荷川沿いでは，茎崎町の中山鹿島遺跡〈５〉・菅間遺跡〈６〉・孝学院遺跡〈７〉・小茎北遺跡〈８〉・小茎貝塚〈９〉・小茎南遺跡〈10〉・天宝喜Ｃ遺跡〈11〉・天宝喜貝塚〈12〉・天宝喜西遺跡〈13〉等がある。小野川沿いでは，茎崎町の大井遺跡〈14〉，牛久市の馬場遺跡[5]〈15〉・東山遺跡[6]〈16〉・坂本遺跡〈17〉・守子橋遺跡〈18〉・権現山上池遺跡〈19〉・出し山遺跡〈20〉等がある。小茎貝塚・天宝喜Ｃ



第２図　下大井遺跡周辺遺跡分布図

表１　下大井遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	下大井遺跡	○	○		○	○	○	○	21	稲荷山古墳群				○			
2	五十塚古墳群				○				22	下大井古墳群				○			
3	ヤツノ上遺跡		○		○	○			23	道山古墳群				○			
4	中久喜遺跡				○	○			24	駒形遺跡				○			
5	中山鹿島遺跡		○						25	梶内遺跡				○			
6	菅間遺跡		○						26	下横場遺跡				○			
7	孝学院遺跡		○						27	新牧田遺跡				○			
8	小茎北遺跡		○						28	北中島遺跡				○			
9	小茎貝塚		○						29	大久保遺跡				○			
10	小茎南遺跡		○						30	行人田遺跡				○	○		
11	天宝喜Ｃ遺跡		○						31	根柄遺跡				○			
12	天宝喜貝塚		○						32	中宿遺跡				○			
13	天宝喜西遺跡		○		○				33	宮の台遺跡				○			
14	大井遺跡		○						34	梨の木遺跡				○			
15	馬場遺跡		○		○	○			35	水落下遺跡				○			
16	東山遺跡		○		○	○			36	隼人山遺跡				○	○		
17	坂本遺跡		○	○					37	中下根遺跡				○	○		
18	守子橋遺跡		○						38	高崎城跡						○	
19	権現山上池遺跡		○		○				39	田宮一里塚							○
20	出し山遺跡		○		○				40	荒川沖一里塚							○

遺跡は，中期の大遺跡である。以上の縄文時代の遺跡の傾向は，早期には小規模で遺跡数が少なく，中期になり遺跡数が増大し，後期の段階でより安定して貝塚が多く形成され，晩期には遺跡数が減少する傾向にある。

古墳時代の遺跡では，稲荷川・小野川沿い及びその周辺には多くの古墳群が確認されている。稲荷川沿いでは，茎崎町の稲荷山古墳群〈21〉，小野川沿いでは，茎崎町の大井五十塚古墳群・下大井古墳群〈22〉，牛久市の道山古墳群〈23〉等であり，その他の古墳も多く確認されている。発掘調査された古墳群は，前述した大井五十塚古墳群内遺跡であり，前方後円墳２基，円墳９基以上から形成されており，調査は部分的に第５・８・10号墳について実施されている。古墳の時期は，埴輪をもたないことや遺物等から６世紀後半頃と推定されている。稲荷川と小野川の間に位置する茎崎町の郷中塚古墳群は，発掘調査が実施されていないため詳細は不明である。集落跡では，小野川沿につくば市の駒形遺跡〈24〉・梶内遺跡〈25〉・下横場遺跡〈26〉・新牧田遺跡〈27〉・北中島遺跡〈28〉・牛久市の大久保遺跡〈29〉・馬場遺跡・東山遺跡・行人田遺跡[5]〈30〉・根柄遺跡〈31〉・中宿遺跡〈32〉・宮の台遺跡〈33〉・梨の木遺跡〈34〉・水落下遺跡〈35〉・隼人山遺跡[7]〈36〉・中下根遺跡[7]〈37〉・中久喜遺跡・ヤツノ上遺跡等がある。遺跡は複合している場合が多く，発掘調査も行われていないため不明な点が多い。ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡・中下根遺跡・隼人山遺跡は中期後半の集落跡で，

馬場遺跡は中期から後期にかけての集落跡である。

（２）奈良・平安時代以降

奈良・平安時代は，当遺跡の中心的な時期と考えられる。茎崎町は郡成立以前は筑波国の一部であったが，その後茎崎町の中央部を流れる稲荷川及び茎崎町と牛久市の境界を流れる小野川周辺は常陸国河内郡河内郷に編入された。茎崎町内での律令期の遺跡については，茎崎町の九万坪（くまんつぼ）遺跡・房内（ぼうち）遺跡から奈良時代の土師器甕が出土しているが，遺構等については不明である。小野川の右岸では，今回報告の下大井遺跡がある。小野川左岸では，牛久市の行人田遺跡・馬場遺跡・隼人山遺跡・東山遺跡・中久喜遺跡・ヤツノ上遺跡・中下根遺跡等数多く確認されている。住居跡の調査軒数は，行人田遺跡で５軒，馬場遺跡で３軒，隼人山遺跡で１軒，東山遺跡で３軒，中久喜遺跡で５軒，ヤツノ上遺跡で11軒と掘立柱建物跡７棟，中下根遺跡で２軒と数的には少なく，当遺跡では16軒の住居跡が確認され，小野川沿いの貴重な資料となると思われる。

中世の遺跡では，茎崎町内に稲荷川沿いに戦国時代漸次勢力を拡大していった岡見氏の支城であった高崎（たかさき）城跡〈38〉，応永３年（1396年）小田治朝の子岡野宮内少輔康朝が築城したと言われる下岩崎泊崎城跡等がある。[8] 下岩崎泊崎城跡は，昭和54年の発掘調査により内濠・外濠・土塁に囲まれた連郭式の平山城で，本丸跡・濠・土塁等が確認されている。

近世の遺跡では，稲荷川と小野川の間に位置する牛久市の田宮（たくう）一里塚〈39〉，小野川左岸には荒川沖（あらかわおき）一里塚〈40〉等がある。

※　文中の〈　〉内の番号は，表１，第２図の該当番号と同じである。

註

1) 興和物産株式会社 図書刊行会『小山台貝塚』　1976年３月
2) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集　1993年３月
3) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）　中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第86集　1993年９月
4) 茎崎町史編さん委員会『茎崎町史』　1990年３月
5) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）　馬場遺跡 行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第106集　1996年３月
6) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）　東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第101集　1995年９月
7) 茨城県教育財団「牛久東下根特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　中下根遺跡 西ノ原遺跡 隼人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第113集　1996年６月
8) 茎崎町教育委員会『泊崎城跡』　1980年

参考文献

・ 茨城県教育委員会『茨城県遺跡地図』　1991年３月
・ 茨城県『茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代』　1979年３月
・ 茨城県『茨城県史料　考古資料編　古墳時代』　1974年３月
・ 茨城県『茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代』　1995年３月
・ 茎崎町史編さん委員会『茎崎町史』　1990年３月
・ 茎崎村教育委員会『茎崎村史』　1973年３月
・ 角川書店『角川日本地名大辞典　８茨城県』　1983年12月
・ 大森昌衛・蜂須紀夫『茨城の地質をめぐって』　1987年８月
・ 茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査　龍ヶ崎』　1987年12月

第3章　調　査　の　成　果

第1節　遺 跡 の 概 要

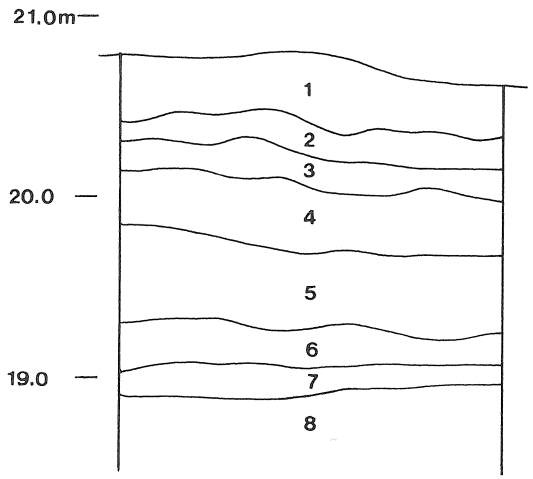
下大井遺跡は，茎崎町と牛久市の境界を流れる小野川右岸の標高19～21mの台地縁辺部に位置している。現況は畑地と山林である。調査区域は，畑地を挟んで2か所に分かれるため便宜上，北側をA区，南側をB区と分けた。

今回の調査によって，旧石器時代の石器集中地点1か所，縄文時代の住居跡8軒，炉穴1基，古墳時代の住居跡3軒，土坑1基，奈良・平安時代の住居跡17軒，土坑1基，中世の塚1基，土壙墓1基，時期不明遺構1基，不明土坑54基，溝3条が検出された。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に30箱出土している。主な遺物としては，旧石器（ナイフ形石器・スクレイパー・剥片・石核），縄文土器片，土師器，須恵器，墨書土器，三彩陶器，灰釉陶器，石器・石製品，土製品，金属製品，土師質土器，古銭等が出土している。

第2節　基本層序の検討

当遺跡のA区内（B2a3）にテストピットを設定し，深さ約2mまで掘り下げて，土層の堆積状況を確認した。（第3図）



第3図　基本土層図

第1層は，暗褐色の表土層で，粘性は弱く，しまりもあまりない。層厚は28～46cmである。

第2層は，褐色のソフトローム層で，炭化粒子を極少量含んでいる。粘性は普通で，しまりはあまりない。層厚は12～20cmである。

第3層は，褐色のソフトローム層で，ローム小ブロックを少量含んでいる。粘性は普通で，しまりはあまりない。層厚は10～24cmである。

第4層は，褐色のハードローム層への漸移層で，ローム中・小ブロックを少量含んでいる。粘性・しまりとも普通である。層厚は25～45cmである。

第5層は，褐色のハードローム層で，粘性・しまりとも強い。層厚は40～55cmである。

第6層は，明褐色のハードローム層で，粘性・しまりとも強い。層厚は15～26cmである。

第7層は，にぶい褐色の粘土層で，白色粒子を中量含んでいる。極めて粘性・しまりとも強い。層厚は13～24cmである。

第8層は，にぶい黄橙色の粘土層で，白色中・小ブロック・白色粒子を多量含んでいる。極めて粘性・しまりとも強い。

遺構は，第1層下面及び第2層上面で確認され，第2層から第3層にかけて掘り込んでいる。

第3節　遺構と遺物

1　旧石器時代

今回の調査で，調査Ａ区の大調査区Ａ１・Ａ２・Ｂ２区を中心に石器等が出土し，特にＡ２区に集中していた。旧石器の調査区は，調査Ａ区の北部及び中央部の標高21mの台地上の平坦部である。以下，石器集中地点の調査方法，出土状況及び他時期の遺構調査時に覆土から出土した石器や表面採集された石器についてもここで記載する。

（1）調査の概要と方法

試掘調査及び遺構確認時に，調査Ａ区の北部からガラス質黒色安山岩のナイフ形石器，黒曜石の剥片などが出土した。また，調査が進行するにしたがって，第16号住居跡からホルンフェルスのナイフ形石器，第１号住居跡北側から大型の珪質頁岩の剥片等が出土した。そこで，竪穴住居跡等の調査終了後に，遺構確認時に剥片などが出土したＡ1h6を基点に東に32m，北に16mの範囲に４×４mのグリットを25か所設定し掘り下げた。

（2）石器集中地点（第４図）

位置　今回の調査で出土した26点のうち11点が，調査Ａ区の中央部Ａ２j2区を中心に出土している。他の15点については，第４図に示した出土遺物の平面分布のとおりであり，集中している地点は点線で示した。

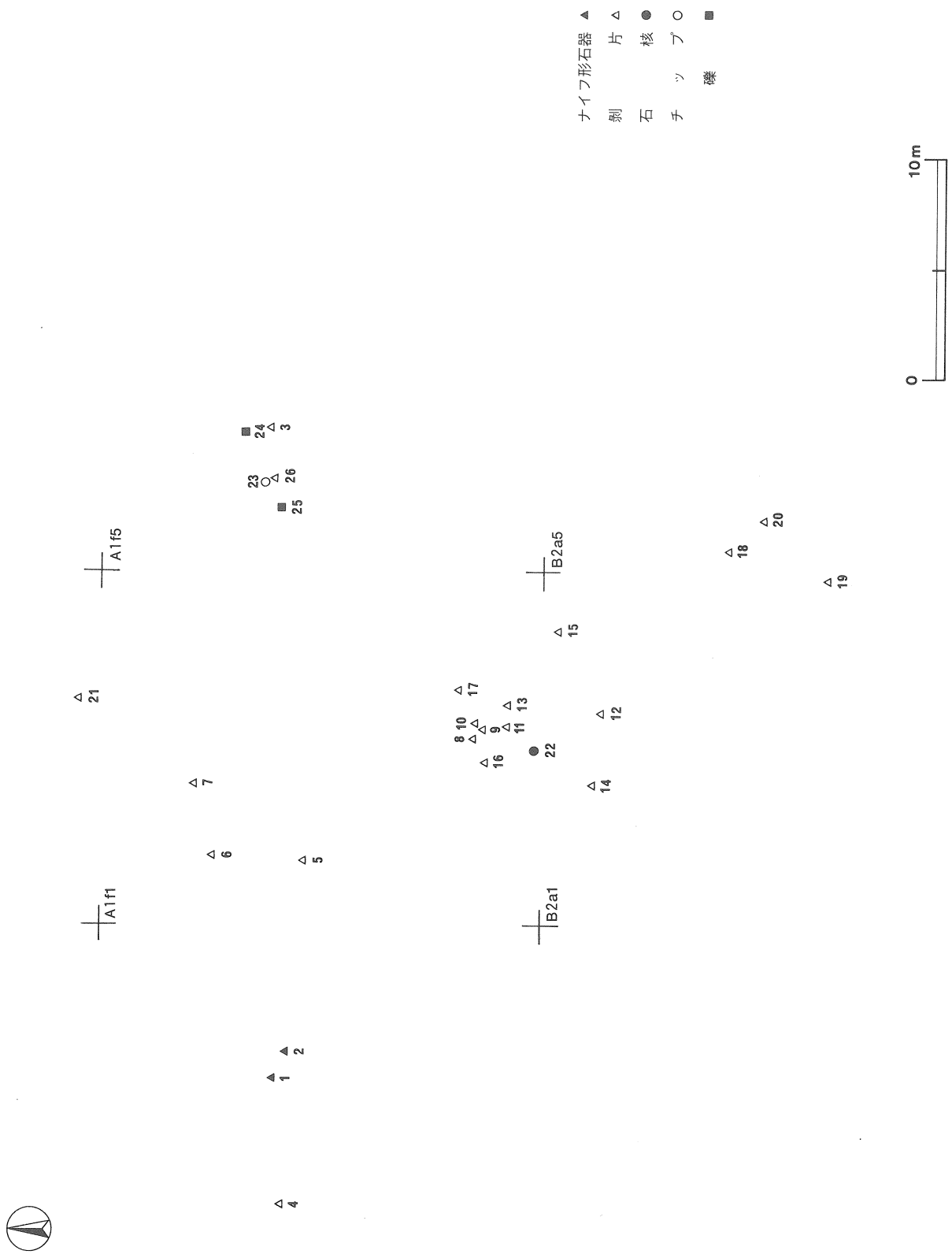
出土状況　遺物が出土した地点は，調査Ａ区の大調査区Ａ１・Ａ２・Ｂ２区の範囲で，特にＡ２区から15点が出土し，全体の57％を占めている。レベルは標高20.597m～21.214mの範囲である。当遺跡の基本層序第５層のハードローム上層から主として出土しており，確認面からの深さは50cmである。広範囲から石器は出土したが密度は薄い。

遺物　出土石器等の総数は26点である。内訳はナイフ形石器が２点で，石質は流紋岩１点，信州系の黒曜石１点である。剥片は20点で全体の77％を占めている。石質は流紋岩２点，ガラス質黒色安山岩５点，頁岩３点，黒曜石１点，チャート５点，瑪瑙２点，ホルンフェルス１点，硬砂岩１点である。石核は頁岩の１点である。チップは黒曜石の１点である。礫片は２点で流紋岩，石英片岩の１点ずつである。第５図１は流紋岩のナイフ形石器で，縦長剥片を用い片側縁の先端部に加工が施されている。２は黒曜石のナイフ形石器で，縦長剥片を用い基部の両側縁に加工が施され，片側縁は全面に押圧剥離がなされ使用痕が見られる。３は流紋岩の二次加工痕のある剥片である。

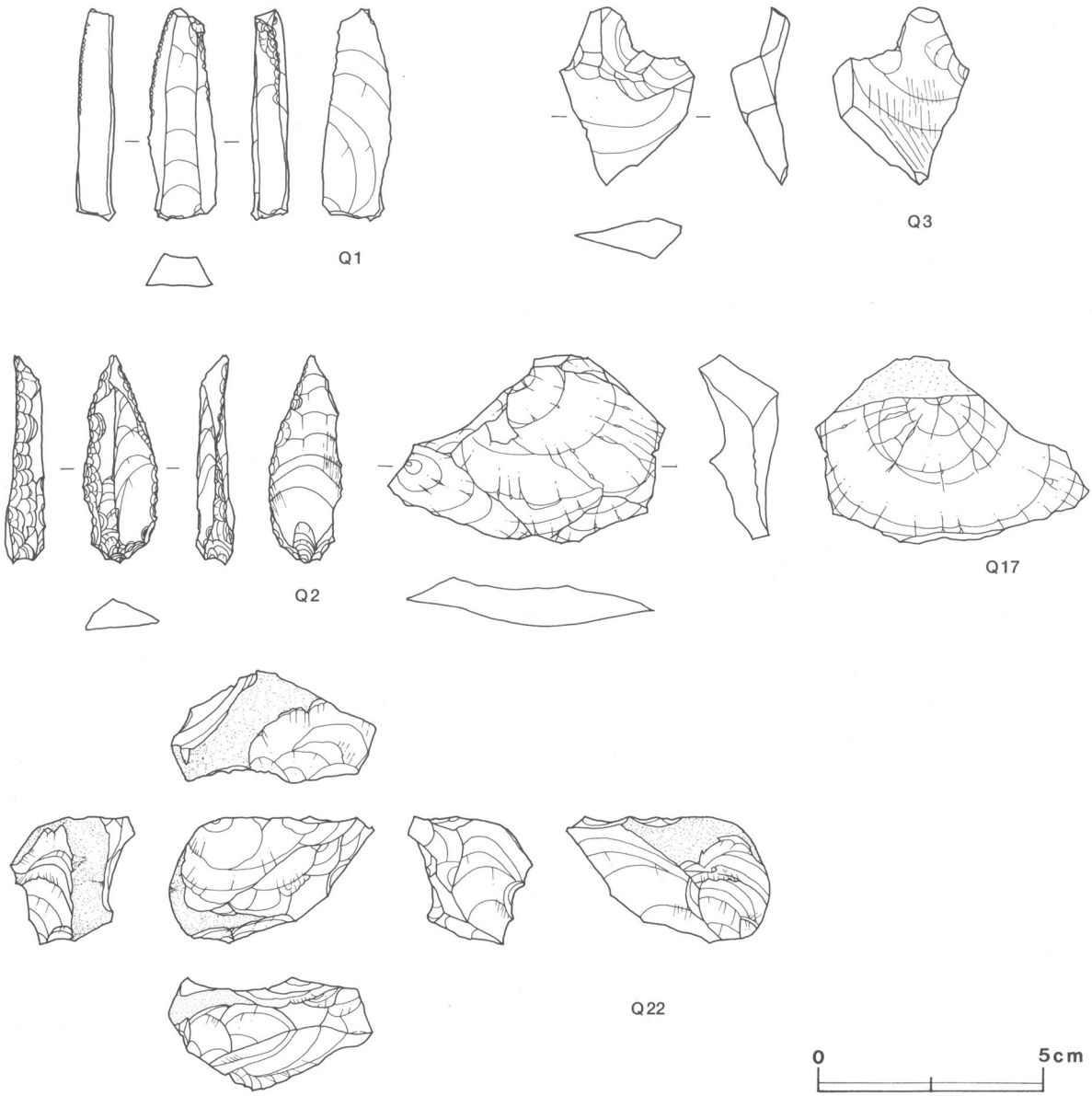
所見　本跡は，出土した石器類の主体が剥片及び石核であることから，石器製作跡の可能性が考えられる。

旧石器時代　石器観察表（石器集中地点出土）

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点		剥離と調整の特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		出土地区	標高(m)		
第5図Q1	ナイフ形石器	4.7	1.6	0.8	6.7	流紋岩	A1g9	20.958	縦長剥片を用い片側縁の先端部に加工が施されている。	PL24
第5図Q2	ナイフ形石器	4.6	1.7	0.8	5.1	黒曜石	A1h9	20.971	信州系の黒曜石。縦長剥片を用い基部の両側に加工が施され，片側縁は全面に押圧剥離がなされ，先端部に使用痕が見られる。	PL24
第5図Q3	二次加工痕のある剥片	3.9	3.0	1.3	6.3	流紋岩	A2g6	20.632	二次加工痕有。礫皮面が残る剥片。	PL24
Q4	剥片	3.3	2.1	0.8	4.5	流紋岩	A1h7	20.732	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q5	剥片	2.6	2.4	0.6	4.0	ガラス質黒色安山岩	A2h1	21.172	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q6	剥片	2.0	1.7	0.4	0.8	頁岩	A2g1	21.021	多方面から打撃が加えられた剥片。	写真のみ掲載　PL24



第4図　旧石器集中地点平面図



第５図　旧石器集中地点遺物実測図

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点		剥離と調整の特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		出土地区	標高(m)		
Q７	剥片	2.8	2.6	1.2	6.6	黒曜石	A2g2	21.087	不純物の多い高原山産の黒曜石。多方面から打撃が加えられた剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q８	剥片	2.8	2.0	1.2	4.7	珪質頁岩	A2j3	21.182	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q９	剥片	3.3	1.6	0.7	3.5	チャート	A2j3	21.125	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q10	剥片	3.4	1.5	1.1	4.1	チャート	A2j3	21.119	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q11	剥片	5.3	4.8	0.9	20.4	ガラス質黒色安山岩	A2j3	21.094	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q12	剥片	2.0	1.6	0.8	1.3	瑪瑙	B2a3	21.149	多方面から打撃が加えられた剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q13	剥片	3.1	4.8	1.8	21.3	チャート	A2j3	21.098	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q14	剥片	1.7	1.7	0.9	1.2	瑪瑙	B2a2	21.211	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q15	剥片	5.3	5.6	1.2	37.0	チャート	B2a4	21.154	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL24
Q16	剥片	1.8	1.9	0.3	0.8	チャート	A2j2	21.152	多方面から打撃が加えられた剥片。	写真のみ掲載　PL24
第５図Q17	剥片	4.1	6.1	1.8	28.6	ガラス質黒色安山岩	A2j3	21.214	礫皮面が残る剥片。	PL25
Q18	剥片	4.8	5.2	1.0	22.4	頁岩	B2c5	21.017	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL25
Q19	剥片	2.7	1.8	0.6	1.8	ガラス質黒色安山岩	B2d4	21.128	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL25
Q20	剥片	2.3	1.8	0.8	2.2	ガラス質黒色安山岩	B2c5	21.153	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載　PL25

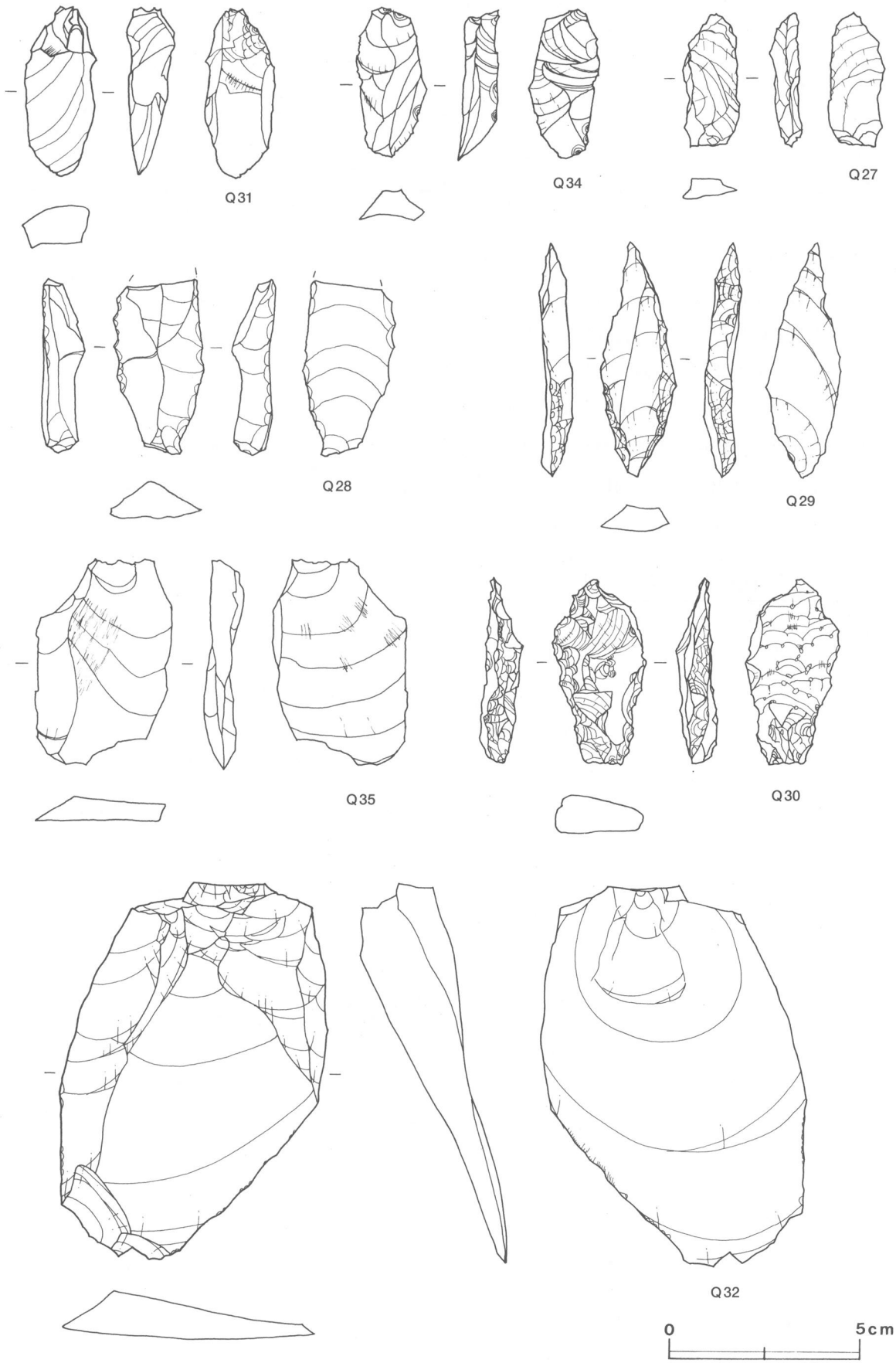
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点		剥離と調整の特徴	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		出土地区	標高(m)		
Q21	剥片	1.9	2.3	0.6	2.8	ホルンフェルス	A2j3	21.190	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載 PL25
第5図Q22	石核	2.8	4.6	2.7	24.4	珪質頁岩	A2e3	20.848	礫皮面が残る剥片。	PL25
Q23	チップ	0.9	0.8	0.1	0.1	黒曜石	A2g6	20.632	信州系の黒曜石。	表のみ掲載
Q24	礫	2.3	1.5	0.9	4.1	流紋岩	A2g6	20.597	部分的に加熱を受けている。	表のみ掲載
Q25	礫	4.7	2.7	2.5	41.3	石英片岩	A2h5	20.884	部分的に加熱を受けている。	表のみ掲載
Q26	剥片	2.3	1.4	0.5	4.3	硬砂岩	A2g6	20.772	礫皮面が残る剥片。	表のみ掲載

（3）遺構外出土遺物

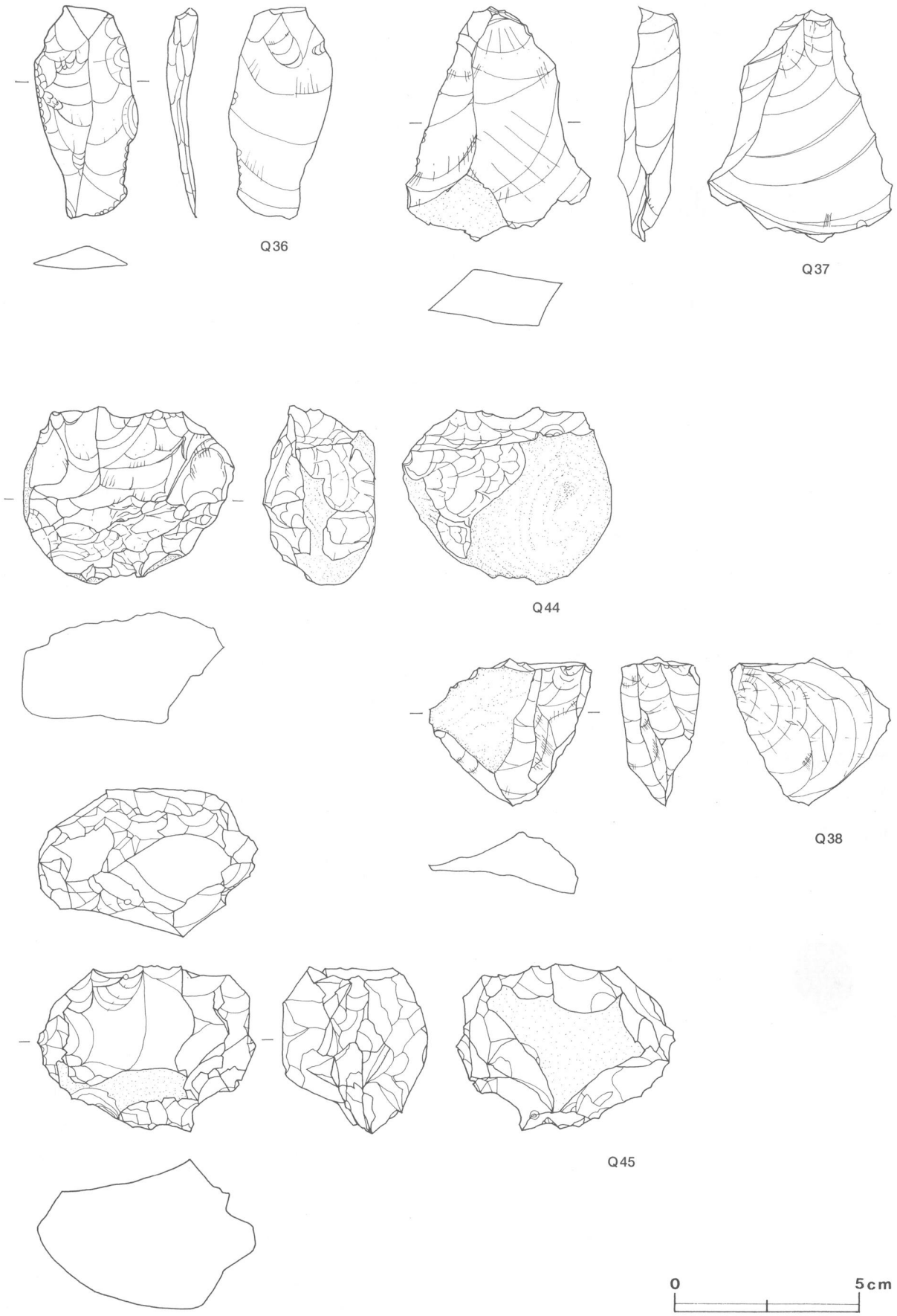
石器は，石器集中地点以外からも出土している。ここでは，表面採集したものを含めて図示する。第6図27はガラス質黒色安山岩のナイフ形石器で，片側縁の端部に加工が施されている小型のものである。28はホルンフェルスのナイフ形石器で，両側縁の基部に加工が施されており，ほぼ中央部で切断されている大ぶりのものと思われる。29はガラス質黒色安山岩のナイフ形石器で，両側縁の基部に加工が施され，片側縁に加工されたものである。30は高原山産の黒曜石のサイドスクレイパーで，縦長剥片を用い両側縁に刃部調整が施されている。31は油脂頁岩の使用痕のある剥片，32は珪質頁岩の使用痕のある大ぶりの剥片である。33は高原山産，34は信州系の黒曜石の剥片である。

旧石器時代　石器観察表（遺構外出土）

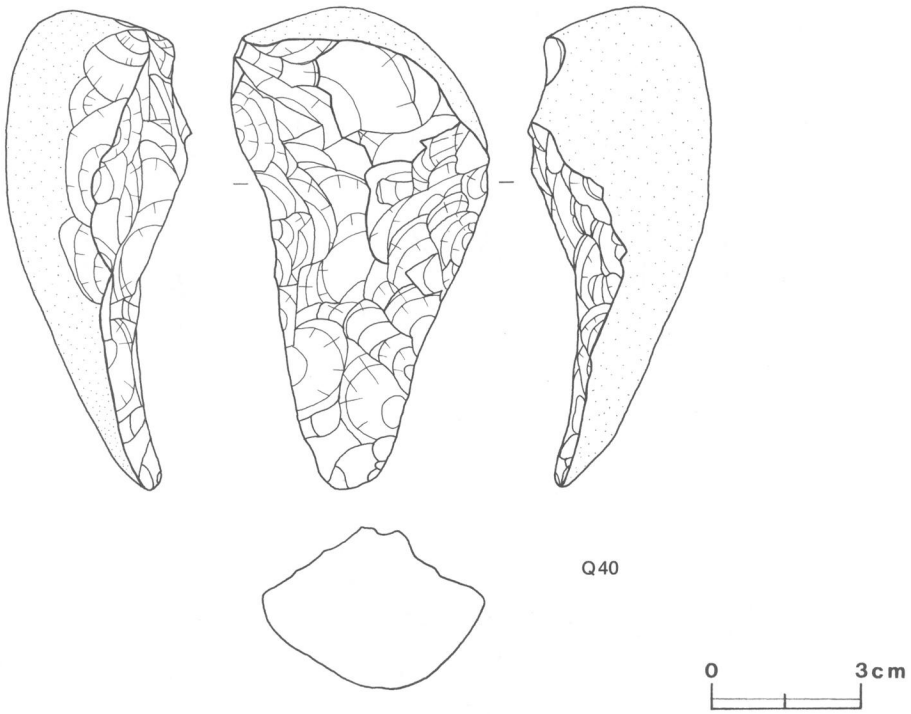
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	剥離と調整の特徴	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第6図Q27	ナイフ形石器	3.5	1.5	0.9	4.0	ガラス質黒色安山岩	A区表採	片側縁の端部に加工が施されている小型のナイフ。加熱を受け赤変している。	PL25
第6図Q28	ナイフ形石器	4.6	2.4	1.0	11.6	ホルンフェルス	SI－24覆土	両側縁の基部及び片側縁に加工が施され，ほぼ中央部で切断されている大ぶりのナイフ。	PL25
第6図Q29	ナイフ形石器	6.1	2.1	0.9	8.2	ガラス質黒色安山岩	SI－16覆土	両側縁の基部及び片側縁に加工が施されたナイフ。	PL25
第6図Q30	サイドスクレイパー	4.8	2.5	1.1	9.6	黒曜石	A区表採	高原山産の黒曜石。縦長剥片を用い両側縁に押圧剥離が施されている。	PL25
第6図Q31	使用痕のある剥片	2.6	4.0	1.2	8.6	油脂頁岩	A区表採	先端部に使用痕が見られる。	PL25
第6図Q32	使用痕のある剥片	9.9	7.0	2.5	110.2	珪質頁岩	A区表採	両側縁に使用痕が見られる大ぶりの剥片。	PL25
Q33	剥片	3.5	4.5	1.3	17.8	黒曜石	A区表採	高原山産の黒曜石。多方面に打撃が加えられた剥片。	写真のみ掲載 PL25
第6図Q34	剥片	3.9	2.9	1.0	5.9	黒曜石	SK－2覆土	信州系の黒曜石。基部に打面が残る。	PL25
第6図Q35	剥片	5.4	3.6	1.0	15.3	チャート	A区表採	打面が残る縦長の剥片。	PL25
第7図Q36	使用痕のある剥片	5.6	2.8	0.9	7.9	流紋岩	A区表採	片側縁に使用痕が見られる剥片。	PL25
第7図Q37	剥片	6.3	5.0	1.4	35.3	珪質頁岩	A区表採	礫皮面が残る剥片。	PL25
第7図Q38	石核	5.1	4.9	1.6	18.1	珪質頁岩	A区表採	打面調整が残る石核。	PL25
Q39	使用痕のある剥片	4.2	2.3	0.7	5.1	ガラス質黒色安山岩	A区表採	片側縁に使用痕が見られる剥片。	写真のみ掲載 PL25
第8図Q40	握斧	9.7	5.1	3.3	152.7	ホルンフェルス	A区表採	片側に礫皮面が残る。	PL25
Q41	剥片	4.7	7.1	2.2	53.3	硬質頁岩	A区表採	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載 PL25
Q42	石核	4.6	4.5	2.6	55.7	瑪瑙	A区表採	礫皮面が残る剥片。	写真のみ掲載 PL25
Q43	礫	6.1	8.1	2.3	137.8	珪質頁岩	A区表採	扁平な礫。	写真のみ掲載 PL25
第7図Q44	石核	4.8	5.6	3.0	81.8	流紋岩	A区表採	礫皮面が残り，多方向から打撃が加えられている。	PL25
第7図Q45	石核	4.5	5.9	4.0	110.0	流紋岩	A区表採	礫皮面が残り，多方向から打撃が加えられている。	PL25



第６図　旧石器遺物実測図（１）



第７図　旧石器遺物実測図（２）



第８図　旧石器遺物実測図（３）

２　縄文時代

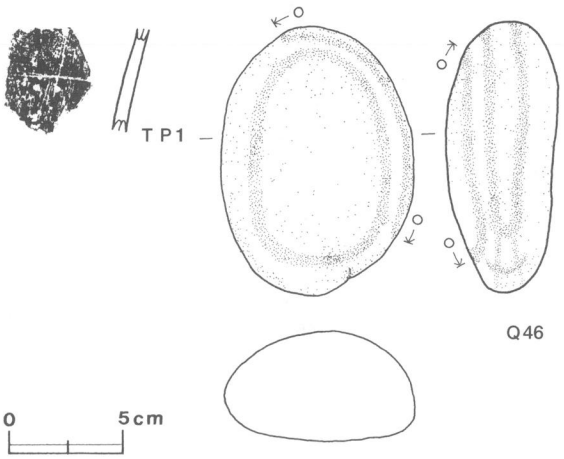
縄文時代の遺構は，竪穴住居跡８軒，炉穴１基である。以下，検出された遺構の特徴や遺物について記載する。

（１）竪穴住居跡

第４号住居跡（第10図）

位置　調査Ａ区の南部，Ｂ２g5区。

規模と平面形　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとえることができなかった。ピットの配列から長径4.94m，短径4.26mの楕円形と推定される。



第９図　第４号住居跡出土遺物実測図

長径方向　N－19°－Eと推定される。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　16か所（Ｐ１～Ｐ16）。Ｐ１～Ｐ６は径26～35cmの円形で，深さ20～45cmである。いずれも規模及び配列から主柱穴と思われる。Ｐ７～Ｐ14は長径22～35cm，短径16～28cmの楕円形で，深さ21～40cmである。いずれも主柱穴と主柱穴の中間に位置し補助柱穴と思われる。Ｐ15は長径55cm，短径41cmの楕円形で，深さ14cmである。Ｐ16は長径51cm，短径33cmの楕円形で，深さ39cmである。いずれも他の柱穴に比べ大きく性

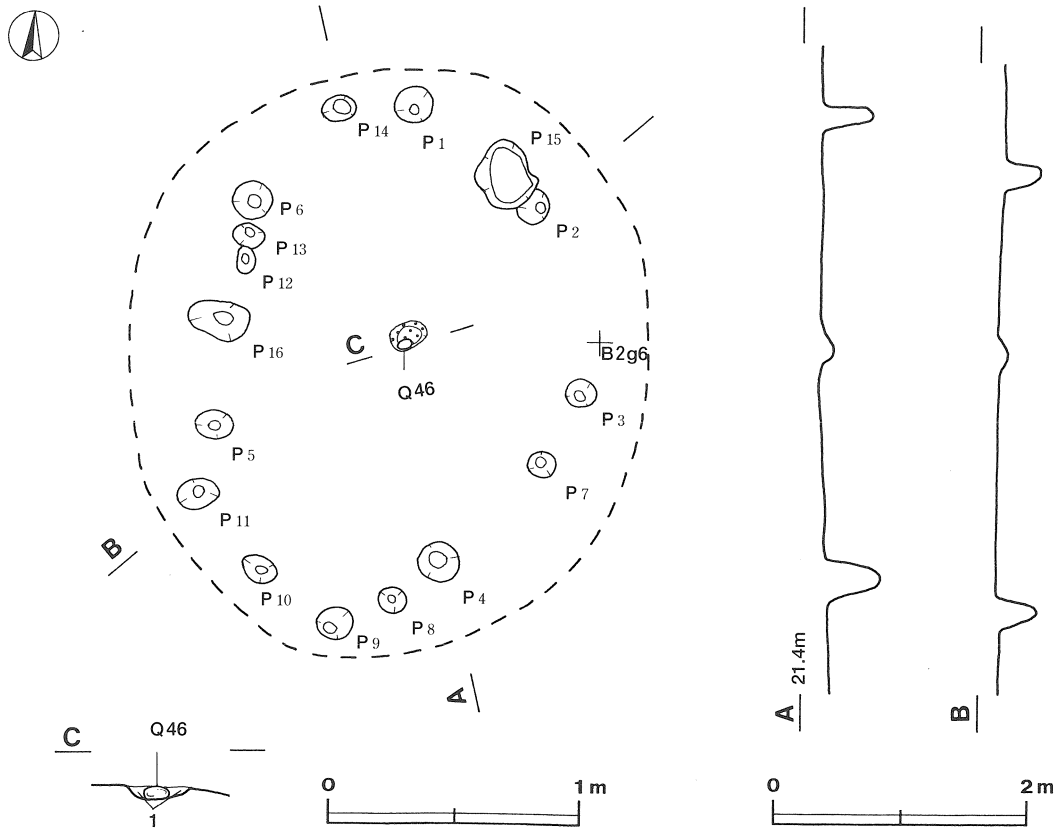
格は不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。平面形は長径30cm，短径22cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状で，赤変硬化していない。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量

遺物　縄文土器片１点，磨石１点が出土している。第９図ＴＰ１は深鉢の胴部片，Q46は磨石で炉内から出土している。

所見　本跡は，炉が付設されていること，柱穴が巡っていることから住居跡と判断した。時期は，縄文土器片１点が炉内から出土しており，本跡に伴う遺物と判断し，縄文時代前期後葉（興津式期）と考えられる。



第10図　第４号住居跡実測図

第４号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第９図 ＴＰ１	深　鉢 縄文土器	Ｂ（4.6）	胴部片。縦位と横位に沈線が施されている。	長石 橙色 普通	５％　ＰＬ23

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第９図Q46	磨　石	11.8	8.6	5.0	725.0	安山岩	円盤状で２面使用	100％

第15号住居跡（第11図）

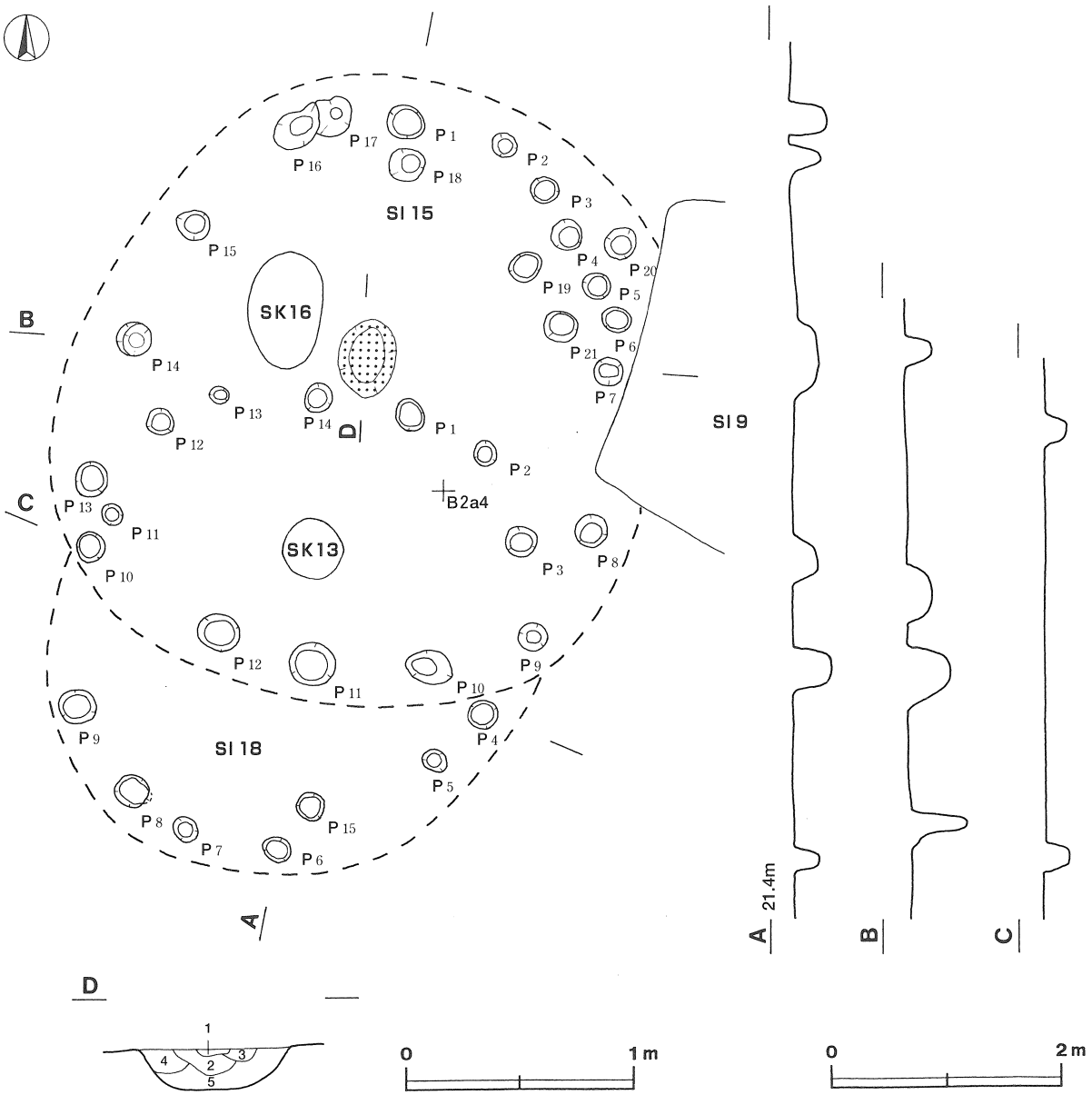
位置　調査Ａ区の中央部，Ａ２j3区。

重複関係　第９号住居，第13・16号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。また，第18号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。ピットの配列から径5.53mの円形と推定される。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　21か所（Ｐ１～Ｐ21）。Ｐ１・Ｐ10・Ｐ12・Ｐ16は長径36～45cm，短径30～33cmの楕円形で，深さ32～39cmである。Ｐ２～Ｐ９・Ｐ11・Ｐ13～Ｐ15は径25～35cmの円形で，深さ16～48cmである。いずれも炉を中心に巡っていることと配列から主柱穴と思われる。Ｐ17・Ｐ18・Ｐ20・Ｐ21は径30～35cmの円形で，深さ18～29cmである。Ｐ19は長径30cm，短径22cmの楕円形で，深さ23cmである。いずれも主柱穴の内側及び外側に位置し補助柱穴と思われる。



第11図　第15・18号住居跡実測図

炉　ほぼ中央に付設されている。平面形は長径70cm，短径53cmの楕円形で，床面を17cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状で，赤変硬化していない。

炉土層解説
1　赤 褐 色　　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　　ローム粒子・焼土小ブロック少量
3　暗 褐 色　　ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
4　褐　　色　　ローム粒子中量，焼土小ブロック微量
5　褐　　色　　ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

遺物　礫２点のみで，土器は出土していない。

所見　本跡は，炉が付設されていること，柱穴が巡っていることから住居跡と判断した。時期は，土器が出土していないため明確ではないが，遺構の形態から縄文時代としておく。

第17号住居跡（第12図）

位置　調査Ａ区の北部，Ａ2g4区。

重複関係　第20号住居，第23・25号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。ピットの配列から長径5.08m，短径4.70mの円形と推定される。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　15か所（Ｐ１～Ｐ15）。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ６～Ｐ８・Ｐ13～Ｐ15は長径37～55cm，短径30～45cmの楕円形で，深さ14～32cmである。Ｐ３～Ｐ５・Ｐ９～Ｐ12は径30～45cmの円形で，深さ17～43cmである。いずれも配列から主柱穴と思われる。

Ｐ５・Ｐ10土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　出土していない。

所見　本跡は，柱穴が巡っていることから住居跡と判断した。時期は，土器が出土していないため明確ではないが，遺構の形態から縄文時代としておく。

第18号住居跡（第11図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ｂ2a3区。

重複関係　第15号住居，第13号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。ピットの配列から長径4.80m，短径4.22mの楕円形と推定される。

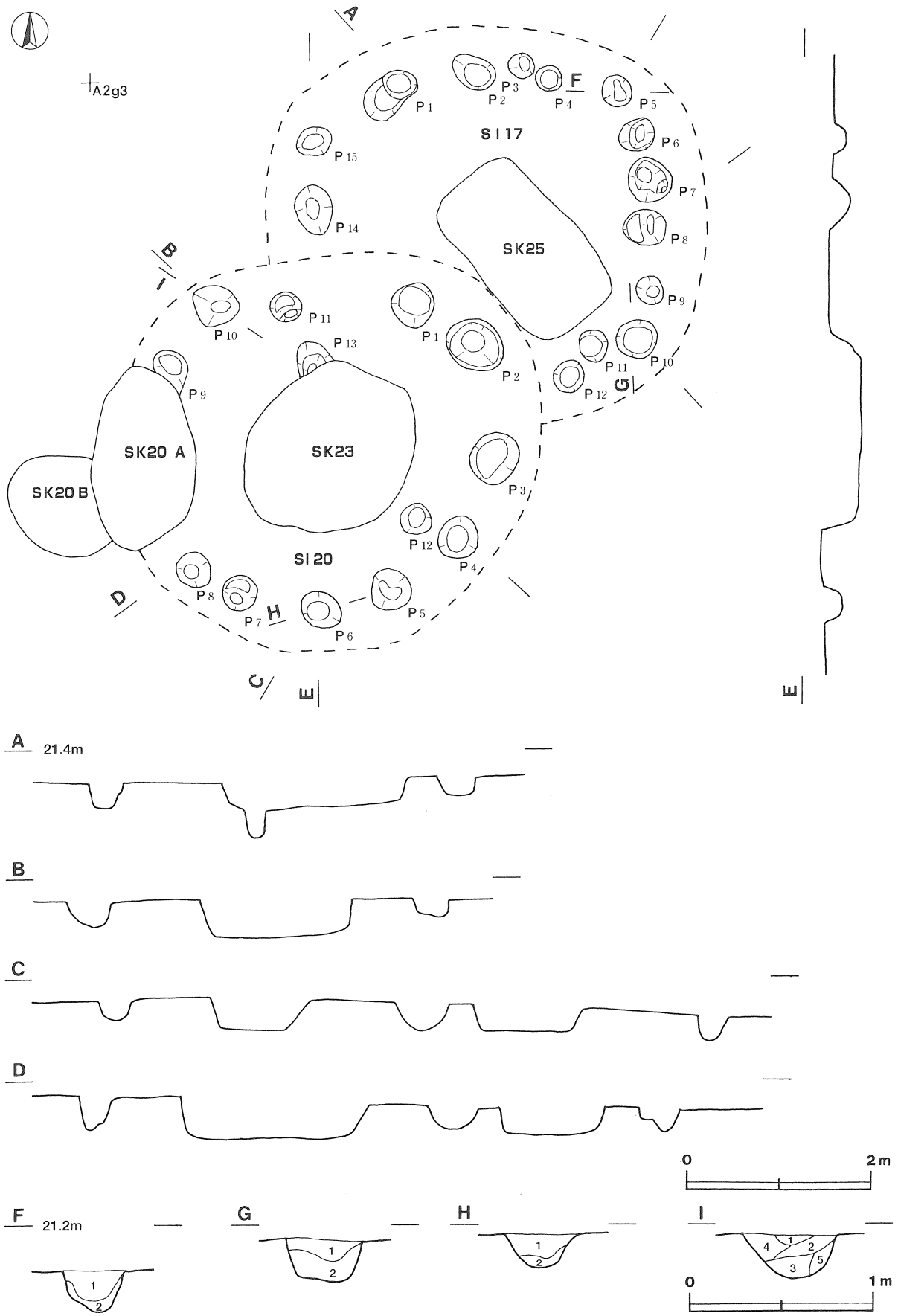
長径方向　Ｎ－29°－Ｅと推定される。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　15か所（Ｐ１～Ｐ15）。Ｐ１・Ｐ２は長径31cm，短径24cmの楕円形で，深さ23～25cmである。Ｐ２・Ｐ４～Ｐ14は径19～34cmの円形で，深さ17～30cmである。いずれも配列から主柱穴と思われる。Ｐ15は径26cmの円形，深さ21cmで，Ｐ６の内側に位置し補助柱穴と思われる。

遺物　出土していない。

所見　本跡は，柱穴が巡っていることから住居跡と判断した。時期は，土器が出土していないため明確ではないが，遺構の形態から縄文時代としておく。また，本跡からは炉が検出されておらず，第15号住居に掘り込まれたことも考えられる。



第12図　第17・20号住居跡実測図

第20号住居跡（第12図）

位置　調査Ａ区の北部，Ａ2h3区。

重複関係　第20Ａ・20Ｂ・23号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。また，第17号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。ピットの配列から長径4.54m，短径4.42mの円形と推定される。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　12か所（Ｐ１～Ｐ12）。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ８・Ｐ11は径37～46cmの円形で，深さ19～27cmである。Ｐ２・Ｐ３・Ｐ６・Ｐ９・Ｐ10は長径42～65cm，短径22～55cmの楕円形で，深さ23～33cmである。いずれも配列から主柱穴と思われる。Ｐ12は径36cmの円形，深さ35cmで，Ｐ４の内側に位置し補助柱穴と思われる。

Ｐ６土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

Ｐ10土層解説

1	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5	褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

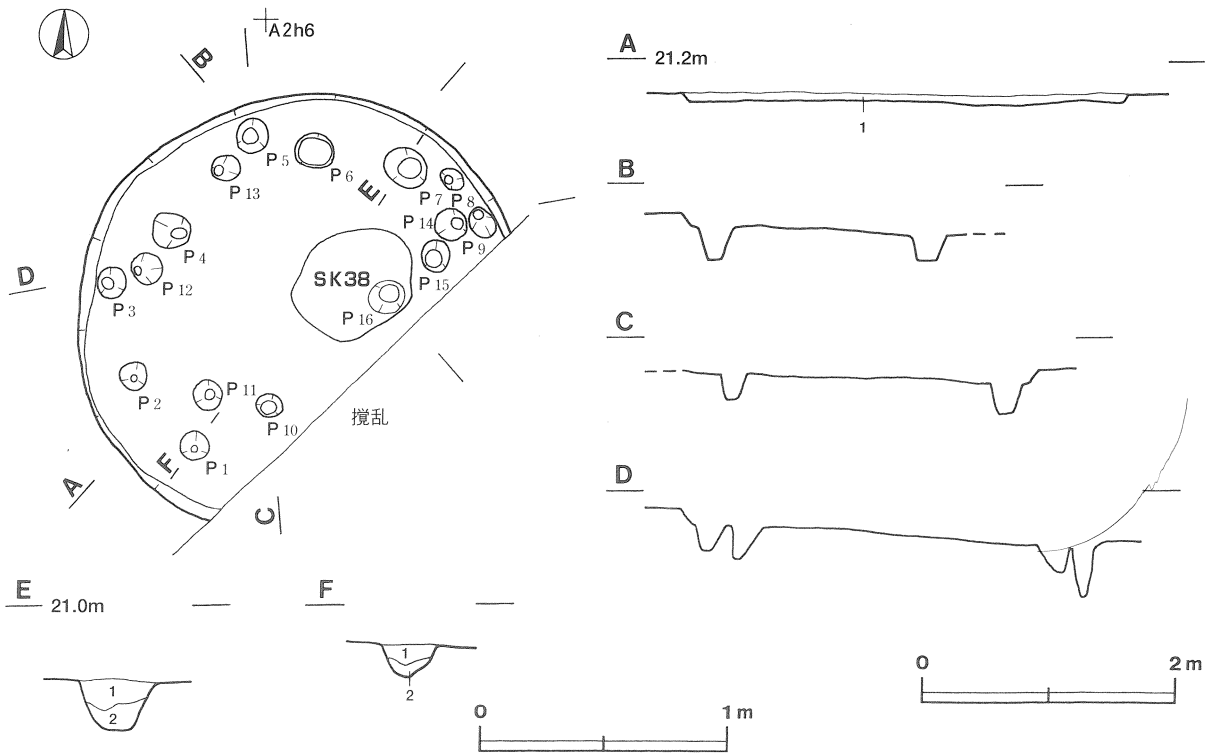
遺物　出土していない。

所見　本跡は，柱穴が巡っていることから住居跡と判断した。時期は，土器が出土していないため明確ではないが，遺構の形態から縄文時代としておく。また，第17号住居跡と重複しており，ピットの配列及びピットの切り合い関係から本跡が新しいものと判断した。

第21号住居跡（第13図）

位置　調査Ａ区の北部，Ａ2h6区。

重複関係　第38号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。



第13図　第21号住居跡実測図

規模と平面形　南東部が撹乱されている。撹乱部を除いた規模は長径3.62m，確認できた短径2.48mで楕円形と推定される。

長径方向　N－44°－Eと推定される。

壁　壁高は12～16cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　16か所（P１～P16）。P１～P６・P８は径20～32cmの円形で，深さ12～27cmである。P７・P９は長径25～37cm，短径20～30cmの楕円形で，深さ24～43cmである。いずれも配列から主柱穴と思われる。P10～P16は径22～30cmの円形で，深さ14～28cmである。いずれも主柱穴の内側に位置し補助柱穴と思われる。

P１・P７土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

覆土　単一層で，自然堆積である。

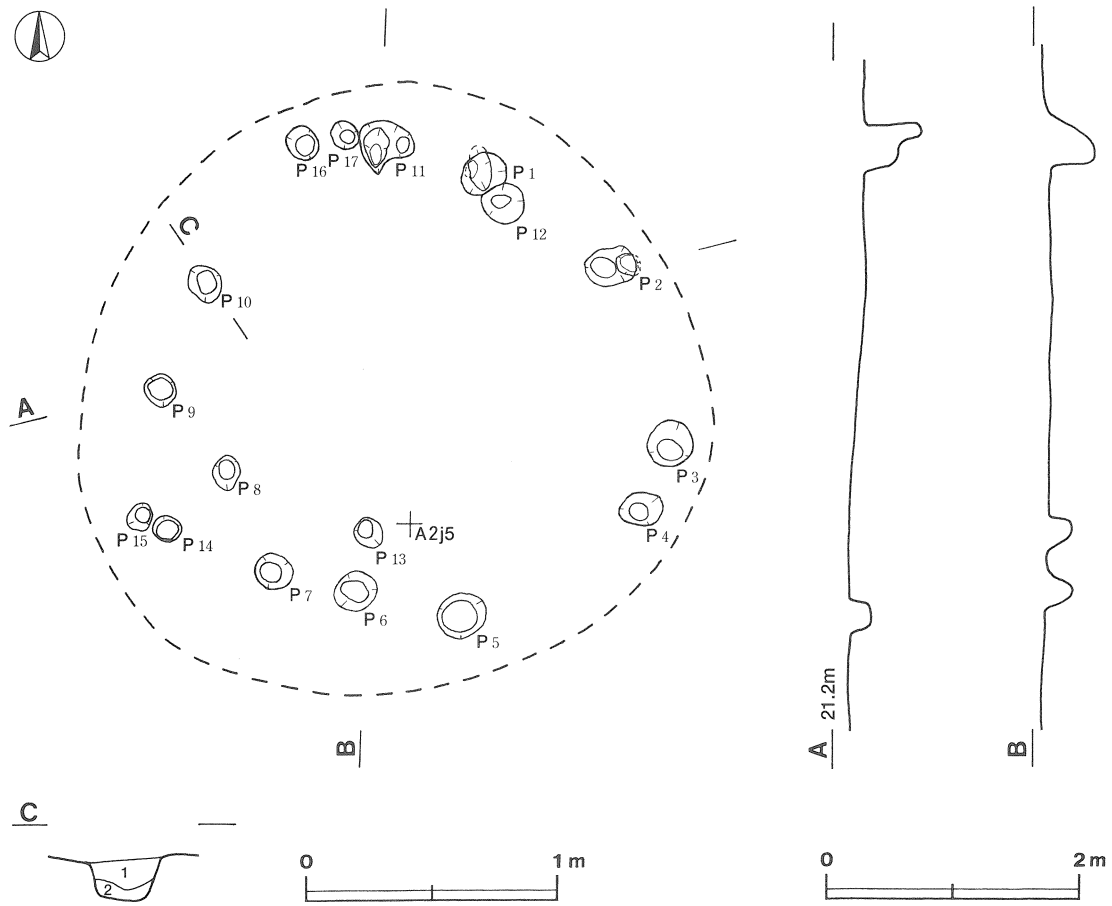
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量

遺物　黒曜石の小剥片４点，礫11点が出土している。

所見　本跡は，柱穴が巡っていることから住居跡と判断した。時期は，土器が出土していないため明確ではないが，遺構の形態から縄文時代としておく。

第22号住居跡（第14図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ａ2i4区。



第14図　第22号住居跡実測図

規模と平面形　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。ピットの配列から長径5.06m，短径4.95mの円形と推定される。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　17か所（Ｐ１～Ｐ17）。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ６～Ｐ８・Ｐ10・Ｐ11は長径33～40cm，短径21～31cmの楕円形で，深さ16～43cmである。Ｐ３・Ｐ５・Ｐ９は径30～40cmの円形で，深さ20～28cmである。いずれも配列から主柱穴と思われる。Ｐ12～Ｐ17は径21～30cmの円形，深さ13～31cmで，いずれも主柱穴の内側及び外側に位置し補助柱穴と思われる。

Ｐ10土層解説
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片４点，礫９点が出土している。

所見　本跡は，柱穴が巡っていることから住居跡と判断した。時期は，遺物が細片であり明確にできないが，遺構の形態から縄文時代としておく。

第24号住居跡（第15図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ｂ2b6区。

規模と平面形　長径4.48m，短径3.91mの楕円形である。

長径方向　Ｎ－58°－Ｗ

壁　壁高は７～12cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，特に踏み固められた面はない。

ピット　15か所（Ｐ１～Ｐ15）。Ｐ１・Ｐ９は長径30～33cm，短径25cmの楕円形で，深さ27～30cmである。Ｐ２～Ｐ８・Ｐ11・Ｐ12は径25～30cmの円形で，深さ21～30cmである。いずれも配列から主柱穴と思われる。Ｐ12・Ｐ13・Ｐ15は径24～32cmの円形で，深さ19～30cmである。Ｐ14は長径25cm，短径18cmの楕円形，深さ27cmで，いずれも主柱穴の内側及び外側に位置し補助柱穴と思われる。

Ｐ１・Ｐ６土層解説
1　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

炉　中央から北寄りに付設されている。平面形は長径82cm，短径65cmの楕円形で，床面を８cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状で，火熱を受け赤変硬化している。

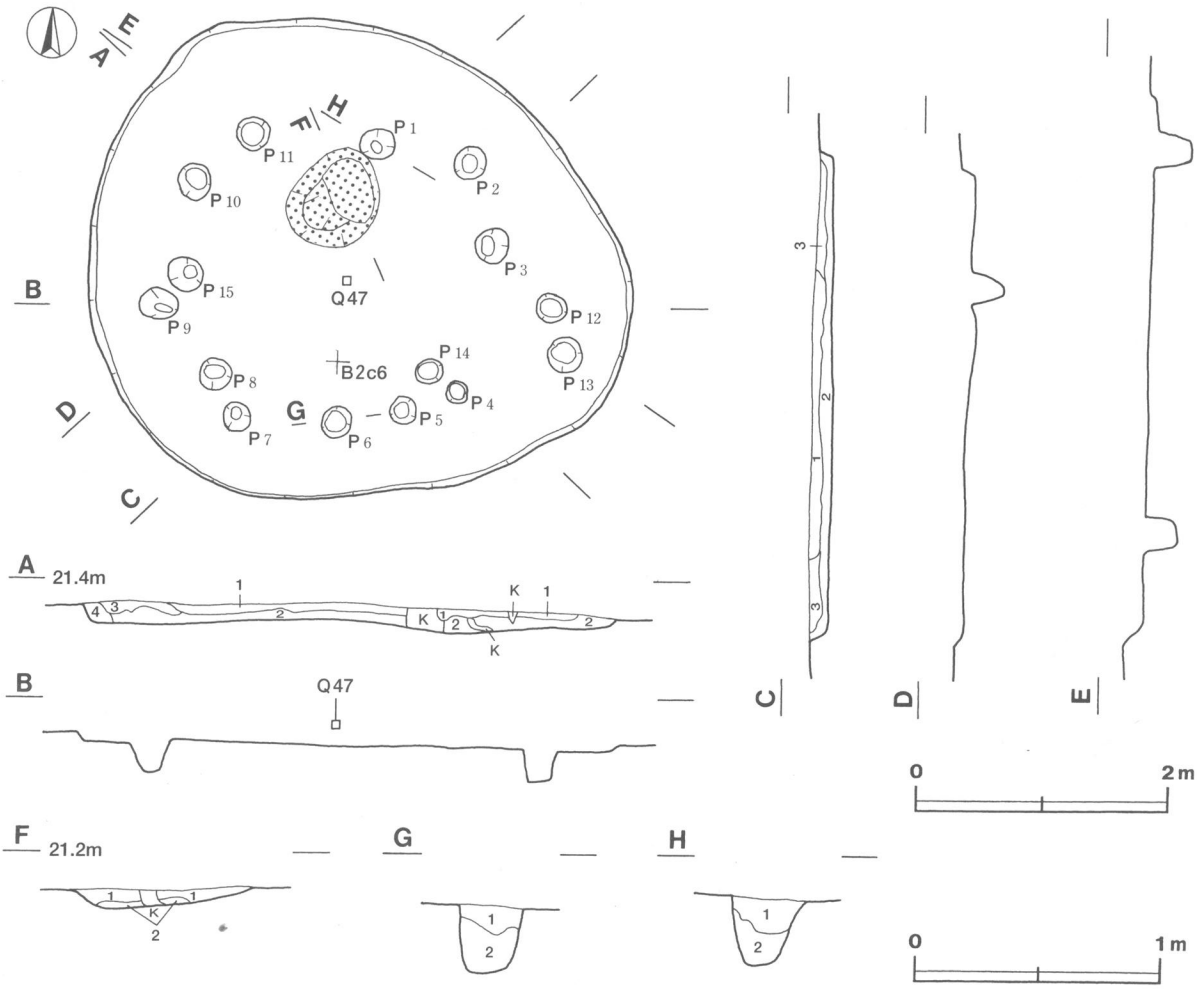
炉土層解説
1　赤 褐 色　　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
2　明赤褐色　　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量

覆土　４層からなり，ロームブロックの不均一な混入から人為堆積と思われる。

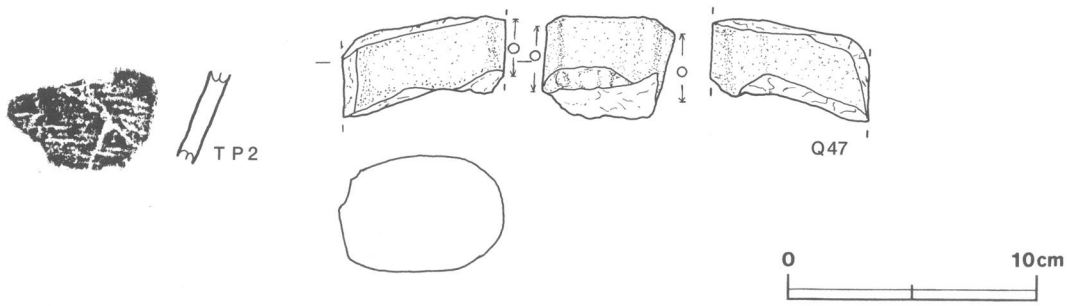
土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　縄文土器片２点，土師器片４点，磨石１点，礫１点が出土している。第16図ＴＰ２は深鉢の胴部片，Ｑ47は磨石で，いずれも中央部の覆土下層から出土している。土師器片は，撹乱による混入である。

所見　本跡からは，炉及び炉を中心に巡っている柱穴を検出した。時期は，遺構の形態及び覆土下層から出土した土器から，縄文時代前期末から中期初頭（粟島台式期）と考えられる。



第15図　第24号住居跡実測図



第16図　第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第16図 TP2	深　鉢 縄文土器	B（3.6）	胴部片。無節縄文が施されている。	長石 橙色 普通	5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	特　徴	備　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第16図Q47	磨　石	（4.1）	（6.5）	5.3	(180.7)	安山岩	一部欠損	20%

（2）炉　穴

第１号炉穴（第17図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ｂ2d4区。

規模と平面形　径1.25ｍの円形で，深さ52㎝である。

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　皿状である。

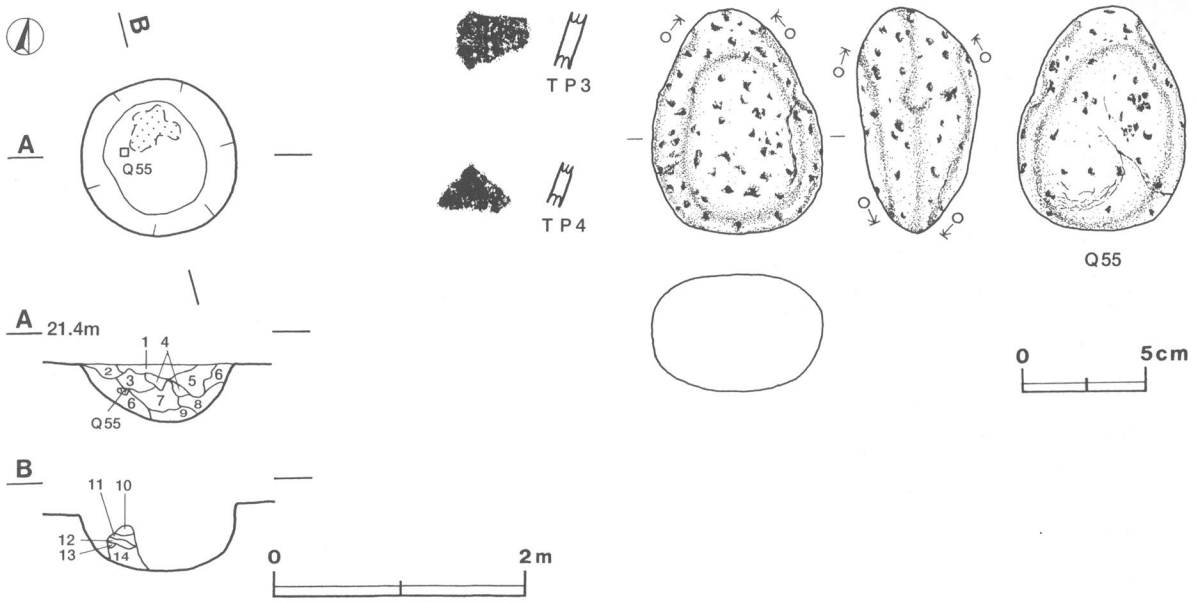
覆土　14層からなる人為堆積で，中央部やや北側に焼土ブロック・焼土粒子が多く見られ，特に底面から14㎝ほど上の12層には焼土ブロックが多く含まれている。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量，炭化物微量
4	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，炭化物微量
5	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物微量
6	褐　　色	焼土粒子・炭化物微量
7	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
8	褐　　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
9	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
12	赤 褐 色	焼土中ブロック・焼土粒子中量
13	褐　　色	焼土粒子少量
14	褐　　色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物　縄文土器片４点，磨石１点，礫３点が出土している。第17図ＴＰ３・４は深鉢の胴部片で，覆土から出土している。Ｑ55の磨石は，中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡は，覆土に焼土ブロック・焼土粒子を多く含み，縄文土器片が出土している。時期は，覆土の状況及び遺構の形態等から，縄文時代早期前葉（夏島式期）と考えられる。



第17図　第１号炉穴・出土遺物実測図

第１号炉穴出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　及　び　文　様　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第17図 ＴＰ３	深　　鉢 縄文土器	Ｂ（ 2.2）	胴部片。撚糸文が施されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	５％
ＴＰ４	深　　鉢 縄文土器	Ｂ（ 1.7）	胴部片。撚糸文が施されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	５％

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	特　　徴	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第17図Q55	磨　　石	9.1	6.9	4.9	412.7	安 山 岩	全面使用	100％

３　古墳時代

古墳時代の遺構としては，竪穴住居跡４軒，土坑１基が検出された。以下，検出された遺構の特徴や遺物について記載する。

（１）竪穴住居跡

第１号住居跡（第18図）

位置　調査Ａ区の南部，Ｂ２i5区。

重複関係　中世の第１号塚が本跡の覆土上に構築されており，本跡が古い。

規模と平面形　南壁側が調査区域外にかかる。長軸5.22m，確認できた短軸2.91mで，長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－82°－Ｅと推定される。

壁　壁高は８～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東部を除き，壁下を巡っている。断面はＵ字形で，上幅15～29cm，下幅５～10cm，深さ５～11cmである。

床　中央部に少し凹凸があり，踏み固められている。

ピット　３か所。（Ｐ１～Ｐ３）。Ｐ１は二段掘り込みになっており，上段は長径53cm，短径46cmの楕円形で，深さ25cmである。下段は長径44cm，短径33cmの楕円形で，深さ35cmである。北東コーナー部に位置し，主柱穴と思われる。Ｐ２は長径41cm，短径36cmの楕円形，深さ７cmで，位置からＰ１の補助柱穴と思われる。Ｐ３は長径40cm，短径31cmの楕円形で，深さ12cmである。南壁側が調査区域外のためピットの有無がはっきりしないため，性格は不明である。

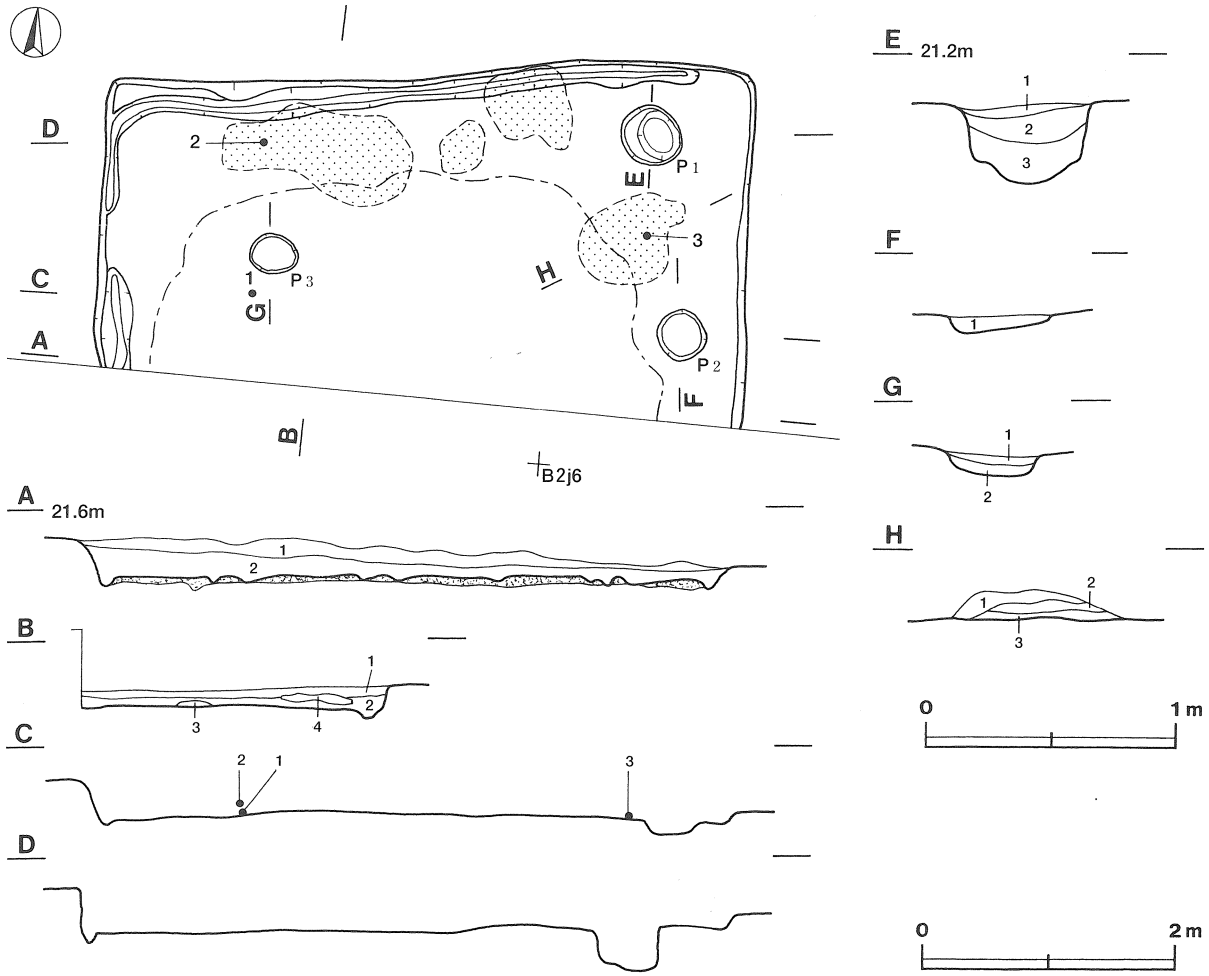
Ｐ１土層解説
１　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
２　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
３　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
Ｐ２土層解説
１　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
Ｐ３土層解説
１　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
２　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。また，壁際を中心に床面上に焼土及び炭化物の堆積した層が４か所ほど検出され，焼失住居の可能性が考えられる。

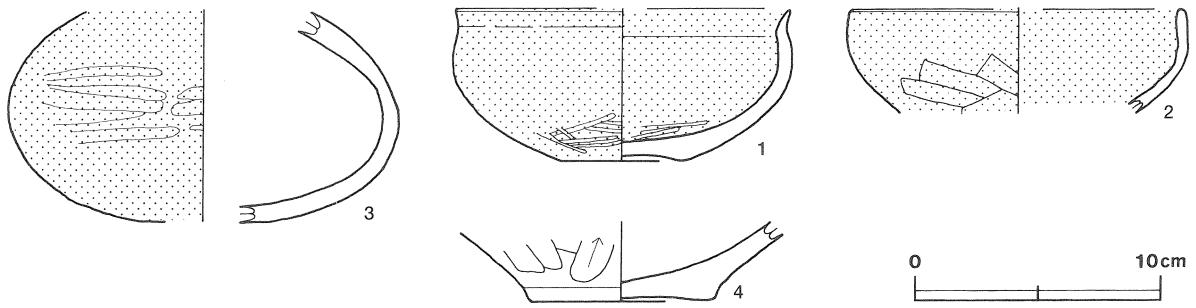
土層解説
1　暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
焼土土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
2　暗赤褐色　炭化物中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
3　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器及びその小破片100点，須恵器片２点が出土している。第19図１～４は土師器である。覆土下層では，２の坏が北壁際から正位の状態で出土している。床面では，１の坏が中央部から逆位の状態で，３の坩が東側から逆位の状態で出土している。その他にも覆土から４の甕が出土している。須恵器片は撹乱による混入である。

所見　本跡は，南部が調査区域外に延びており，全体の半分ほどの確認であったと推定される。時期は，出土土器から古墳時代（５世紀後半）と考えられる。



第18図　第１号住居跡実測図



第19図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第19図 1	坏 土師器	A [13.6] B 6.2 C 5.0	底部から口縁部片。凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	40%　PL15
2	坏 土師器	A [13.4] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	20%　PL15
3	坩 土師器	B (8.6)	口縁部・底部欠損。体部は偏平な球状で最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラ磨き。外面赤彩。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	60%　PL15
4	甕 土師器	B (3.2) C [7.6]	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。	長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	5%

第23号住居跡（第20図）

位置　調査Ａ区の南部，Ｂ2h7区。

重複関係　第60号土坑を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸7.30m，短軸6.90mの方形である。

主軸方向　Ｎ－３°－Ｅ

壁　壁高は35～53cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　出入り口部及び竈の部分を除き，壁下を巡っている。断面はＵ字形で，上幅22～41cm，下幅10～22cm，深さ８～13cmである。

床　西壁際から東壁際にかけて傾斜しており，東壁際は13cmほど低くなっている。

ピット　13か所（Ｐ１～Ｐ13)。Ｐ１は長径65cm，短径55cmの楕円形で，深さ31cmである。Ｐ２は二段掘り込みになっており，上段は長径62cm，短径53cmの楕円形で，深さ18cmである。下段は径22cmの円形で，深さ32cmである。Ｐ３は長径46cm，短径39cmの楕円形で，深さ47cmである。Ｐ４は径44cmの円形で，深さ57cmである。いずれも配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は長径70cm，短径47cmの楕円形，深さ14cmで，竈を結ぶ直線状に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・Ｐ７・Ｐ９・Ｐ10・Ｐ12は径31～45cmの円形で，深さ12～28cmである。Ｐ８は長径40cm，短径31cmの楕円形で，深さ32cmである。Ｐ11は二段掘り込みになっており，上段は径60cmの円形で，深さ16cmである。下段は径20cmの円形で，深さ30cmである。Ｐ６・Ｐ７はＰ１の外側，Ｐ８はＰ３の内側，Ｐ９・Ｐ10はＰ４の外側，Ｐ11はＰ１とＰ２の中間，Ｐ12はＰ３とＰ４の中間に位置し，いずれも補助柱穴と思われる。Ｐ13は長径100cm，短径75cmの楕円形，深さ10cmで，遺構の中央部に位置し，掘り込みも浅く性格は不明である。

Ｐ４土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	炭化粒子中量，ローム粒子微量
4	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
6	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

竈　北壁中央に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ130cm，両袖幅102cmで，壁外への掘り込みは36cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。火床部は，円形に６cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック微量
4	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
6	黄褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8	赤褐色	焼土粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

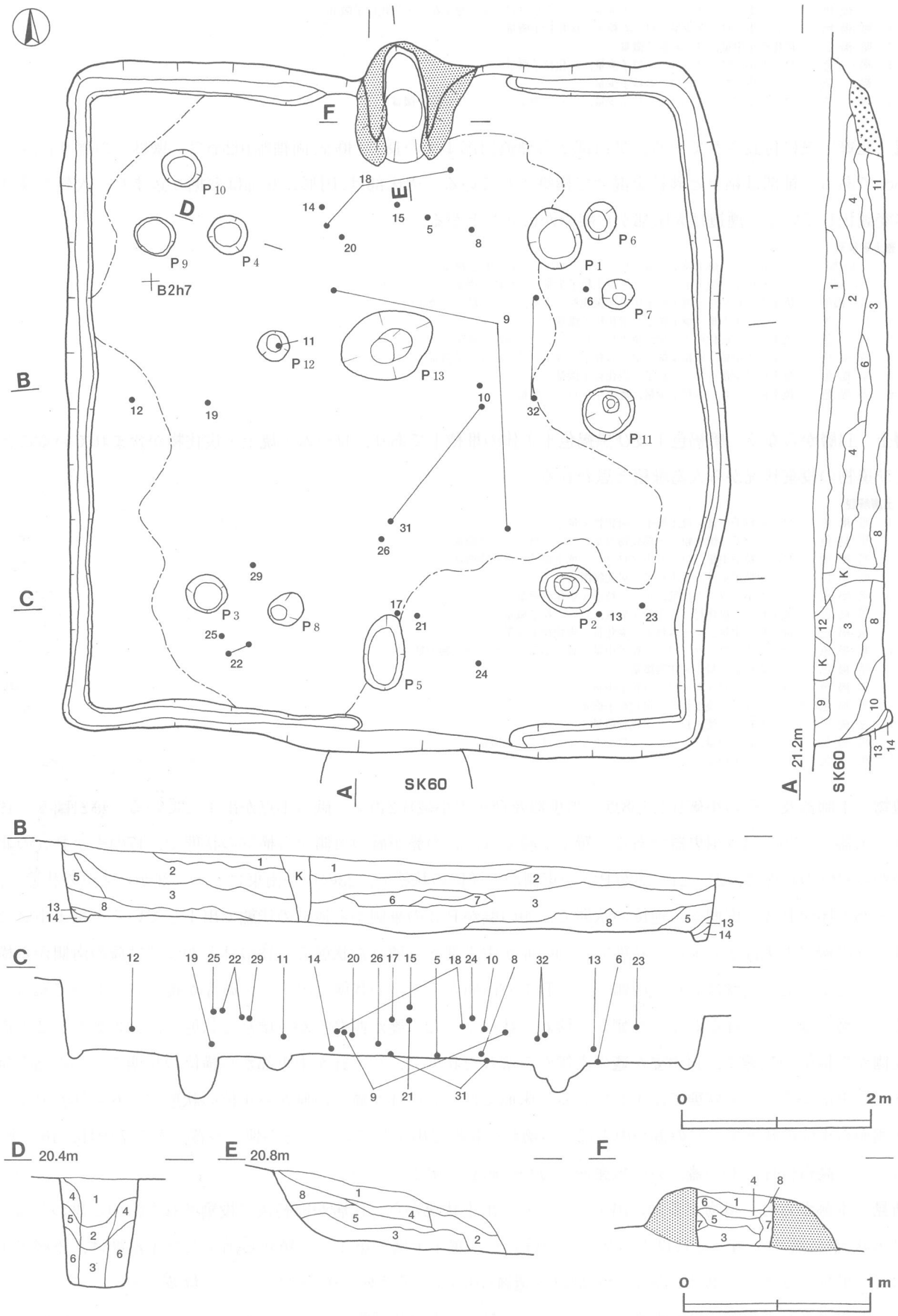
覆土　14層からなる。暗褐色土及び黒褐色土主体の堆積土であり，ローム・焼土・炭化物が含まれていること及び遺物の投棄状況から人為堆積と思われる。

土層解説

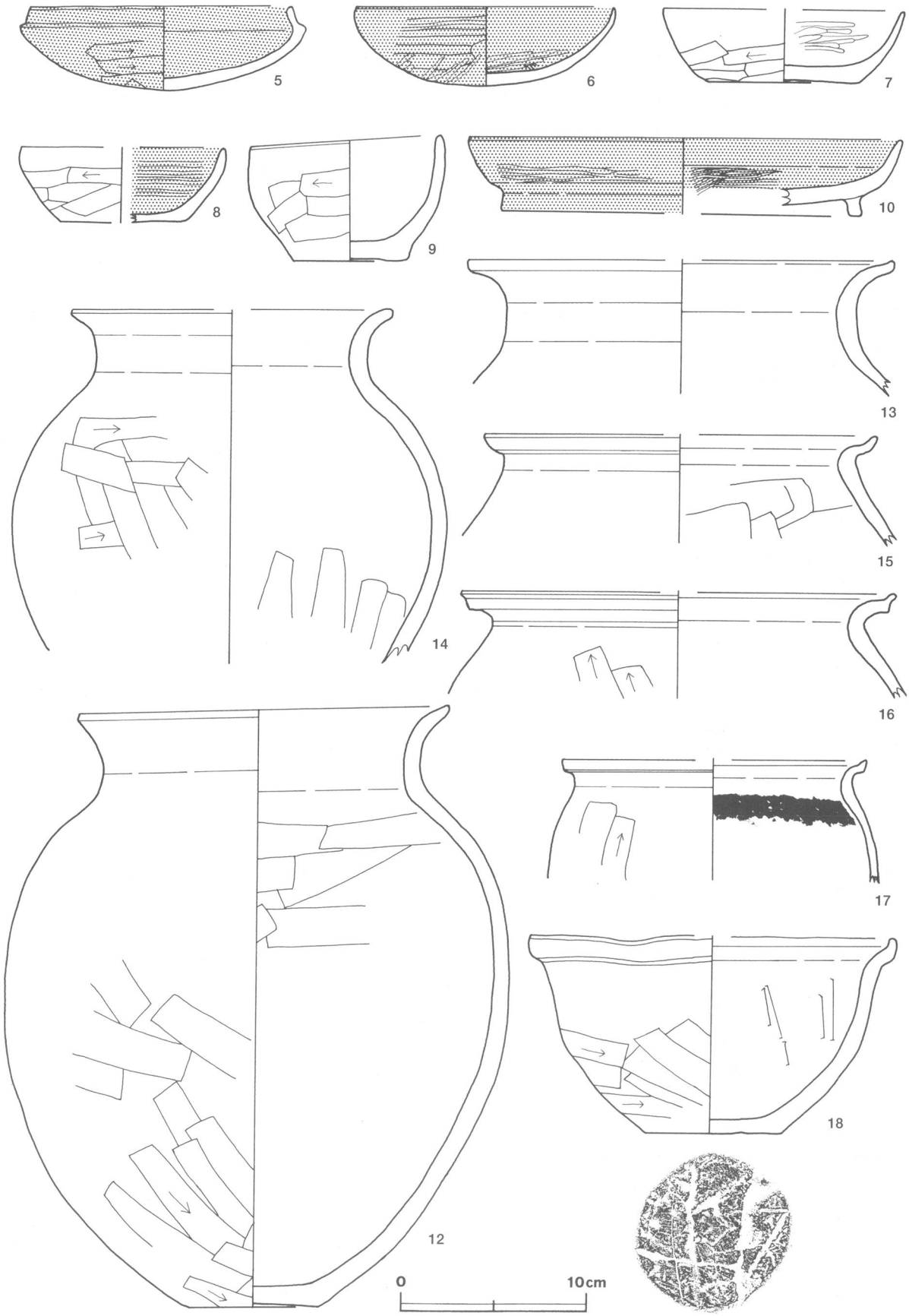
1	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
5	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化材微量
6	黒褐色	焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7	暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量
8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
9	暗褐色	ローム粒子中量，炭化物微量
10	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
11	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
13	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
14	褐　色	ローム粒子中量

遺物　土師器及びその小破片1,158点，須恵器及びその小破片249点，砥石１点が出土している。第21図５～19は土師器で，20～34は須恵器である。覆土上層では，15の甕が竈の南側から横位の状態で，17の甕がＰ５の北側から斜位の状態で，21・24の坏がＰ５の東側から逆位の状態で，23の坏が南東コーナー部から逆位の状態で，22・25の坏がＰ３の南側から逆位の状態で，29の盤がＰ３の東側から逆位の状態で出土している。覆土中層では，９の椀が中央部から逆位の状態で，10の皿が中央部から壊れた状態で，18の鉢と20の坏は竈の南側から横位の状態で，32の高盤はＰ11の西側からとＰ１の南側から逆位の状態で出土した破片が接合したものである。覆土下層では，８の坏がＰ１の西側から壊れた状態で，12の甕が西壁際から壊れた状態で，13の甕がＰ２の南東側から横位の状態で，14の甕が竈の南側から壊れた状態で，19の鉢が中央部から横位の状態で，26の高台付坏が中央部から正位の状態で出土している。床面では，５の坏が竈の南側から正位の状態で，６の坏がＰ７の西側から正位の状態で，31の蓋が中央部から壊れた状態で出土している。その他にも覆土から７の坏，16の甕，27・28の高台付坏，30の蓋，34の短頸壺，Ｑ49の砥石が出土している。

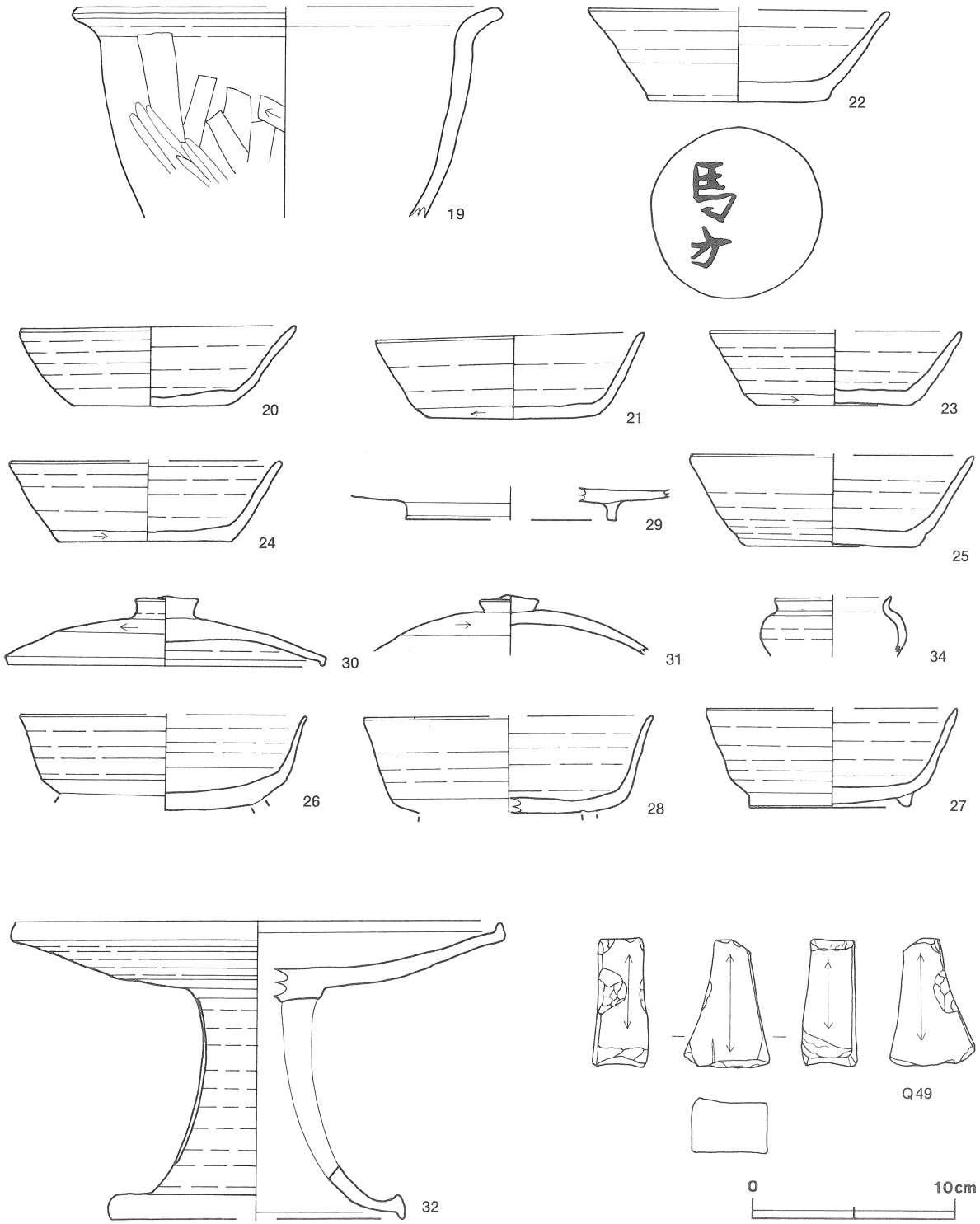
所見　本跡からは，遺物が多量に出土している。出土状況から，住居が廃絶後に投棄されたものと思われる。投棄状況は，覆土上層とそれ以下の２つに分けられ，覆土上層の第１・２層から出土した土器群は，下層の土器群と時期差がある。覆土上層の土器群は当遺跡の中心時期である９世紀代であり，数多く出土している「馬方」と墨書された須恵器坏も投棄されている。時期は，床面及び覆土下層から出土している５・６の土師器坏，12～14の土師器甕から古墳時代（６世紀末～７世紀初）と考えられる。



第20図　第23号住居跡実測図



第21図　第23号住居跡出土遺物実測図（1）



第22図　第23号住居跡出土遺物実測図（２）

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第21図 5	坏 土　師　器	A　14.0 B　4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	100%　　ＰＬ15
6	坏 土　師　器	A　13.9 B　4.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	100%　　ＰＬ15

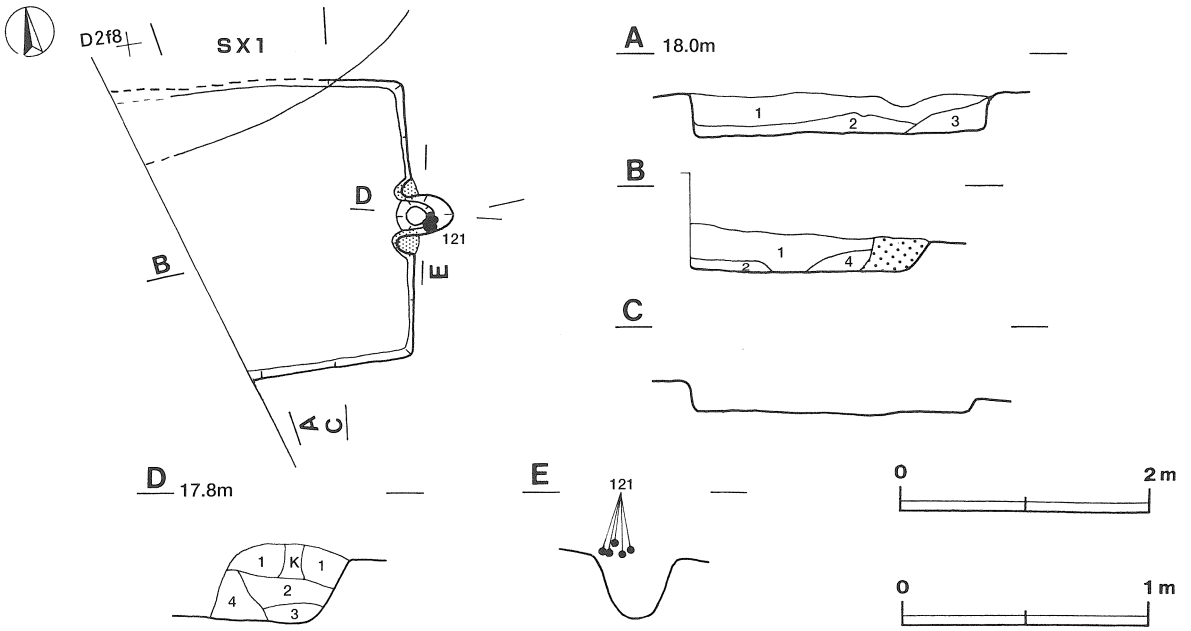
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 7	坏 土師器	A [13.0] B 4.0 C 8.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。	長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	70% PL15
8	坏 土師器	A [11.0] B 4.1 C [7.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	50% PL15
9	椀 土師器	A 10.3 B 6.8 C 6.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	60% PL15
10	皿 土師器	A 23.2 B 4.2 D [19.6] E 1.1	高台部から口縁部片。底部と体部の境は稜をもち屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英 にぶい褐色 普通	40% PL15
12	甕 土師器	A 20.2 B 32.8 C 6.8	凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石・石英 橙色 普通	80% PL15
13	甕 土師器	A [23.2] B (7.4)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	10%
14	甕 土師器	A [17.4] B (18.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	30% PL15
15	甕 土師器	A [21.0] B (5.9)	口縁部片。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	10%
16	甕 土師器	A [23.2] B (5.6)	体部上位から口縁部片。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	10%
17	甕 土師器	A [16.4] B (6.5)	体部上位から口縁部片。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	5% 内面煤付着
18	鉢 土師器	A [19.6] B 10.6 C 7.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	60% PL15
第22図 19	鉢 土師器	A [20.8] B (10.4)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	20% PL15
20	坏 須恵器	A 13.6 B 3.9 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	100% PL15
21	坏 須恵器	A 13.2 B 4.4 C 8.7	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	80% PL15
22	坏 須恵器	A [15.0] B 4.6 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部下端は丸みを帯び，外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	70% PL15 底部外面墨書「馬方」
23	坏 須恵器	A [12.4] B 3.7 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	60% PL15
24	坏 須恵器	A [13.4] B 4.0 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	40%
25	坏 須恵器	A [14.2] B 4.5 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部下端は丸みを帯び，外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	60% PL16
26	高台付坏 須恵器	A [14.1] B (4.7)	底部から口縁部片。高台部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部に高台貼り付け痕。	長石・雲母・白色粒子 暗灰黄色 普通	60% PL16

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第22図 27	高台付坏 須恵器	A [12.4] B 4.9 D 7.9 E 0.7	高台部から口縁部片。底部と体部の境は稜をもち屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰白色 普通	60%　PL16
28	高台付坏 須恵器	A [14.2] B (4.8)	底部から口縁部片。高台部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部に高台貼り付け痕。	長石・石英 褐灰色 普通	30%
29	盤 須恵器	B (1.6) D [10.4] E 0.9	高台部片。高台は垂下する。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	10%
30	蓋 須恵器	A 15.8 B 3.4 F 3.2 G 1.1	つまみから口縁部片。天井部は笠形で，擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は短く折り返している。	口縁部，外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り後，つまみ接合。	長石・石英 黄灰色 普通	60%　PL16
31	蓋 須恵器	B [3.0] F 3.0 G 0.8	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り後，つまみ接合。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	20%
32	高盤 須恵器	A 24.0 B 14.8 D [14.6] E 11.4	脚部から口縁部片。脚部はラッパ状に開く。脚部上位から中位にかけて長方形の透かし孔が2方向に空く。盤体部は大きく開き，口縁部上位に明瞭な稜をもつ。端部はつまみ上げられている。	体部内・外面ロクロナデ。盤底部回転ヘラ削り。脚部外面ロクロナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	60%　PL16
34	短頸壺 須恵器	A [5.8] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は外傾しながら立ち上がり，肩部に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	10%

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	特　　徴	備　　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第22図Q49	砥　石	(6.4)	4.3	2.8	(84.5)	凝灰岩	剥片　4面使用	PL26

第25号住居跡（第23図）

位置　調査B区の北西部，D2g9区。



第23図　第25号住居跡実測図

重複関係　第１号不明遺構に掘り込まれており，本跡が古い。

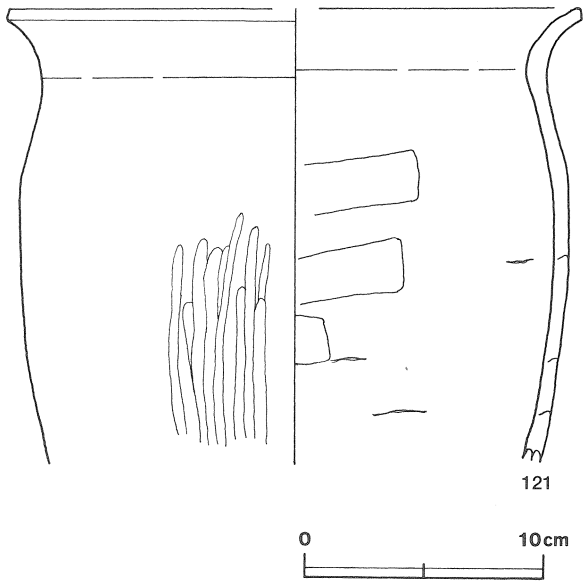
規模と平面形　西壁側が調査区域外にかかる。長軸2.39m，確認できた短軸1.78mで，長方形と推定される。

主軸方向　N－83°－Wと推定される。

壁　壁高は28～32cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

竈　東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ56cm，両袖幅67cmで，壁外への掘り込みは42cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。火床部は，平坦で掘りくぼめられた様子は見られない。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。



第24図　第25号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
3　赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化物微量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物　土師器及びその小破片10点が出土している。第24図121は土師器の甕で，竈内の上層から壊れた状態で出土している。

所見　本跡は，黒色土主体の調査Ｂ区から検出された住居である。時期は，出土遺物が少なく時期決定が難しいが，竈内から出土した土器から古墳時代（７世紀代）と考えられる。

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第24図 121	甕 土 師 器	A ［24.0］ B （19.0）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	20%　　ＰＬ16

第26号住居跡（第25図）

位置　調査Ａ区の南東部，Ｂ2d7区。

重複関係　第28号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.39m，短軸5.08mの方形である。

主軸方向　N－66°－E

壁　壁高は38～53cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦である。主柱穴の内側及び竈の焚口部にかけて，特に踏み固められている。

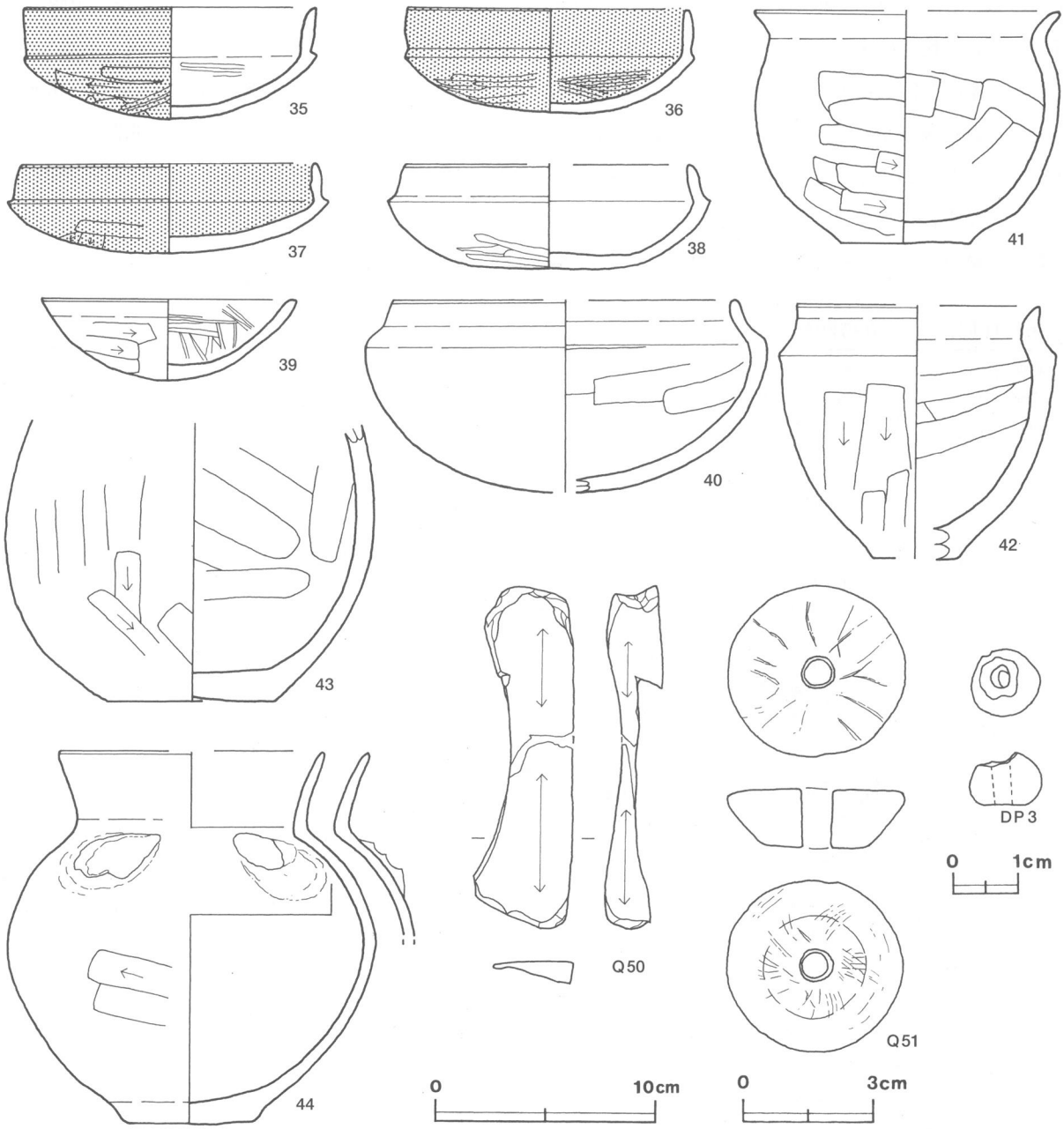
第25図　第26号住居跡実測図

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は二段掘り込みになっており，上段は長径61cm，短径52cmの楕円形で，深さ30cmである。下段は径16cmの円形で，深さ15cmである。Ｐ２は径56cmの円形で，深さ25cmである。Ｐ３は二段掘り込みになっており，上段は長径45cm，短径39cmの楕円形で，深さ24cmである。下段は径29cmの円形で，深さ40cmである。Ｐ４は径40cmの円形で，深さ30cmである。いずれもコーナーに位置し主柱穴と思われる。

竈　東壁やや北寄りに付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ130cm，両袖幅122cmで，壁外への掘り込みは20cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。火床部は，円形に４cmほど掘り込まれている。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗 褐 色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量



第26図　第26号住居跡出土遺物実測図

覆土　15層からなる。全体的にローム・焼土・炭化物・炭化粒子が含まれていることから人為堆積と思われる。また，覆土下層及び床面上から炭化材が検出され，堆積状況から焼失住居の可能性が考えられる。

土層解説

1　暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
3　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗褐色　炭化物・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5　黒褐色　炭化粒子・ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
6　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子微量
7　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
8　暗褐色　ローム小ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒褐色　焼土粒子・炭化物中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
13　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量
14　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物　土師器及び小破片399点，須恵器片８点，土製小玉１点，砥石１点，石製紡錘車１点が出土している。第26図の35～44は土師器である。覆土上層では，40の鉢が中央部から壊れた状態で出土している。覆土中層では，37の坏，41の椀が中央部から正位の状態で，43の甕が中央部から横位の状態で出土している。覆土下層では，35の坏が竈の西側から斜位の状態で，36の坏が西壁際から正位の状態で，44の甕が竈の西側から壊れた状態で，Ｑ51の石製紡錘車がＰ３の覆土上層から横位の状態で出土している。床面では，39の坏が竈の北側から正位の状態で，ＤＰ３の小玉が中央部から出土している。その他にも覆土から38の坏，42の椀，Ｑ50の砥石が出土している。須恵器片は撹乱による混入である。

所見　本跡の時期は，出土土器から古墳時代（６世紀前半）と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 35	坏 土師器	A　13.6 B　5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。外面黒色処理。	長石・石英 にぶい褐色 普通	90%　PL16 内面摩滅
36	坏 土師器	A　12.7 B　4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底部，体部内・外面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	100%　PL16
37	坏 土師器	A　13.4 B　4.1	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	80%　PL16
38	坏 土師器	A［13.0］ B　4.8	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	40%　PL16
39	坏 土師器	A　11.6 B　3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	90%　PL16
40	鉢 土師器	A［15.7］ B（8.7）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	50%　PL16 外面摩滅
41	椀 土師器	A［13.9］ B　10.7 C　5.9	体部上位から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	60%　PL16
42	椀 土師器	A［11.2］ B　11.6 C［3.8］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	20%
43	甕 土師器	B（12.7） C　7.6	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	40%　PL16

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第26図 44	甕 土　師　器	A (12.0) B (17.2) C　6.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。体部上位に把手痕。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	40%　　PL16 内面摩滅

図版番号	器　種	計　測　値				材　質	特　　徴	備　　考
		径　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第26図DP3	小　　玉	1.1	0.8	0.3	0.8	土　　製	通孔部は雑　外面を磨く	PL24

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	特　　徴	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第26図Q50	砥　　石	(15.7)	(4.3)	(2.5)	(130.4)	泥　　岩	剥片　3面使用	

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	特　　徴	備　　考
		径　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第26図Q51	紡　錘　車	4.1	1.3	0.7	130.4	滑　　石	逆台形状	PL26

(2) 土　坑

第60号土坑（第27図）

位置　調査A区の南部，B2i7区。

重複関係　第23号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長径1.64m，確認できた短径1.49mで楕円形と推定され，深さ57cmである。

長径方向　N－7°－Eと推定される。

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦である。

覆土　4層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

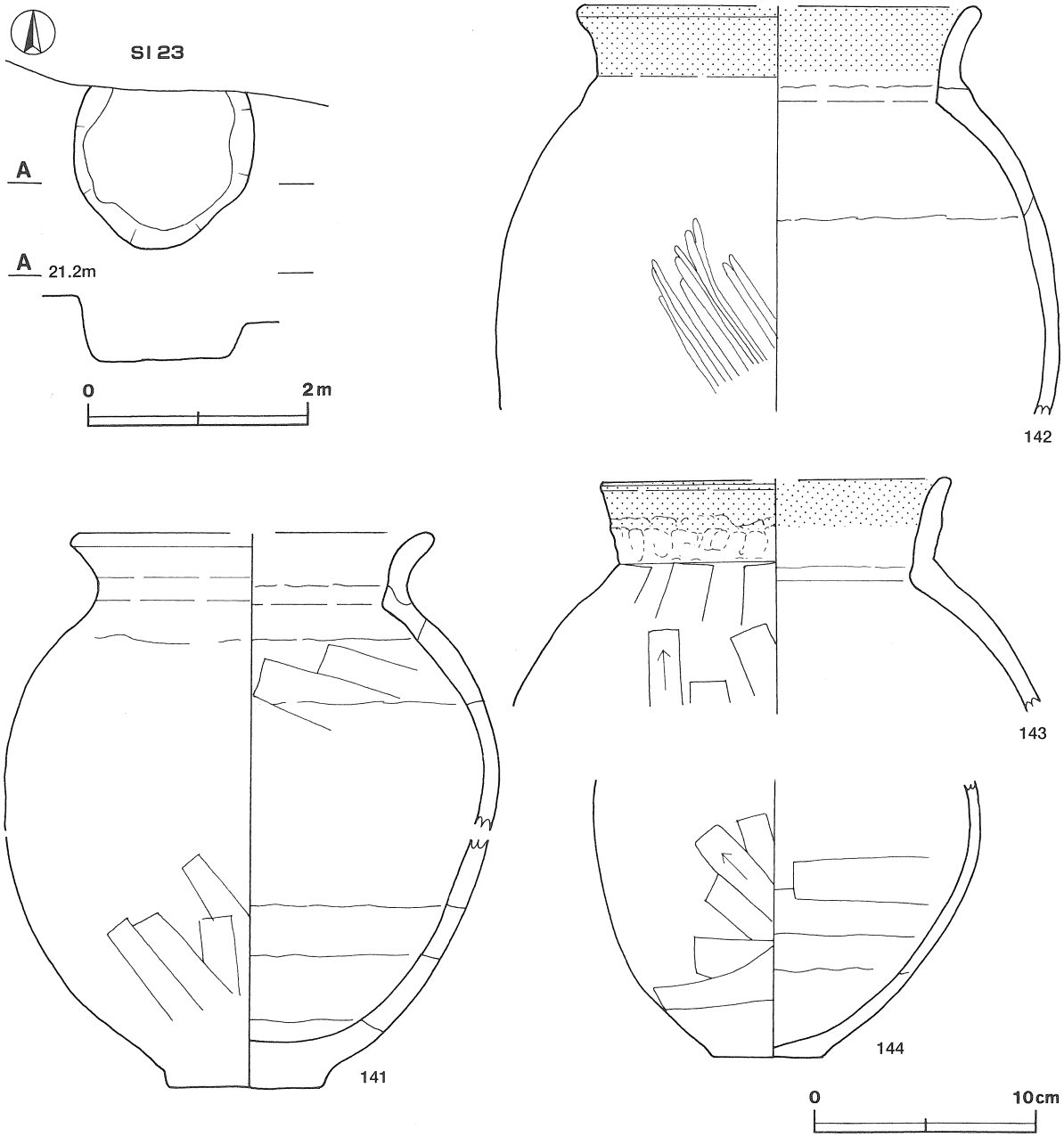
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量
5　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
6　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物　土師器及び小破片87点，縄文土器片1点，礫4点が出土している。第27図の141～144は，土師器甕である。いずれも，覆土5・6層の下層から壊れた状態で出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土土器から古墳時代（5世紀後半）と考えられる。

第60号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第27図 141	甕 土　師　器	A [15.8] B [25.0] C　6.9	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部下位から体部上位外面ヘラ磨き，体部下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	60%　　PL16
142	甕 土　師　器	A [17.8] B (18.3)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ後ヘラ磨き，内面ナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英 にぶい橙色 普通	30%　　PL17
143	甕 土　師　器	A [15.8] B (10.5)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英 にぶい褐色 普通	10%　　PL17



第27図　第60号土坑・出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第27図 144	甕 土　師　器	B (12.5) C　4.9	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石 灰黄褐色 普通	30%　　PL16

4　奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構としては，竪穴住居跡16軒，ピット群１か所が検出された。以下，検出された遺構の特徴や遺物について記載する。

（1）竪穴住居跡

第2号住居跡（第28図）

位置　調査A区の南部，B2i3区。

規模と平面形　西壁際が調査区域外にかかる。確認できた東西軸は3.03m，南北軸は4.46mで長方形と推定される。

主軸方向　N－72°－Wと推定される。

壁　壁高は35～49cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁際及び東壁際を巡っている。断面はU字形で，上幅18～30cm，下幅7～13cm，深さ7cmである。北壁の一部は撹乱を受け不明である。

床　平坦である。竈焚口部の南側が，特に踏み固められている。

ピット　3か所（P1～P3）。P1・P2は径26～29cmの円形，深さ20～28cmで，いずれも南壁際から検出され，主柱穴と思われる。P3は長径102cm,短径78cmの楕円形，深さ18cmである。堆積土に灰が混じっていることから，灰を溜めたピットの可能性がある。

P3土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子・灰中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・灰少量，炭化物・炭化粒子微量

竈　南東コーナー部に付設されたコーナー竈である。天井部は崩落し，両袖部が残存している。土層断面中，第3層が天井部の崩落土層と思われる。焚口部から煙道口部までの長さ146cm,両袖幅132cmで,壁外への掘り込みは41cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面図中，第7～14層は袖部の土層である。火床部は円形に7cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
6	明赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土中ブロック微量
8	褐　色	粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
10	暗褐色	粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
11	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
13	暗赤褐色	焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
14	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

覆土　7層からなる。ロームブロックを含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

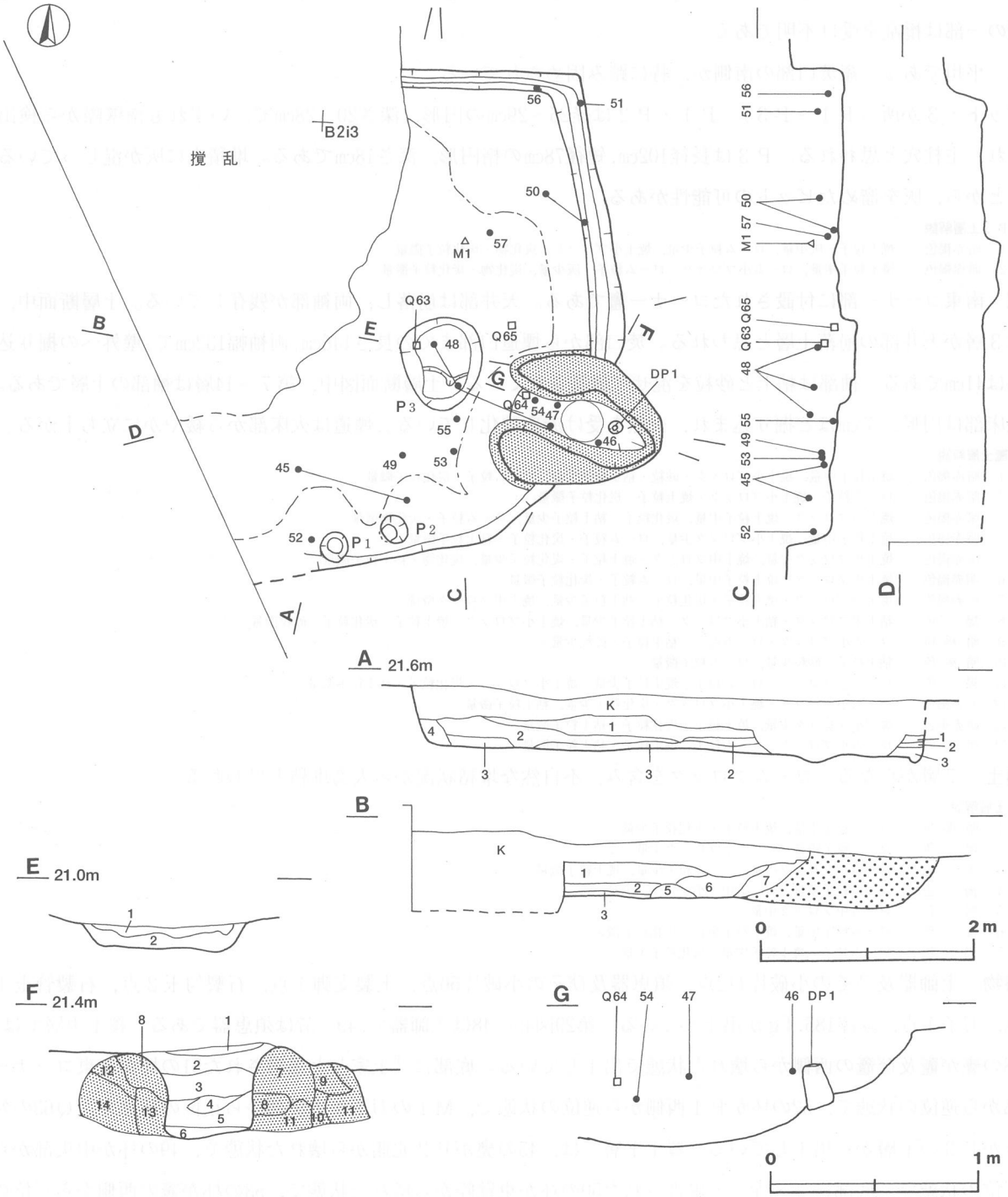
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4	褐　色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
5	褐　色	ローム中ブロック中量
6	褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7	褐　色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量

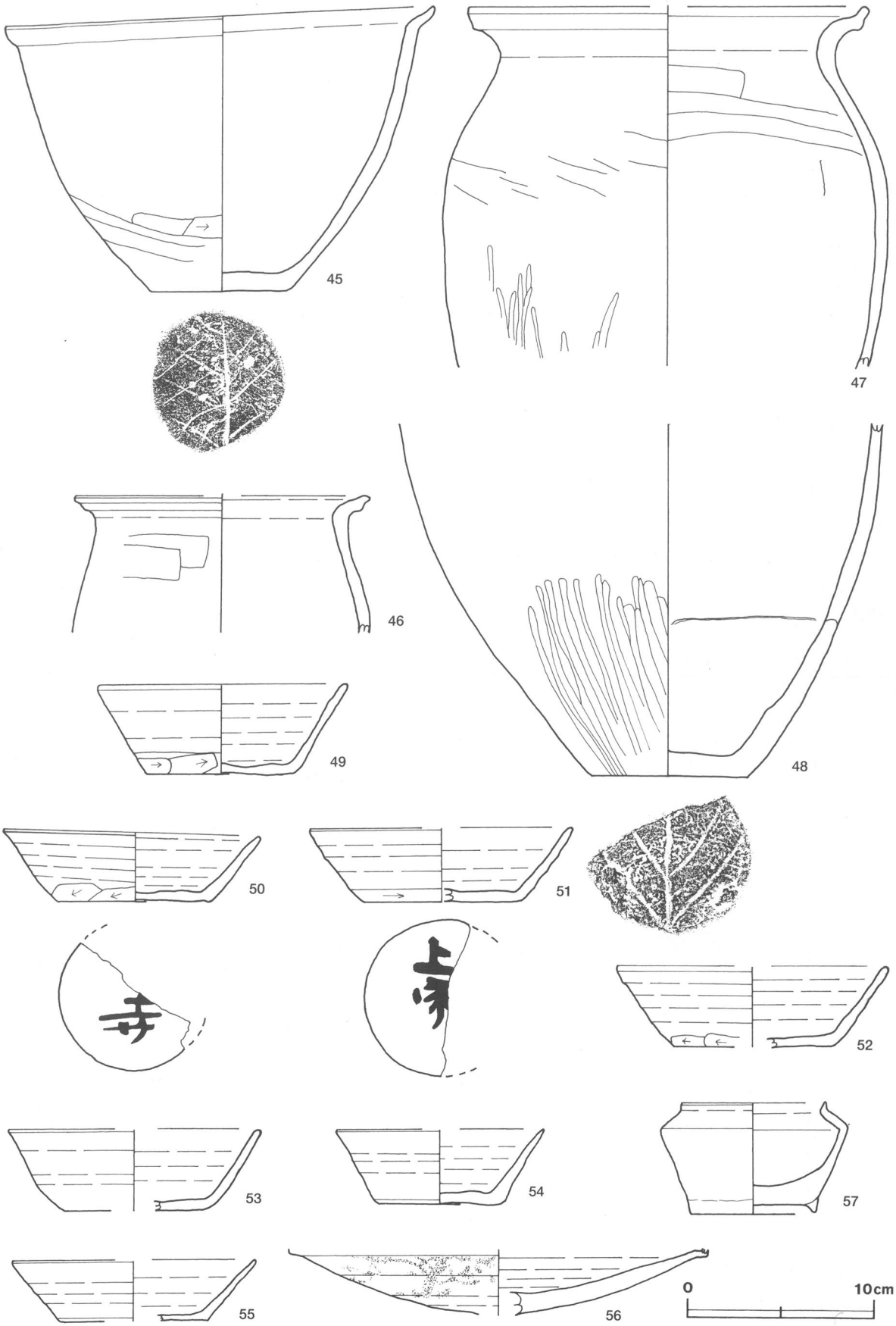
遺物　土師器及びその小破片412点，須恵器及びその小破片56点，土製支脚1点，石製勾玉2点，石製管玉1点，刀子1点，鉄滓185.4gが出土している。第29図45～48は土師器で,49～57は須恵器である。覆土中層では，48の甕が竈及び竈の西側から壊れた状態で出土している。底部に「上家」と墨書された51の坏が北東コーナー部から逆位の状態で，52の坏がP1西側から逆位の状態で，M1の刀子が中央部から正位の状態で，Q63の勾玉がP3の上層から出土している。覆土下層では，45の甕がP2北側から壊れた状態で，49の坏が中央部から正位の状態で，底部に「×寺」と墨書された50の坏が東壁際から壊れた状態で，53の坏が竈の西側から正位の状態で，56の高盤が北東コーナーから正位の状態で，57の短頸壺が中央部から正位のつぶれた状態で，Q65の

管玉が竈左袖部の西側から出土している。床面では，55の坏が竈焚き口部の南側から正位の状態で出土している。竈内では，46・47の甕が下層から，54の坏が逆位の状態で，ＤＰ１の支脚がやや斜めの状態で，Ｑ64の勾玉が竈内焚口部の中層から出土している。その他にも覆土から鉄滓が出土している。

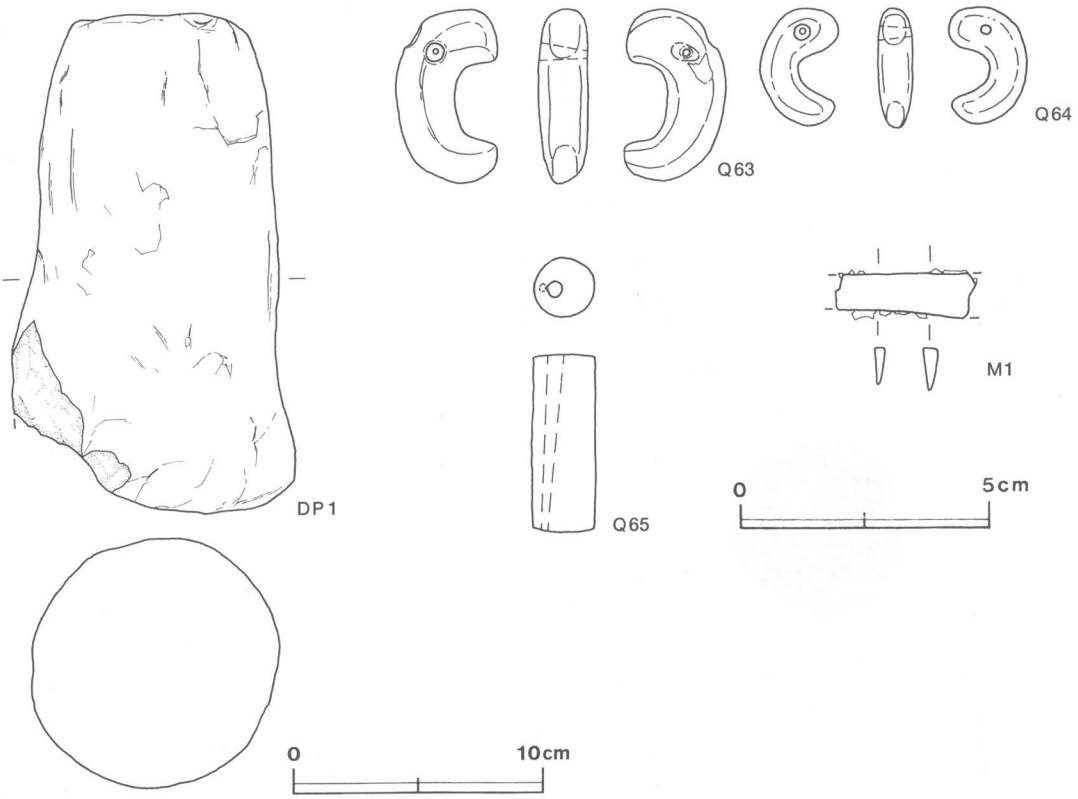
所見　中央部から刀子，竈内及び竈の西側から勾玉２点と管玉１点，異なる文字の書かれた墨書土器２点など特異な遺物が出土している。また，竈内から供膳具である坏が，二次焼成を受けずに出土していることから，住居を廃絶するにあたって，坏を竈の中に埋納するという祭祀行為等が行われた可能性が考えられる。時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第28図　第２号住居跡実測図



第29図　第２号住居跡出土遺物実測図（１）



第30図　第２号住居跡出土遺物実測図（２）

第２号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 45	甕 土師器	A 23.0 B 15.3 C 7.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石・雲母・赤色粒子・白色粒子 にぶい赤褐色 普通	80%　PL17
46	甕 土師器	A [15.8] B (7.3)	体部上位から口縁部片。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	30%　PL17
47	甕 土師器	A [21.4] B (19.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子，にぶい褐色 普通	20%　PL17
48	甕 土師器	B (18.9) C 8.3	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母・赤色粒子，にぶい黄褐色 普通	30%　PL17
49	坏 須恵器	A 13.2 B 4.9 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	90%　PL17
50	坏 須恵器	A 13.7 B 4.0 C [8.0]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	90%　PL17 底部外面墨書「×寺」
51	坏 須恵器	A [14.0] B 4.0 C [8.4]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	40%　PL17 底部外面墨書「上家」
52	坏 須恵器	A [14.5] B 4.3 C [8.6]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰白色 普通	30%
53	坏 須恵器	A [13.4] B 4.4 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	30%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 54	坏 須恵器	A [11.2] B 4.0 C 6.2	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	30%
55	坏 須恵器	A [13.0] B 3.3 C [7.8]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・赤色粒子 灰黄褐色 普通	30%
56	高盤 須恵器	A [22.6] B (3.5)	脚部欠損。盤体部は大きく開き，口縁部に至る。口縁端部欠損。	体部内・外面ロクロナデ。外面自然釉。	長石 褐灰色 普通	20%
57	短頸壺 須恵器	A 7.7 B 6.0 D 6.7 E 0.9	肩部から口縁部一部欠損。底部は平底で，高台は低くハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，肩部に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	80% PL17 内・外面摩滅

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
第30図DP1	支脚	20.2	(11.5)	6.5	(2072.7)	土製	基底部の片側が欠損。焼成は良好。	PL24

図版番号	器種	計測値					石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第30図Q63	勾玉	3.5	2.1	1.1	0.1～0.3	8.2	瑪瑙	コ字状。一方向から穿孔。	PL26
Q64	勾玉	2.4	1.6	0.7	0.1～0.3	3.2	瑪瑙	コ字状。一方向から穿孔。	PL26

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第30図Q65	管玉	3.6	1.2	0.1～0.3	9.3	碧玉	竹管状。一方向から斜めに穿孔。	PL26

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		刃長(cm)	刃幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第30図M1	刀子	(2.8)	(0.9)	(0.3)	(1.6)	鉄	身両端及び茎欠損。身は直線的。	PL26

第３号住居跡（第31図）

位置　調査Ａ区の南部，Ｂ２f3区。

規模と平面形　南西コーナー部が撹乱を受けている。長軸4.62m，短軸3.40mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－18°－Ｗ

壁　壁高は27～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈東側及び南東コーナー部を除き巡っている。断面はＵ字形で，上幅25～35cm，下幅６～16cm，深さ10～14cmである。

床　平坦である。竈焚口部の南側から中央部にかけて，特に踏み固められている。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１～Ｐ３は長径46～60cm，短径40～42cmの楕円形，深さ19～28cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ４は径34cmの円形，深さ17cmで，Ｐ２の南側に位置し補助柱穴と思われる。

Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量

竈　北壁中央に付設され，天井部は崩落し，両袖部が残存している。土層断面中，第２層が天井部の崩落土層と思われる。焚口部から煙道口部までの長さ108cm，両袖幅152cmで，壁外への掘り込みは52cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面図中，第６～９層は袖部の土層である。火床部はほぼ円形に８cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

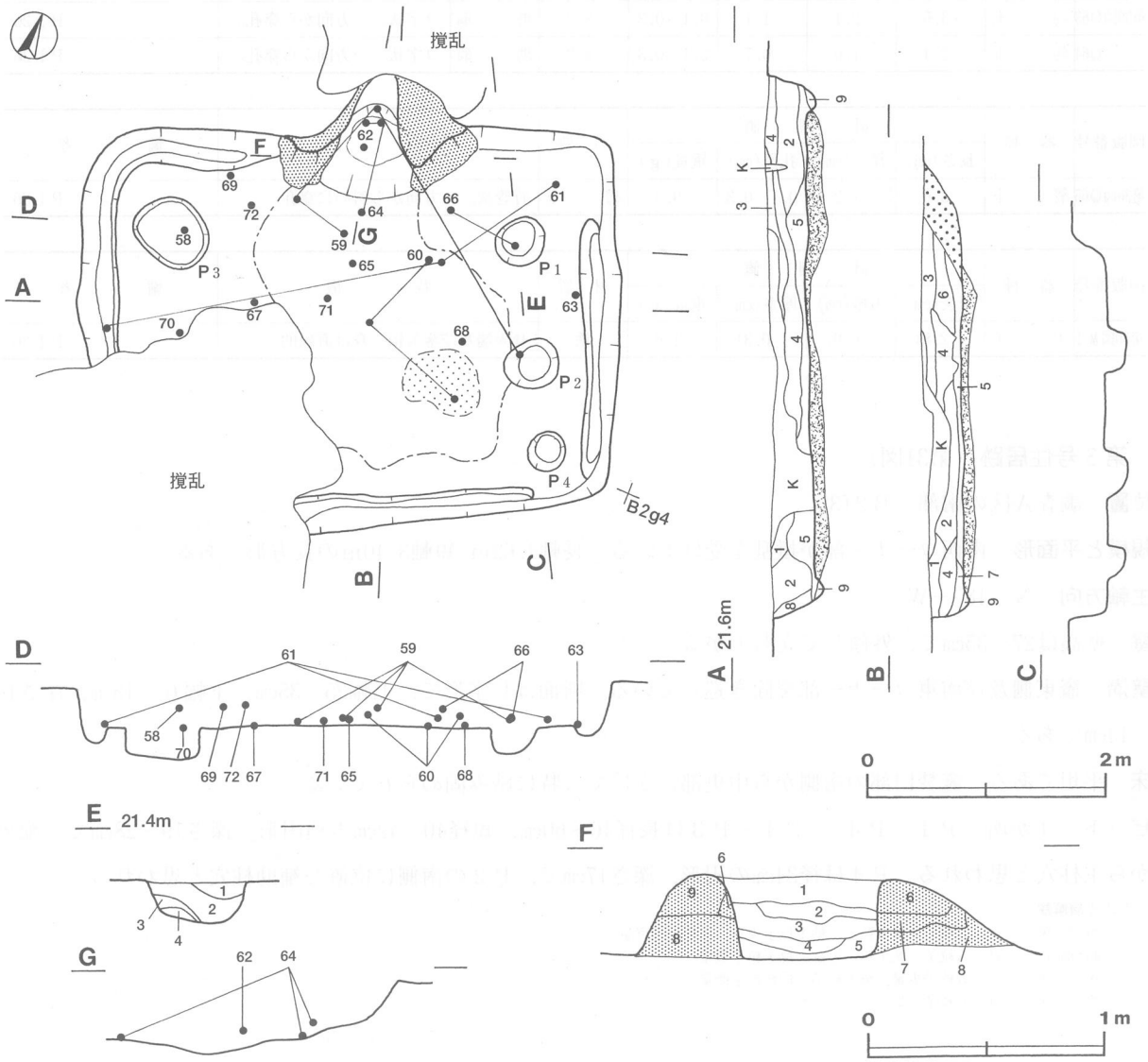
竈土層解説

1	褐　色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂粒微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
3	赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，砂粒微量
4	赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	赤褐色	焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
6	黄褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
7	暗褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
9	黄褐色	粘土粒子中量，ローム粒子少量

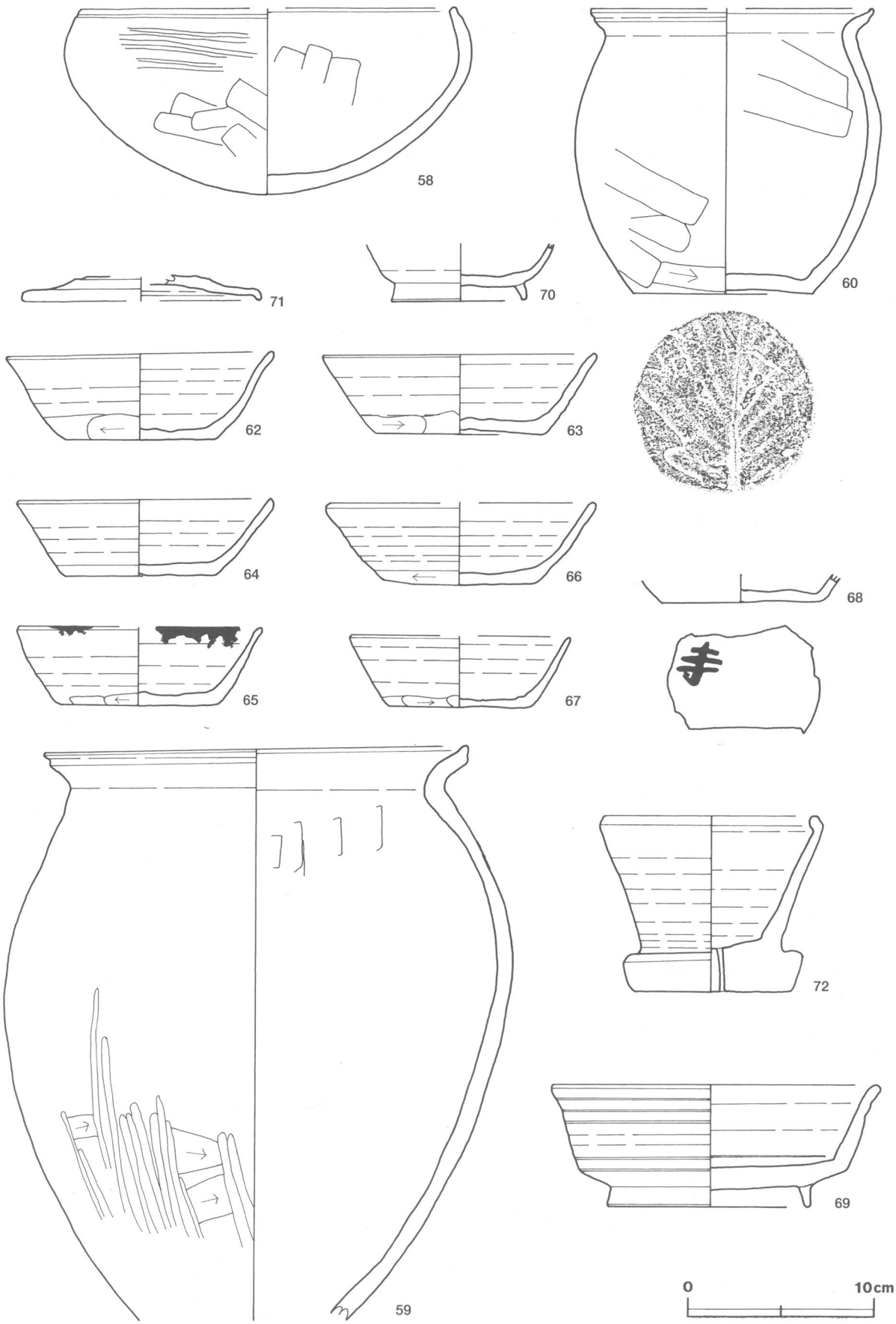
覆土　９層からなる。ローム･焼土･炭化物が含まれていることと，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
4	黒褐色	焼土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6	褐　色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
8	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
9	褐　色	ローム粒子多量



第31図　第３号住居跡実測図



第32図　第３号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器及びその小破片324点，須恵器及びその小破片66点，鉄滓38.7ｇ，礫13点が出土している。第32図58～60は土師器で，62～72は須恵器である。覆土中層では，58の鉄鉢が北西コーナー部から斜位の状態で，69の高台付坏が北壁際から斜位の状態で，72のこね鉢が竈の南側から斜位の状態で出土している。覆土下層では，59の甕が竈の南側と竈内及びＰ２内から出土した破片が接合したものである。63の坏が東壁際から逆位の状態で，65の坏が中央部から逆位の状態で，66の坏が竈右袖部の南側から正位の状態で，中央部から70の高台付坏が正位の状態で，71の蓋が逆位の状態で出土している。床面では，60の小形甕が中央部から壊れた状態で，67の坏が中央部から正位の状態で，底部に「×寺」と墨書された68の坏が中央部から出土している。竈内では，62の坏が覆土下層から斜位の状態で，64の坏が覆土下層及び南側から壊れた状態で出土している。

所見　本跡からは，土師器の鉄鉢と底部に「×寺」と書かれた墨書土器が出土しており，付近に仏堂的な建物があった可能性が考えられる。時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

第３号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 58	鉢形土器 土師器	A [20.0] B 10.0	体部から口縁部片。丸底。体部は大きく内彎して立ち上がり，口縁部は内屈している。	口縁部内・外面横ナデ。外面に一条の沈線が巡る。体部外面上位ヘラ磨き，下位ナデ。内面ナデ。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	50%　PL17
59	甕 土師器	A 22.4 B (31.2)	体部下位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子，にぶい橙色 普通	50%　PL17 口縁部油煙付着
60	小形甕 土師器	A [15.1] B 15.3 C 9.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は外方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ナデ。底部木葉痕。	長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	40%　PL17
62	坏 須恵器	A 14.2 B 4.7 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	100%　PL17
63	坏 須恵器	A 14.6 B 4.3 C 9.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	100%　PL17
64	坏 須恵器	A 13.5 B 4.1 C 8.1	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	70%　PL17
65	坏 須恵器	A [13.2] B 4.2 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	70%　PL17 口縁部油煙付着
66	坏 須恵器	A [14.3] B 4.4 C 8.1	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・赤色粒子，灰黄色 普通	50%　PL18
67	坏 須恵器	A [12.0] B 3.8 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	30%
68	坏 須恵器	B (1.5) C [8.6]	底部から体部片。平底。体部下位は外傾して立ち上がる。	底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰オリーブ 普通	20%　PL18 底部外面墨書「×寺」
69	高台付坏 須恵器	A 17.6 B 6.6 D 11.2 E 1.1	体部から口縁部一部欠損。底部と体部の境は稜をもち屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	90%　PL18
70	高台付坏 須恵器	B (3.1) D 7.2 E 1.0	高台部から体部下半片。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	30%
71	蓋 須恵器	A [12.9] B (1.4)	つまみ部欠損。天井部はほぼ平坦。口縁部は短く折り返している。	口縁部，外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	10%

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第32図 72	こね鉢 須恵器	A　11.2 B　9.5 C　8.6	体部から口縁部一部欠損。底部は円盤状の厚い平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。底部に焼成前の穿孔有。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ロクロナデ。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	80%　PL18

第５号住居跡（第33図）

位置　調査Ａ区の南西部，Ｂ2d1区。

規模と平面形　長軸3.76m，短軸3.17mの長方形である。

主軸方向　N－52°－W

壁　壁高は16～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈右袖部から北壁際を除き巡っている。断面はU字形で，上幅14～20cm，下幅５～10cm，深さ６～10cmである。

床　平坦である。中央部が，特に踏み固められている。

ピット　７か所（Ｐ１～Ｐ７）。Ｐ１・Ｐ２は長径36～44cm，短径30cmの楕円形で，深さ11～17cmである。Ｐ３・Ｐ４は径31cmの円形，深さ10～28cmで，配列から主柱穴と思われる。Ｐ５は二段掘り込みになっており，上段は長径32cm，短径27cmの楕円形で，深さ10cmである。下段は長径20cm，短径14cmの楕円形で，深さ20cmである。Ｐ６は径17cmの円形で，深さ20cmである。Ｐ５はＰ１とＰ４の中間に位置し，Ｐ６はＰ１の北側に位置し補助柱穴と思われる。Ｐ７は長径98cm，短径75cmの不整形で，深さ10cmである。堆積土に焼土及び灰が混じっていることから，灰を溜めたピットの可能性がある。

Ｐ３土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

Ｐ７土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，灰微量
2　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，灰少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・灰少量

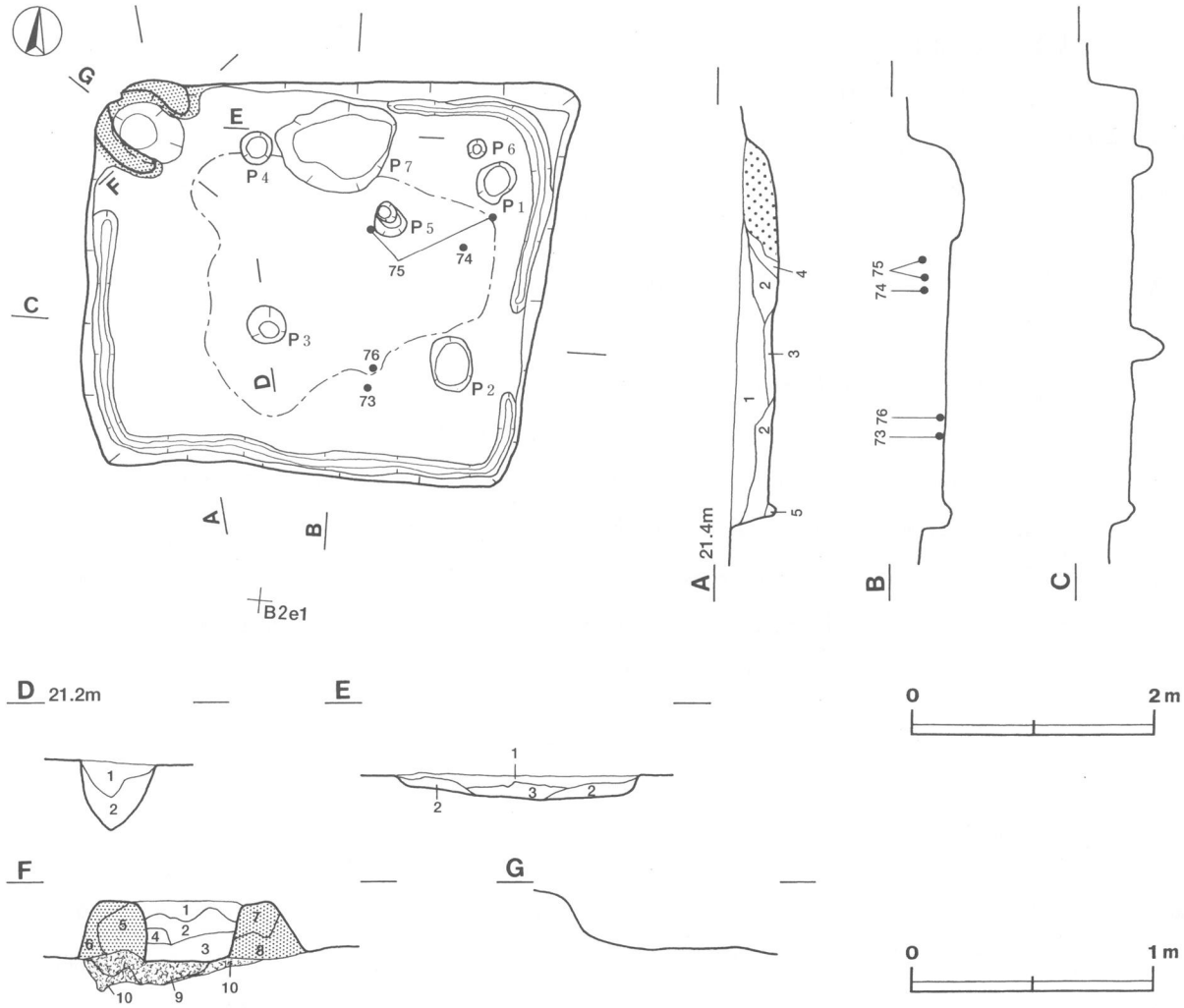
竈　北西コーナー部に付設されたコーナー竈である。天井部は崩落し，両袖部が残存している。土層断面中，第２層が天井部の崩落土層と思われる。焚口部から煙道口部までの長さ72cm，両袖幅84cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面図中，第５～８層は袖部の土層で，９・10層は掘り方内の土層である。火床部は，楕円形に10cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
5　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
7　褐　色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，砂粒微量
8　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

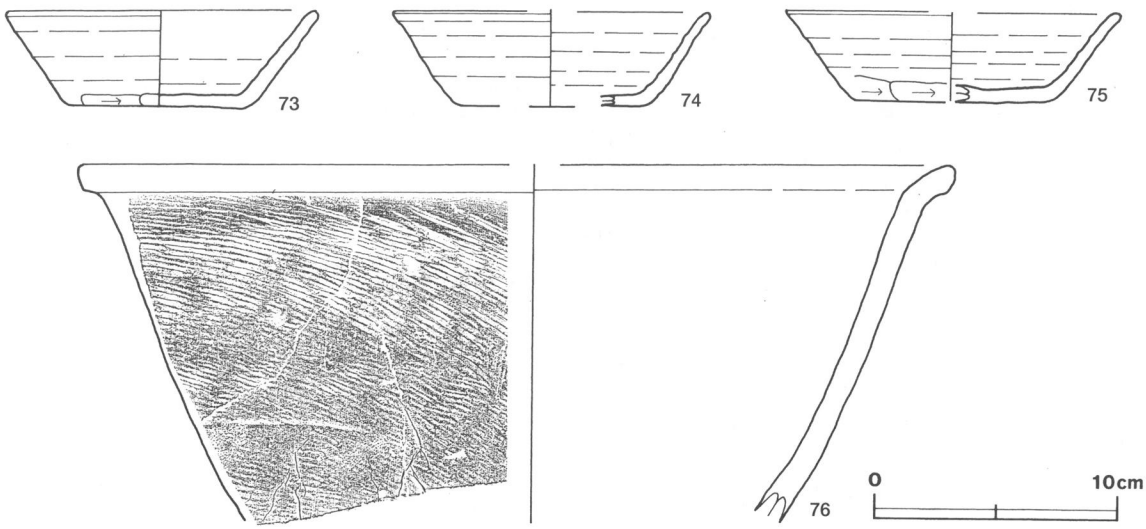
覆土　５層からなる。ローム・焼土・炭化物が含まれていることから，人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器及びその小破片159点，須恵器及びその小破片19点，羽口小片１点，鉄滓165ｇが出土している。第34図73～76は須恵器である。覆土中層では，74の坏が東壁際から横位の状態で，75の坏はＰ１の南側とＰ５の西側から出土した破片が接合したものである。床面では，73の坏が南側から正位の壊れた状態で，76の鉢が南側から横位の状態で出土している。その他にも覆土から，羽口片，鉄滓が出土している。



第33図　第５号住居跡実測図



第34図　第５号住居跡出土遺物実測図

所見　覆土から鉄滓が出土している。第２・３・７・８・12・16号住居跡からも鉄滓が出土しており，これらがいずれも本跡をとりまく位置にあることから，付近に鍛冶工房が存在した可能性が考えられる。時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

第５号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第34図 73	坏 須恵器	A　12.6 B　4.0 C　7.3	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	80%　　ＰＬ18
74	坏 須恵器	A［13.0］ B　3.9 C［7.8］	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	20%
75	坏 須恵器	A［13.8］ B　3.8 C［8.2］	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	30%
76	鉢 須恵器	A［35.5］ B（14.7）	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き，内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	10%　　ＰＬ18

第６号住居跡（第35図）

位置　調査Ａ区の西部，Ｂ1b9区。

規模と平面形　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。床面の範囲は長軸3.58m，短軸2.80mで長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－63°－Ｅと推定される。

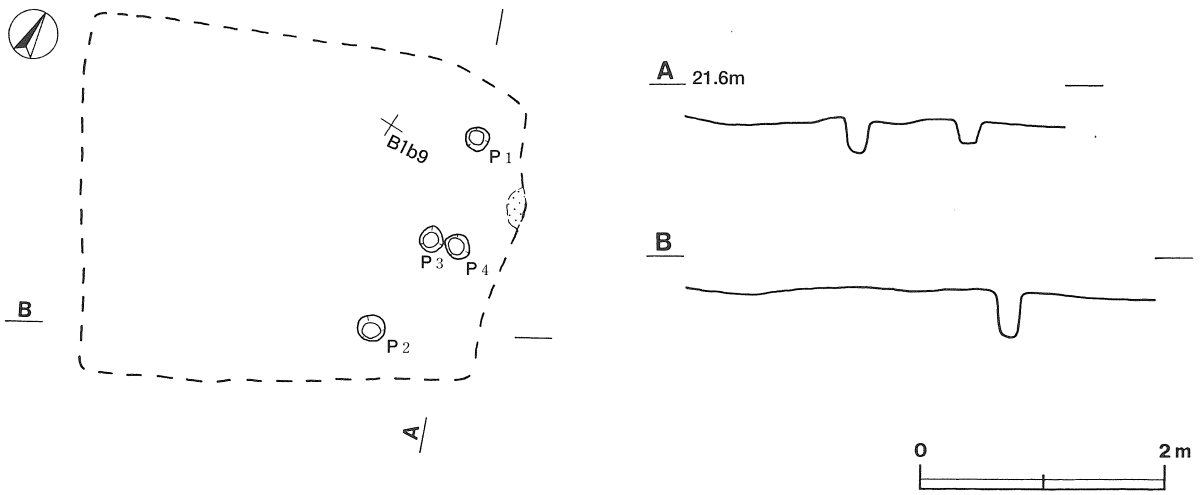
床　平坦である。特に踏み固められた部分は認められない。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１・Ｐ２は径20～23cmの円形，深さ16～34cmで，竈を挟む両側に位置し主柱穴と思われる。Ｐ３・Ｐ４は径20～21cmの円形，深さ12～25cmで，いずれも竈の南側に位置しており性格は不明である。

竈　推定される東壁の中央部から，少量の焼土及び粘土が検出され，竈の痕跡と思われる。

遺物　土師器片４点，須恵器片１点が出土している。図示できるものはない。

所見　本跡は，竈の痕跡とピットから住居跡と判断した。時期は，東竈であることと出土土器から平安時代と推定される。



第35図　第６号住居跡実測図

第７号住居跡（第36図）

位置　調査Ａ区の西部，Ｂ2c1区。

規模と平面形　第２竈煙道部及び中央部の覆土上層から下層にかけてが撹乱を受け壊されている。長軸3.68m，短軸3.62mの方形である。

主軸方向　Ｎ－70°－Ｅ

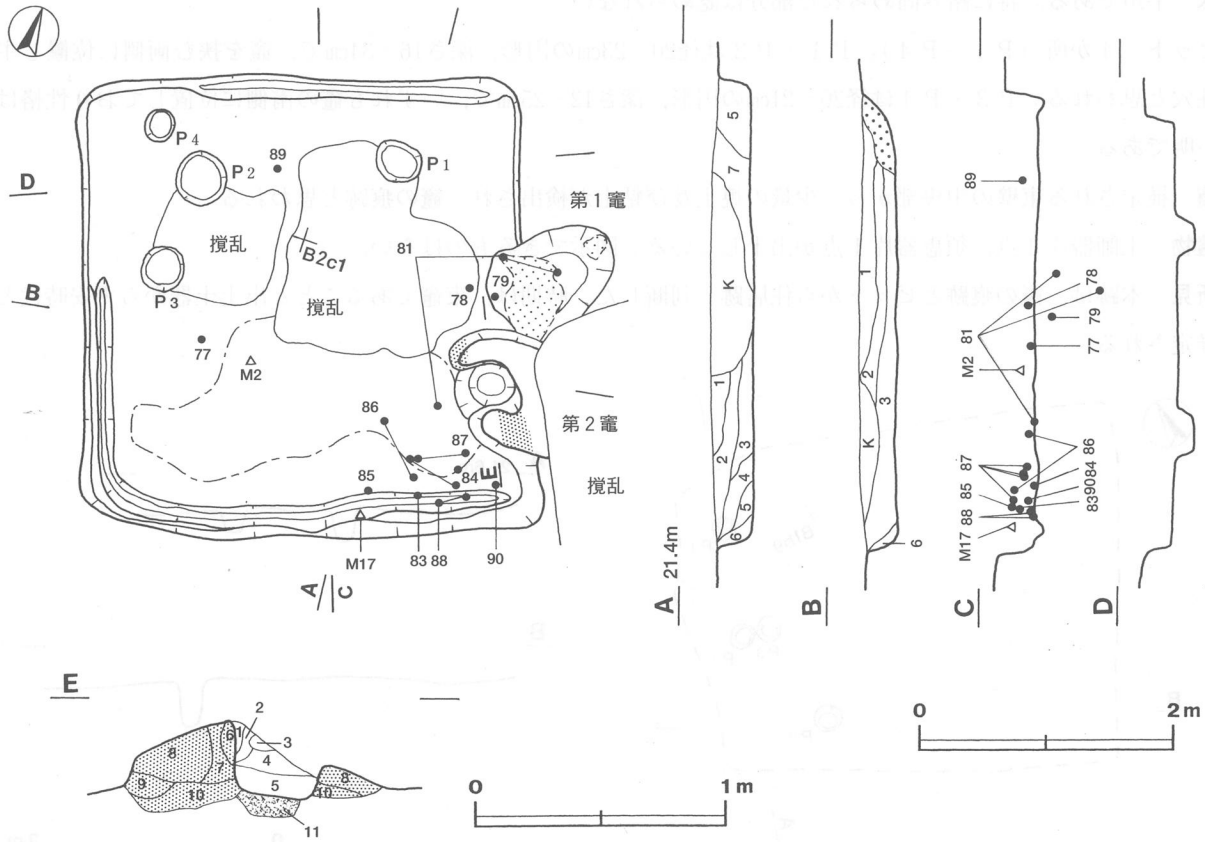
壁　壁高は24～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈北側及び西コーナー部を除き巡っている。断面はＵ字形で，上幅15～26cm，下幅５～10cm，深さ６cmである。

床　平坦である。特に踏み固められた部分は認められない。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は長径40cm，短径30cmの円形で，深さ17cmである。Ｐ２は径42cmの円形，深さ16cmで，いずれも規模や配列から主柱穴と思われる。Ｐ３は径35cmの円形，深さ11cmで，竈反対側の西壁際に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４は径24cmの円形，深さ10cmで，Ｐ２に付随する補助柱穴と思われる。

竈　東壁から２か所の竈が確認されている。第１竈は，東壁外へ40cmほど掘り込んでおり，焼土及び粘土が検出され，火床部と思われる掘り込みは４cmである。第２竈は，第１竈を壊し付設されている。煙道口部と燃焼部と右袖部の上層は撹乱を受け壊されている。焚口部から煙道口部までの確認できた長さは65cm，両袖幅は104cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面図中，第６～10層は袖部の土層で，11層は掘り方内の土層である。火床部は，円形に６cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。



第36図　第７号住居跡実測図

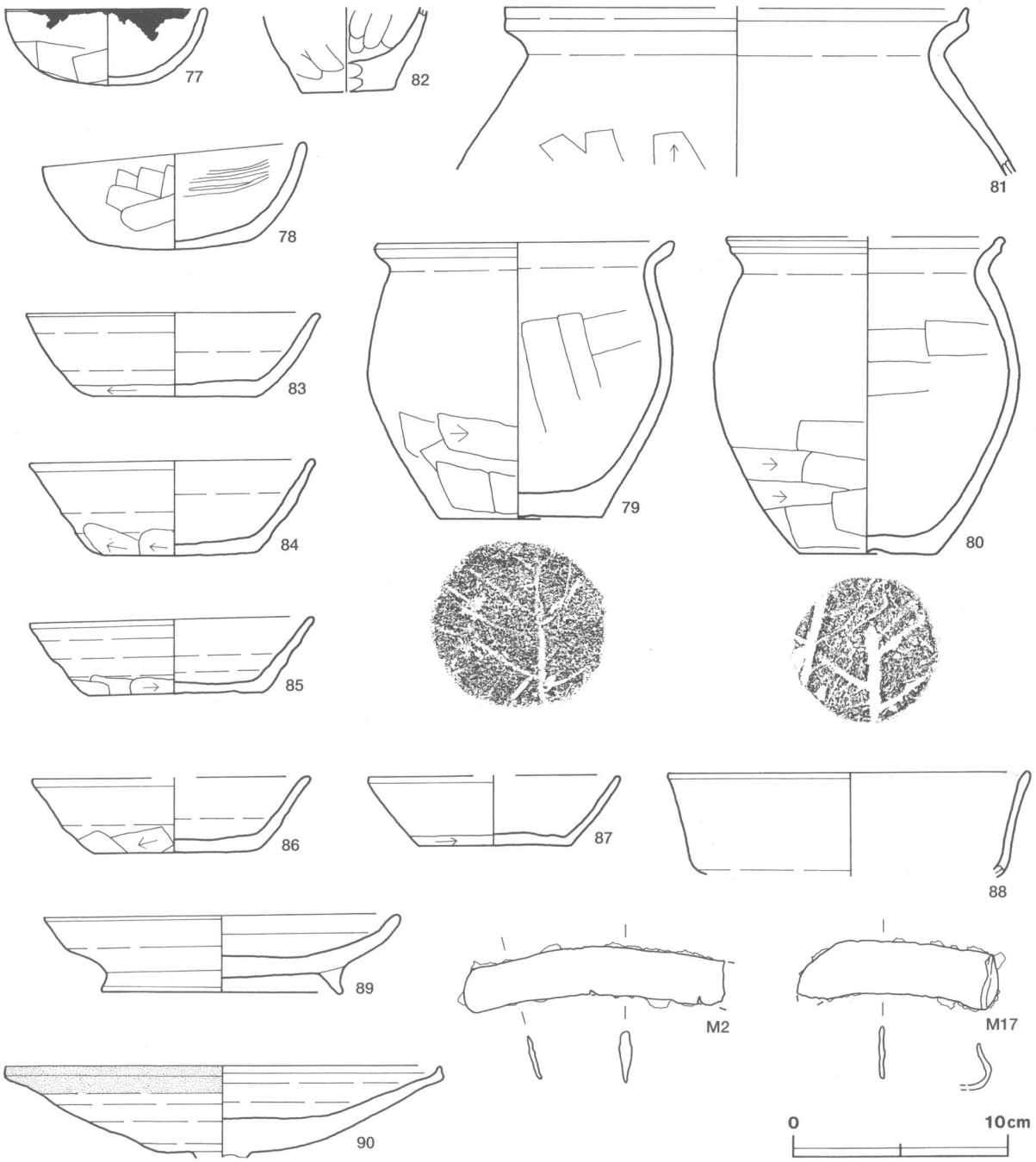
竈土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
2	灰 褐 色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
3	赤 褐 色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子微量
5	赤 褐 色	焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量
6	灰 褐 色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
7	灰 白 色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
8	暗 褐 色	粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
9	暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
10	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
11	暗 褐 色	ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

覆土　7層からなる。4層から7層はローム・焼土・炭化物が含まれていることから人為堆積と思われ，1～3層は自然堆積と思われる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量
2	暗 褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
3	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量
5	暗 褐 色	ローム粒子中量，炭化物微量
6	褐　　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7	褐　　色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量



第37図　第7号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器及びその小破片280点，須恵器及びその小破片60点，羽口小片１点，鉄鎌２点，鉄滓110.2ｇが出土している。第37図77～82は土師器で，83～90は須恵器である。覆土上層では，85の坏が南壁際から正位の状態で，Ｍ２の鉄鎌が中央部から，M17の鉄鎌が南壁際から出土している。覆土下層では，78の坏が第１竈の西側から正位の状態で，83の坏が南壁際から逆位の状態で，86の坏が第２竈の西側から壊れた状態で，87の坏が第２竈右袖部の西側から壊れた状態で，89の盤が中央部から逆位の壊れた状態で，90の蓋が南東コーナー部から正位の状態で出土している。床面では，77の坏が中央部から正位の状態で，84の坏が南東コーナー部から正位の壊れた状態で，88の高台付坏が南東コーナー部から逆位の壊れた状態で出土している。竈内では，79・80の小形甕が第１竈跡から壊れた状態で出土している。81の甕は，第１竈の覆土上層と第２竈の西側から出土した破片が接合したものである。その他にも覆土から82の手捏土器が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。本跡は，９世紀前葉の第５号住居跡と近接しており，羽口小片及び鉄滓と出土遺物が類似している。ほぼ同時期の住居跡であり，付近に鍛冶工房が存在した可能性が考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 77	坏 土師器	A　9.5 B　3.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	100%　PL18 口縁部内･外面煤付着 灯明具
78	坏 土師器	A　12.0 B　5.0 C　7.1	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	60%　PL18
79	小形甕 土師器	A　13.7 B　12.9 C　7.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石・石英 明赤褐色 普通	80%　PL18
80	小形甕 土師器	A［12.8］ B　14.8 C　6.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は外方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石・石英 にぶい橙色 普通	40%　PL18
81	甕 土師器	A［21.6］ B（7.8）	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石･石英･雲母･赤色粒子，にぶい橙色 普通	10%
82	手捏土器 土師器	B（3.9） C［4.2］	平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面指ナデ。	長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	50%　PL18
83	坏 須恵器	A　13.5 B　4.0 C　7.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	100%　PL18
84	坏 須恵器	A　13.1 B　4.4 C　7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石･雲母･赤色粒子 灰黄色 普通	90%　PL18
85	坏 須恵器	A　13.2 B　3.5 C　8.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石 黄灰色 普通	80%　PL18
86	坏 須恵器	A［12.8］ B　3.5 C　7.8	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石 灰色 普通	50%　PL18
87	坏 須恵器	A［11.7］ B　3.3 C［7.0］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	30%　PL18
88	高台付坏 須恵器	A　16.8 B（4.9）	体部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	50%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 89	盤 須恵器	A 16.5 B 3.7 D 11.1 E 1.3	口縁部一部欠損。底部は平底で，高台はハの字状に開く。体部は大きく開き，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	90% PL19
90	高盤 須恵器	A 20.4 B (4.3)	脚部欠損。体部は大きく開き，口縁部に至る。口縁端部は短く上方につまみ上げられている。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。口縁部外面自然釉。	長石 灰黄色 普通	60% PL19

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		刃長(cm)	刃幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第37図M2	鎌	(12.1)	2.3	0.3	(29.3)	鉄	基部欠損。片刃の曲刃鎌。	PL26
M17	鎌	(9.5)	2.8	0.2	(23.3)	鉄	曲刃鎌。基部を折り返す。	PL26

第8号住居跡（第38図）

位置　調査A区の中央部，B2c2区。

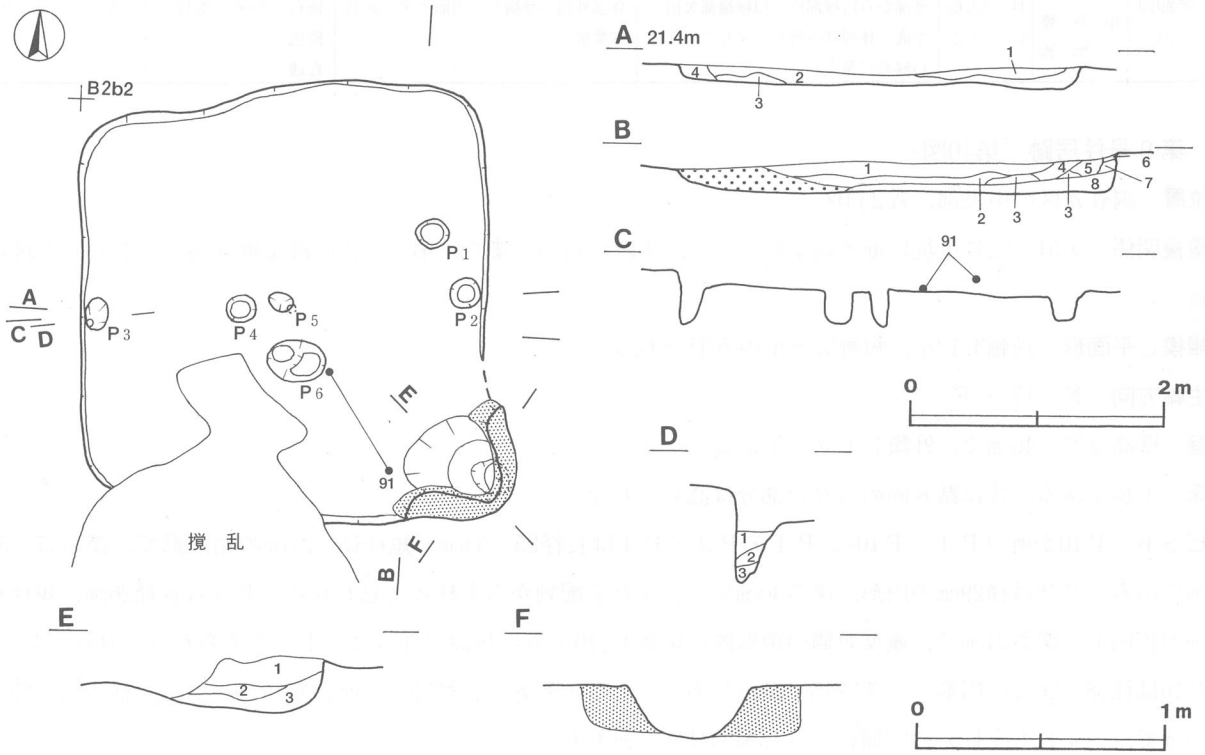
規模と平面形　南壁際から中央部にかけて撹乱を受け壊されている。長軸3.54m，短軸3.26mの方形である。

主軸方向　N－45°－W

壁　壁高は12～15cmで，外傾して立ち上がる。

床　出入り口部から東壁際にかけてはなだらかに下がり，比高は10cmである。

ピット　6か所（P1～P6）。P1・P2は径24cmの円形，深さ18～20cmで，いずれも東壁際から検出され，規模から主柱穴と思われる。P3は長径25cm，短径19cmの楕円形，深さ30cmで，竈反対側の西壁際に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は径23cmの円形で，深さ24cmである。P5は長径22cm，短径13cmの楕円形，深さ27cmで，いずれも中央部に位置し補助柱穴と思われる。P6は長径45cm，短径31cmの楕円形，深さ48cmで，他のピットに比べ規模が大きく性格は不明である。



第38図　第8号住居跡実測図

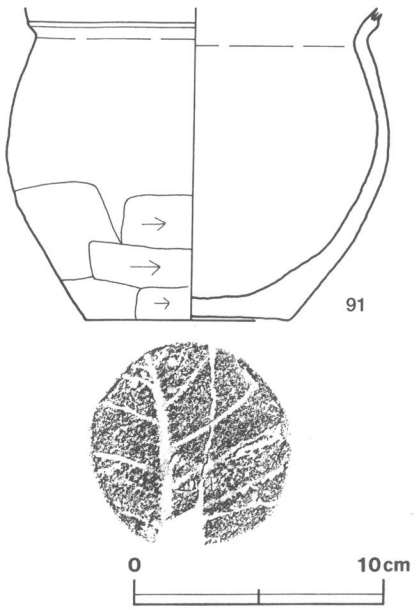
P 3 土層解説
1　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量

竈　南東コーナー部に付設されたコーナー竈である。焚口部から煙道口部までの長さ88cm，両袖幅122cmで，壁外への掘り込みは30cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。火床部は，円形に4cmほど掘り込まれている。煙道は火床部から緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　　焼土大ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
3　暗赤褐色　　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量・ローム粒子・砂粒微量

覆土　8層からなる。ロームブロック・炭化物が含まれていることと，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量
2　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
3　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
5　褐　　色　　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
8　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量



第39図　第8号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器及びその小破片85点，須恵器及びその小破片4点，鉄滓5.5gが出土している。第39図の91は土師器小形甕で，竈右袖部脇と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく限定は難しいが，口縁端部を上方につまみ上げた小形甕が出土していることから8世紀後葉と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第39図 91	小 形 甕 土 師 器	B (12.6) C　8.2	底部から口縁部片。口縁端部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	50%　　PL18

第9号住居跡（第40図）

位置　調査A区の中央部，A2j4区。

重複関係　第51・52号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。また，第15号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.12m，短軸3.08mの方形である。

主軸方向　N－17°－E

壁　壁高は35～40cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。特に踏み固められた部分は認められない。

ピット　P10か所（P1～P10）。P1・P3・P4は長径25～33cm，短径18～27cmの楕円形で，深さ17～32cmである。P2は径29cmの円形，深さ30cmで，いずれも配列から主柱穴と思われる。P5は長径26cm，短径19cmの楕円形，深さ21cmで，竈反対側の南壁際に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P9・P10は径18～26cmの円形で，深さ15～21cmである。P7・P8は長径25～30cm，短径18～24cmの楕円形，深さ20cmで，いずれも主柱穴の内側に位置し補助柱穴と思われる。

竈　北壁中央に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ90cm，両袖幅102cmで，壁外への掘り込みは36cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面図中，第５～７層は袖部の土層である。火床部は，円形に６cmほど掘り込まれている。煙道は火床部から緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
3	暗赤褐色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
5	暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
6	褐　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
7	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量

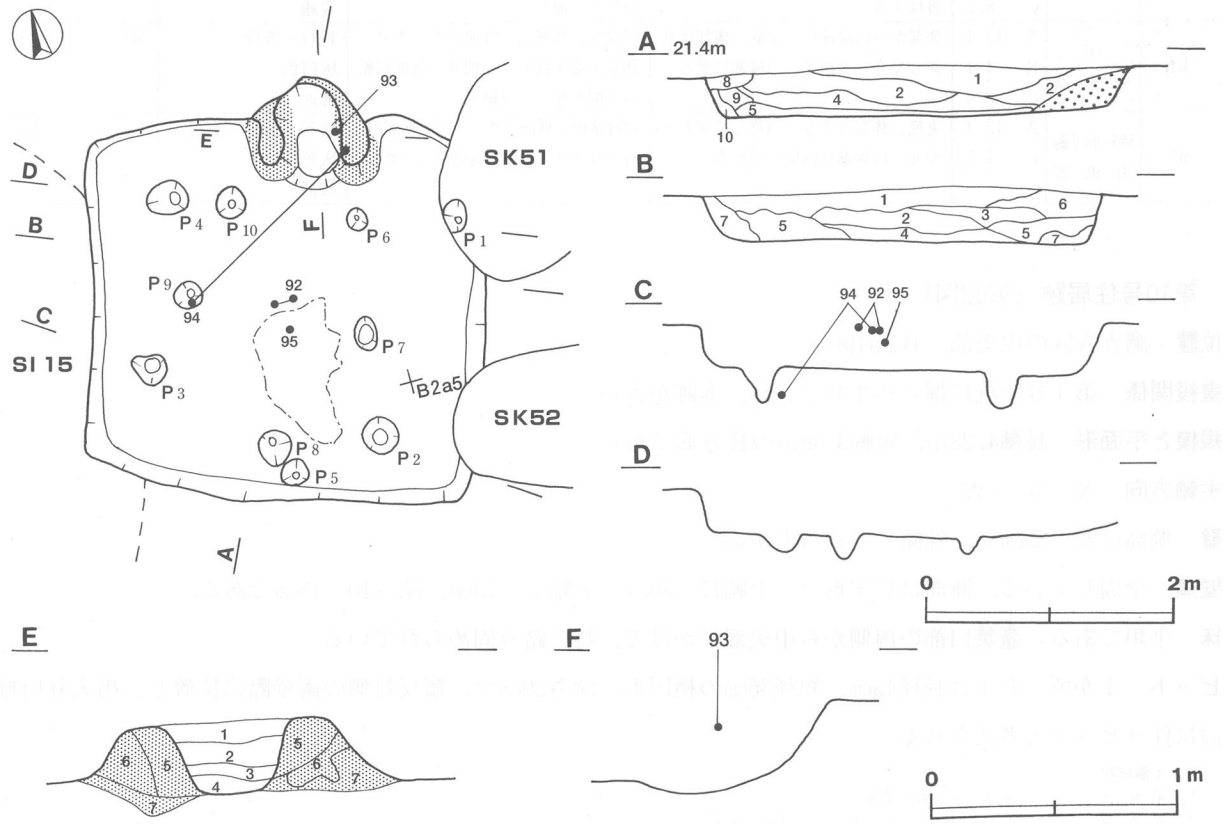
覆土　10層からなる。ローム・炭化物が含まれていることと，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

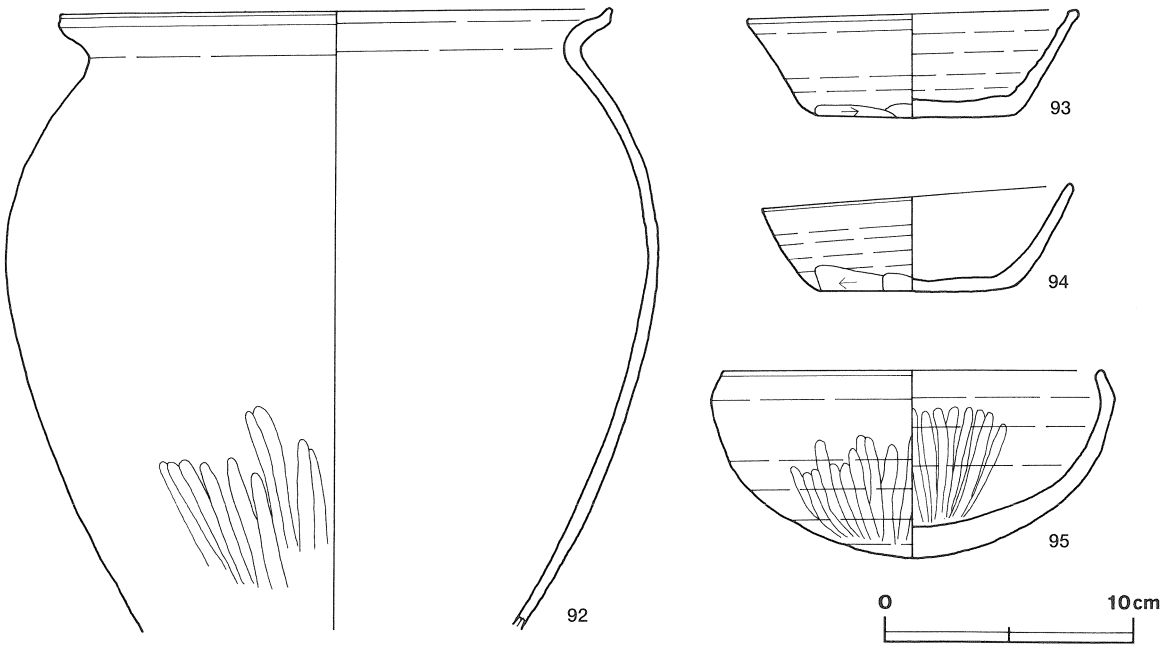
1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
6	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
7	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
8	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
10	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器及びその小破片68点，須恵器とその小破片点８点が出土している。第41図92は土師器甕で，93～95は須恵器である。覆土上層では，92の甕が中央部から壊れた状態で，95の鉄鉢が中央部から逆位の状態で出土している。竈内では，93の坏が燃焼部から斜位の状態で出土している。94の坏は右袖部とＰ９内中層から出土した破片が接合したものである。

所見　竈内から供膳具である坏が二次焼成を受けずに出土していることから，住居を廃棄するにあたって，竈の中に坏を埋納するという祭祀行為が行われた可能性がある。時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第40図　第９号住居跡実測図



第41図　第９号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第41図 92	甕 土師器	A　21.9 B　(25.1)	体部下位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子，にぶい橙色 普通	40%　PL19
93	坏 須恵器	A　13.2 B　4.4 C　8.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	90%　PL19
94	坏 須恵器	A　12.4 B　4.4 C　8.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石・雲母 灰白色 普通	50%　PL19
95	鉢形土器 須恵器	A　15.3 B　7.5	丸底。体部は大きく内彎して立ち上がり，口縁部は内屈している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内・外面ロクロナデ後，縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 灰色 普通	100%　PL19

第10号住居跡（第42図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ｂ2a4区。

重複関係　第４号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.28m，短軸3.39mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｗ

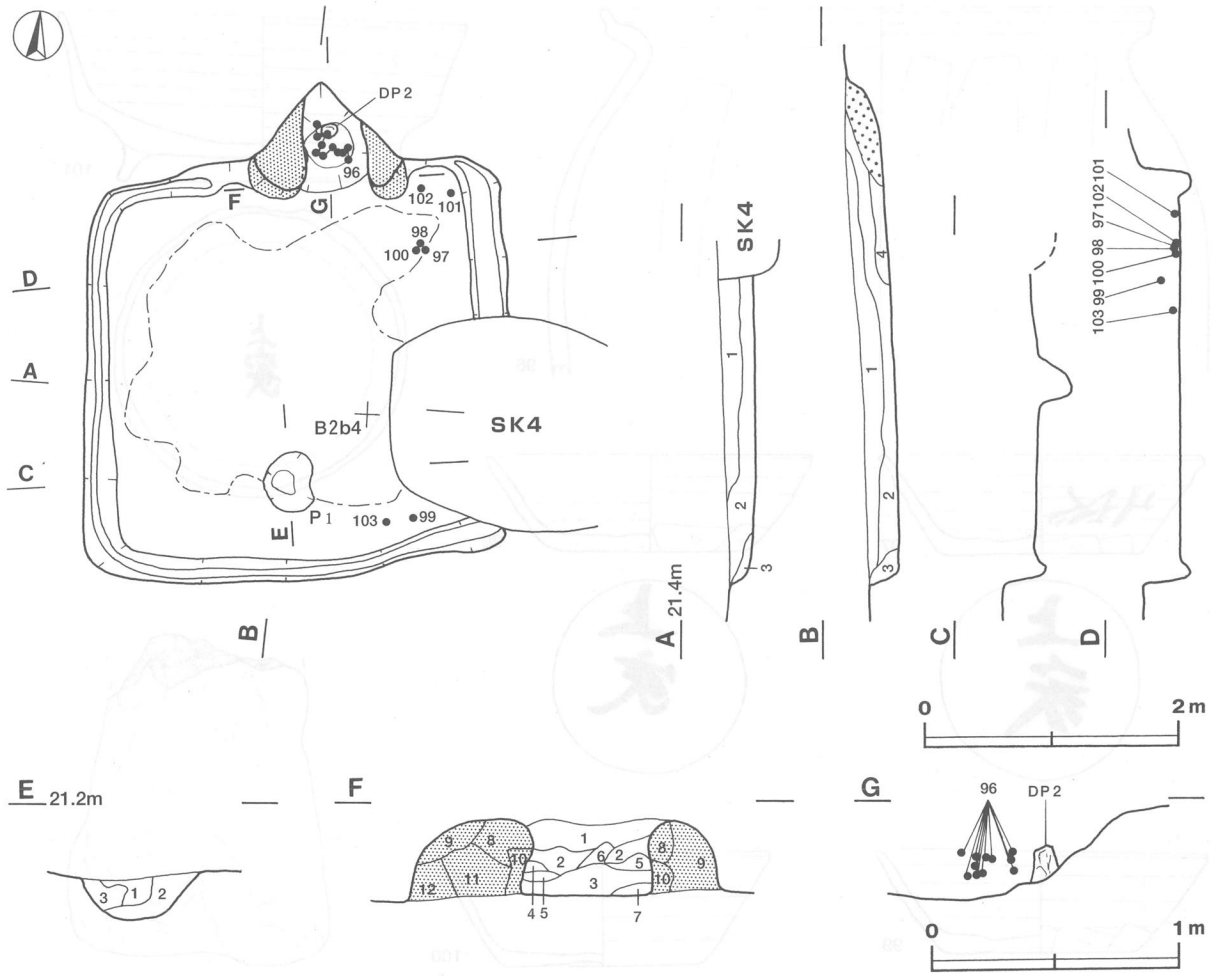
壁　壁高は22～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。断面はＵ字形で，上幅17～30cm，下幅７～13cm，深さ10～13cmである。

床　平坦である。竈焚口部の南側から中央部にかけて，特に踏み固められている。

ピット　１か所。Ｐ１は長径45cm，短径36cmの楕円形，深さ29cmで，竈反対側の南壁際に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量



第42図　第10号住居跡実測図

竈　北壁中央に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ87cm，両袖幅124cmで，壁外への掘り込みは62cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面図中，第８～12層は袖部の土層である。火床部は，ほぼ平坦で掘りくぼめられた様子は見られない。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

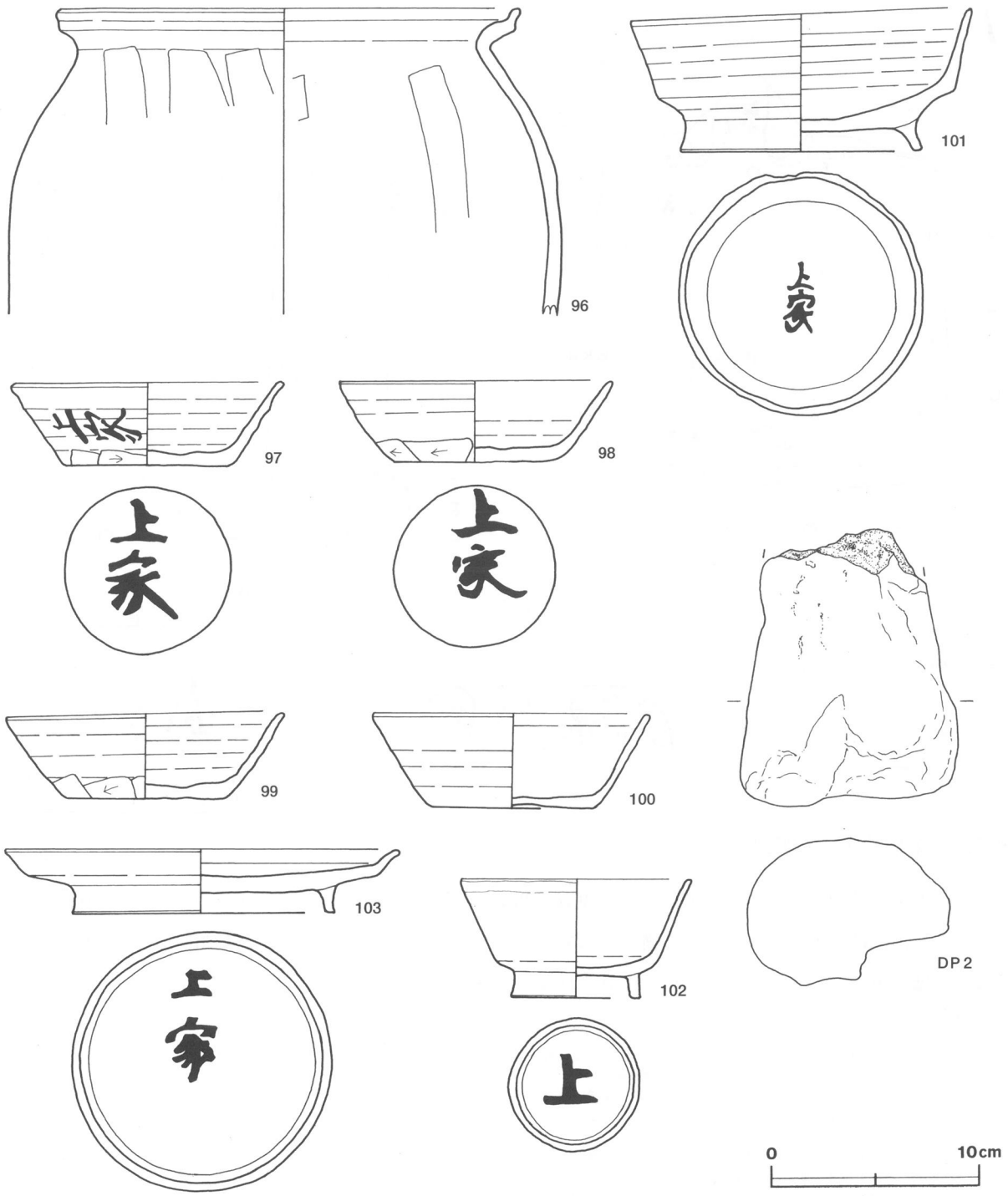
1	暗 褐 色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック中量，灰少量，炭化物微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
5	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
6	黄 褐 色	粘土粒子少量，炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
8	にぶい黄褐色	粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・砂粒微量
9	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
10	褐　　色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
11	にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック少量
12	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	暗 褐 色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4	褐　　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器とその小破片37点，須恵器とその小破片５点，土製支脚１点が出土している。第43図96は土師器，97～103は須恵器である。覆土中層では，99の坏が南東コーナー部壁際から逆位の状態で出土している。床面



第43図　第10号住居跡出土遺物実測図

では，坏が竈右袖部の南側から床面直上に100・97・98の順に正位の状態で３枚重なって出土している。97と98の坏は，底部に「上家」と墨書されている。101・102の高台付坏は北東コーナー部から，101が斜位の状態で，102が横位の状態で出土している。いずれも底部に101は「上家」，102は「上」と墨書されている。103の盤は南壁際から斜位の状態で出土している。竈内では，96の甕が壊れた状態で，ＤＰ２の支脚が中央部から直立した状態で出土している。

所見　本跡からは，底部に「上家」と墨書された土器が４点，「上」が１点の合計５点の墨書土器が出土している。「上家」と墨書された土器の３点の内２点は重なった状態で出土している。出土位置は４点が，北東コー

ナーと竈右袖部南側と集中している。第２号住居跡からも須恵器坏の底部に「上家」と墨書された土器が出土している。時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 96	甕 土師器	A [22.4] B (14.8)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	30%　PL19
97	坏 須恵器	A 12.8 B 4.1 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	100%　PL19 底部外面・体部外面に横位の墨書「上家」
98	坏 須恵器	A 13.2 B 4.0 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	90%　PL19 底部外面墨書「上家」
99	坏 須恵器	A 13.3 B 4.2 C 7.7	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・雲母・白色粒子 灰色 普通	90%　PL19
100	坏 須恵器	A 13.1 B 4.6 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・白色粒子，灰白色 普通	95%　PL19
101	高台付坏 須恵器	A 16.4 B 6.9 D 11.6 E 1.6	体部から口縁部一部欠損。底部と体部の境は明瞭な稜をもち屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	90%　PL19 底部外面墨書「上家」
102	高台付坏 須恵器	A [11.0] B 5.7 D 6.3 E 1.2	体部から口縁部一部欠損。底部と体部の境は稜をもち屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 黄灰色 普通	80%　PL19 底部外面墨書「上」
103	盤 須恵器	A 18.8 B 3.1 D 12.5 E 1.4	口縁部一部欠損。底部は平底で，高台はハの字状に開く。体部は大きく開き，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母・赤色粒子 灰色 普通	90%　PL19 底部外面墨書「上家」

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
第43図DP2	支脚	(13.4)	(10.5)	(6.3)	(799.2)	土製	上半欠損。焼成は普通。	PL24

第11号住居跡（第44図）

位置　調査区の中央部，A２j6区。

規模と平面形　長軸3.52m，短軸3.42mの方形である。

主軸方向　N－４°－W

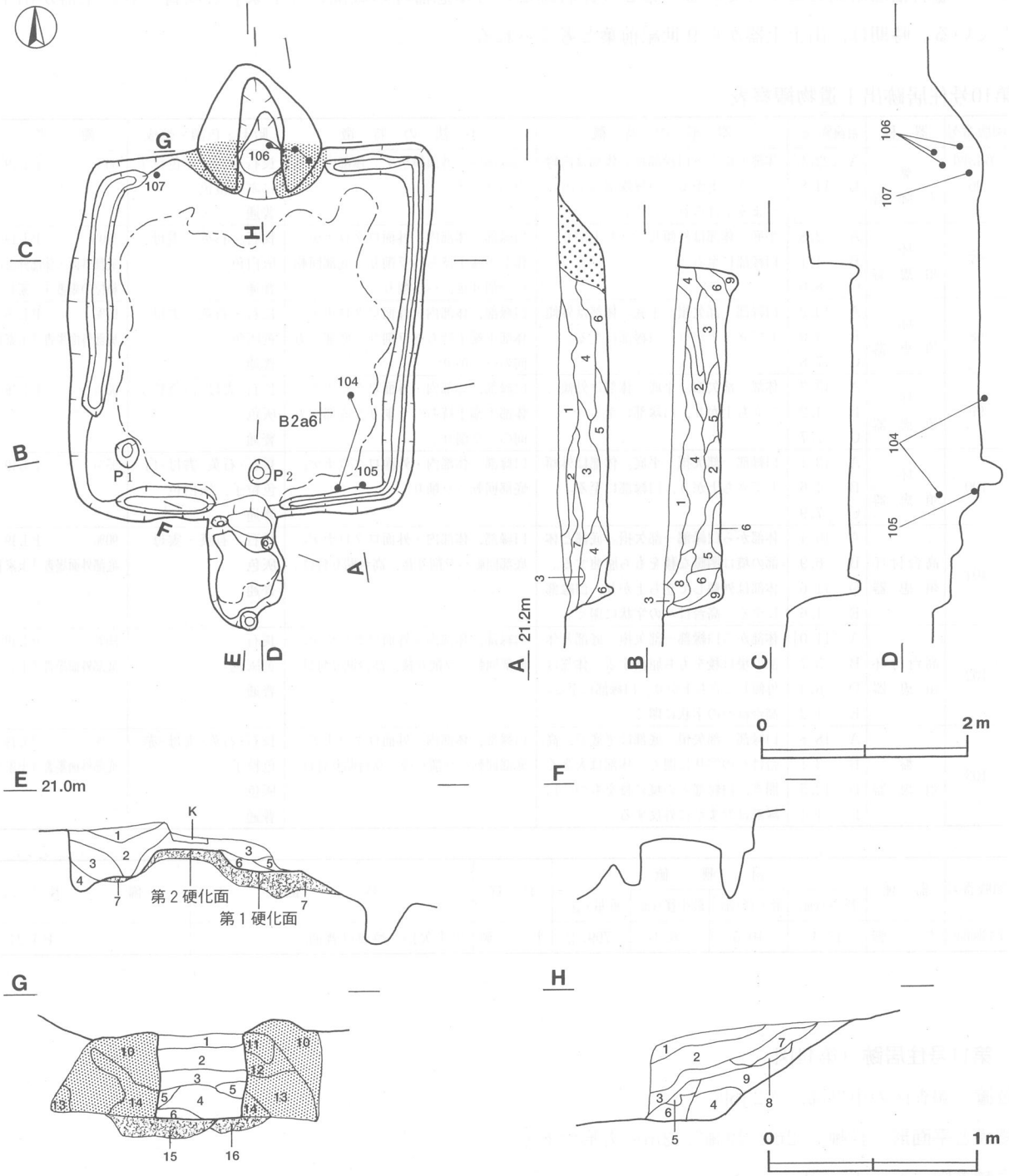
壁　壁高は40～55cm，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナー部を除き巡っている。断面はU字形で，上幅15～23cm，下幅５～13cm，深さ10～15cmである。

床　平坦である。特に，中央部が踏み固められている。

ピット　２か所（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は径25cmの円形，深さ16cmで，位置から主柱穴と思われる。Ｐ２は径23cmの円形，深さ24cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　北壁中央に付設されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。土層断面中，第７層が天井部の土層と思われる。焚口部から煙道口部までの長さ132cm，両袖幅138cmで，壁外への掘り込みは84cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面図中，第10～14層は袖部の土層で，15・16層は掘り方内の土



第44図　第11号住居跡実測図

層である。火床部は，ほぼ平坦で掘りくぼめられた様子は見られない。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
3	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
7	暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
9	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
10	黄 褐 色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒・焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

12　黄 褐 色　　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　黄 褐 色　　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
14　褐　　色　　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
16　暗赤褐色　　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

出入り口施設　南壁中央部から，壁外へ張り出した階段が検出された。構築方法は，南壁外へ130cmほど掘り込み，ローム小ブロック及びローム粒子混じりの暗褐色土を盛土し，テラス状の硬化面を２段有している。住居床面から硬化面までの高さは，第１硬化面までは18cmで，第２硬化面までは30cmである。また，第１硬化面には２か所の小ピットがあり，第２硬化面には１か所のピットがあるが性格は不明である。住居内から検出された出入り口施設に伴うピットと階段との関係は，第１硬化面から床面にかけてはスロープ状になっており，張り出し部の幅54cmには壁溝が巡らず，ピットにかけては硬化しており，ピットを埋めて踏み固めた様子も見られないことから，階段に付随するものなのかは不明である。土層断面中，第７層は構築土である。

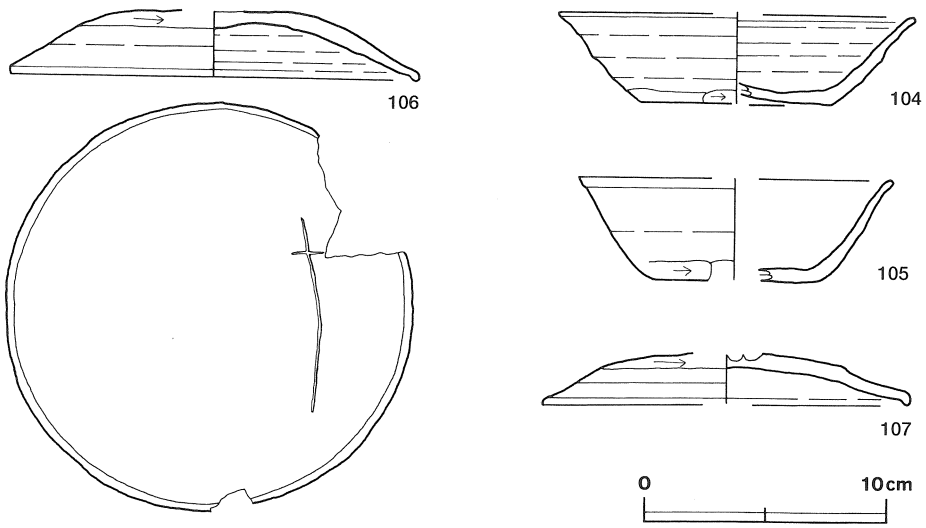
土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量
2　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　　ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　９層からなる。ローム･焼土･炭化物が含まれていることと，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子少量，炭化物微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
3　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
5　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
6　暗 褐 色　　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量
8　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量
9　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片93点，須恵器及びその小破片17点が出土している。第45図104～107は須恵器である。覆土下層では，107の蓋が北壁際から逆位の状態で出土している。床面では，105の坏が南東コーナー部から逆位の状態で出土している。104の坏は南壁際からと東壁際から出土した破片が接合したものである。竈内では，106の蓋が中層から斜位のつぶれた状態で出土してる。

所見　本跡からは，壁外へ張り出した階段が検出された。当遺跡においては本跡の１軒のみであり，注目される。時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第45図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 104	坏 須恵器	A [14.6] B 3.7 C [~~8.0~~ 7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石 灰色 普通	40%
105	坏 須恵器	A [13.0] B 4.2 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	石英・雲母・赤色粒子 灰白色 普通	30%
106	蓋 須恵器	B (2.7) C 16.6	つまみ部欠損。天井部はほぼ平坦。口縁部は短く折り返している。	口縁部，外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。ヘラ記号。	長石・石英・雲母 灰色 普通	90% PL19
107	蓋 須恵器	B (2.1) C [15.2]	つまみ部欠損。天井部は平坦。口縁部は短く折り返している。	口縁部，外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	60% PL19

第12号住居跡（第46図）

位置　調査A区の南西部，B2e2区。

重複関係　第13・14号住居に掘り込まれており，本跡が古い。また，第16号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　西壁と東壁の一部が撹乱を受けている。確認できた長軸4.32m，短軸4.08mで，方形と推定される。

主軸方向　N－22°－Wと推定される。

壁　壁高は10～18cmで，外傾して立ち上がる。

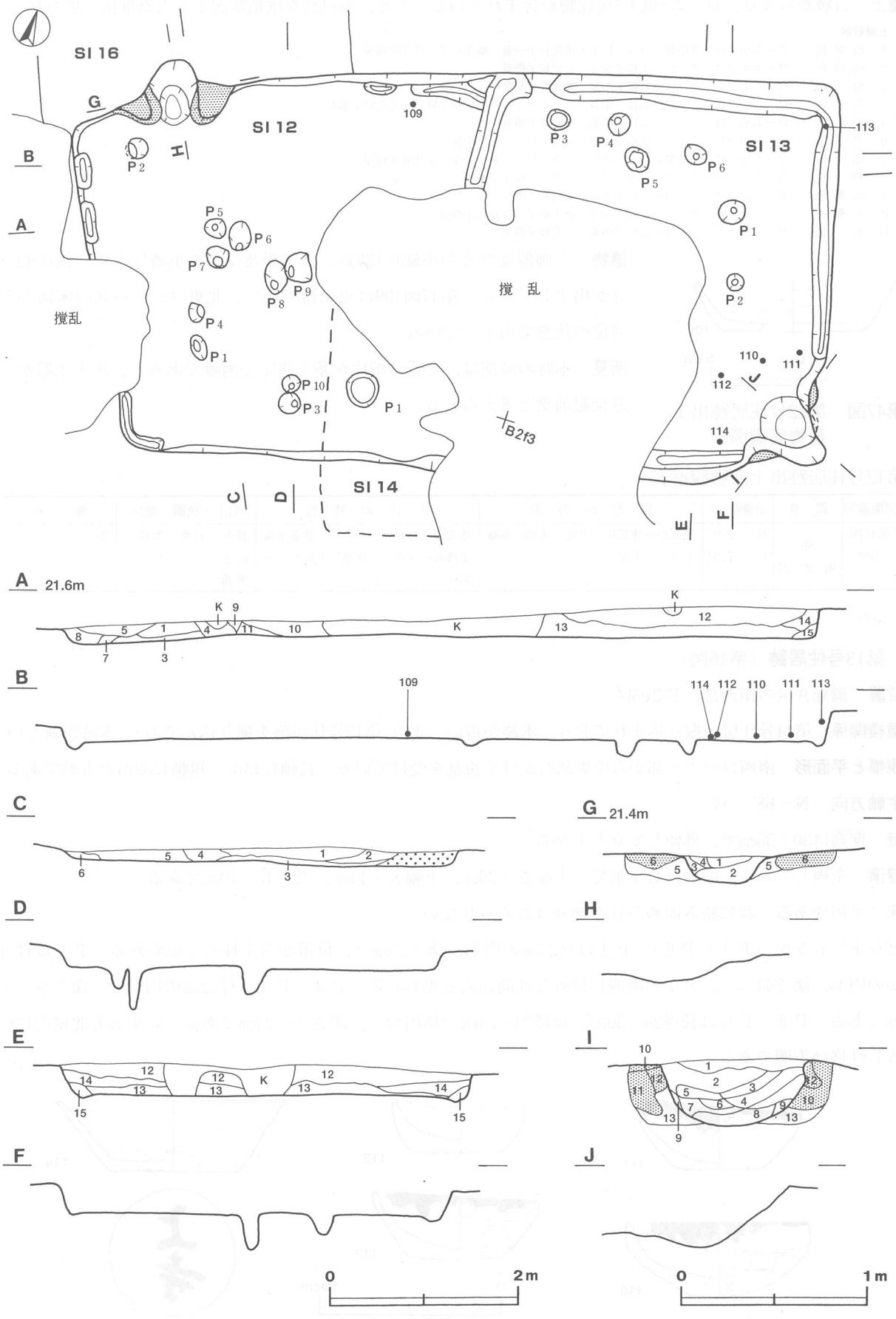
壁溝　西壁際と北東コーナー部の一部に巡っている。断面はU字形で，上幅13～18cm，下幅5～9cm，深さ8～10cmである。

床　平坦である。特に踏み固められた部分は認められない。

ピット　10か所（P1～P10）。P1は長径27cm，短径18cmの楕円形で，深さ26cmである。P2は径24cmの円形，深さ24cmで，いずれも位置及び配列から主柱穴と思われる。P3は径26cmの円形，深さ25cmで，竈反対側の南壁際に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は径21cmの円形，深さ26cmで，P1の北側に位置し補助柱穴と思われる。P5・P7・P10は径21～24cmの円形で，深さ15～45cmである。P6・P8・P9は長径31～37cm，短径24～27cmの楕円形及び不整形，深さ11～30cmで，いずれも中央部に位置し性格は不明である。

竈　北壁中央西寄りに付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ72cm，両袖幅118cmで，壁外への掘り込みは42cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面中，第5・6層は袖部の土層である。火床部は円形に10cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，砂粒微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，砂粒微量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量，砂粒微量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
6　暗 褐 色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量，炭化物微量

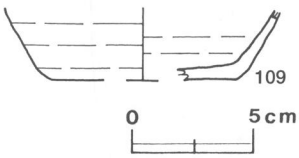


第46図　第12・13・14号住居跡実測図

覆土　11層からなる。ローム･焼土･炭化物が含まれていることと，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
4	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
6	褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
7	褐　色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
8	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11	褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量



第47図　第12号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器及びその小破片139点，須恵器及びその小破片７点，鉄滓92.8ｇが出土している。第47図109は須恵器の坏で，北東コーナー部の床面から逆位の状態で出土している。

所見　本跡の時期は，土器の細片が多く決定が困難であるが，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第47図 109	坏 須恵器	B（2.9） C［7.6］	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	20%

第13号住居跡（第46図）

位置　調査Ａ区の南西部，Ｂ2e3区。

重複関係　第14号住居に掘り込まれており，本跡が古い。また，第12号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　南西コーナー部から中央部にかけて撹乱を受けている。長軸4.43m，短軸4.02mの方形である。

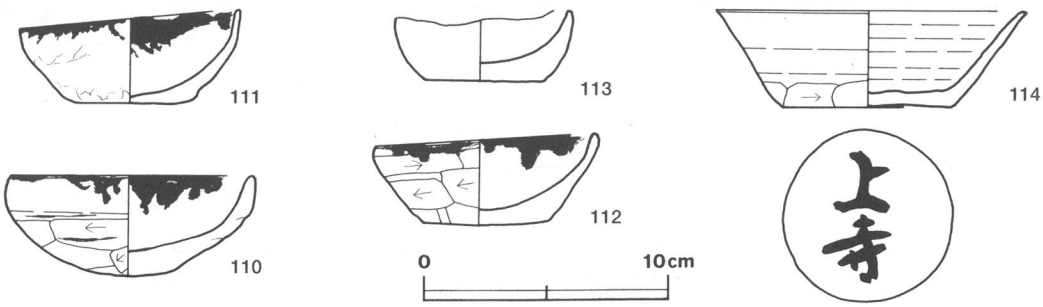
主軸方向　Ｎ－68°－Ｗ

壁　壁高は30～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。断面はＵ字形で，上幅25～30cm，下幅８～14cm，深さ８～10cmである。

床　平坦である。特に踏み固められた部分は認められない。

ピット　６か所（Ｐ１～Ｐ６）。Ｐ１は径27cmの円形，深さ25cmで，位置から主柱穴と思われる。Ｐ２は径20cmの円形，深さ44cmで，Ｐ１の南側に位置し補助柱穴と思われる。Ｐ３・Ｐ４は径22cmの円形で，深さ９～21cmである。Ｐ５・Ｐ６は長径26～30cm，短径20～24cmの楕円形で，深さ19～24cmである。いずれも北壁際に位置し性格は不明である。



第48図　第13号　住居跡出土遺物実測図

竈　南東コーナー部に付設されたコーナー竈である。天井部は崩落し，両袖部が残存している。土層断面中，第２層が天井部の崩落土層と思われる。焚口部から煙道口部までの長さ88cm，両袖幅108cmで，壁外への掘り込みは38cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面中，第10～13層は袖部の土層である。火床部は円形に９cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい褐色　　焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　　焼土粒子中量，砂粒微量
4　暗赤褐色　　焼土粒子多量，炭化粒子少量，砂粒微量
5　暗赤褐色　　焼土中ブロック・焼土粒子中量，炭化物・砂粒微量
6　暗赤褐色　　焼土粒子中量，砂粒微量
7　暗赤褐色　　焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
8　暗赤褐色　　焼土粒子中量，炭化粒子少量
9　暗赤褐色　　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
10　褐　　色　　粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量
11　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量
12　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子少量
13　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

12　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
13　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
14　暗 褐 色　　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
15　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物　土師器及びその小破片221点，須恵器及びその小破片12点が出土している。第48図110～113は土師器で，114は須恵器である。覆土上層では，113の手捏土器が北東コーナー部壁に貼りついた状態で出土している。覆土下層では，110～112の坏が竈の北側から正位の状態で，底部に「上寺」と墨書された114の坏が竈右袖部の西側から斜位の状態で出土している。

所見　本跡からは，底部に「上寺」と墨書された須恵器の坏が１点出土している。当住居近くに位置する第２・３号住居からも底部に「×寺」と墨書された土器が出土しており，いずれも「寺」と墨書されていることから，付近に仏堂的な建物があった可能性が考えられる。時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第48図 110	坏 土 師 器	A　10.0 B　4.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	100%　　ＰＬ20 口縁部内・外面煤付着 灯明具
111	坏 土 師 器	A　9.1 B　3.9 C　5.0	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面粗いナデ，内面ナデ。底部粗いヘラ削り。	石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	100%　　ＰＬ20 口縁部内・外面煤付着 灯明具
112	坏 土 師 器	A　8.9 B　3.8 C　5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部粗いヘラ削り。	長石・石英・赤色粒子 黄橙色 普通	95%　　ＰＬ20 口縁部内・外面煤付着 灯明具
113	手捏土器 土 師 器	A　7.1 B　3.0 C　5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	90%　　ＰＬ20
114	坏 須 恵 器	A　12.9 B　4.0 C　7.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後，ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	80%　　ＰＬ20 底部外面墨書「上寺」

第14号住居跡（第46図）

位置　調査Ａ区の南西部，Ｂ２e2区。

重複関係　第12・13号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　撹乱を受け，南西コーナー部を含む西壁から南壁の一部が残存しているだけで，不明である。

主軸方向　不明である。

壁　上部が削平されているため，壁の立ち上がりをとらえることができなかった。

床　平坦である。

ピット　１か所。Ｐ１は径36cmの円形，深さ11cmで，性格は不明である。

遺物　土師器小破片34点，須恵器小破片２点が出土している。図示できるものはない。

所見　本跡は，住居の一部のみの確認であった。時期は，９世紀中葉と思われる第13号住居の上から検出されていること，出土土器からそれ以降の平安時代と推定される。

第16号住居跡（第49図）

位置　調査Ａ区の南西部，Ｂ2e1区。

重複関係　第12号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.38m，確認できた短軸2.01mで長方形と推定される。

主軸方向　Ｎ－25°－Ｗと推定される。

壁　壁高は14～20cmで，外傾して立ち上がる。

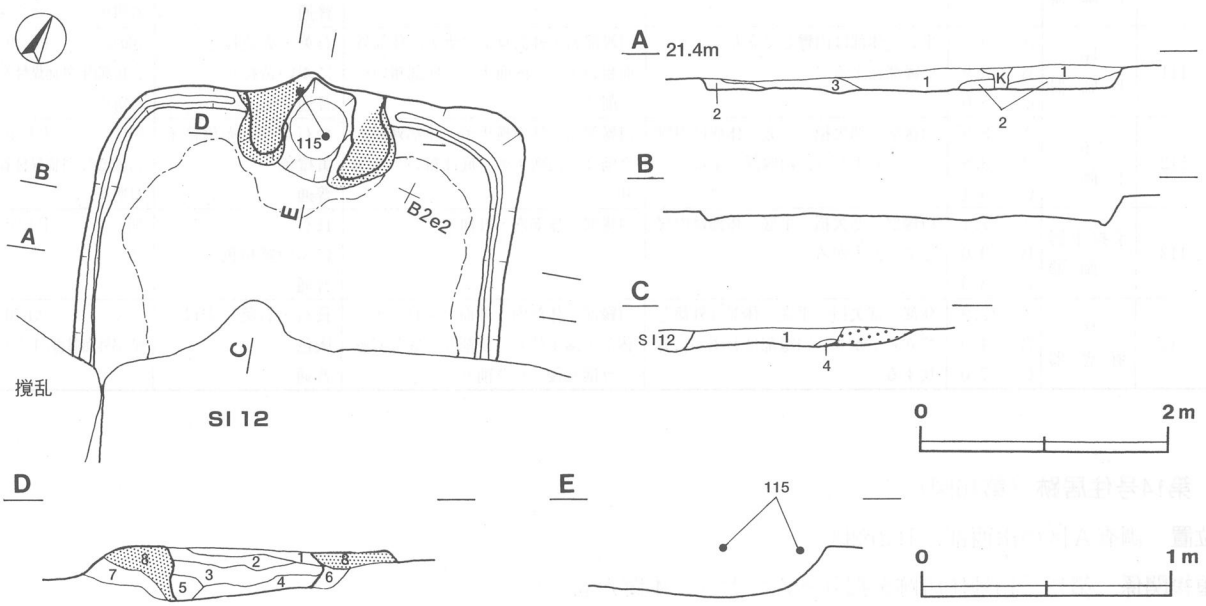
壁溝　確認できた壁下を全周している。断面はＵ字形で，上幅17～25cm，下幅５～10cm，深さ６～10cmである。

床　平坦である。竈焚口部の南側から中央部にかけて，特に踏み固められている。

竈　北壁中央に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ86cm，両袖幅126cmで，壁外への掘り込みは18cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面中，第６～８層は袖部の土層である。火床部は円形に８cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
3	赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量
4	赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量



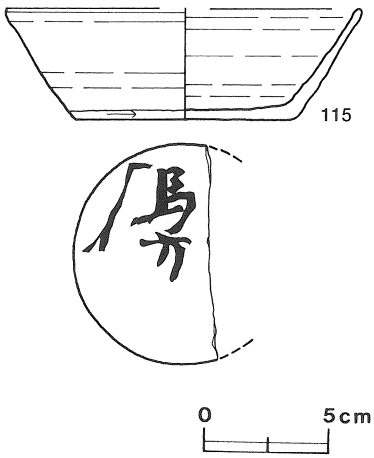
第49図　第16号住居跡実測図

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，砂粒微量

遺物　土師器及びその小破片125点，須恵器及びその小破片７点，鉄滓39.8ｇが出土している。第50図115は底部に「/馬方」と墨書された須恵器の坏で，竈燃焼部の中層から逆位の状態で出土している。

所見　竈内から供膳具である坏が二次焼成を受けずに出土していることから，住居を廃棄するにあたって，竈の中に坏を埋納するという祭祀行為が行われた可能性がある。時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第50図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第50図 115	坏 須 恵 器	A ［14.2］ B　4.5 C　8.8	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	50%　　ＰＬ20 底部外面墨書「/馬方」

第19号住居跡（第51図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ｂ2b7区。

重複関係　第49号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.57ｍ，短軸4.39ｍの方形である。

主軸方向　Ｎ－４°－Ｗ

壁　壁高は30～45cmで，外傾して立ち上がる。

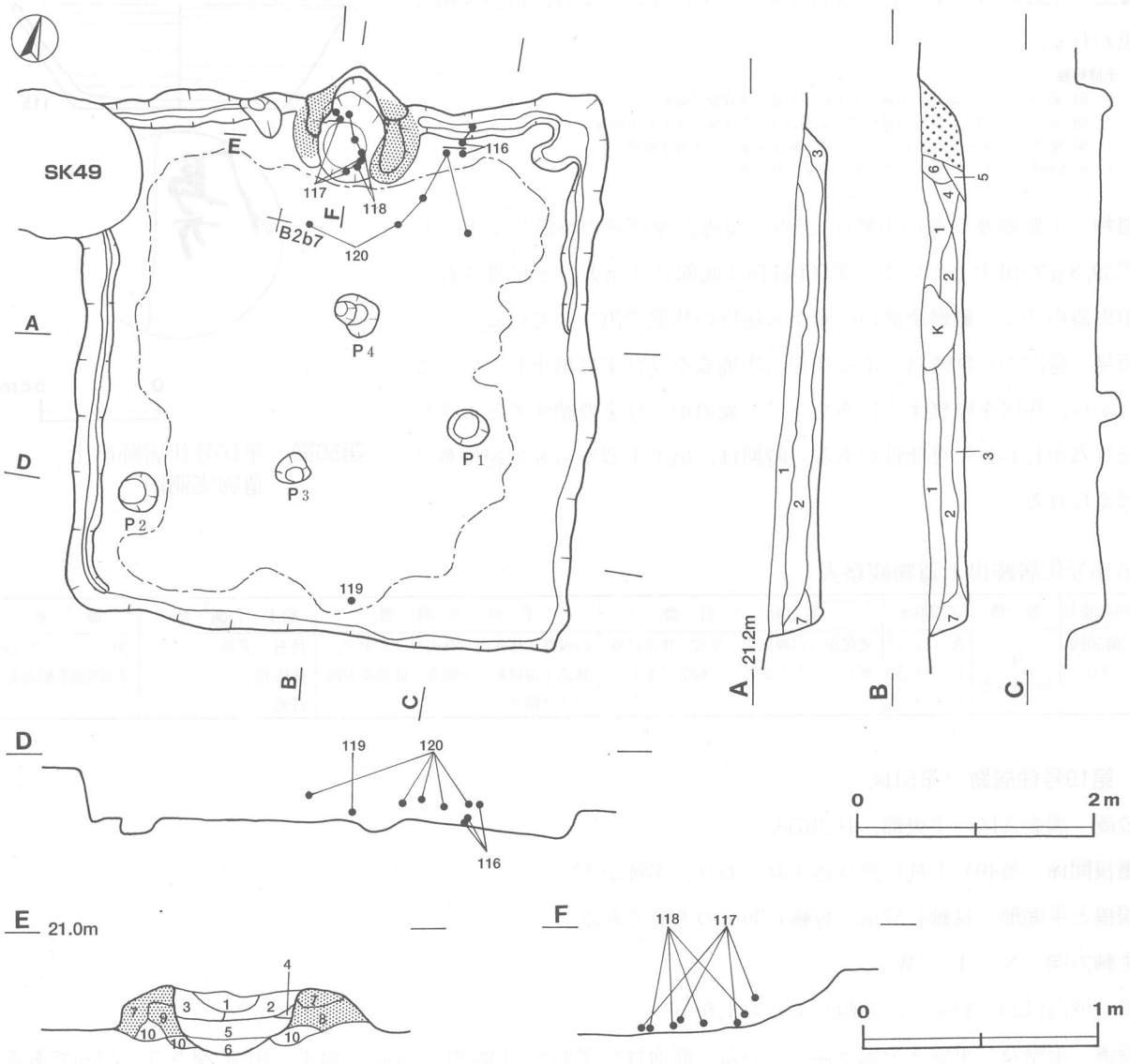
壁溝　南壁及び東壁下を除き巡っている。断面はＵ字形で，上幅20～28cm，下幅４～10cm，深さ５～12cmである。

床　平坦である。竈焚口部の南側から中央部にかけて，特に踏み固められている。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は径34cmの円形で，深さ18cmである。Ｐ２は径35cmの円形で，深さ14cmである。いずれも位置から主柱穴と思われる。Ｐ３は長径30cm，短径25cmの不整形で，深さ20cmである。Ｐ４は二段掘り込みになっており，上段は長径40cm，短径34cmの不整形で，深さ15cmである。下段は径20cmの円形で，深さ28cmである。いずれも中央部に位置し，性格は不明である。

竈　北壁中央に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ98cm，両袖幅108cmで，壁外への掘り込みは27cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。土層断面中，第７～10層は袖部の土層である。火床部は円形に４cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
7　褐　　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　にぶい黄褐色　ローム粒子・粘土粒子・粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子少量



第51図　第19号住居跡実測図

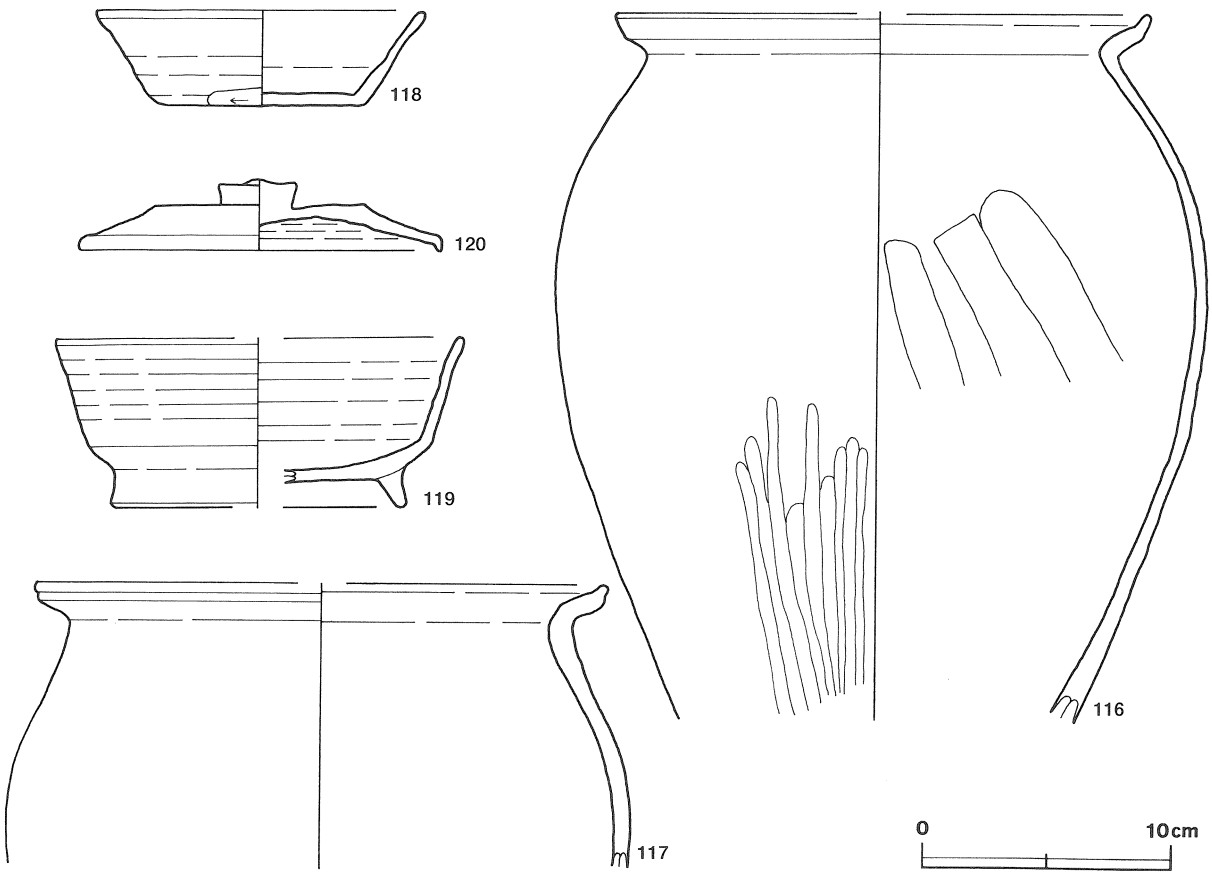
覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子少量

遺物　土師器及び小破片128点，須恵器及びその小破片19点が出土している。第52図第116・117は土師器で，118～120は須恵器である。覆土下層では，119の高台付坏が南壁際から斜位の状態で出土している。120の蓋は，竈の南側と右袖部の壁際から出土した破片が接合したものである。床面では，116の甕が竈右袖部の壁際から壊れた状態で出土している。竈内では，117の甕と118の坏が覆土下層から壊れた状態で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第52図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 116	甕 土師器	A [21.3] B (28.7)	体部下位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	20%　PL20
117	甕 土師器	A [22.9] B (11.3)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子，橙色 普通	10%
118	坏 須恵器	A 13.1 B 3.8 C 8.3	体部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	80%　PL20
119	高台付坏 須恵器	A [16.2] B 6.9 D [11.7] E 1.7	高台部から口縁部片。底部と体部の境は稜をもち屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・雲母 灰色 普通	45%　PL20
120	蓋 須恵器	A 14.7 B 2.9 F 3.1 G 1.2	天井部は平坦で，擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は短く折り返している。	口縁部，外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り後，つまみ接合。	長石・石英 灰色 良好	100%　PL20

第27号住居跡（第53図）

位置　調査A区の南東部，B2c8区。

規模と平面形　長軸4.62m，短軸3.98mの長方形である。

主軸方向　N－7°－E

壁　壁高は45～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁の竈脇及び東壁下を除き巡っている。断面はU字形で，上幅15～25cm，下幅４～10cm，深さ７～10cmである。

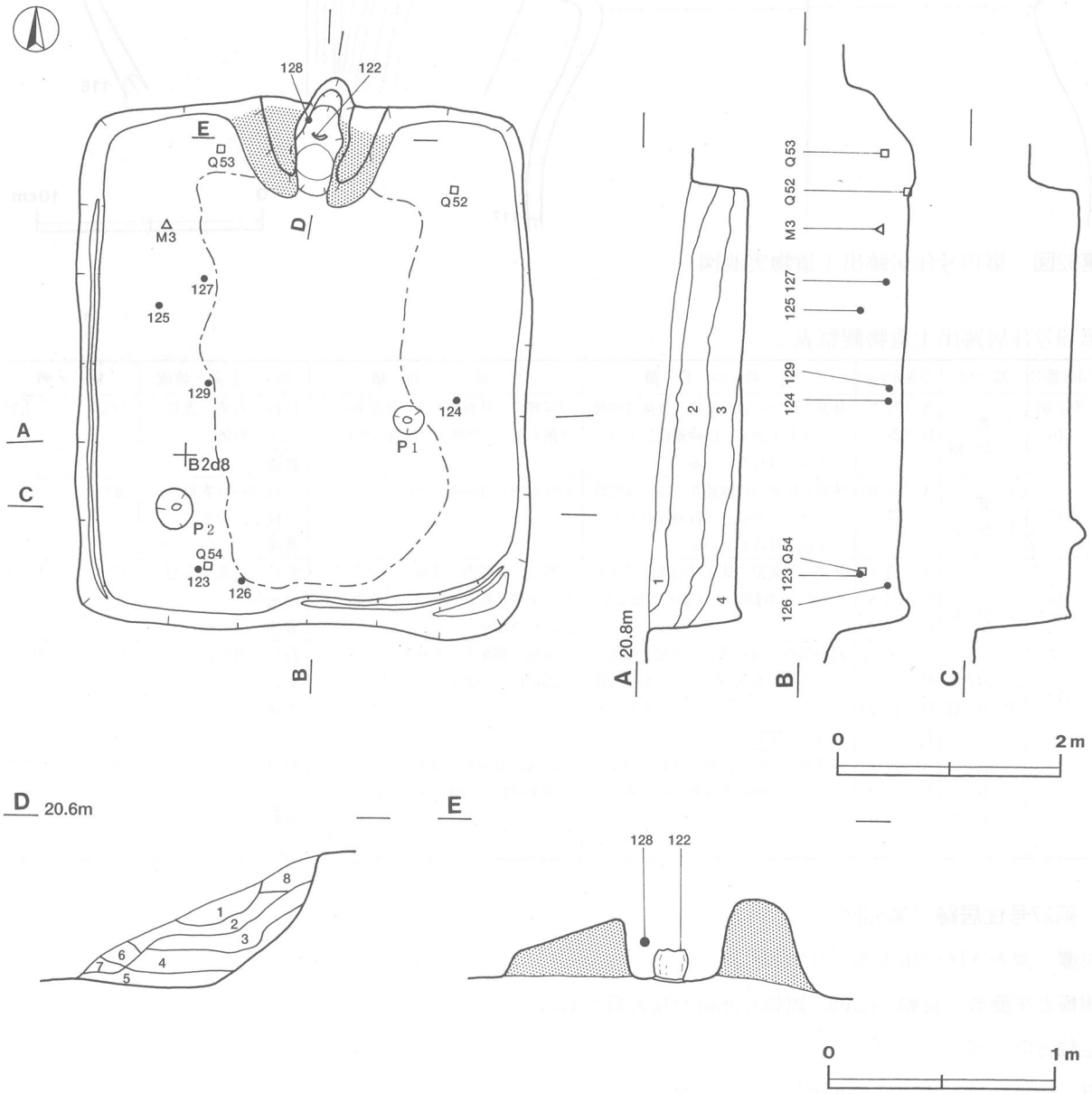
床　平坦である。竈焚口部の南側から中央部にかけて，特に踏み固められている。

ピット　２か所。（Ｐ１・Ｐ２）。Ｐ１は径26cmの円形で，深さ15cmである。Ｐ２は長径35cm，短径30cmの楕円形で，深さ16cmである。いずれも位置から主柱穴と思われる。

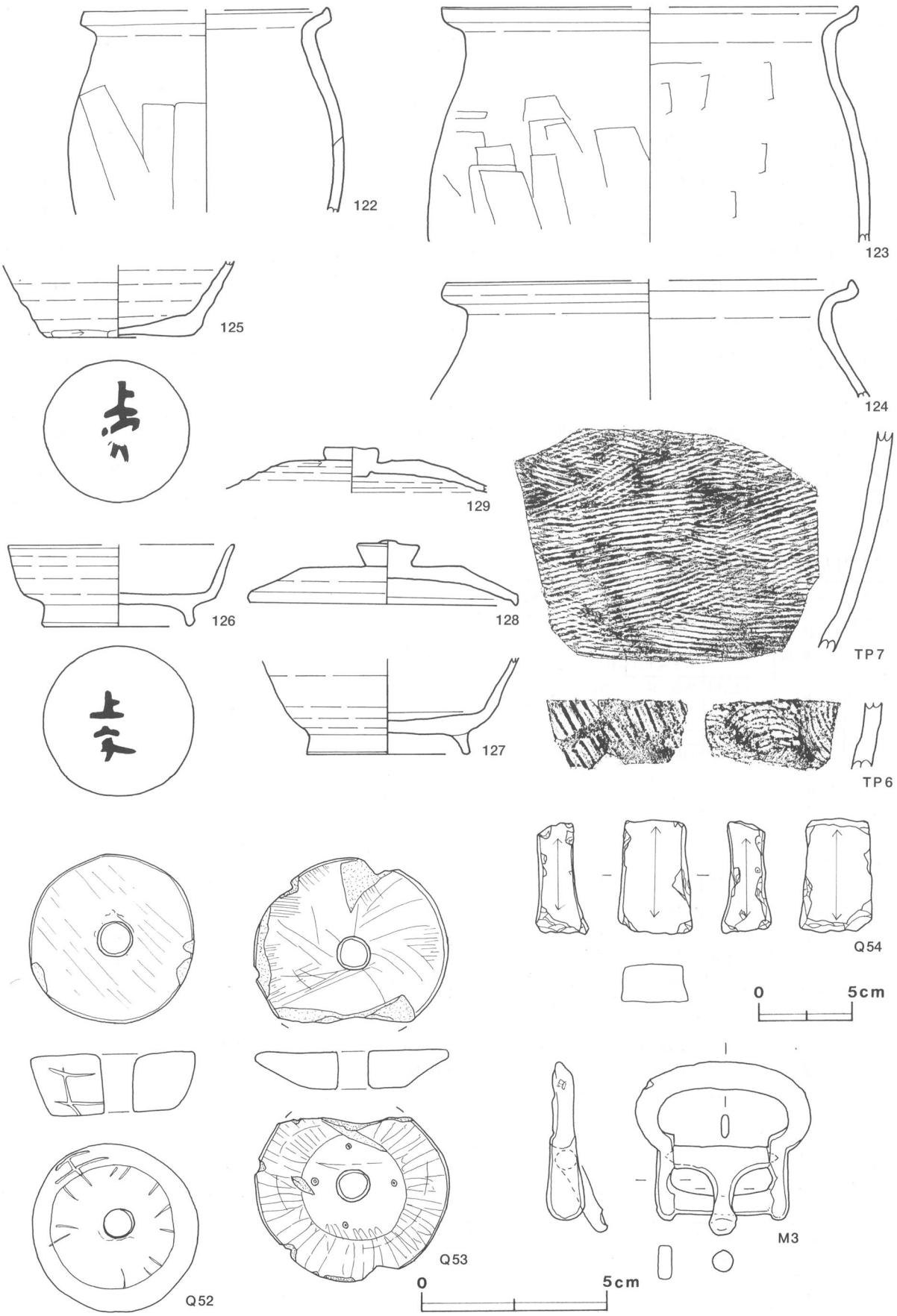
竈　北壁中央に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ108cm，両袖幅130cmで，壁外への掘り込みは24cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。火床部は，楕円形に６cmほど掘り込まれている。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
5	暗赤褐色	焼土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土中ブロック・炭化物微量
8	暗赤褐色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量



第53図　第27号住居跡実測図



第54図　第27号住居跡出土遺物実測図

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　　ローム小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

遺物　土師器及び小破片654点，須恵器及び小破片154点，石製紡錘車２点，砥石１点，鉸具１点が出土している。第54図122～124は土師器で，125～129は須恵器である。覆土中層では，123の甕が南西コーナー部から壊れた状態で，125の坏が中央部から正位の状態で，Q54の砥石が南西コーナー部から出土している。覆土下層では，124の甕が中央部から横位の状態で，126の高台付坏が南壁際から正位の状態で，127の高台付坏が中央部から正位の状態で，129の蓋が中央部から壊れた状態で，Q53の紡錘車が竈左袖部の西側から正位の状態で，M３の鉸具が中央部から斜位の状態で出土している。床面では，Q52の紡錘車が竈右袖部の東側から正位の状態で出土している。竈内では，122の小形甕が火床部の中央から逆位の状態で，128の蓋が火床面から壊れた状態で出土している。

所見　本跡からは，底部に「上家」と墨書された土器が２点出土しており，第２・10号住居からも同様の墨書土器が出土している。器種は，須恵器の坏と高台付坏で類似している。時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 122	小形甕 土師器	A [13.2] B (10.9)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	40%　PL20
123	甕 土師器	A [22.6] B (12.7)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	20%　PL20
124	甕 土師器	A [22.0] B (6.4)	口縁部片。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	5%
125	坏 須恵器	B (4.0) C 7.9	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	60%　PL20 底部外面墨書「上家」
126	高台付坏 須恵器	A [12.4] B 4.5 D 8.2 E 1.0	口縁部一部欠損。底部と体部の境は明瞭な稜をもち，屈曲する。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	60%　PL20 底部外面墨書「上家」
127	高台付坏 須恵器	B [5.2] D 8.8 E 1.2	口縁部欠損。底部と体部の境は稜をもち，屈曲する。体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・雲母 黄灰色 普通	60%　PL20
128	蓋 須恵器	A 14.4 B 3.4 F 3.3 G 1.4	口縁部から天井部一部欠損。天井部は平坦で，擬宝珠状のつまみが付く。口縁端部は短く折り返されている。	口縁部，外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り後，つまみ接合。	長石・雲母・赤色粒子 褐灰色 普通	70%　PL20
129	蓋 須恵器	B (2.5) F (2.9) G 0.9	口縁部欠損。天井部は笠形で，擬宝珠状のつまみが付く。	外周内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り後，つまみ接合。	長石・雲母 黄灰色 普通	60%　PL20

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 TP6	甕 須恵器	B (3.5)	体部片。外面縦位の平行叩き，内面に同心円の当て具痕。	長石・白色粒子 灰色 普通	5%　PL23

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　及　び　文　様　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第54図 ＴＰ７	甕 須恵器	Ｂ（11.9）	体部片。外面横位の平行叩き。	長石・白色粒子 灰色 普通	10%　　ＰＬ23

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	特　　徴	備　　考
		径　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第54図Q52	紡錘車	4.4	1.6	0.9	45.6	滑　石	逆台形状　側面に「≠」の線刻	100%　　ＰＬ26
Q53	紡錘車	5.2	1.0	0.8	(36.2)	滑　石	逆台形状　上面に放射状の線刻	80%　　ＰＬ26

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	特　　徴	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第54図Q54	砥　石	(6.2)	4.0	2.7	(81.6)	凝灰岩	剥片　４面使用	ＰＬ26

図版番号	器　種	計　測　値				材　質	特　　徴	備　　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第54図M 3	鈸　具	4.6	4.7	1.0	36.2	鉄 銅	鉄地銅張り　環状にＴの字状の刺鉄が付く	馬具か　　ＰＬ26

第28号住居跡（第55図）

位置　調査Ａ区の南東部，Ｂ2e8区。

重複関係　第26号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸4.80m，短軸4.66mの方形である。

主軸方向　Ｎ－10°－Ｅ

壁　壁高は45～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈左袖部の西側から南壁中央にかけて巡っている。断面はＵ字形で，上幅21～30cm，下幅７～15cm，深さ７～10cmである。

床　平坦である。竈焚口部の南側から中央部にかけて，特に踏み固められている。

ピット　４か所（Ｐ１～Ｐ４）。Ｐ１は二段掘り込みになっており，上段は長径72cm，短径49cmの楕円形で，深さ20cmである。下段は長径48cm，短径37cmの楕円形で，深さ48cmである。Ｐ２は長径57cm，短径45cmの楕円形で，深さ45cmである。いずれも位置及び配列から主柱穴と思われる。Ｐ３は長径50cm，短径40cmの楕円形，深さ48cmで，竈反対側の南壁際に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ４は長径60cm，短径48cmの楕円形，深さ23cmで，竈前に位置し性格は不明である。

竈　北壁中央に付設されている。焚口部から煙道口部までの長さ118cm，両袖幅124cmで，壁外への掘り込みは38cmである。袖部は粘土と砂粒を混ぜて構築されている。火床部は，楕円形に６cmほど掘り込まれ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　赤 褐 色　　焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　赤 褐 色　　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量，焼土大ブロック・炭化物微量
5　暗赤褐色　　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

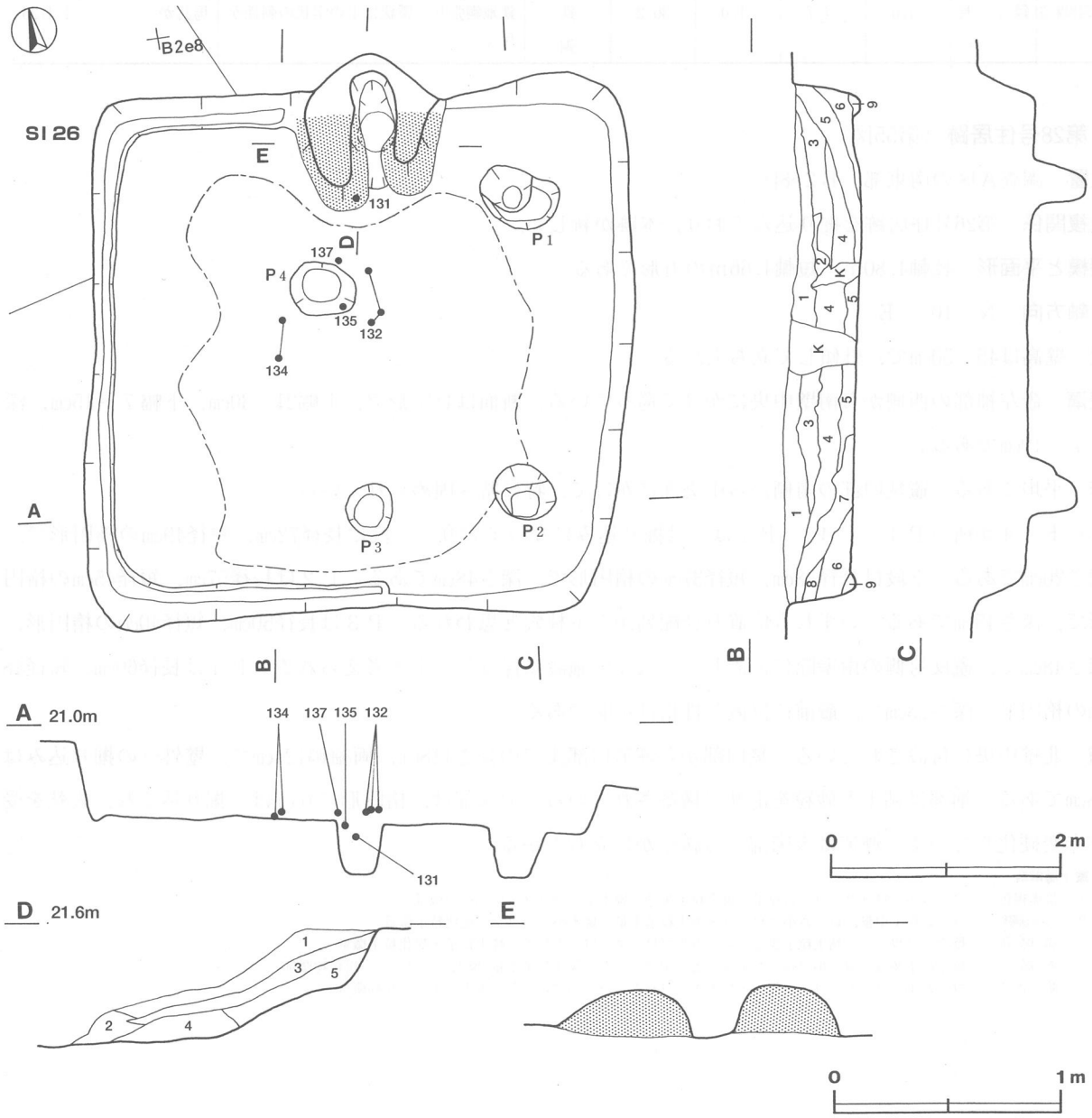
覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

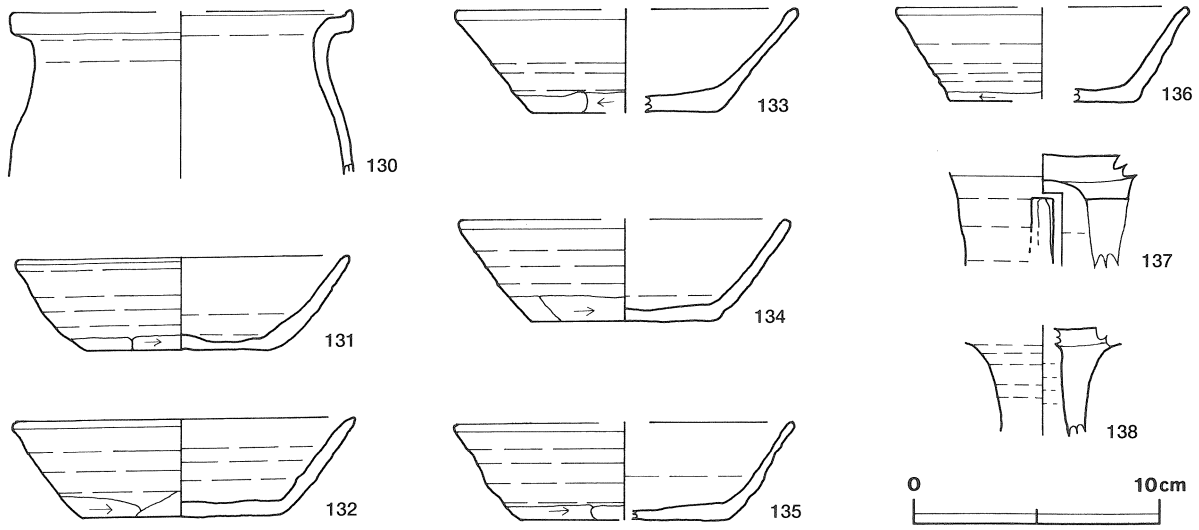
1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
8	褐　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
9	褐　色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物　土師器及びその小破片105点，須恵器及びその小破片35点，鉄滓23ｇが出土している。第56図130は土師器で，131～138は須恵器である。覆土下層では，132の坏が中央部から壊れた状態で，137の高盤の脚部がＰ４の北側から逆位の状態で出土している。床面では，134の坏が中央部から壊れた状態で出土している。135の坏は，Ｐ４の上層から出土している。竈内では，131の坏が左袖部に貼り付いた状態で出土している。その他にも覆土から，130の小形甕，133・136の坏，138の高盤の脚部，鉄滓が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第55図　第28号住居跡実測図



第56図　第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 130	甕 土師器	A [13.8] B (6.8)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は上方につまみ上がられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	10%
131	坏 須恵器	A 13.4 B 3.9 C 7.3	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り後，底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	90%　PL20
132	坏 須恵器	A 13.8 B 4.0 C 8.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	60%　PL21
133	坏 須恵器	A [13.8] B 4.2 C [7.6]	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英 暗灰黄色 普通	40%　PL21
134	坏 須恵器	A [13.2] B 4.2 C 7.6	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英 灰黄色 普通	40%　PL21
135	坏 須恵器	A [13.6] B 4.2 C [8.4]	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	30%
136	坏 須恵器	A [11.8] B 3.8 C 7.6	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	20%
137	高盤 須恵器	B (4.6) E (3.7)	脚部の上位片。透かし孔が3方向に空く。	脚部外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	10%
138	高盤 須恵器	B (4.5) E (3.8)	脚部の上位片。	脚部ロクロナデ。	長石・雲母 灰色 普通	5%

（2）ピット群

第1号ピット群（第57図）

位置　調査A区の中央部，A2j2区。

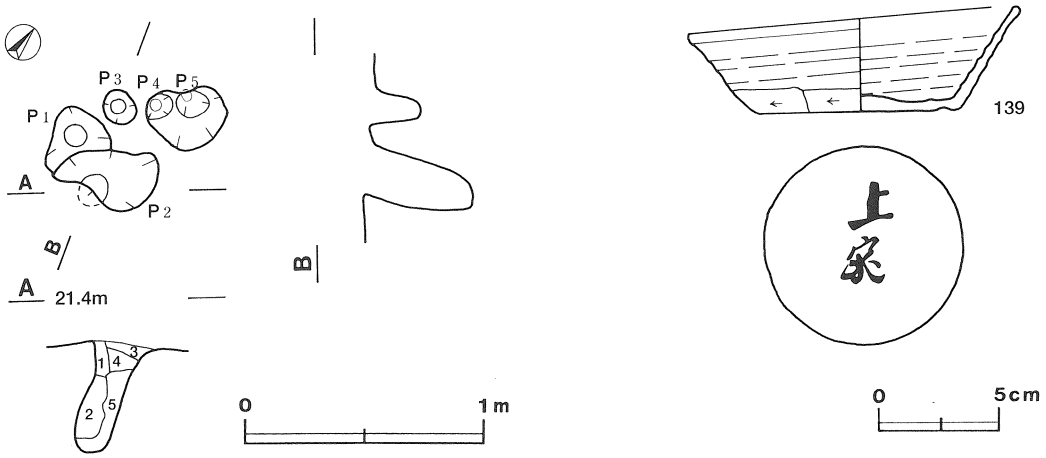
規模　東西0.80m，南北0.90mの範囲に5か所のピットを確認した。ピットの平面形は，P1・P2・P4・P5はいずれも不整形で，深さ20～45cmである。P3は径28cmの円形，深さ22cmである。P1はP2を掘り込んでいる。

覆土　いずれのピットも褐色あるいは暗褐色土主体で，ロームブロックが混じり，人為的に埋め戻されている。

Ｐ２土層解説
1　褐　　色　　ローム小ブロック少量
2　暗 褐 色　　ローム粒子中量
3　褐　　色　　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
4　褐　　色　　ローム小ブロック中量
5　褐　　色　　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　第57図139の須恵器の坏が，Ｐ１の覆土上層から壊れた状態で出土している。

所見　ピットの性格は，不明である。Ｐ１からは，底部に「上家」と墨書された須恵器の坏が出土している。時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第57図　第１号ピット群・出土遺物実測図

第１号ピット群出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第57図 139	坏 須 恵 器	A　13.8 B　4.3 C　8.1	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	80%　　ＰＬ21 底部外面墨書「上家」

5　中世

中世の遺構としては，調査区域Ａ区の中央部から土壙墓が１基，南部から塚１基が検出された。以下，検出された遺構の特徴や遺物について記載する。

（１）土壙墓

第１号土壙墓（第58図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ａ２j5区。

規模と平面形　径1.00ｍほどの円形で，深さ50cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

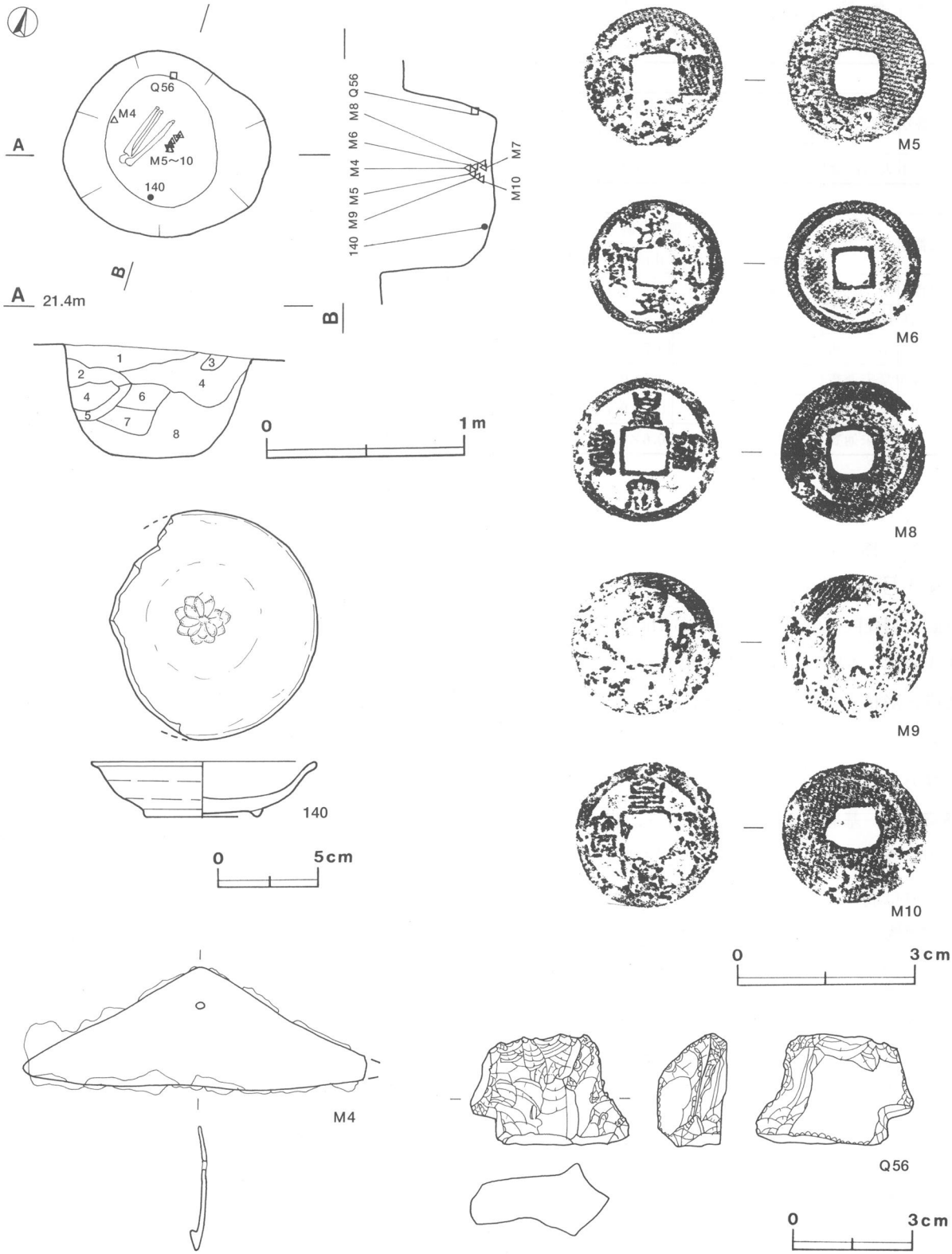
底面　平坦である。

覆土　８層からなる。ロームブロック及びローム粒子を多量に含み，不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量
2　黒 褐 色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3　褐　　色　　ローム粒子中量
4　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
5　暗 褐 色　　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　暗 褐 色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
7　褐　　色　　ローム中ブロック中量
8　褐　　色　　ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　人骨（頭部・大腿部など）１体分，陶器１点，火打石１点，火打金１点，古銭６枚が出土している。人骨は底面からで，他はいずれも覆土下層からの出土である。第58図140の小皿が南壁寄りから正位の状態で，Q56の火打石が北壁寄りから，Ｍ４の火打金が西壁寄りから横位の状態で，Ｍ５～M10の古銭が中央部の人骨上からまとまって出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から16世紀前葉と考えられる。



第58図　第１号土壙墓・出土遺物実測図

第１号土壙墓出土遺物観察表

図版番号	器形	器質	計測値(cm) A	B	D	E	胎土色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
第58図 140	端反皿	陶器	11.5	2.9	5.8	0.5	灰白色 浅黄色	灰釉	内面に印花	瀬戸・美濃系 16C前葉	80% PL20

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	備考
第58図Q56	火打石	2.8	4.0	1.8	18.9	瑪瑙	2面使用	PL26

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考
第58図M4	火打金	(8.6)	3.1	0.2	0.2	(19.4)	鉄	下縁に敲打の痕跡	PL26

図版番号	器種	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	初鋳年 時代	年号(西暦)	備考
第58図M5	不明	2.4	0.1	0.7×0.7	2.5	不明	不明	判読不明
M6	洪武通寶	2.3	0.1	0.6×0.6	3.5	明	洪武元年(1368年)	
M7	不明	[2.5]	0.1	[0.7×0.7]	(2.5)	不明	不明	判読不明
M8	皇宋通寶	2.5	0.1	0.7×0.7	2.5	北宋	寶元元年(1038年)	
M9	不明	2.4	0.1	0.7×0.7	2.3	不明	不明	判読不明
M10	皇宋通寶	2.5	0.1	[0.6×0.6]	(2.9)	北宋	寶元元年(1038年)	

(2) 塚

第１号塚（第59図）

位置　調査区の南部，Ｂ2h4～Ｂ2h6区。

重複関係　本跡が，第１号住居跡，第３号土坑の上部に築造されていることから，本跡が新しい。

規模と形状　基底面は，長径5.76m，短径5.42mのほぼ円形を呈し，現地表面から頂部までの高さは1.08mである。

長径方向　Ｎ－55°－Ｅ

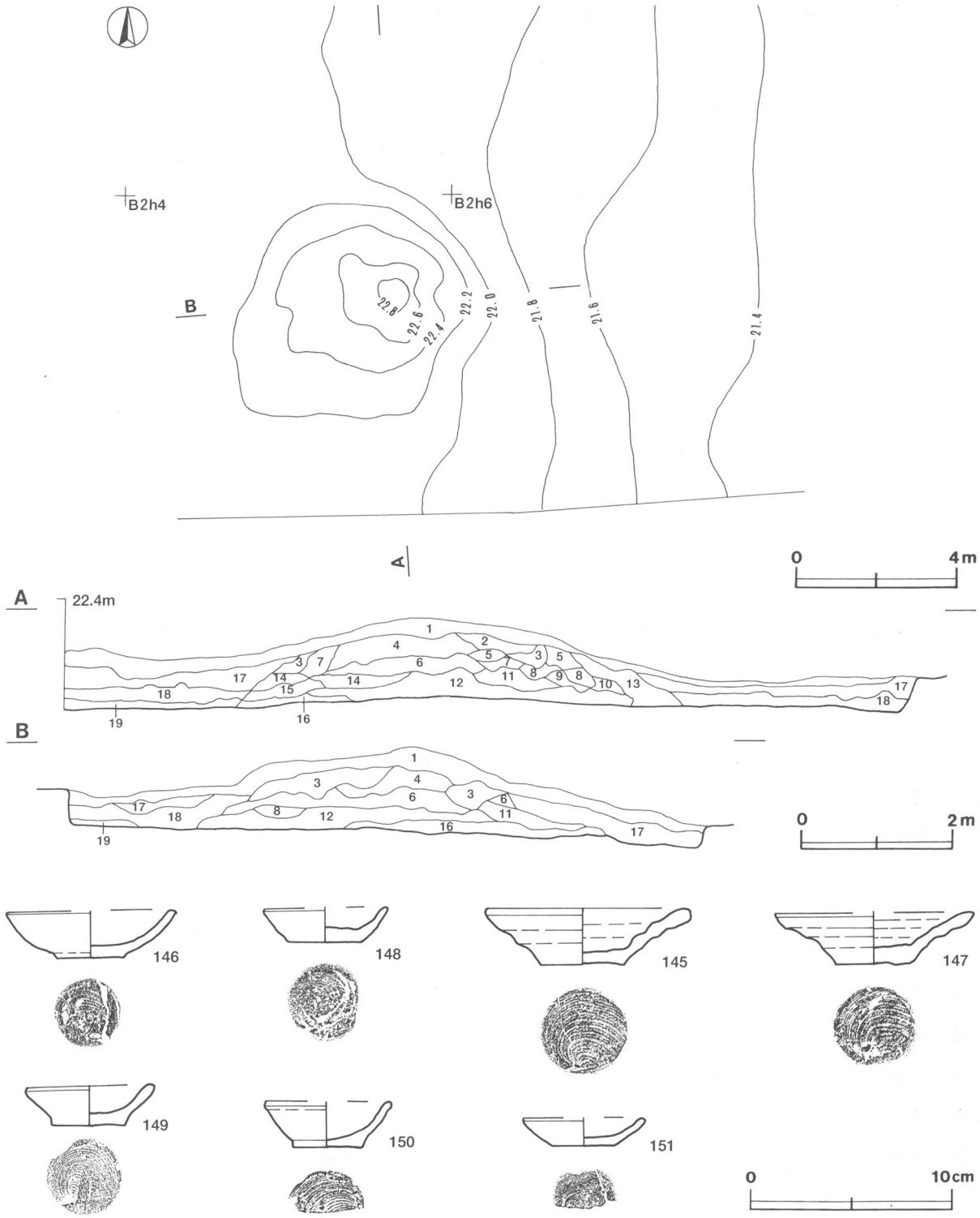
構築状況　基底部を旧地表面に置き，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量から中量含んだ暗褐色土や褐色土を裾部はブロック状，中央部はほぼ水平に盛土し，土饅頭状である。粘性及びしまりは弱い。

土層解説

1 表土
2 暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量
3 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量
5 褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
6 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
7 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
9 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量，炭化粒子極微量
10 暗褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック・炭化粒子極微量
11 暗褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック極微量
12 暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
13 暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック極微量
14 暗褐色　ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
15 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量，ローム小ブロック極微量
16 褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
17 暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量，炭化粒子極微量
18 褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
19 黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師質土器及びその小破片10点，土師器片250点，須恵器片34点，縄文土器片９点が出土している。第59図145～151は土師質土器の小皿で，いずれも盛土の下層及び中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から16世紀後半と考えられる。



第59図　第１号塚出土遺物実測図

第１号塚出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第59図 145	小　皿 土師質土器	A　9.9 B　2.8 C　4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外方に大きく開き，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	50%　PL21
146	小　皿 土師質土器	A［8.4］ B　2.4 C　3.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	80%　PL21

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第59図 147	小　　皿 土師質土器	A [10.0] B　2.6 C　3.8	底部から口縁部片。平底。体部は外方に大きく開き，口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	30%　　PL21
148	小　　皿 土師質土器	A [6.2] B　1.7 C　3.6	底部から口縁部片。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・赤色粒子，にぶい赤褐色 普通	50%
149	小　　皿 土師質土器	A　6.4 B　2.1 C　3.8	体部一部欠損。平底。体部は外方に開き，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	80%　　PL21
150	小　　皿 土師質土器	A [6.4] B　2.3 C [3.4]	底部から体部一部欠損。体部は外方に開き，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	50%　　PL21
151	小　　皿 土師質土器	A [6.0] B　1.4 C [3.0]	底部から体部一部欠損。体部は外方に開き，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・赤色粒子 橙色 普通	50%

6　その他の遺構

今回の調査で，時期及び性格不明な土坑58基，溝３条，不明遺構１基が検出された。以下，土坑及び溝については，実測図及び一覧表に記載する。

（１）土坑（第83～85図）

今回の調査で，調査Ａ区から60基，調査Ｂ区から１基の計61基の土坑が検出された。そのうち，縄文時代の炉穴１基，古墳時代の土坑１基，中世の土壙墓１基以外は，時期及び性格不明な土坑であり，ここでは，実測図及び一覧表で記載する。

（２）溝（第63図・付図）

今回の調査で，調査Ａ区から２条，調査Ｂ区から１条の計３条の溝が検出された。いずれも，遺物は細片で覆土からの出土であり，時期は限定できず，性格も不明である。よって，検出した溝については，断面図及び一覧表で記載し，配置や全体の形状については遺構全体図に掲載する。

（３）不明遺構

第１号不明遺構（第64図）

位置　調査Ｂ区の北西部，Ｄ2f9区。

重複関係　第25号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　西壁際側が調査区域外にかかっている。長軸7.58m，確認できた短軸3.98mで，隅丸長方形と推定される。

長軸方向　Ｎ－８°－Ｅと推定される。

壁　壁高は８～12cmで，外傾して立ち上がる。

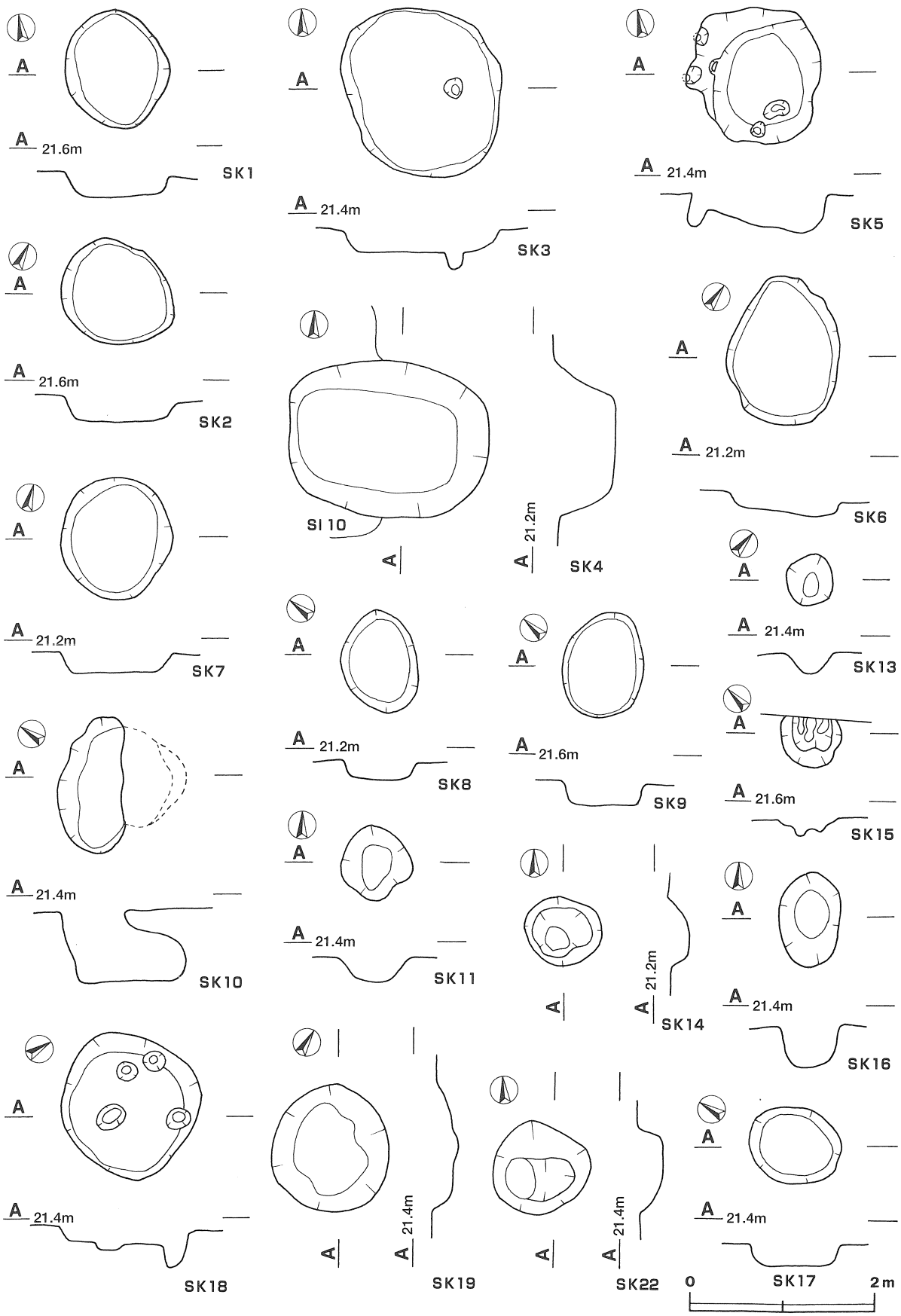
底面　平坦である。

覆土　単一層で，自然堆積である。

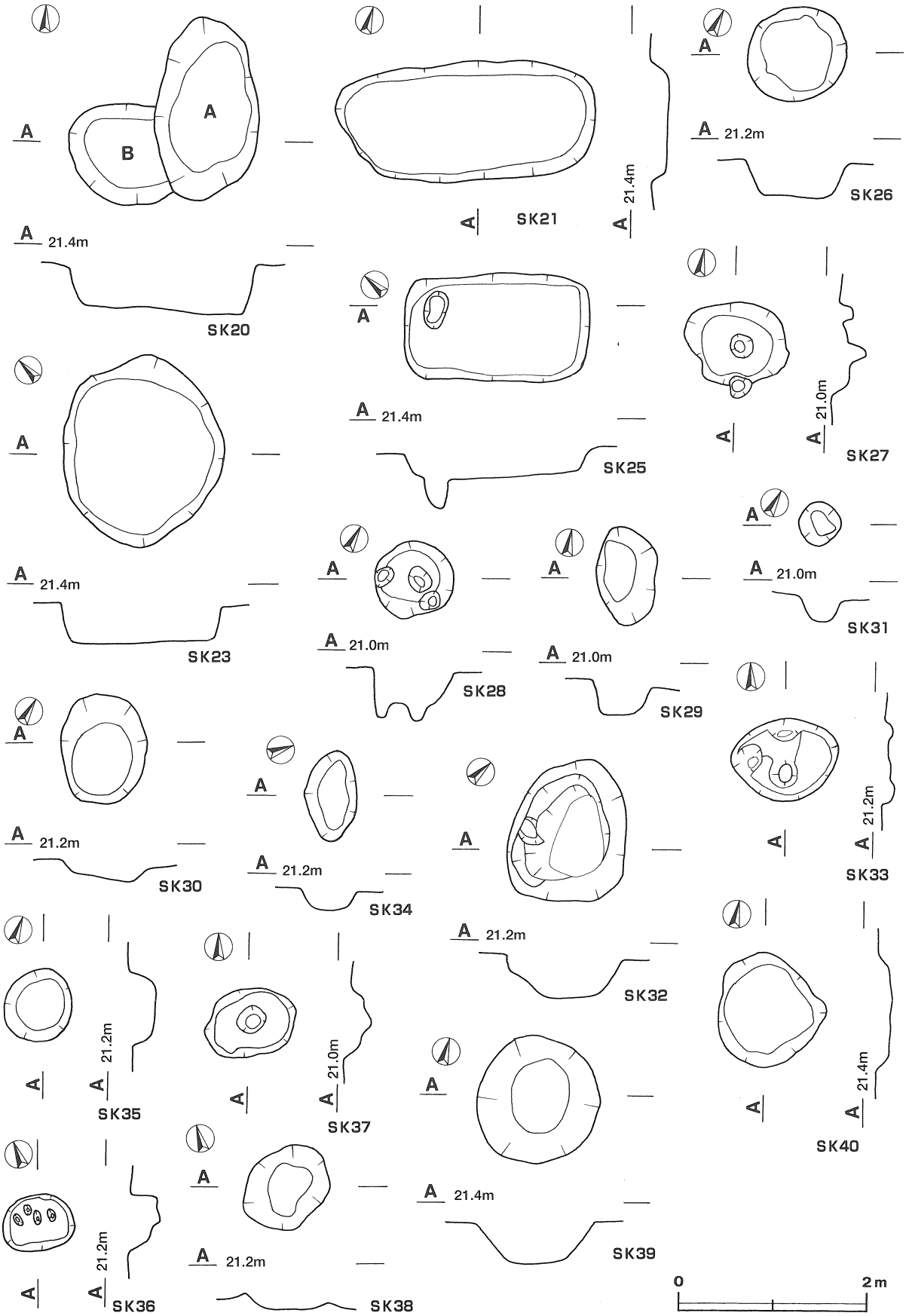
土層解説
1　黒 褐 色　　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量

遺物　土師器片１点が出土している。

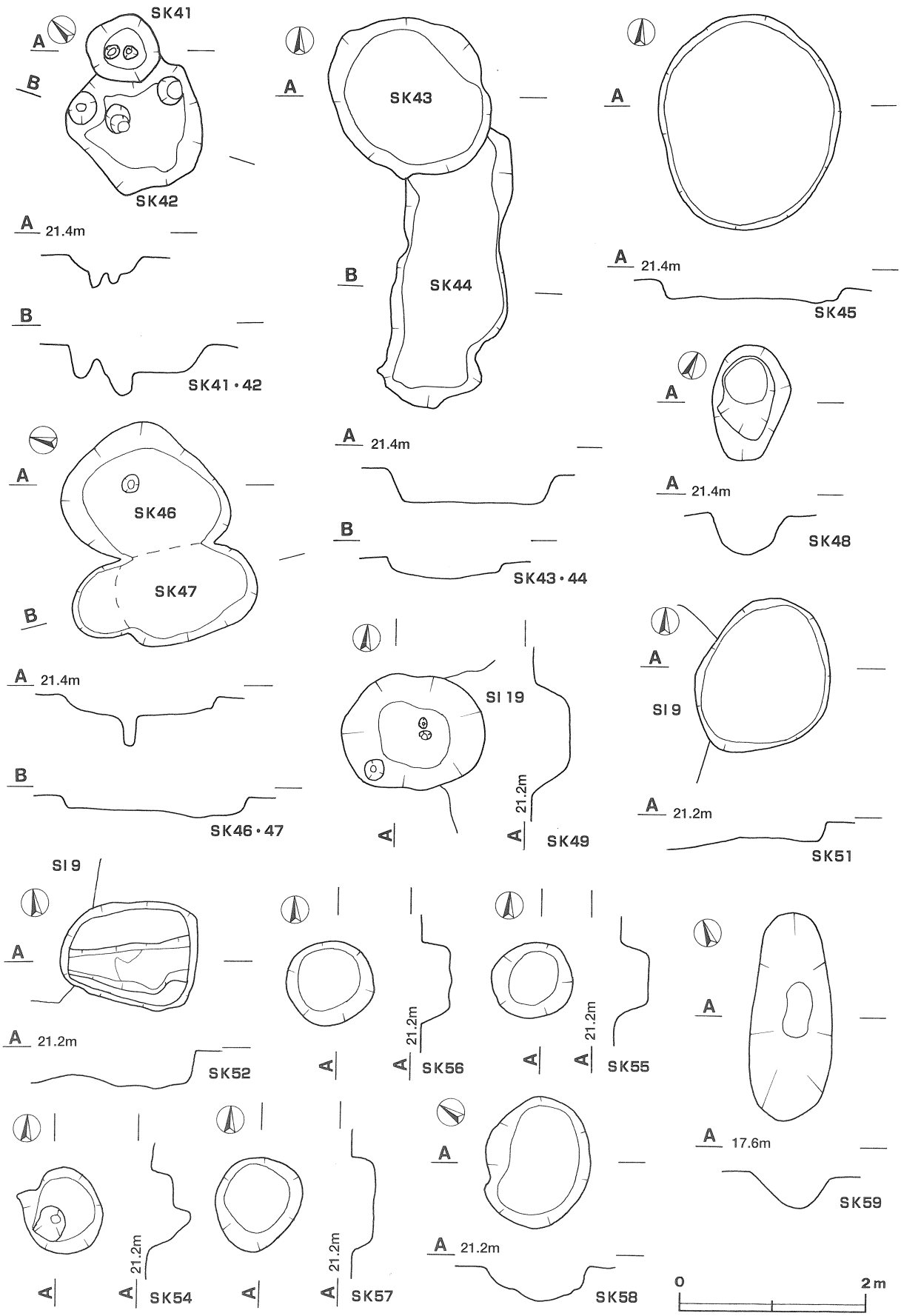
所見　本跡からは，出土遺物が１点のみであり，ピット及び竈等も検出されず，時期及び性格は不明である。


SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK18
SK19
SK22
SI 10
21.6m
21.4m
21.2m
0
2m

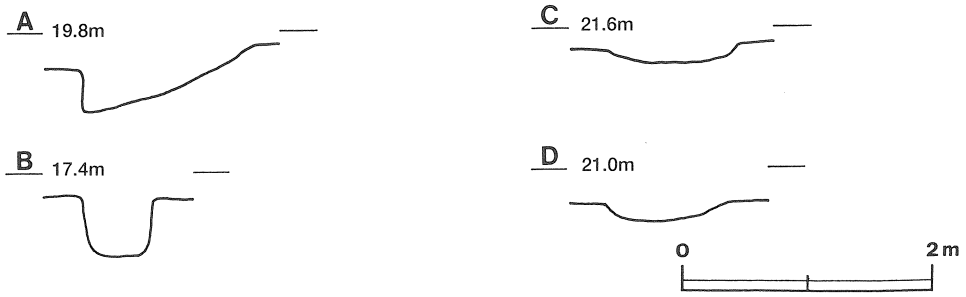
第60図　土坑実測図（1）


A
B
A
A 21.4m
SK20
SK21
A 21.4m
A
A 21.2m
SK26
A
A 21.4m
SK25
A
A 21.0m
SK27
A
A 21.4m
SK23
A
A 21.0m
SK28
A
A 21.0m
SK29
A
A 21.0m
SK31
A
A 21.2m
SK30
A
A 21.2m
SK34
A
A 21.2m
SK33
A 21.2m
SK32
A
A 21.2m
SK35
A
A 21.0m
SK37
A
A 21.4m
SK40
A
A 21.4m
SK39
A
A 21.2m
SK36
A 21.2m
SK38
0
2m

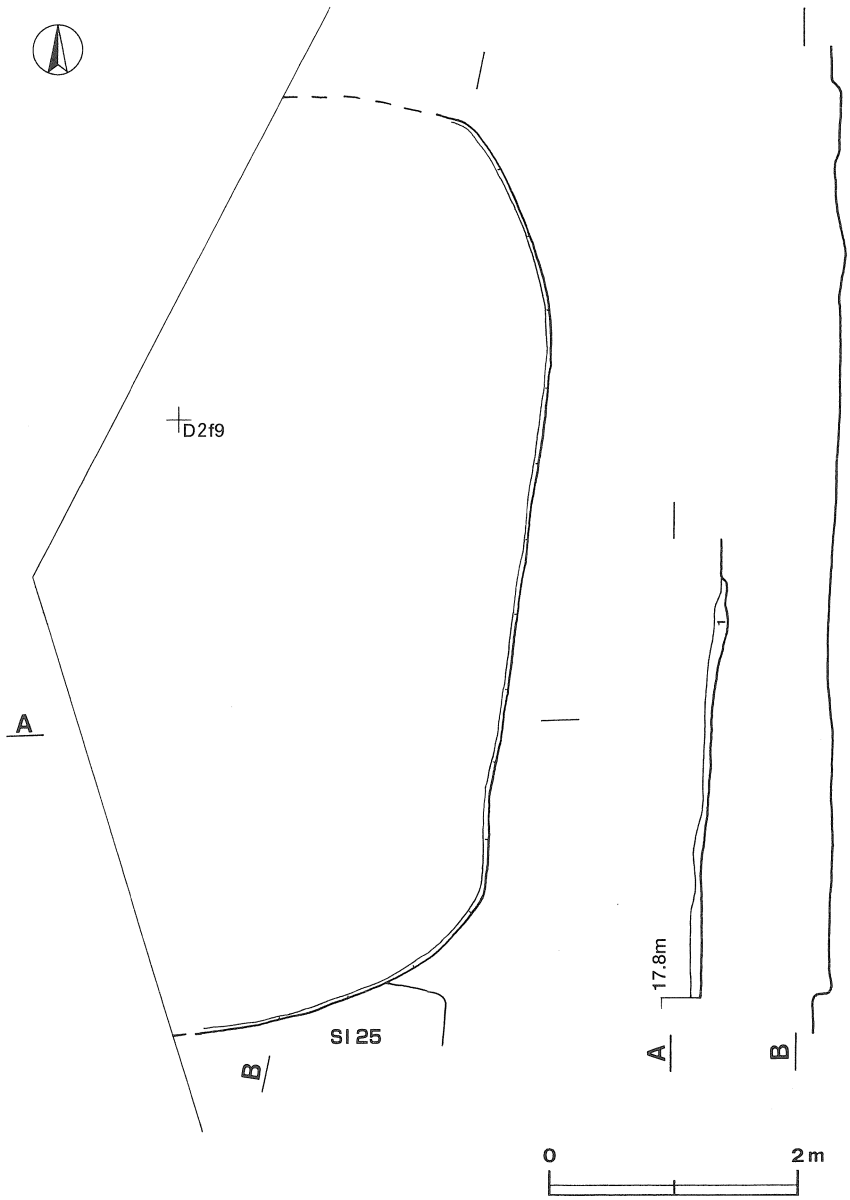
第61図　土坑実測図（2）


SK41
SK42
SK41・42
SK43
SK44
SK43・44
SK45
SK46
SK47
SK46・47
SK48
SI 19
SK49
SI 9
SK51
SK52
SK56
SK55
SK54
SK57
SK58
SK59
21.4m
21.2m
17.6m
0
2m

第62図　土坑実測図（3）



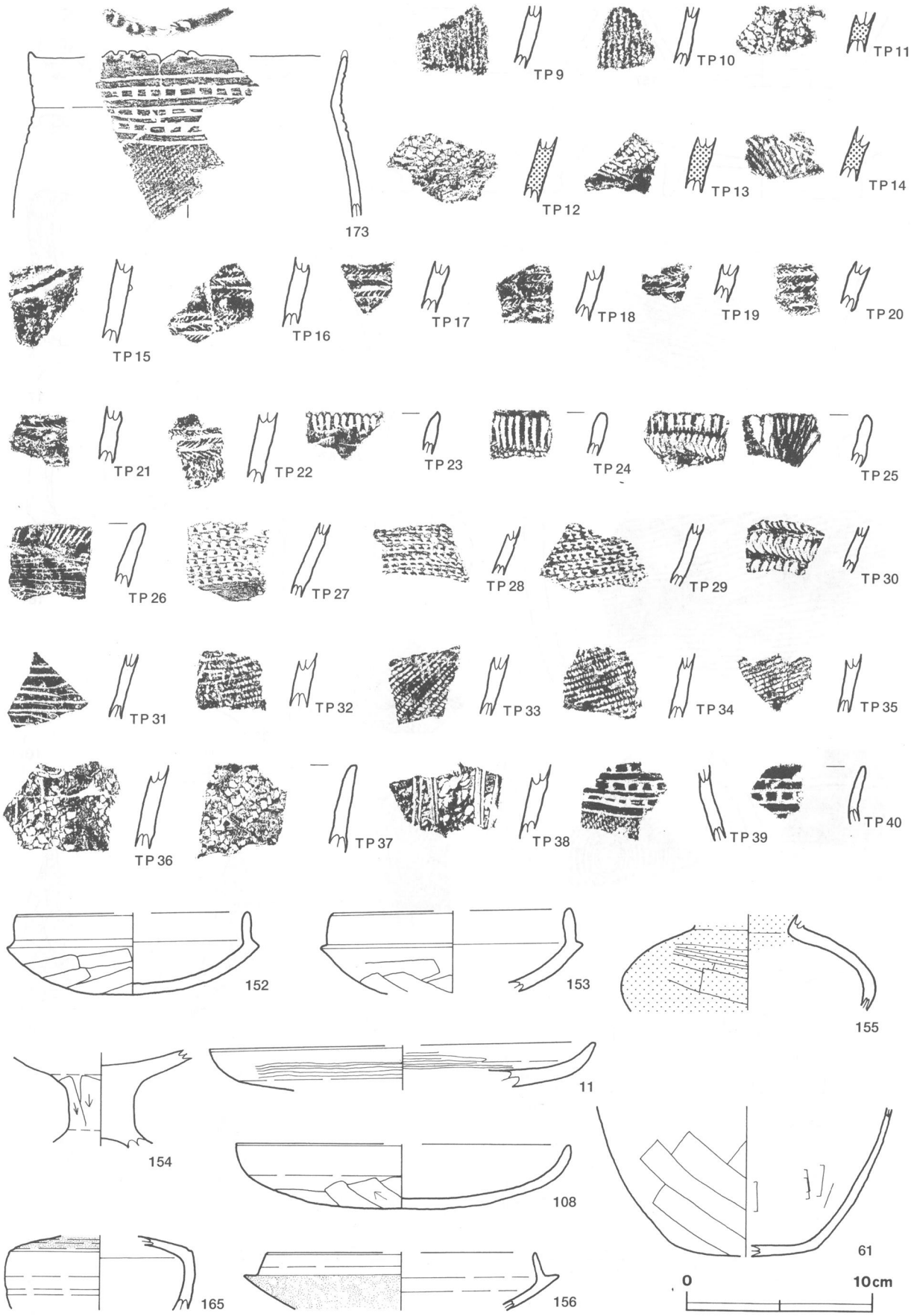
第63図　第１・２・３号溝実測図



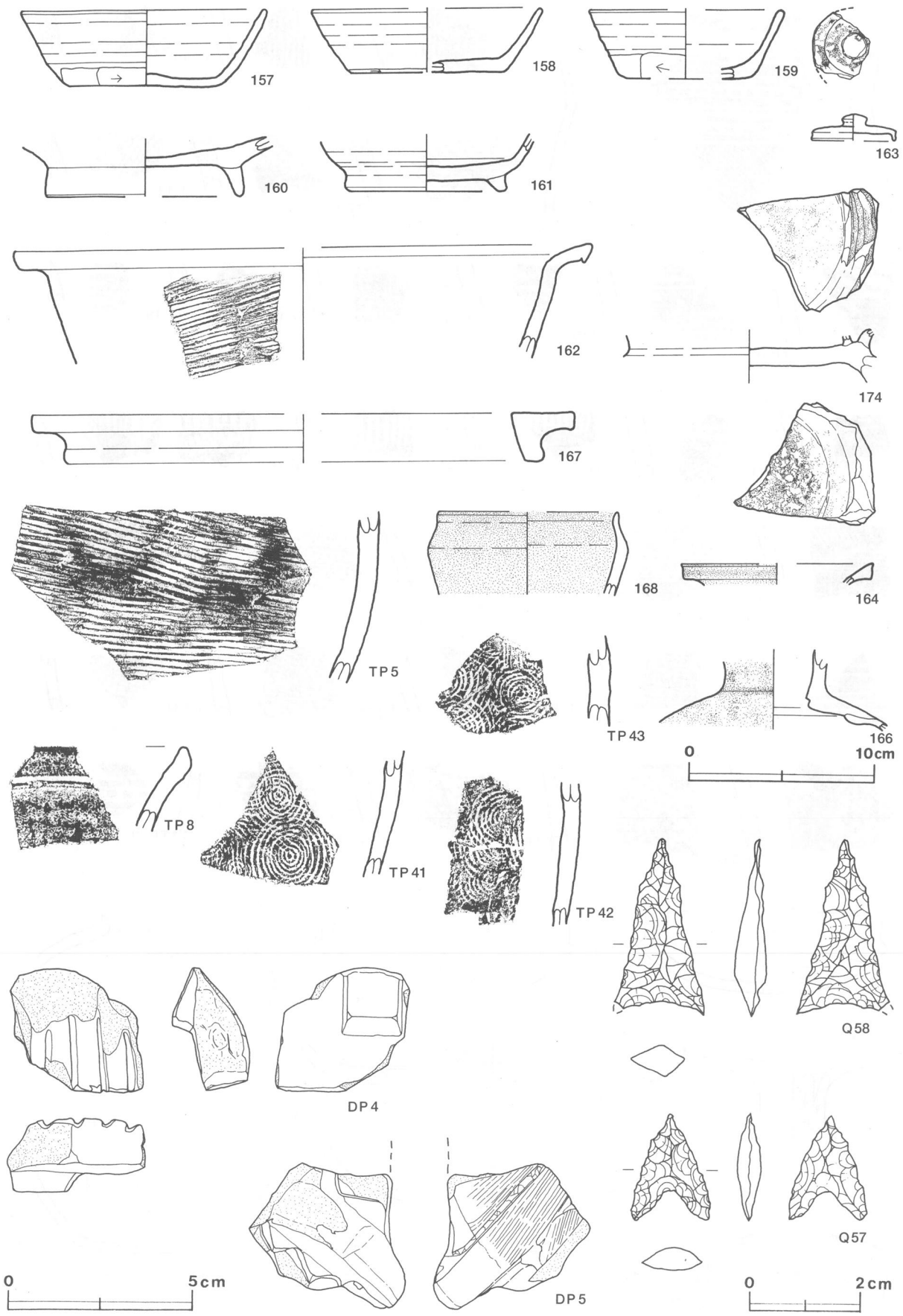
第64図　第１号不明遺構実測図

7　遺構外出土遺物

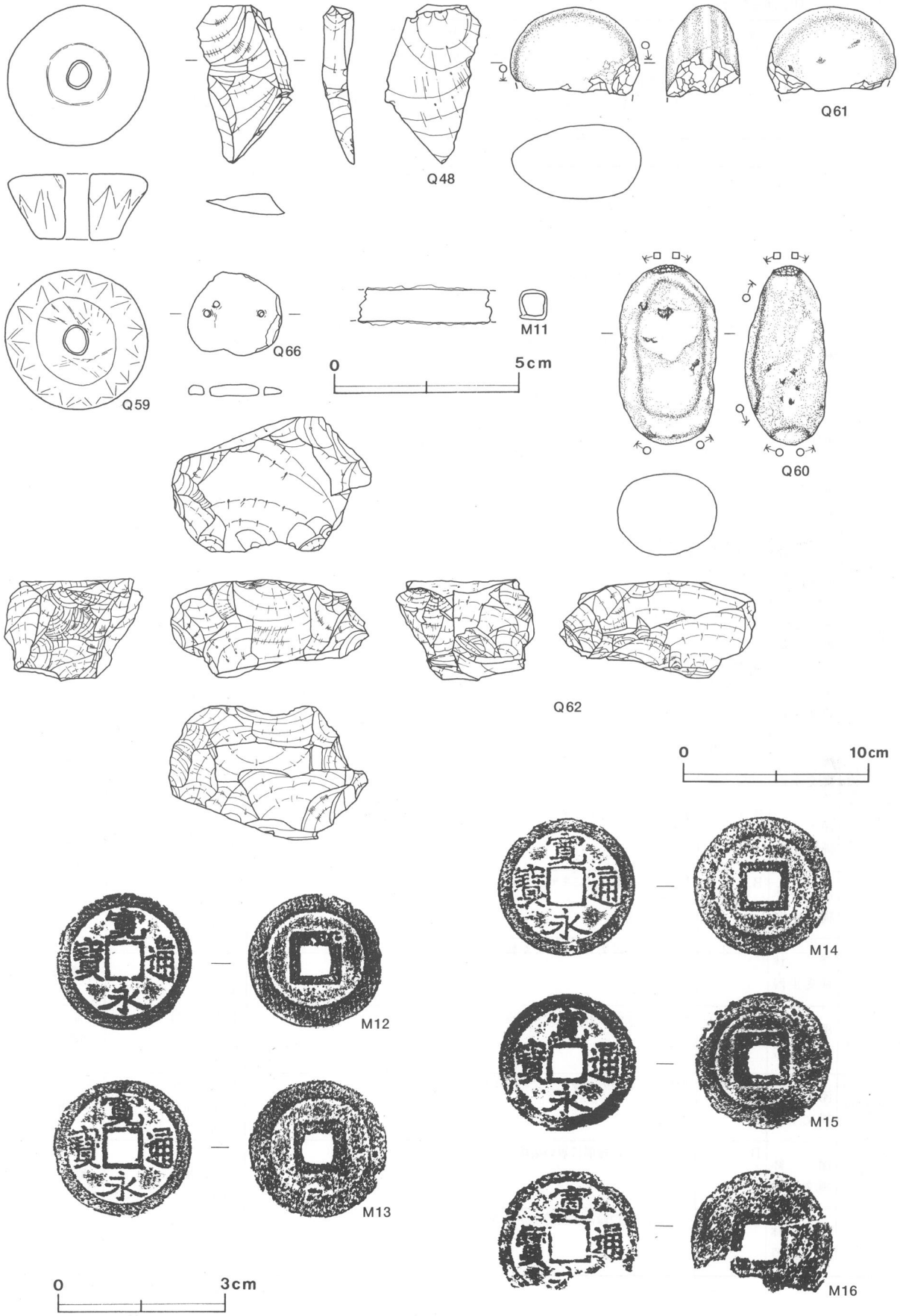
遺構外出土遺物は，試掘，表土除去，遺構確認の調査で出土した遺物である。ここでは，特色ある遺物を抽出し，実測図及び拓影図を掲載し，解説は一覧表等に記載した。



第65図　遺構外出土遺物実測図（1）



第66図　遺構外出土遺物実測図（2）



第67図　遺構外出土遺物実測図（3）

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 173	深鉢 縄文土器	A［17.2］ B（9.0）	口縁部から胴部上位片。胴部は内彎し，外傾しながら口縁部に至る。口唇部にB突起を有する。頸部から胴部上位にかけては，横位の沈線が施され，区画内にはキザミが施されている。沈線下には，LRの単節縄文が施文されている。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	10%　PL21 (大洞BC式)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 TP9	深鉢 縄文土器	B（3.4）	胴部片。撚糸文が施文されている。	長石 にぶい黄橙色 普通	5%　PL23 (夏島式)
TP10	深鉢 縄文土器	B（3.2）	胴部片。撚糸文が施文されている。	長石 にぶい黄橙色 普通	5%　PL23 (夏島式)
TP11	深鉢 縄文土器	B（2.1）	胴部片。RLの単節縄文が施文されている。	長石・繊維 にぶい黄橙色 普通	5%　PL23 (黒浜式)
TP12	深鉢 縄文土器	B（3.6）	胴部片。RLの単節縄文が施文されている。	長石・繊維 にぶい黄橙色 普通	5%　PL23 (黒浜式)
TP13	深鉢 縄文土器	B（3.0）	胴部片。Rの無節縄文が施文されている。	長石・繊維 にぶい赤褐色 普通	5%　PL23 (黒浜式)
TP14	深鉢 縄文土器	B（2.1）	胴部片。Rの無節縄文が施文されている。	長石・繊維 にぶい赤褐色 普通	5%　PL23 (黒浜式)
TP15	深鉢 縄文土器	B（4.2）	胴部片。浮線文上に縄文が施されている。	長石 にぶい橙色 普通	5%　PL23 (諸磯b式)
TP16	深鉢 縄文土器	B（3.3）	胴部片。浮線文上にキザミが施されている。	長石 にぶい赤褐色 普通	5%　PL23 (諸磯b式)
TP17	深鉢 縄文土器	B（2.6）	胴部片。3条の浮線文上にキザミが施されている。	長石 にぶい赤褐色 普通	5%　PL23 (諸磯b式)
TP18	深鉢 縄文土器	B（3.0）	胴部片。浮線文上にキザミが施されている。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	5%　PL23 (諸磯b式)
TP19	深鉢 縄文土器	B（2.0）	胴部片。浮線文上にキザミが施されている。	長石 にぶい橙色 普通	5% (諸磯b式)
TP20	深鉢 縄文土器	B（2.5）	胴部片。浮線文上にキザミが施されている。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	5%　PL23 (諸磯b式)
TP21	深鉢 縄文土器	B（2.7）	胴部片。浮線文上にキザミが施されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	5%　PL23 (諸磯b式)
TP22	深鉢 縄文土器	B（3.8）	胴部片。3条の浮線文上にキザミが施されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	5%　PL23 (諸磯b式)
TP23	深鉢 縄文土器	B（2.2）	口縁部片。口縁部に短い条線文が施されている。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	5%　PL23 (興津式)
TP24	深鉢 縄文土器	B（2.2）	口縁部片。口縁部に条線文が施されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	5%　PL23 (興津式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第65図 ＴＰ25	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 2.8）	口縁部片。口縁部には短い条線文が施されている。条線文直下には連続爪形文が施文されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	5％　ＰＬ23 (興津式)
ＴＰ26	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.4）	口縁部から胴部片。胴部には横位の平行沈線文が施されている。口縁部には短い条線文が施されている。	長石･雲母･赤色粒子 にぶい褐色 普通	5％　ＰＬ23 (興津式)
ＴＰ27	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.9）	胴部片。半截竹管による連続刺突文が施されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	5％　ＰＬ23 (興津式)
ＴＰ28	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 2.7）	胴部片。半截竹管による連続刺突文が施されている。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	5％　ＰＬ23 (興津式)
ＴＰ29	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.3）	胴部片。半截竹管による連続刺突文が施されている。	長石・雲母 橙色 普通	5％　ＰＬ23 (興津式)
ＴＰ30	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 2.6）	胴部片。連続爪形文が施されている。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	5％　ＰＬ23 (興津式)
ＴＰ31	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.5）	胴部片。粗い平行沈線文が施されている。	長石・雲母 明黄褐色 普通	5％　ＰＬ23 (興津式)
ＴＰ32	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 2.9）	胴部片。直前段合撚縄文が施文されている。	長石･石英･赤色粒子 にぶい橙色 普通	5％　ＰＬ23 (粟島台式)
ＴＰ33	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.4）	胴部片。直前段合撚縄文が施文されている。	長石･石英･赤色粒子 にぶい橙色 普通	5％　ＰＬ23 (粟島台式)
ＴＰ34	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.4）	胴部片。直前段合撚縄文が施文されている。	長石･石英･赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	5％　ＰＬ23 (粟島台式)
ＴＰ35	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.1）	胴部片。Ｌの無節縄文が施文されている。	長石 にぶい橙色 普通	5％ (粟島台式)
ＴＰ36	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 4.5）	胴部片。ＬＲの単節縄文が施文されている。	長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	5％　ＰＬ23 (粟島台式)
ＴＰ37	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 4.7）	胴部片。ＬＲの単節縄文が施文されている。	長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	5％　ＰＬ23 (粟島台式)
ＴＰ38	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.5）	胴部片。粗製土器。縦位の条線文が施されている。	長石・石英 にぶい橙色 普通	5％　ＰＬ23 (加曽利Ｂ式)
ＴＰ39	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 4.0）	頸部から胴部上位片。横位の沈線が施され，区画内にはキザミが施されている。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	5％　ＰＬ23 (大洞ＢＣ式)
ＴＰ40	深　鉢 縄文土器	Ｂ（ 3.0）	頸部から胴部上位片。横位の沈線が施され，区画内にはキザミが施されている。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	5％ (大洞ＢＣ式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第65図 152	坏 土師器	Ａ［12.4］ Ｂ　4.4	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底部，体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。	長石･石英･赤色粒子 橙色 普通	50％　ＰＬ21
153	坏 土師器	Ａ［12.7］ Ｂ（ 4.4）	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底部，体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	20％
155	坩 土師器	Ｂ（ 5.3）	体部上半片。体部は扁平な算盤玉状である。	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内･外面赤彩。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	20％

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 154	高坏 土師器	B (5.3) E (4.5)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り。	石英・赤色粒子 橙色 普通	20% PL21
11	坏 土師器	A [20.8] B (2.4)	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。口縁部内面，体部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	10% PL21
108	坏 土師器	A [18.0] B 3.5	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通	50% PL21 内面摩滅
61	甕 土師器	B (8.0) C [7.7]	底部から体部下位片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	40%
156	坏身 須恵器	A [14.4] B (3.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，受部に至る。受部は上方に伸びる。	巻き上げ・ロクロ成形。立ち上がり部内・外面ロクロナデ。体部外面自然釉付着。	白色粒子，灰色 (釉)灰オリーブ色 良好	10% PL21 6C末～7C前代
165	小形壺 須恵器	B (4.0)	体部片。体部は内彎して立ち上がり，肩部は張りをもつ。	体部内・外面ロクロナデ。外面自然釉付着。	白色粒子 灰色 良好	10% PL21
第66図 157	坏 須恵器	A 13.2 B 4.3 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	90% PL21
158	坏 須恵器	A [12.4] B 3.5 C [8.0]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	30%
159	坏 須恵器	A [10.4] B 3.8 C [7.3]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石 灰色 普通	20%
160	高台付坏 須恵器	B (3.2) D [10.6] E 1.6	高台部から体部下半片。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	30%
161	高台付坏 須恵器	B (3.1) D 8.3 E 1.0	高台部から体部下半片。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	30%
162	鉢 須恵器	A [31.4] B (6.1)	体部上位から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き。	長石・石英・雲母 灰色 普通	5%
174	円面硯 須恵器	A [13.2] B (2.9)	硯面部片。脚部欠損。縁部は上方に伸び，縁部と脚部の境に1条の沈線が巡る。硯面は平坦である。	硯面ナデ。硯面部裏面，縁部釉。縁部貼り付け。	長石・雲母，灰色 (釉)オリーブ黒色 良好	10% PL21
166	長頸壺 須恵器	B (4.3)	体部上半から頸部片。頸部は外傾して立ち上がる。	頸部内面ロクロナデ。体部内面横ナデ。頸部，体部外面自然釉付着。	長石，暗灰黄色 (釉)暗オリーブ 普通	10% PL21
164	長頸瓶 灰釉陶器	A [10.4] B (1.1)	口縁部片。口縁部は断面三角形。	外面釉。	胎土：灰白色 釉調：うす緑色 良好	5% 黒笹90号窯式
163	蓋 三彩陶器	A [4.6] B 1.4 C 1.4 G 0.6	つまみから口縁部片。天井部は平坦で1条の沈線が巡り，ボタン状のつまみが付く。口縁部は短く折り返されている。	口縁部，外周内・外面ロクロナデ。	胎土：浅黄橙色 釉調：オリーブ黄色 暗赤褐色 良好	50% PL21
168	天目茶碗 陶器	A [9.6] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	ロクロ成形。内・外面鉄釉。	胎土：浅黄橙色 釉調：黒褐色 良好	10% 16C前代
167	竈鍔 土師質土器	A [29.4] B 2.6 C [25.6]	羽釜の鍔を受ける部分は水平で，断面形は逆L字形である。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	10% PL21

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 TP5	甕 須恵器	B (9.3)	体部片。外面横位の平行叩き。	長石・雲母 灰白色 普通	10% PL23
TP8	甕 須恵器	B (4.6)	口縁部片。外面に3本単位の櫛歯状工具による波状文が施されている。	長石・雲母 灰色 普通	5% PL23
TP41	甕 須恵器	B (6.5)	体部片。外面同心円の叩き。内面ナデ。	長石・雲母 灰色 普通	5% PL23
TP42	甕 須恵器	B (7.5)	体部片。外面同心円の叩き。内面ナデ。	長石・雲母 灰白色 普通	5% PL23
TP43	甕 須恵器	B (4.8)	体部片。外面同心円の叩き。内面ナデ。	長石・雲母 灰白色 普通	5% PL23

図版番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	重量(g)		
第66図DP4	瓦塔	(3.3)	(3.6)	(2.0)	(16.4)	屋蓋部片	PL24
DP5	瓦塔	—	(3.9)	(3.0)	(33.5)	屋蓋部片	PL24

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第67図Q48	剥片	4.3	2.6	0.9	5.6	黒曜石	薄手の縦長剥片	PL25
第66図Q57	石鏃	1.9	1.4	0.5	0.8	チャート	凹基無茎鏃	PL26
Q58	石鏃	3.2	(1.6)	0.7	(1.9)	チャート	凹基無茎鏃	PL26

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第67図Q59	紡錘車	3.8	1.8	0.8	34.8	滑石	逆台形状 側面に連続した「人」の線刻	PL26

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第67図Q60	敲石	9.2	5.4	4.9	334.5	安山岩	磨石兼用	
Q61	磨石	(4.9)	7.1	4.0	(168.8)	安山岩	側面使用	
Q62	石核	10.6	5.3	7.3	447.8	黒曜石	神津島産	

図版番号	器種	計測値					石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	重量(g)			
第67図Q66	双孔円板	2.5	2.3	0.3	2.7	2.7	滑石	孔が2つ空く	

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	装着部径(cm)	重量(g)			
第67図M11	煙管	全長(3.6)	0.8	0.8	(3.4)	鉄	雁首部 火皿部欠損	

図版番号	器種	計測値				初鋳年		備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	時代	年号(西暦)	
第67図M12	寛永通寶	2.4	0.1	0.5×0.5	3.9	江戸	寛永13年(1636年)	
M13	寛永通寶	2.5	0.1	0.6×0.6	3.6	江戸	寛永13年(1636年)	

図版番号	器　種	計　測　値				初　鋳　年		備　　考
		径　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	時　代	年　号　(西　暦)	
第67図M14	寛永通寶	2.5	0.1	0.6×0.6	4.6	江　戸	寛永13年(1636年)	
M15	寛永通寶	2.4	0.1	0.5×0.5	3.4	江　戸	寛永13年(1636年)	
M16	寛永通寶	2.5	0.1	0.6×0.6	(1.7)	江　戸	寛永13年(1636年)	

表2　竪穴住居跡一覧表

住居番号	位置	主軸方向(長径方向)	平面形	規模(m) 長軸×短軸(長径×短径)	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	時期	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	炉・竈	補助柱穴	不明ピット				
1	B2i5	[N-82°-E]	[長方形]	5.22×(2.91)	8～36	凹凸	一部	1	−	−	1	1	自然	古墳時代中期	土師器	本跡→TM-1
2	B2i3	[N-72°-W]	[長方形]	(3.03)×4.46	35～49	平坦	一部	2	−	竈	−	灰溜1	人為	8世紀後葉	土師器,須恵器,墨書土器,土製支脚,石製勾玉・管玉,刀子,鉄滓	
3	B2f3	N-18°-W	長方形	4.62×3.40	27～35	平坦	一部	3	−	竈	1	−	人為	9世紀前葉	土師器,須恵器,墨書土器,鉄滓	
4	B2g5	[N-19°-E]	[楕円形]	[4.94]×[4.26]	−	平坦	−	6	−	炉	8	2	−	縄文時代前期	縄文土器片,磨石	
5	B2d1	[N-52°-W]	長方形	3.76×3.17	16～40	平坦	一部	4	−	竈	2	灰溜1	人為	9世紀前葉	土師器,須恵器,鉄滓	
6	B1b9	[N-63°-E]	[長方形]	[3.58]×[2.80]	−	平坦	−	2	−	[竈]	−	2	−	平安時代	土師器	
7	B2c1	N-70°-E	方形	3.68×3.62	24～30	平坦	一部	2	1	竈2	1	−	人為	9世紀前葉	土師器,須恵器,鉄鎌,鉄滓	
8	B2c2	N-45°-W	方形	3.54×3.26	12～15	平坦	−	2	1	竈	2	1	人為	8世紀後葉	土師器,須恵器,鉄滓	
9	A2j4	N-17°-E	方形	3.12×3.08	35～40	平坦	−	4	1	竈	5	−	人為	9世紀前葉	土師器,須恵器	SI-15→本跡→SK-51・52
10	B2a4	N-5°-W	長方形	4.28×3.39	22～35	平坦	全周	−	1	竈	−	−	自然	9世紀前葉	土師器,須恵器,墨書土器,土製支脚	本跡→SK-4
11	A2j6	N-4°-W	方形	3.52×3.42	40～55	平坦	一部	1	1	竈	−	−	人為	8世紀後葉	土師器,須恵器	出入り口施設
12	B2e2	N-22°-W	[方形]	(4.32)×4.08	10～18	平坦	一部	2	1	竈	1	6	人為	9世紀前葉	土師器,須恵器,鉄滓	SI-16→本跡→SI-13・14
13	B2e3	N-68°-W	方形	4.43×4.02	30～35	平坦	全周	1	−	竈	1	4	自然	9世紀前葉	土師器,須恵器,墨書土器	SI-12→本跡→SI-14
14	B2e2	不明	不明	不明	−	平坦	−	−	−	−	−	1	−	平安時代	土師器,須恵器	SI-12・13→本跡
15	A2j3	−	[円形]	径[5.53]	−	平坦	−	16	−	炉	5	−	−	縄文時代	礫	SI-18→本跡→SI-9,SK-13・16
16	B2e1	[N-25°-W]	[長方形]	3.38×(2.01)	14～20	平坦	全周	−	−	竈	−	−	自然	8世紀後葉	土師器,須恵器,墨書土器	本跡→SI-12
17	A2g4	−	[円形]	[5.08]×[4.70]	−	平坦	−	15	−	−	−	−	−	縄文時代		本跡→SI-20,SK-23・25
18	B2a3	[N-29°-E]	[楕円形]	[4.80]×[4.22]	−	平坦	−	14	−	−	1	−	−	縄文時代		本跡→SI-15,SK-13
19	B2b7	N-4°-W	方形	4.57×4.39	30～45	平坦	一部	2	−	竈	−	2	自然	8世紀後葉	土師器,須恵器	本跡→SK-49
20	A2h3	−	[円形]	[4.54]×[4.42]	−	平坦	−	11	−	−	1	−	−	縄文時代		SI-17→本跡→SK-20A・20B・23
21	A2h6	[N-44°-E]	[楕円形]	3.62×(2.48)	12～16	平坦	−	9	−	−	7	−	自然	縄文時代	剥片,礫	本跡→SK-38
22	A2i4	−	[円形]	[5.06]×[4.95]	−	平坦	−	11	−	−	6	−	−	縄文時代	縄文土器片,礫	
23	B2h7	N-3°-E	方形	7.30×6.90	35～53	平坦	全周	4	1	竈	7	1	人為	古墳時代後期	土師器,須恵器,砥石,墨書土器,鉄滓	SK-60→本跡
24	B2b6	N-58°-W	楕円形	4.48×3.91	7～12	平坦	−	11	−	炉	4	−	人為	縄文時代前期末	縄文土器片,磨石,礫	
25	D2g9	[N-83°-W]	[長方形]	2.39×(1.78)	28～32	平坦	−	−	−	竈	−	−	自然	古墳時代後期	土師器	本跡→SX-1
26	B2d7	N-66°-E	方形	5.39×5.08	38～53	平坦	−	4	−	竈	−	−	人為	古墳時代後期	土師器,須恵器,砥石,紡錘車,土製小玉	本跡→SI-28
27	B2c8	N-7°-E	長方形	4.62×3.98	45～60	平坦	一部	2	−	竈	−	−	自然	9世紀前葉	土師器,須恵器,墨書土器,石製紡錘車,砥石,鉸具	
28	B2e8	N-10°-E	方形	4.80×4.66	45～50	平坦	一部	2	1	竈	−	1	自然	9世紀前葉	土師器,須恵器,鉄滓	SI-26→本跡

表3　土坑一覧表

土坑番号	位置	長軸方向(長径方向)	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係（古→新）
1	B2g4	N-6°-W	楕円形	1.30 × 1.08	26	緩斜	平坦	自然		
2	B2g2	N-82°-W	楕円形	1.28 × 1.10	25	外傾	平坦	自然		
3	B2h5	N-28°-W	楕円形	1.94 × 1.62	24	緩斜	平坦	自然		
4	B2b5	N-77°-W	楕円形	2.17 × 1.69	60	外傾	平坦	自然	土師器，須恵器	SI-10→本跡
5	B2a6	N-30°-W	不定形	1.61 × 1.40	40	外傾	平坦	人為	土師器，須恵器	
6	A2i7	N-41°-W	楕円形	1.61 × 1.24	16	緩斜	平坦	自然	土師器	
7	A2i6	N-11°-W	楕円形	1.33 × 1.19	23	緩斜	平坦	自然		
8	A2i5	N-44°-E	楕円形	1.11 × 0.82	20	外傾	平坦	自然		
9	B2b2	N-58°-E	楕円形	1.13 × 0.87	25	外傾	平坦	人為		
10	B1a9	N-52°-E	不定形	1.46 × 1.33	76	フラスコ状	平坦	人為		
11	A2j3	－	円形	0.81 × 0.75	25	緩斜	皿状	自然		
13	B2a3	－	円形	0.58 × 0.52	24	緩斜	平坦	人為		SI-18→本跡
14	A1i6	－	円形	0.80 × 0.77	21	緩斜	皿状	自然		
15	A1g8	[N-50°-E]	[楕円形]	0.65 ×(0.53)	16	緩斜	凹凸	自然		
16	A2j3	N-3°-E	楕円形	1.04 × 0.65	45	外傾	皿状	自然		SI-15→本跡
17	A2g2	N-7°-E	楕円形	1.01 × 0.85	25	緩斜	平坦	自然		
18	A2g1	－	円形	1.62 × 1.50	18	緩斜	平坦	自然		
19	B2f1	－	円形	径 1.30	20	緩斜	凹凸	人為		
20A	A2h3	N-2°-E	楕円形	1.97 × 1.00	53	緩斜	平坦	自然	土師器	SK-20B→本跡
20B	A2h2	[N-86°-W]	[楕円形]	1.10 ×(0.96)	43	緩斜	平坦	自然		本跡→SK-20A
21	A2g2	N-73°-E	楕円形	2.78 × 1.27	20	緩斜	平坦	自然	土師器，須恵器	
22	A2i5	－	円形	径 1.02	27	緩斜	皿状	人為		
23	A2h3	N-49°-E	楕円形	2.08 × 1.72	45	外傾	平坦	自然		
25	A2g4	N-42°-W	長方形	2.00 × 1.15	26	緩斜	平坦	人為		
26	A2f4	－	円形	径 1.05	37	緩斜	平坦	自然		
27	A2f4	N-75°-W	不定形	1.13 × 0.94	17	緩斜	平坦	自然		
28	A2f4	－	円形	径 0.85	38	緩斜	平坦	自然		
29	A2e4	N-23°-W	楕円形	1.08 × 0.63	35	緩斜	平坦	自然		
30	A2f3	N-35°-W	楕円形	1.19 × 0.92	15	緩斜	平坦	自然	土師器	
31	A2g5	－	円形	径 0.46	25	外傾	皿状	自然	土師器	
32	A2h5	N-15°-W	楕円形	1.63 × 1.30	45	緩斜	平坦	自然	土師器	
33	A2i5	N-84°-W	楕円形	1.13 × 0.90	10	緩斜	凹凸	自然		
34	A2f2	N-65°-W	楕円形	1.00 × 0.56	22	緩斜	平坦	自然		
35	A2f1	－	円形	0.80 × 0.73	28	外傾	平坦	自然		
36	A2f1	N-54°-W	楕円形	0.76 × 0.63	24	外傾	平坦	自然		
37	A2f1	N-72°-E	楕円形	1.00 × 0.74	15	緩斜	凹凸	自然		
38	A2h6	N-54°-E	楕円形	1.00 × 0.83	16	緩斜	平坦	自然		SI-21→本跡
39	B2d5	－	円形	1.40 × 1.30	45	緩斜	平坦	自然	土師器	
40	B2d4	－	円形	1.25 × 1.13	15	緩斜	平坦	自然	土師器	
41	B2e6	－	円形	0.82 × 0.74	15	緩斜	平坦	自然	土師器	SK-42→本跡
42	B2e6	N-17°-W	不定形	1.50 × 1.37	30	緩斜	平坦	人為		本跡→SK-41
43	B2g6	N-45°-W	楕円形	1.95 × 1.66	35	外傾	平坦	自然	土師器	SK-44→本跡
44	B2g6	[N-2°-E]	[長方形]	(3.10)× 1.27	18	外傾	平坦	自然	土師器	本跡→SK-43
45	B2d5	N-4°-W	楕円形	2.35 × 1.96	18	外傾	平坦	自然		
46	B2e5	[N-12°-W]	[楕円形]	1.81 ×(1.44)	20	緩斜	平坦	自然	土師器	SK-47→本跡

土坑番号	位置	長軸方向（長径方向）	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係（古→新）
47	B2e5	[N-24°-W]	[楕円形]	(1.52)×(1.04)	22	外傾	平坦	自然	土師器	SK-50→本跡→SK-46
48	B2c5	N-28°-W	楕円形	1.25 × 0.84	45	外傾	皿状	人為	土師器	
49	B2b6	N-75°-W	楕円形	1.50 × 1.25	40	外傾	平坦	自然		SI-19→本跡
50	B2e5	[N-24°-W]	[楕円形]	0.70 ×(0.48)	12	外傾	平坦	自然		本跡→SK-47
51	A2j5	N-20°-E	楕円形	1.75 × 1.40	22	外傾	平坦	自然	土師器	SI-9→本跡
52	B2a5	N-47°-W	楕円形	1.46 × 1.25	42	外傾	平坦	自然		SI-9→本跡
54	B2i4	N-13°-W	楕円形	0.95 × 0.80	25	外傾	平坦	自然		
55	B2a5	−	円形	径 0.90	33	外傾	平坦	自然		
56	B2a5	−	円形	径 0.90	32	外傾	平坦	自然		
57	B2a6	N-2°-W	楕円形	1.04 × 0.94	27	緩斜	平坦	自然		
58	B2c6	N-60°-E	楕円形	1.44 × 1.13	38	外傾	皿状	人為		
59	D2f9	N-22°-E	楕円形	2.24 × 0.90	33	緩斜	皿状	自然		
60	B2i7	[N-7°-E]	[楕円形]	1.64 ×(1.49)	57	外傾	平坦	人為		本跡→SI-23

表4　溝一覧表

溝番号	位置	主軸方向	形状	規模 長さ(m)	規模 上幅(m)	規模 下幅(m)	規模 深さ(cm)	断面	底面	方位	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古→新)
1	A2c4	N-70°-E	直進状	(3.80)	(1.20)	(0.55)	(36)	逆台形状	[平坦]	西→東	自然		
2	D2i0～D3i4	N-86°-W	直進状	(17.10)	0.50～0.60	0.30～0.40	48	∪字状	平坦	西→東	自然	土師器，須恵器	
3	A1h6～A2c3	N-70°-E N-56-°W	Tの字状	南西～北東(32.7) 南東～北西(10.5)	0.90～1.30	0.30～0.50	12	緩やかな∪字状	平坦	南西→北東 南東→北西	自然	土師器，須恵器	

第4節　ま　と　め

今回の調査によって，当遺跡から旧石器集中地点１か所，縄文時代の竪穴住居跡８軒，炉穴１基，古墳時代の竪穴住居跡４軒，土坑１基，奈良・平安時代の竪穴住居跡16軒，ピット群１か所，中世の塚１基，土壙墓１基，時期及び性格不明の土坑58基，不明遺構１基，溝３条を検出した。また，出土した遺物は，旧石器時代の石器から近世の古銭・鉄製品と多時期及び多種にわたっている。ここでは，主としてそれぞれの時期の検出した遺構と遺物について概要を述べ，まとめとする。

1　旧石器時代

調査区は，調査Ａ区の北部及び中央部の標高21mの台地平坦部に立地する。当遺跡からは，ナイフ形石器を伴う石器集中地点１か所が確認された。以下，石器集中地点及び表面採集等で確認された石器について述べることにする。

今回の調査で出土した石器類を器種別に分類すると，剥片が25点で全体の55％を占める。次にナイフ形石器５点，石核５点，礫３点，サイドスクレイパー・握斧・チップ各１点ずつである。石材別に分類すると，頁岩が10点で全体の22％を占める。次にガラス質黒色安山岩８点，流紋岩７点，チャート６点，黒曜石６点（信州系３点，高原山産３点），瑪瑙３点，ホルンフェルス３点，石英片岩１点，硬砂岩１点である。製品としての石器が少なく，剥片が多く出土していることから，石器製作跡と考えられる。

周辺遺跡では，小野川右岸で当遺跡の南西約２kmに所在する茎崎町大井五十塚古墳群内遺跡の前方後円墳の周溝内から縦長の刃器が出土している。小野川左岸では，当遺跡の南東約3.5kmに所在する牛久市中久喜遺跡から，頁岩のナイフ形石器が出土している[1)]。当遺跡も含め石材としては，信州系及び高原山産の黒曜石があり，石器製作のため遠距地から石材を手に入れ使用していることから，他地域との密な関係があったと思われる。

2　縄文時代

当遺跡の周辺には，小野川及び稲荷川沿いに多数の縄文時代の遺跡が確認されている。

当遺跡では，調査Ａ区の中央部から竪穴住居跡８軒，炉穴１基を検出した。遺構内からの出土遺物が少なく，時期決定ができたのは，第４・24号住居跡・第１号炉穴のみで，他は時期不明である。

・縄文時代早期前葉（夏島式期）……第１号炉穴

・縄文時代前期後葉（興津式期）……第４号住居跡

・縄文時代前期末～中期初頭（粟島台式期）……第24号住居跡

遺構に伴わない遺物で確認できた時期は，縄文時代前期前葉（黒浜式期），前期後葉（諸磯ｂ式期），後期中葉（加曽利Ｂ式期），晩期前葉（大洞ＢＣ式期）である。その他，石鏃・敲石・磨石等が出土している。

周辺遺跡では，稲荷川沿いに縄文時代前期及び中期の遺跡が確認されている。小野川沿いでは，当遺跡を含め左岸に所在する馬場遺跡で前期[2)]，東山遺跡で早期[3)]，ヤツノ上遺跡で後・晩期の遺構が検出されている[4)]。

当遺跡は，小野川の右岸に所在しており前述のように左岸も含め，継続的ではないものの，早期前葉から晩期前葉までの長い間，生活の場として利用されたことがうかがえる。

3　古墳時代

当遺跡の周辺では，小野川沿いに多数の古墳群及び集落跡が確認されている。特に，小野川左岸に多く見ら

れる。

当遺跡では，調査Ａ区の南部から竪穴住居跡３軒，土坑１基，調査Ｂ区から竪穴住居跡１軒を検出した。

・５世紀後半……第１号住居跡

・６世紀前半……第26号住居跡

・６世紀末～７世紀初……第23号住居跡

・７世紀代……第25号住居跡

調査Ａ区とＢ区は，直線距離で50mほど離れているが，両区とも台地の縁辺部から緩やかに傾斜する位置から検出されていることから，この時期の集落が営まれていたと考えられる。

周辺遺跡では，当遺跡から南西約２kmに所在する大井五十塚古墳群内遺跡で，前方後円墳２基，円墳９基以上が確認されており，そのうち５・８・10号墳が調査されている。時期は６世紀後半頃と考えられており，当遺跡で確認された集落との関係も考えられる。小野川左岸では，牛久市中久喜遺跡で古墳時代中・後期，馬場遺跡で中・後期，行人田遺跡で前期[5]，東山遺跡で中期，ヤツノ上遺跡で中期，中下根遺跡で中期[6]，西ノ原遺跡で中・後期[7]，隼人山遺跡で中期の遺構が検出されている[8]。

遺物としては，第２号住居跡から石製の勾玉２点，管玉１点が出土している。周辺の古墳との関係が考えられる。土器としては，６世紀末～７世紀初頭の須恵器坏身１点，７世紀代の須恵器小型壺１点が表面採集されている。

当遺跡は，前述のように古墳時代中期から後期まで継続的に集落が営まれたことがうかがえる。

４　奈良・平安時代

当遺跡のある小野川右岸では，当該期の遺跡は存在するものの未調査のものが多く，左岸では牛久市中久喜遺跡等で集落跡が確認されている。

当遺跡では，調査Ａ区から竪穴住居跡16軒，ピット群１か所を検出した。今回の調査で検出された竪穴住居跡28軒中16軒がこの時期であり，当遺跡の中心となる時期でもある。時期は８世紀後葉から９世紀前葉の２期に分けることができる。

Ⅰ期　（８世紀後葉）……第２・８・11・16・19号住居跡

Ⅱ期　（９世紀前葉）……第３・５・７・９・10・12・13・27・28号住居跡

平安時代……第６・14号住居跡

当遺跡を含む周辺地域は，平安時代中期に著された『和名類聚抄』の記載に見られる「常陸国河内郡河内郷」に含まれるものと推定されている。周辺遺跡では，小野川右岸については不明であるが，左岸では牛久市中久喜遺跡，馬場遺跡，東山遺跡，ヤツノ上遺跡，行人田遺跡，中下根遺跡，隼人山遺跡等で合計30軒ほど住居跡が検出されている。上記のことから，この時期には，古墳時代に続き継続的に集落が営まれていたことがうかがえる。以下，特徴ある遺構と遺物について述べてみたい。

（１）コーナー竈について

当遺跡からは，「コーナー竈」と呼ばれる住居のコーナー部に竈が付設された住居跡が５軒検出された。Ⅰ期の第２・８号住居跡では，南東コーナー部から検出された。Ⅱ期の第５住居跡では，北西コーナー部から，第７・13号住居跡では，南東コーナー部から検出された。検出された５軒中４軒は，南東コーナー部に竈が付設されていた。住居跡の規模は，第19号住居跡が長軸4.80m，短軸4.66mと当遺跡の中では一番大型である。第13号住居跡は長軸4.43m，短軸4.02mとやや大型であるのに対し，他はいずれも長軸が3.50m前後，短軸が

3.00m前後であることから，小型の住居跡に「コーナー竈」が付設されているという特徴がある。

（2）出入り口施設について

第11号住居跡において，南壁中央部から壁外へ張り出した階段が検出された。今回の調査では，階段はこの1軒のみであり注目される。階段はテラス状の硬化面2段を有している。[9)]

「出入り口施設」については，高橋泰子氏が下記のように4分類している。

・張り出しタイプ　・ステップタイプ　・階段タイプ（盛土）　・階段タイプ（張り出し）

上記の分類からすると，当遺跡から検出された第11号住居跡は，階段タイプ（張り出し）に当てはまる。

（3）鍛冶工房跡について

今回の調査で，鍛冶工房跡は検出されなかったが，調査A区の南西部を中心に第2・3・5・7・8・12・16号住居跡の7軒から鉄滓が検出された。第5・7号住居跡からは小片ではあるが羽口も出土している。時期は8世紀後葉から9世紀前葉である。出土した遺物から，当遺跡周辺に鍛冶工房があった可能性が考えられる。

（4）遺物について

今回の調査で，第5表のように14点の墨書土器が出土した。「上家」8点，「×寺」2点，「上寺」1点，「馬方」1点，「厲方」1点，「上」1点である。その他，瓦塔片2点，灯明具として使用された坏5点（土師器4点，須恵器1点），鉄鉢形土器2点（須恵器・土師器）が出土している。仏堂的な建物跡は検出されなかったが，8世紀後葉の住居跡から出土した「×寺」の墨書土器等から，8世紀後葉にはこの地に仏教信仰が浸透したものと思われ，村落内寺院の存在も考えられる。

その他特徴ある遺物としては，第27号住居跡から鉄製鉸具1点が出土している。その他，三彩陶器蓋1点，須恵器円面硯1点，灰釉陶器長頸瓶1点が表面採集されている。他地域との流通を考えるうえで興味深い遺物である。

表5　墨書土器一覧表

番号	釈文	墨書部位	器種	遺構番号	備考
1	馬　方	底部外面	須恵器　坏	第23号住居跡	6世紀末～7世紀初　住居廃絶後の投棄
2	上　家	底部外面	須恵器　坏	第2号住居跡	8世紀後葉
3	×　寺	底部外面	須恵器　坏	〃	
4	×　寺	底部外面	須恵器　坏	第3号住居跡	9世紀前葉
5	上　家	底部外面 体部外面（横位）	須恵器　坏	第10号住居跡	9世紀前葉
6	上　家	底部外面	須恵器　坏	〃	
7	上　家	底部外面	須恵器　高台付坏	〃	
8	上　家	底部外面	須恵器　盤	〃	
9	上	底部外面	須恵器　高台付坏	〃	
10	上　寺	底部外面	須恵器　坏	第13号住居跡	9世紀中葉
11	厲　方	底部外面	須恵器　坏	第16号住居跡	8世紀後葉
12	上　家	底部外面	須恵器　坏	第27号住居跡	9世紀前葉
13	上　家	底部外面	須恵器　高台付坏	〃	
14	上　家	底部外面	須恵器　坏	第1号ピット群	8世紀後葉

5　中　世

当遺跡の南西に約5.5kmの稲荷川沿いに，1396年に築城されたといわれている下岩崎泊崎城等がある。

当遺跡からは，土壙墓１基，塚１基が検出されている。時期はいずれも16世紀代である。第１号土壙墓からは人骨１体分，瀬戸・美濃系の端反皿１点，火打金１点，火打石１点，古銭６枚が出土している。墓は１基のみの検出であるが，16世紀前葉には墓域として利用され，後半には信仰の対象とされた可能性が考えられる。

6　近世以降

当遺跡からは，遺構は検出されなかったが，古銭（寛永通寶），煙管等の遺物が出土している。

以上まとめると，今回の調査で，旧石器時代から中世までの人々の生活の痕跡を確認することができた。旧石器時代及び縄文時代は狩猟の場として利用され，その後，古墳時代中期から後期にかけて小集落が形成されていたことがうかがえる。奈良・平安時代には大規模な集落が形成され，ピークを迎えたと思われる。９世紀中葉から15世紀後葉までは，人々の住んでいた形跡が見られなくなり，土壙墓が検出されたことから16世紀代前半には墓域として使用されていた可能性が考えられる。これらのことから，当遺跡は，旧石器時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明した。

註

1)　茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）　中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第86集　1993年９月

2)　茨城県教育財団「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）　馬場遺跡　行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第106集　1996年３月

3)　茨城県教育財団「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）　東山遺跡『茨城県教育財団文化財調査報告』第101集　1995年３月

4)　茨城県教育財団「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　ヤツノ上遺跡『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集　1993年３月

5)　2)に同じ

6)　茨城県教育財団「牛久東下根特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　中下根遺跡　西ノ原遺跡　隼人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第113集　1996年６月

7)　6)に同じ

8)　6)に同じ

9)　高橋泰子「梯子以外の出入口施設 ―出入口施設は梯子だけではない―」『土壁 創刊号』考古学を楽しむ会　1997年５月

高橋泰子「盛土施設の硬化状況観察 ―盛土を施す出入口施設の検討に向けて―」『土壁 第２号』考古学を楽しむ会　1998年５月

参考文献

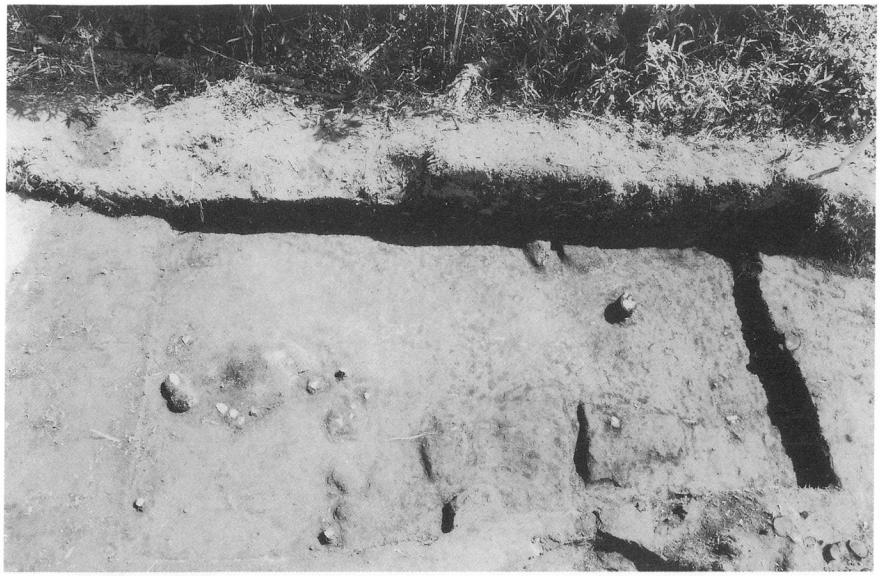
・茎崎村教育委員会『茎崎村史』　1973年３月

・茎崎町史編さん委員会『茎崎町史』　1990年３月

写　真　図　版

下大井遺跡遠景

A区遺構確認状況

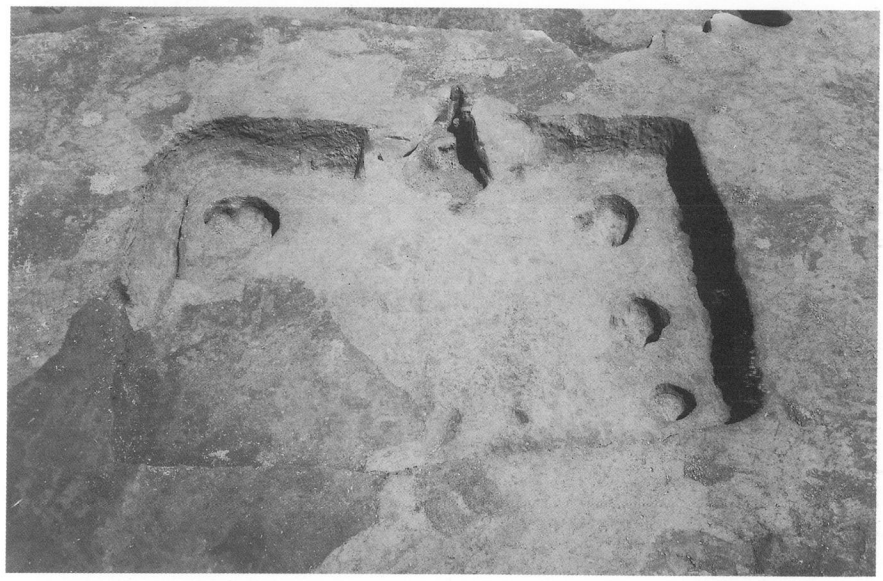


第１号住居跡
遺物出土状況

第２号住居跡
完 掘 状 況

第２号住居跡
遺物出土状況

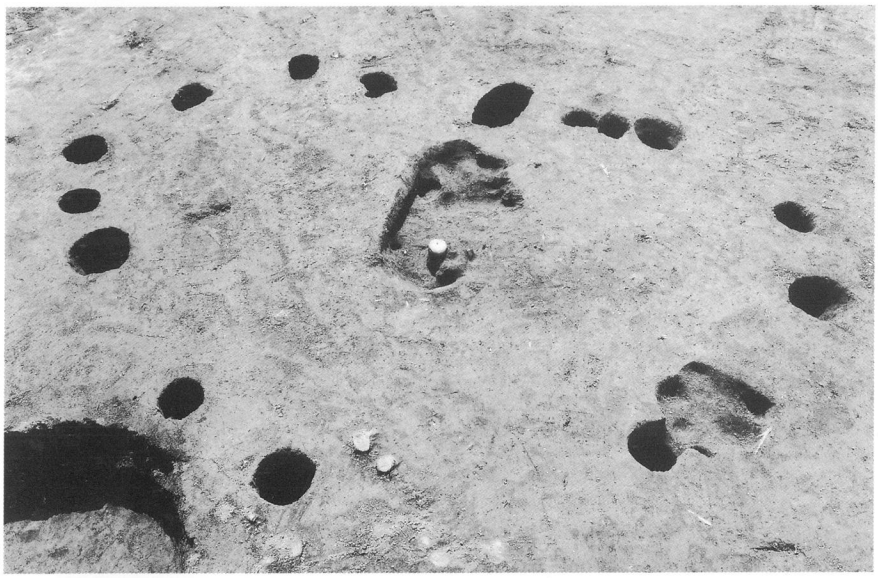
第 2 号 住 居 跡
竈内遺物出土状況



第 3 号住居跡
完 掘 状 況

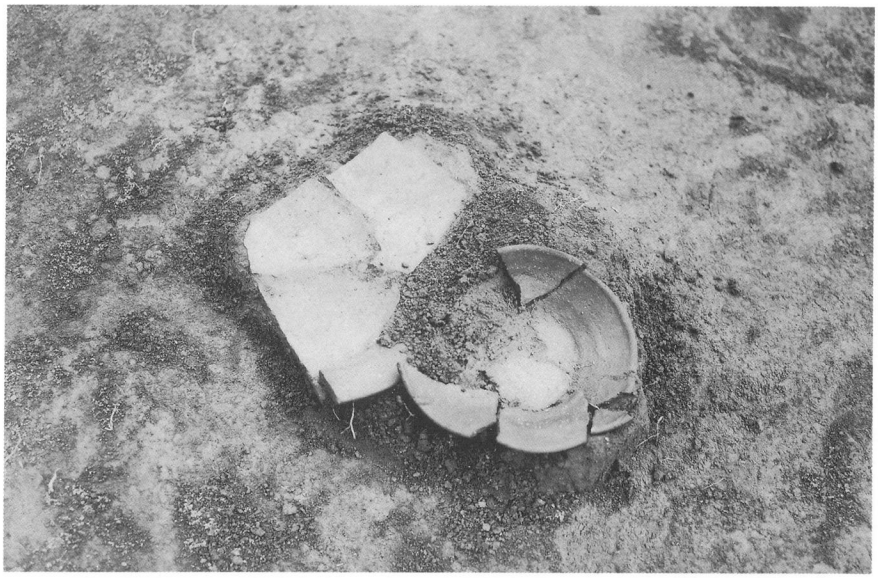
第 3 号住居跡
遺物出土状況

第 3 号 住 居 跡
竈内遺物出土状況

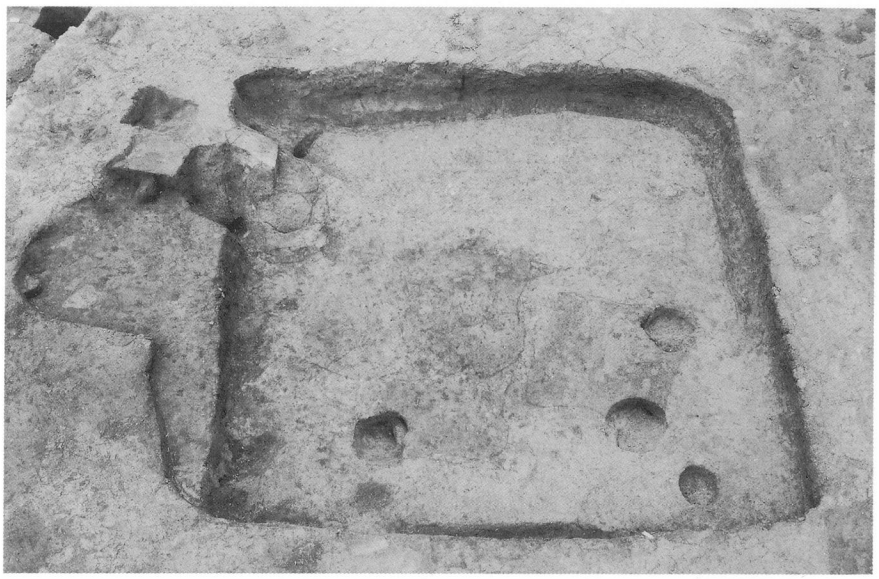


第 4 号住居跡
完 掘 状 況

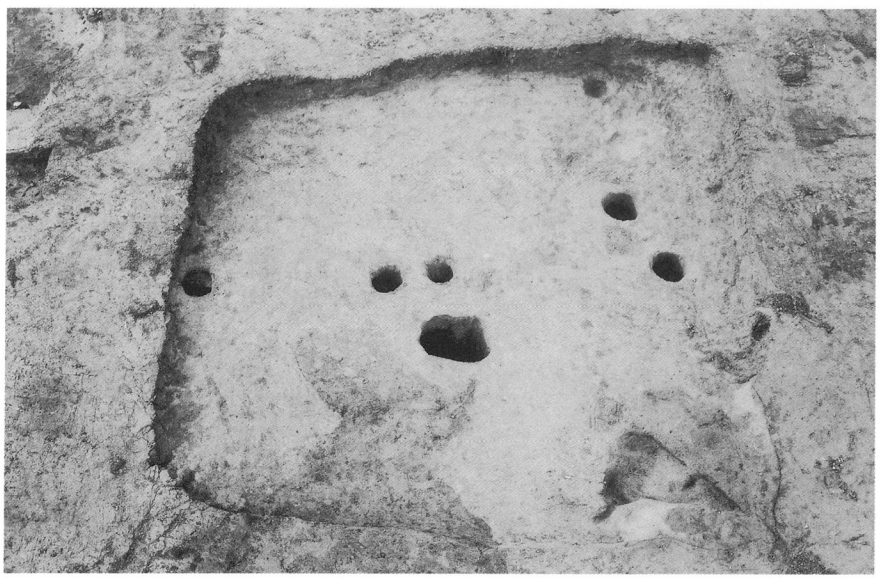
第 5 号住居跡
完 掘 状 況



第５号住居跡
遺物出土状況

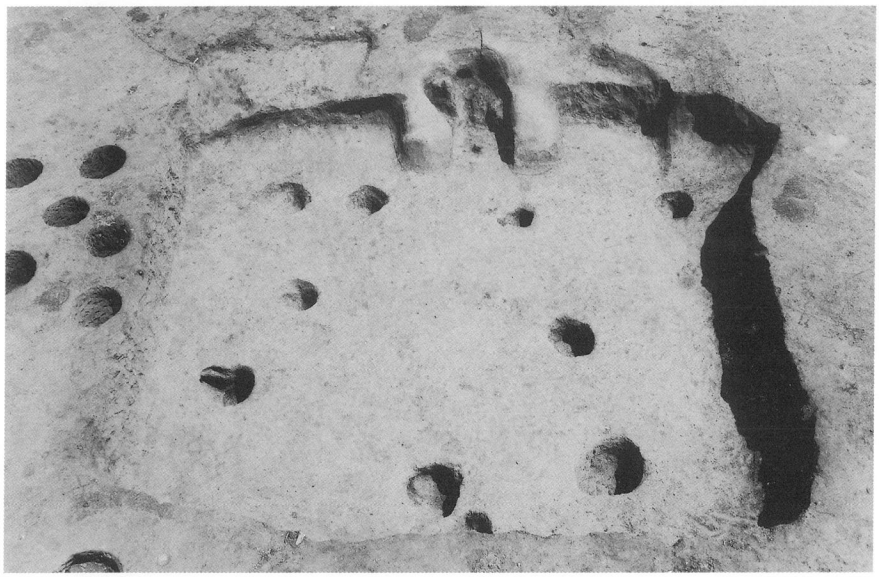


第７号住居跡
完 掘 状 況



第８号住居跡
完 掘 状 況

第 8 号住居跡
遺物出土状況



第 9 号住居跡
完 掘 状 況

第 9 号住居跡
遺物出土状況

第 9 号 住 居 跡
竈内遺物出土状況

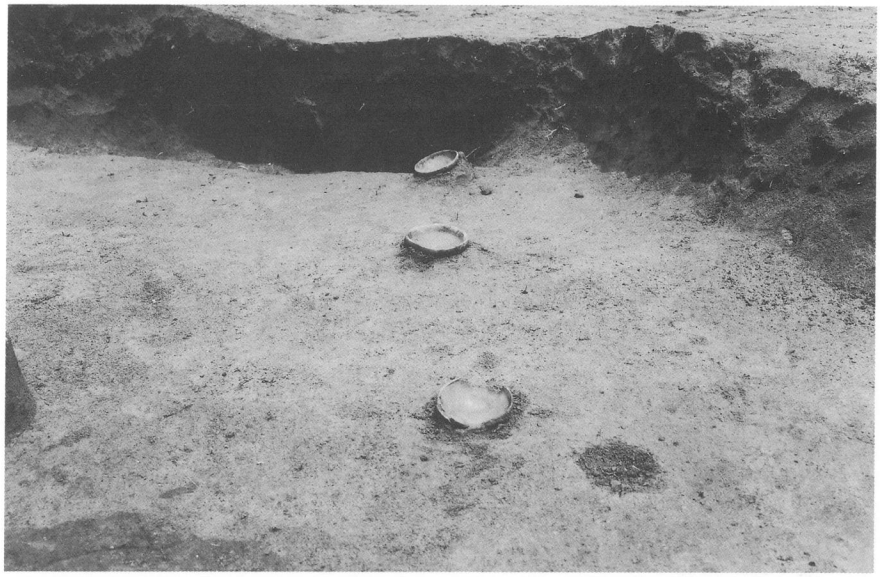
第10号住居跡
遺物出土状況

第11号住居跡
完 掘 状 況

第 11 号 住 居 跡
出入り口施設完掘状況

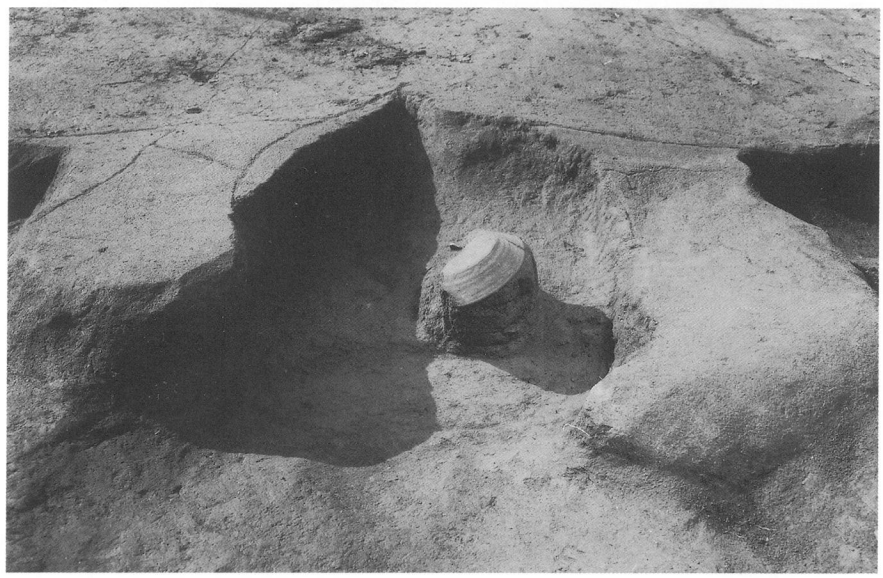
第 11 号 住 居 跡
出入り口施設完掘状況

第12・13・14号住居跡
完　掘　状　況

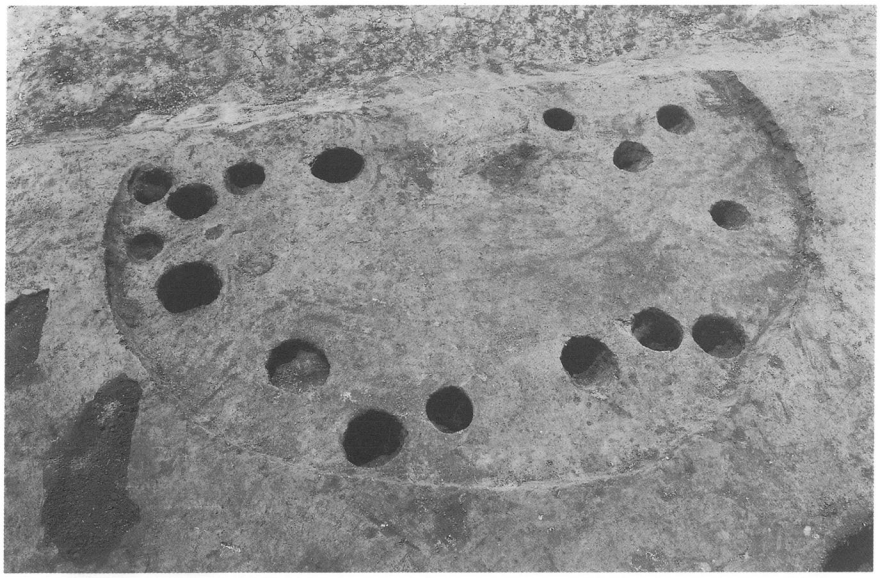


第13号住居跡
遺物出土状況

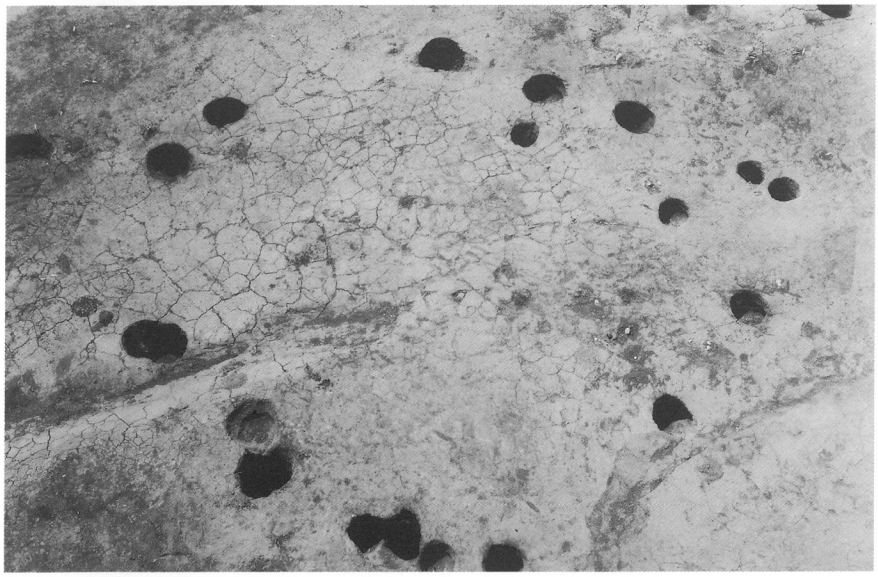
第16号住居跡
完 掘 状 況



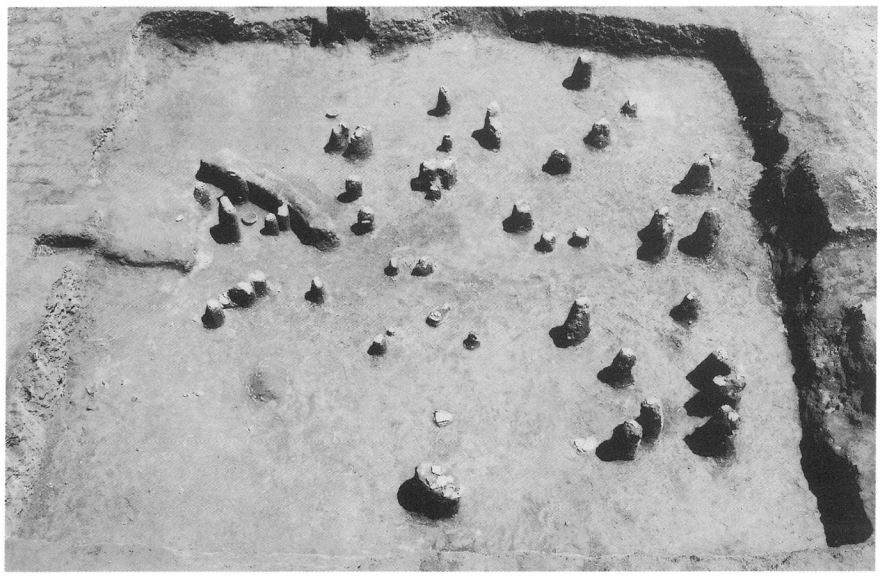
第 16 号 住 居 跡
竈内遺物出土状況



第21号住居跡
完 掘 状 況

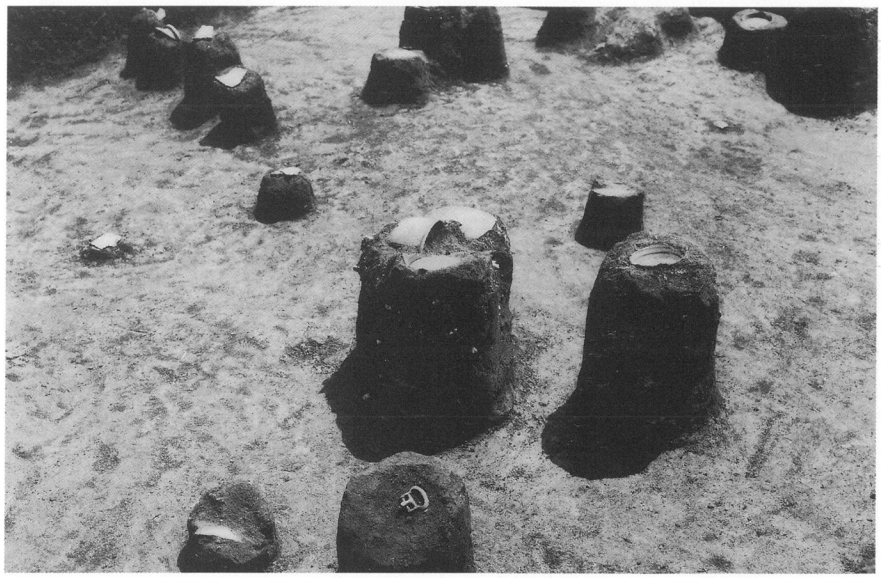


第22号住居跡
完 掘 状 況

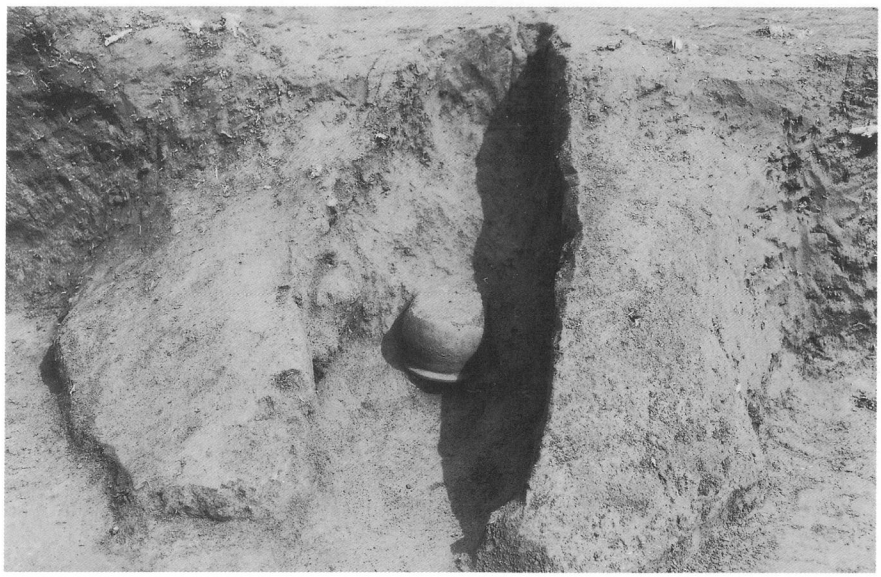


第23号住居跡
遺物出土状況

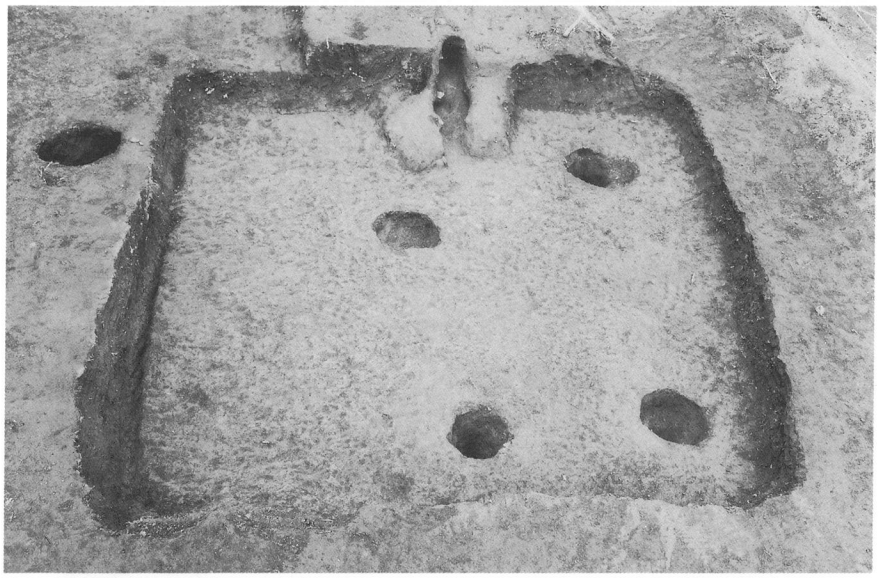
第26・27・28号住居跡
完　掘　状　況



第27号住居跡
遺物出土状況



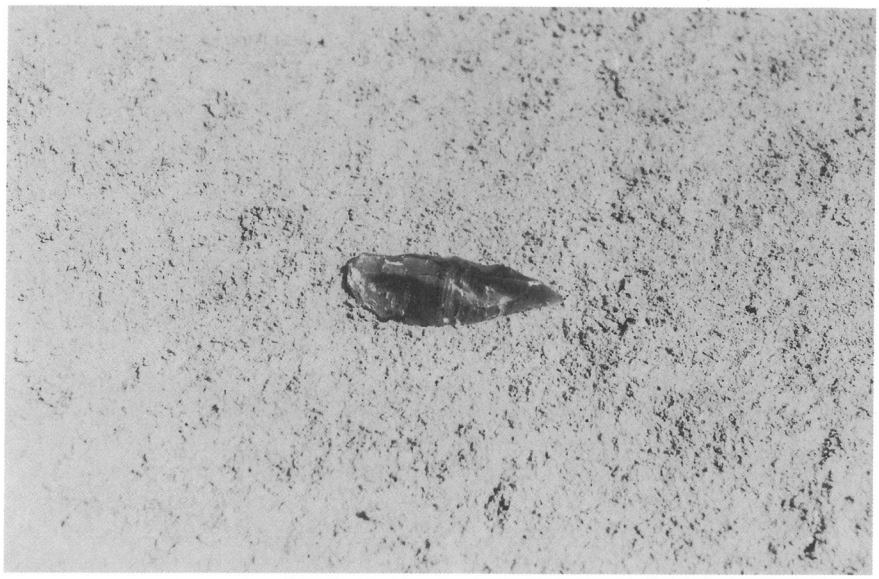
第27号住居跡
竈内遺物出土状況



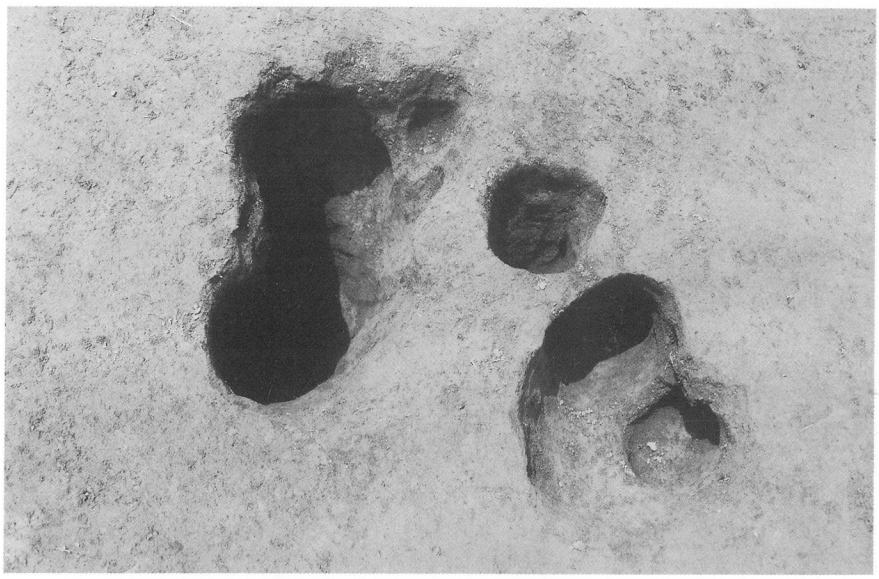
第28号住居跡
完 掘 状 況

第28号住居跡
遺物出土状況

旧　石　器
グリット調査状況

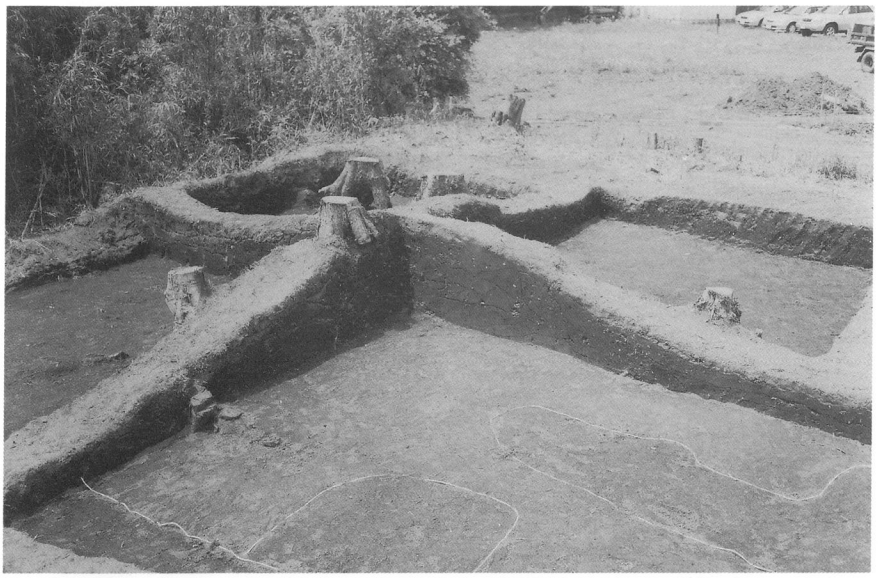


旧石器出土状況



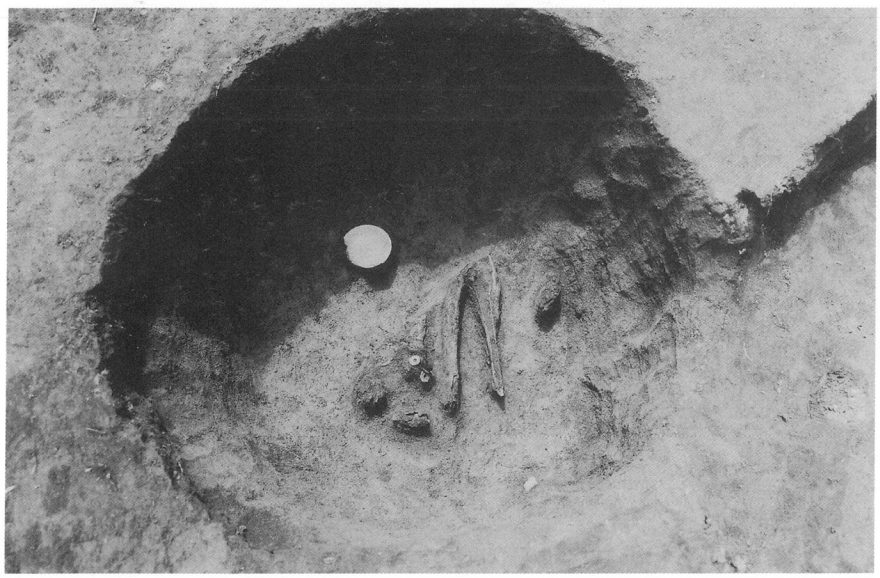
第１号ピット群
完　掘　状　況

第　１　号　塚
確　認　状　況

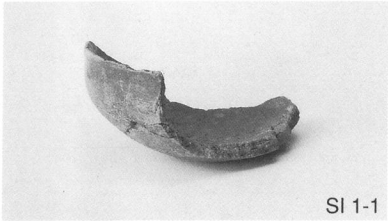


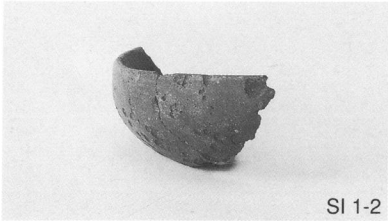
第 1 号 塚
土 層 断 面

第 1 号炉穴
遺物出土状況



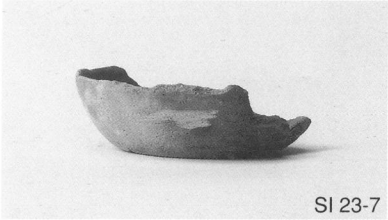
第 1 号 土 壙 墓
人骨・遺物出土状況


SI 1-1


SI 1-2

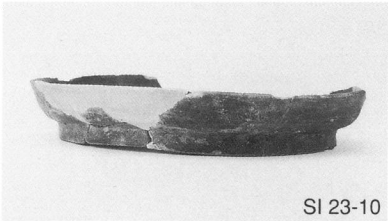
SI 23-5

SI 23-6

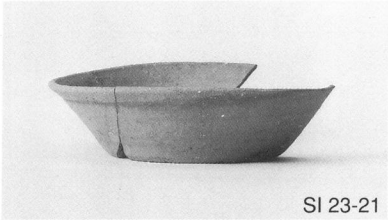

SI 23-7

SI 23-8

SI 23-9

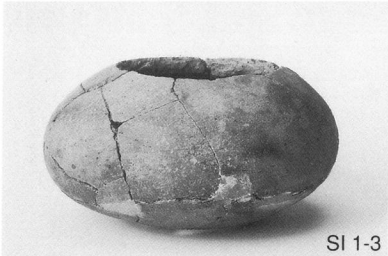

SI 23-10

SI 23-20


SI 23-21

SI 23-22

SI 23-23


SI 1-3

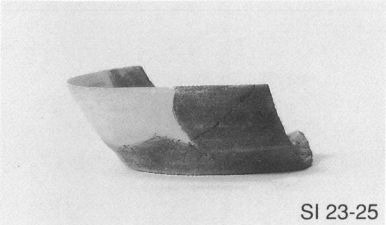
SI 23-18

SI 23-19

SI 23-12

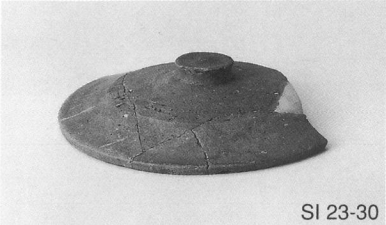
SI 23-14

第1・23号住居跡出土遺物


SI 23-25

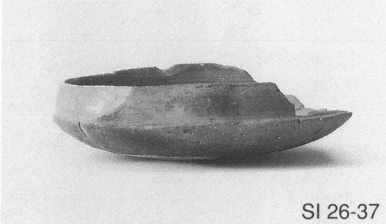
SI 23-26

SI 23-27


SI 23-30

SI 26-35

SI 26-36


SI 26-37

SI 26-38

SI 26-39

SI 23-32

SI 26-40

SI 26-41

SI 25-121

SI 26-43

SK 60-141

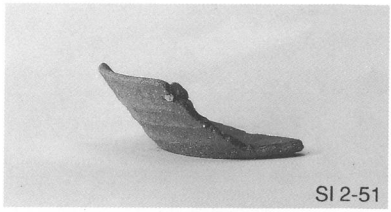
SI 26-44

SK 60-144

第23・25・26号住居跡，第60号土坑出土遺物

SI 2-49

SI 2-50


SI 2-51

SI 2-57

SI 3-58

SI 3-62

SI 3-63

SI 3-64

SI 3-65

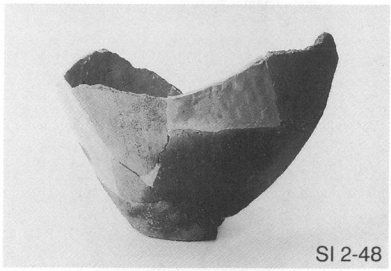
SK 60-142

SK 60-143

SI 2-45

SI 2-46

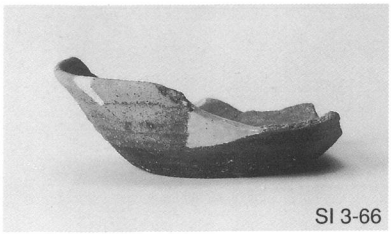
SI 2-47

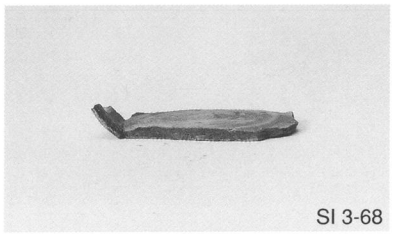

SI 2-48

SI 3-59

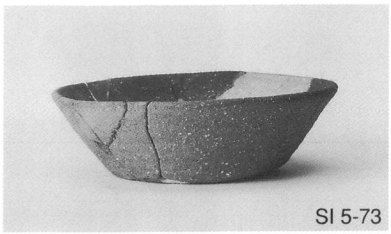
SI 3-60

第2・3号住居跡，第60号土坑出土遺物


SI 3-66

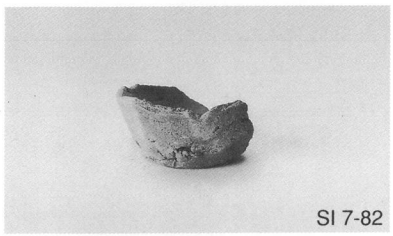

SI 3-68

SI 3-69


SI 5-73

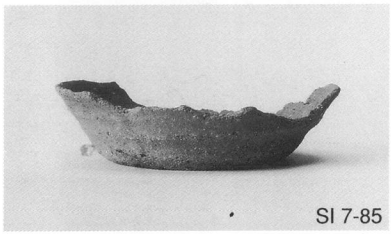
SI 7-77

SI 7-78

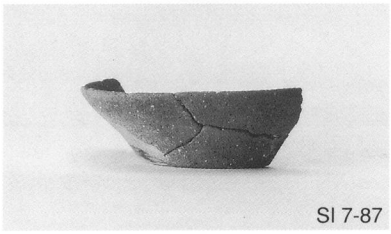

SI 7-82

SI 7-83

SI 7-84


SI 7-85

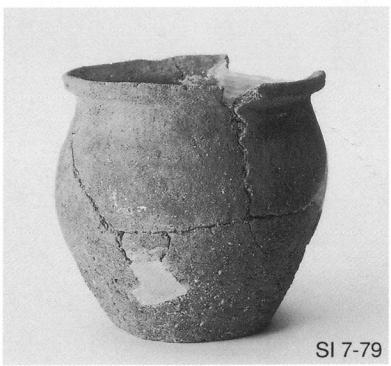
SI 7-86


SI 7-87

SI 3-72

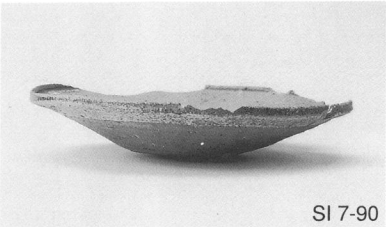
SI 5-76

SI 7-80


SI 7-79

SI 8-91

第3・5・7・8号住居跡出土遺物


SI 7-90

SI 9-93

SI 9-94

SI 10-97

SI 10-98

SI 10-99

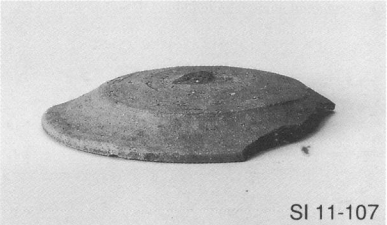
SI 10-100

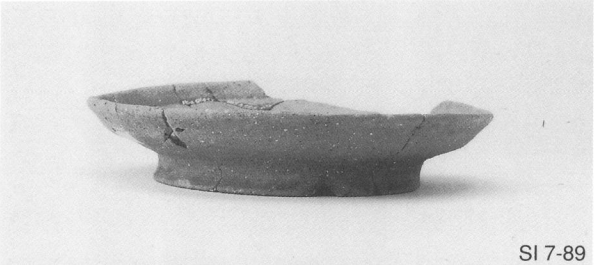
SI 10-101

SI 10-102

SI 10-103

SI 11-106


SI 11-107

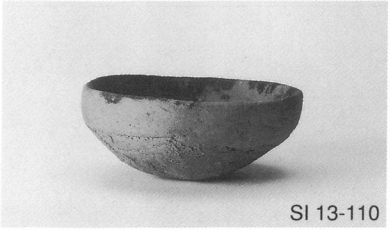

SI 7-89

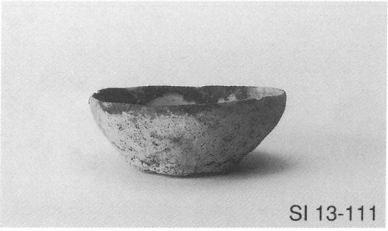
SI 9-95

SI 9-92

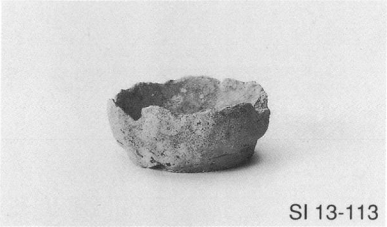
SI 10-96

第7・9・10・11号住居跡出土遺物


SI 13-110


SI 13-111

SI 13-112

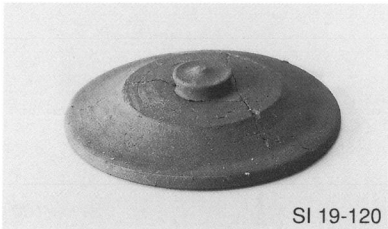

SI 13-113

SI 13-114

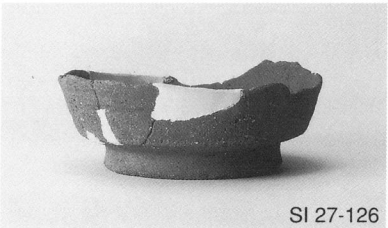
SI 16-115

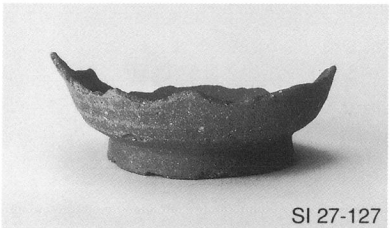
SI 19-118

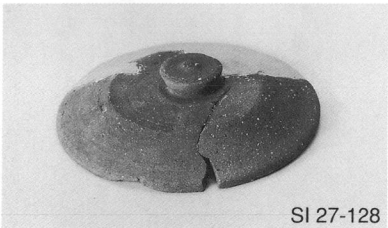
SI 19-119


SI 19-120

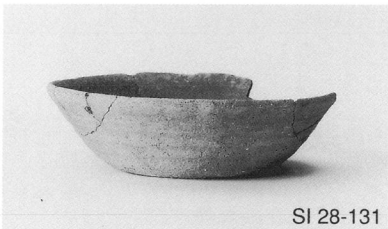
SI 27-125

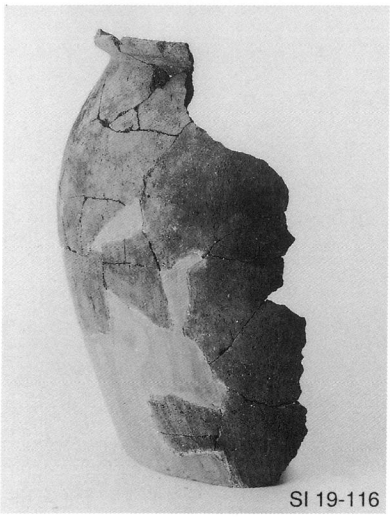

SI 27-126


SI 27-127


SI 27-128

SI 27-129


SI 28-131

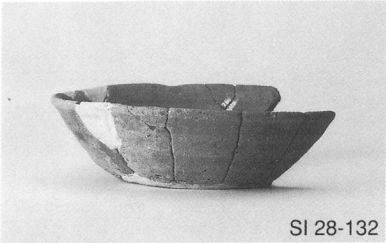

SI 19-116

SI 27-122

第１号土壙墓-140

SI 27-123

第13・16・19・27・28号住居跡，第１号土壙墓出土遺物


SI 28-132

SI 28-133

SI 28-134

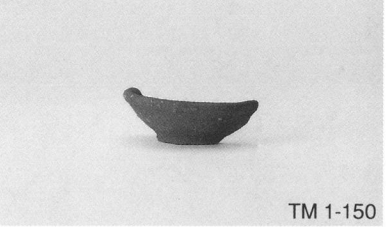
第１号ピット群-139

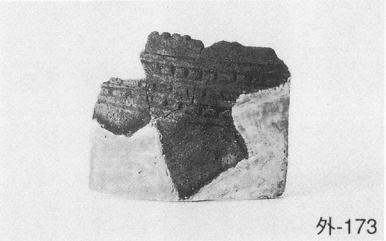
TM 1-145

TM 1-146

TM 1-147

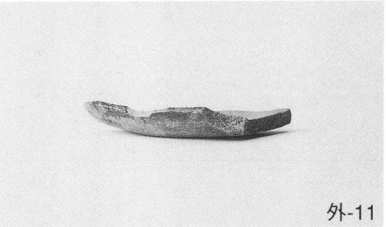
TM 1-149


TM 1-150

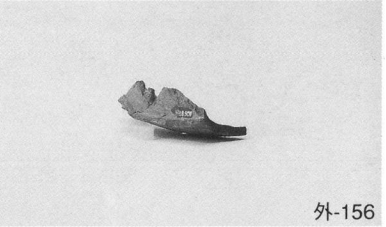

外-173

外-152

外-154


外-11

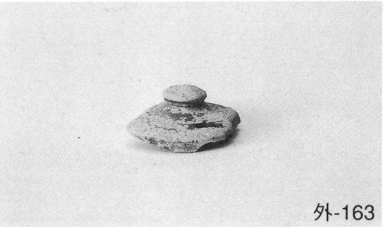
外-108

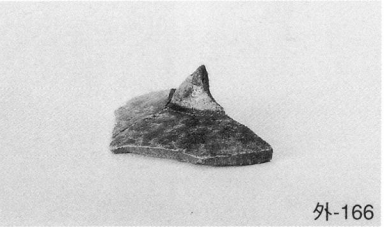

外-156

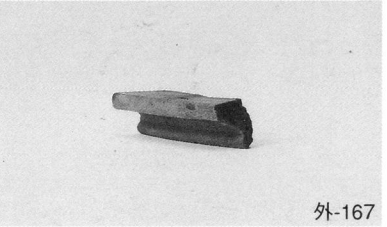
外-165

外-157

外-174

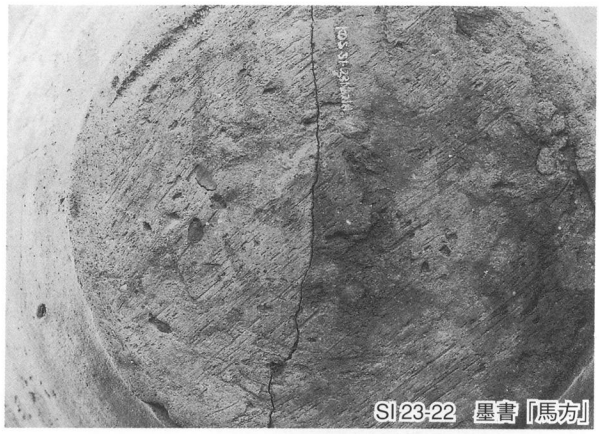

外-163


外-166


外-167

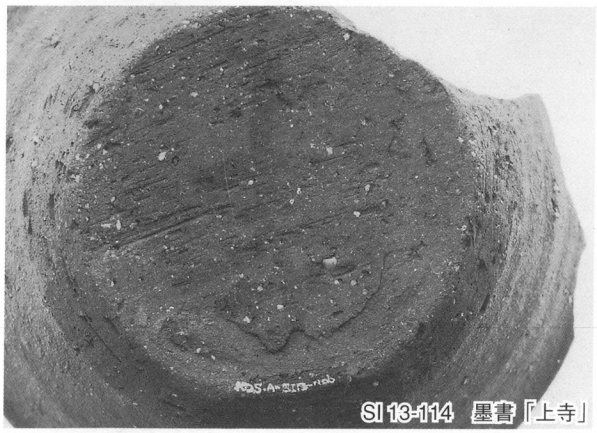
第28号住居跡，第１号ピット群，第１号塚，遺構外出土遺物

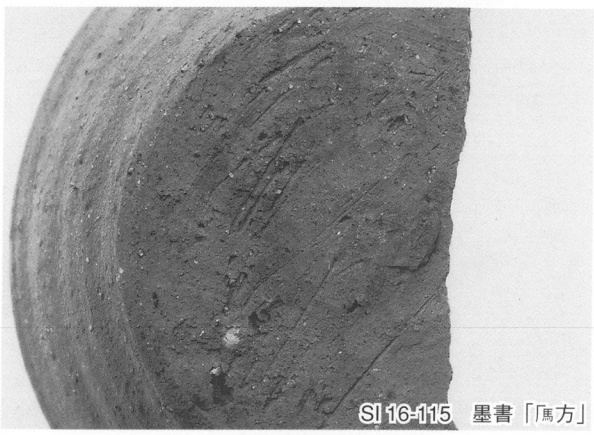
SI 10-97　墨書「上家」


SI 23-22　墨書「馬方」

SI 10-98　墨書「上家」

SI 3-68　墨書「×寺」

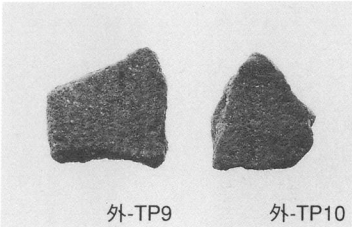

SI 13-114　墨書「上寺」

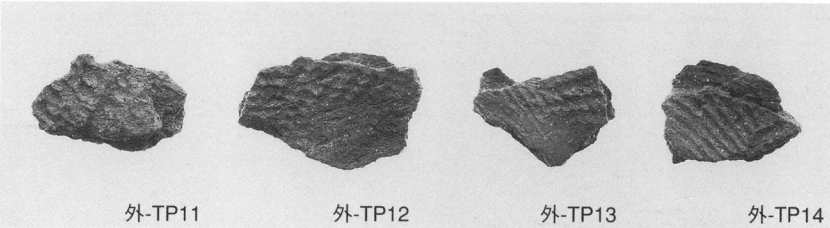

SI 16-115　墨書「馬方」

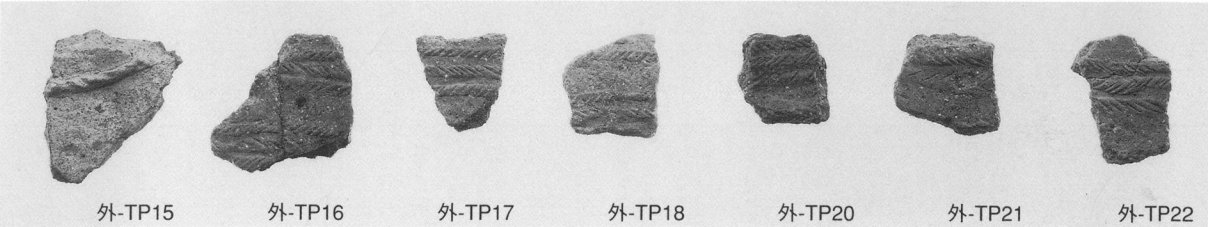
第1号ピット群-139　墨書「上家」

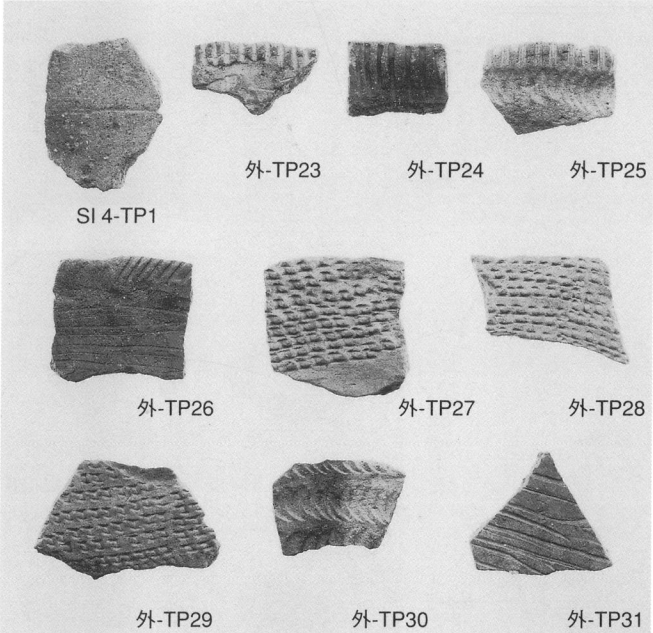
第1号土壙墓-140

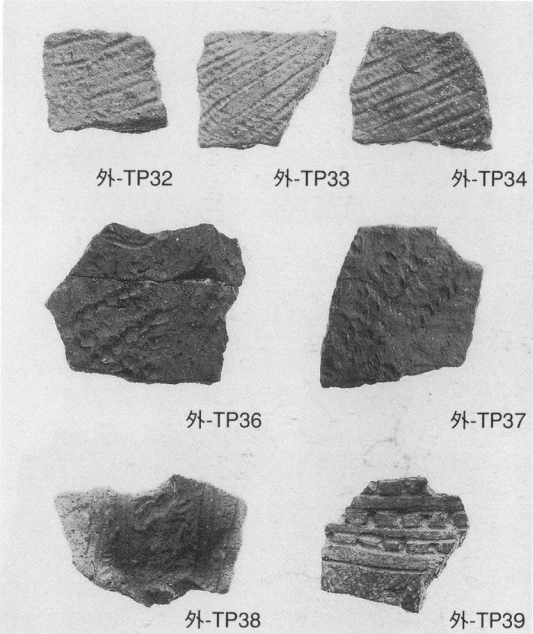
出土遺物（墨書・印花文）

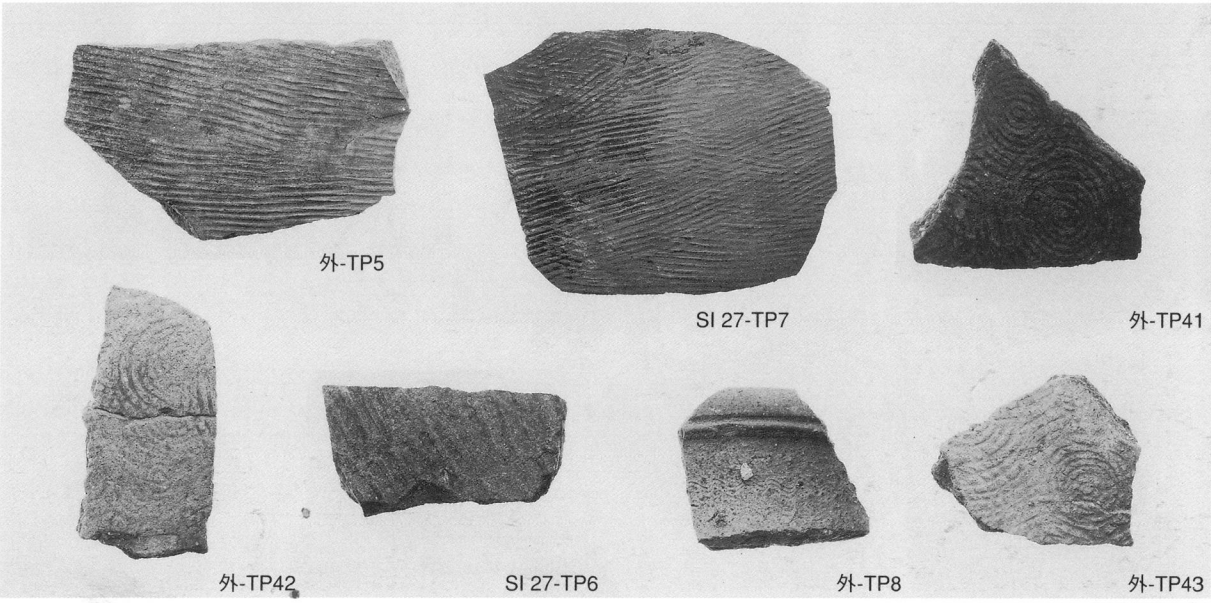

外-TP9
外-TP10


外-TP11
外-TP12
外-TP13
外-TP14


外-TP15
外-TP16
外-TP17
外-TP18
外-TP20
外-TP21
外-TP22

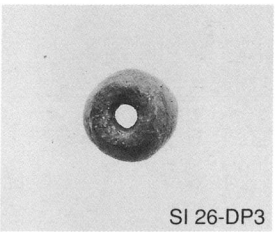

SI 4-TP1
外-TP23
外-TP24
外-TP25
外-TP26
外-TP27
外-TP28
外-TP29
外-TP30
外-TP31


外-TP32
外-TP33
外-TP34
外-TP36
外-TP37
外-TP38
外-TP39

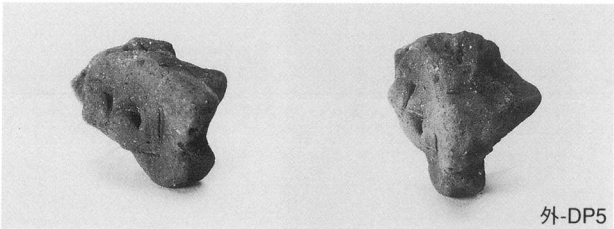

外-TP5
SI 27-TP7
外-TP41
外-TP42
SI 27-TP6
外-TP8
外-TP43

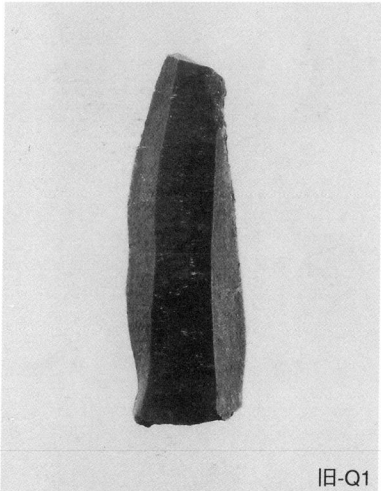
SI 2-DP1

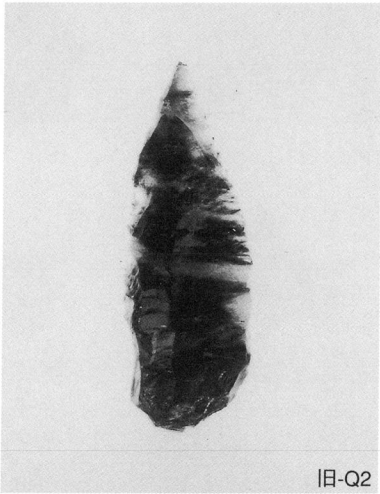
SI 10-DP2

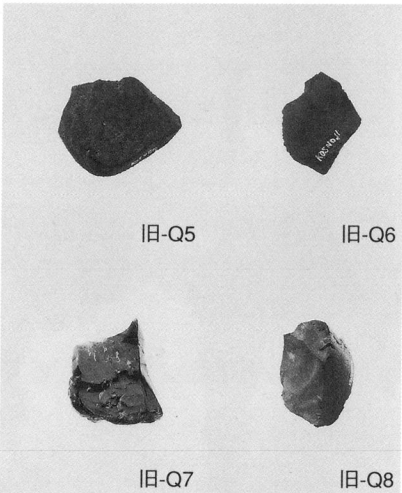

SI 26-DP3

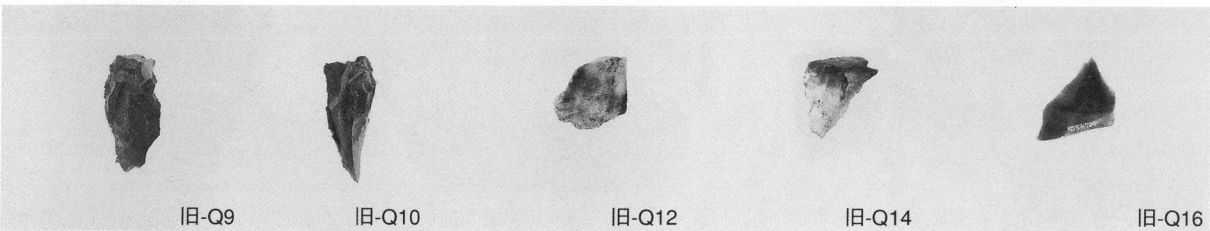
外-DP4

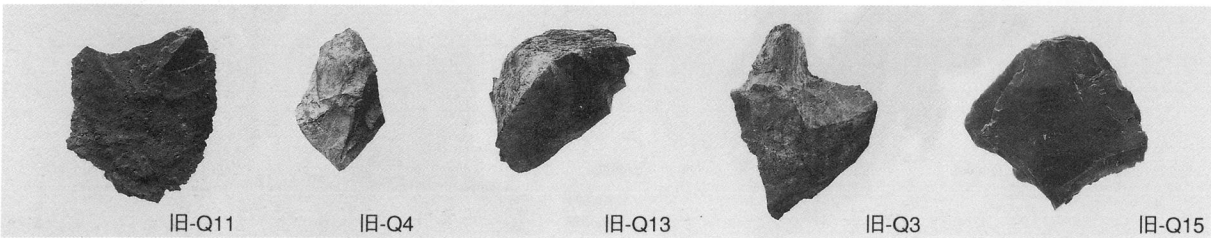

外-DP5


旧-Q1

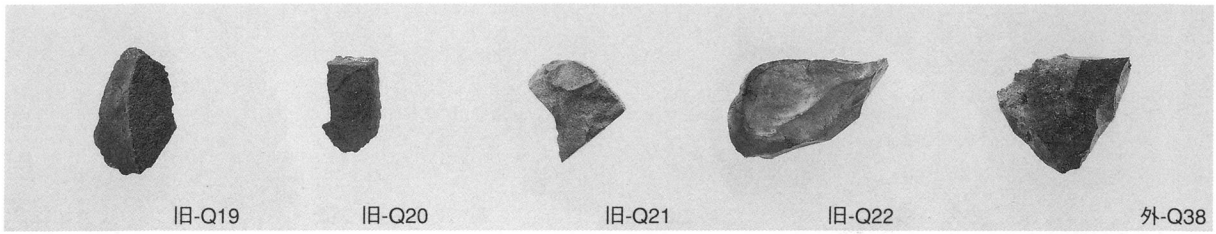

旧-Q2

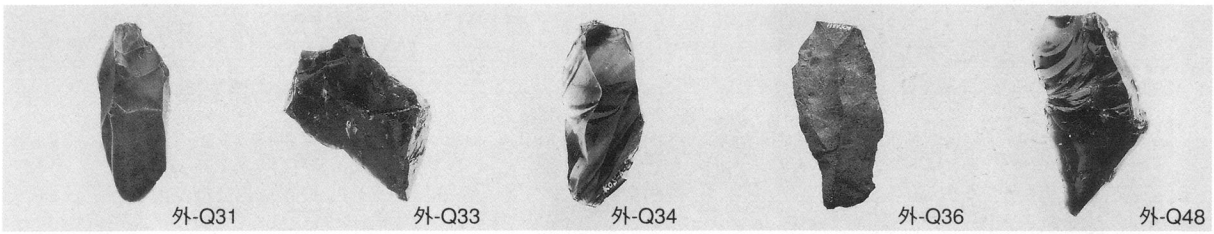

旧-Q5 旧-Q6 旧-Q7 旧-Q8

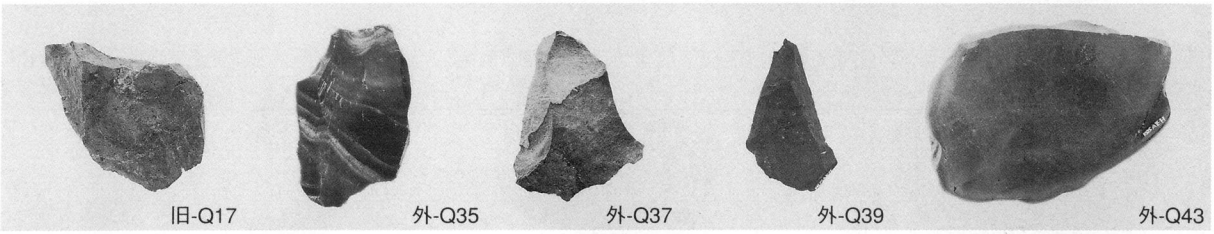

旧-Q9 旧-Q10 旧-Q12 旧-Q14 旧-Q16

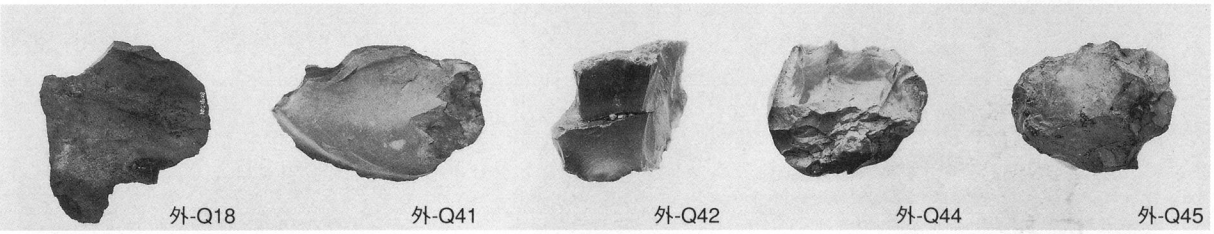

旧-Q11 旧-Q4 旧-Q13 旧-Q3 旧-Q15

土製品出土遺物，旧石器出土遺物

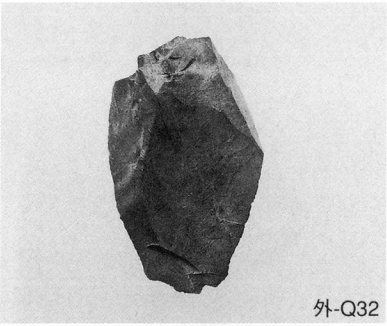

旧-Q19
旧-Q20
旧-Q21
旧-Q22
外-Q38


外-Q31
外-Q33
外-Q34
外-Q36
外-Q48


旧-Q17
外-Q35
外-Q37
外-Q39
外-Q43


外-Q18
外-Q41
外-Q42
外-Q44
外-Q45

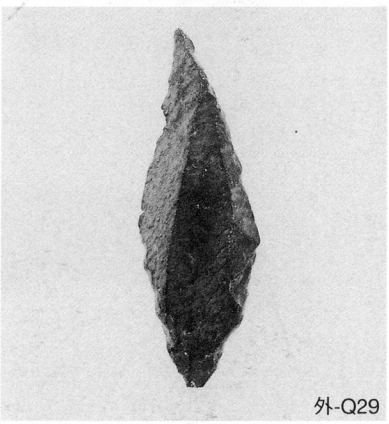
外-Q30


外-Q32

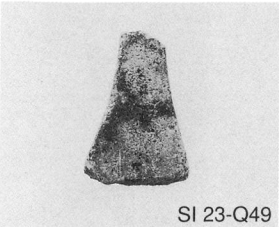
外-Q40

外-Q27

外-Q28

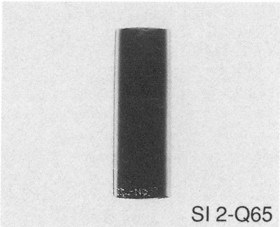

外-Q29

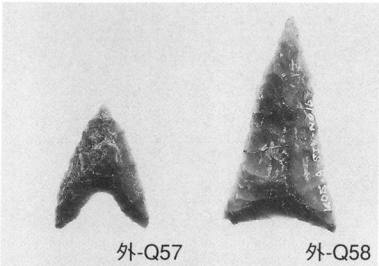
旧石器出土遺物


SI 23-Q49

SI 27-Q54

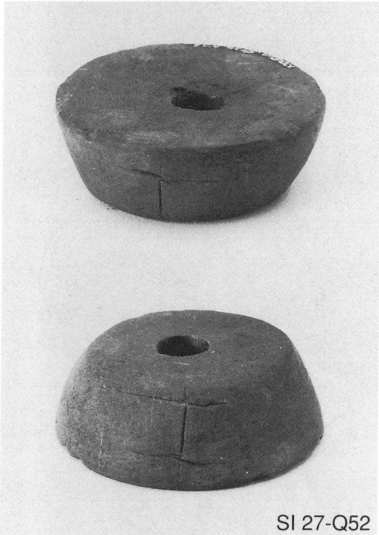
第１号土壙墓-Q56

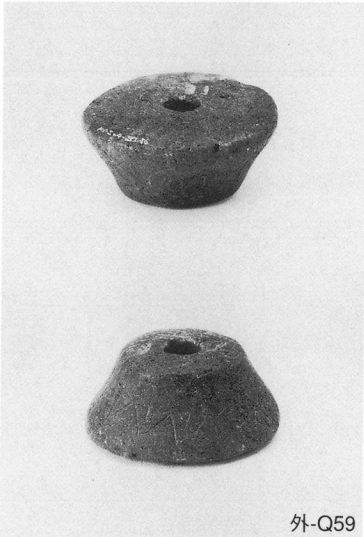

SI 2-Q65

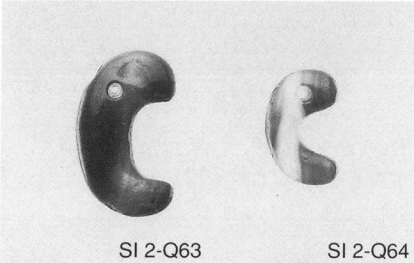

外-Q57　外-Q58

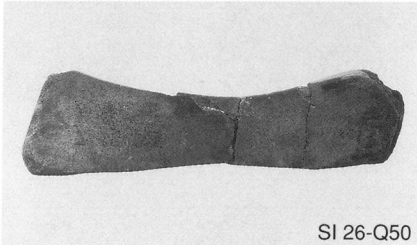
SI 27-Q53

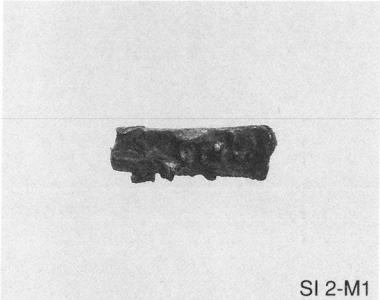
SI 26-Q51


SI 27-Q52


外-Q59

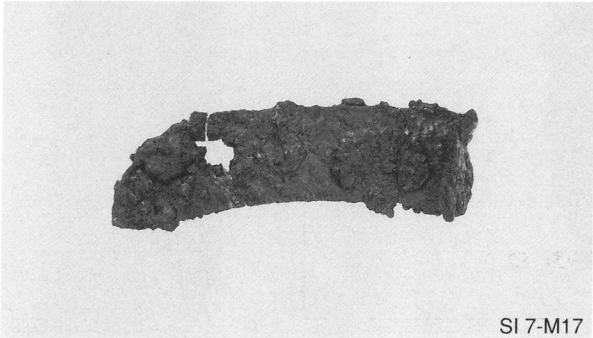

SI 2-Q63　SI 2-Q64

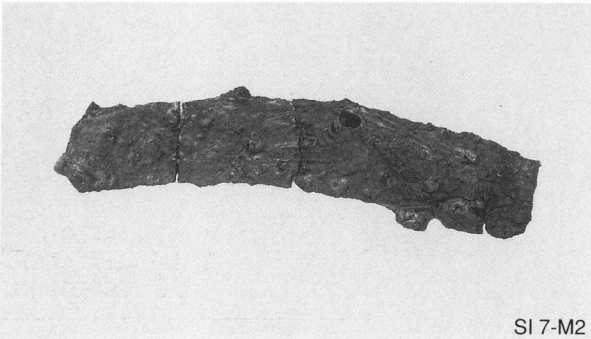

SI 26-Q50


SI 2-M1

SI 27-M3

第１号土壙墓-M4


SI 7-M17


SI 7-M2

石製品・金属製品出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第171集

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書１

下　大　井　遺　跡

平成13（2001）年３月15日　印刷
平成13（2001）年３月21日　発行

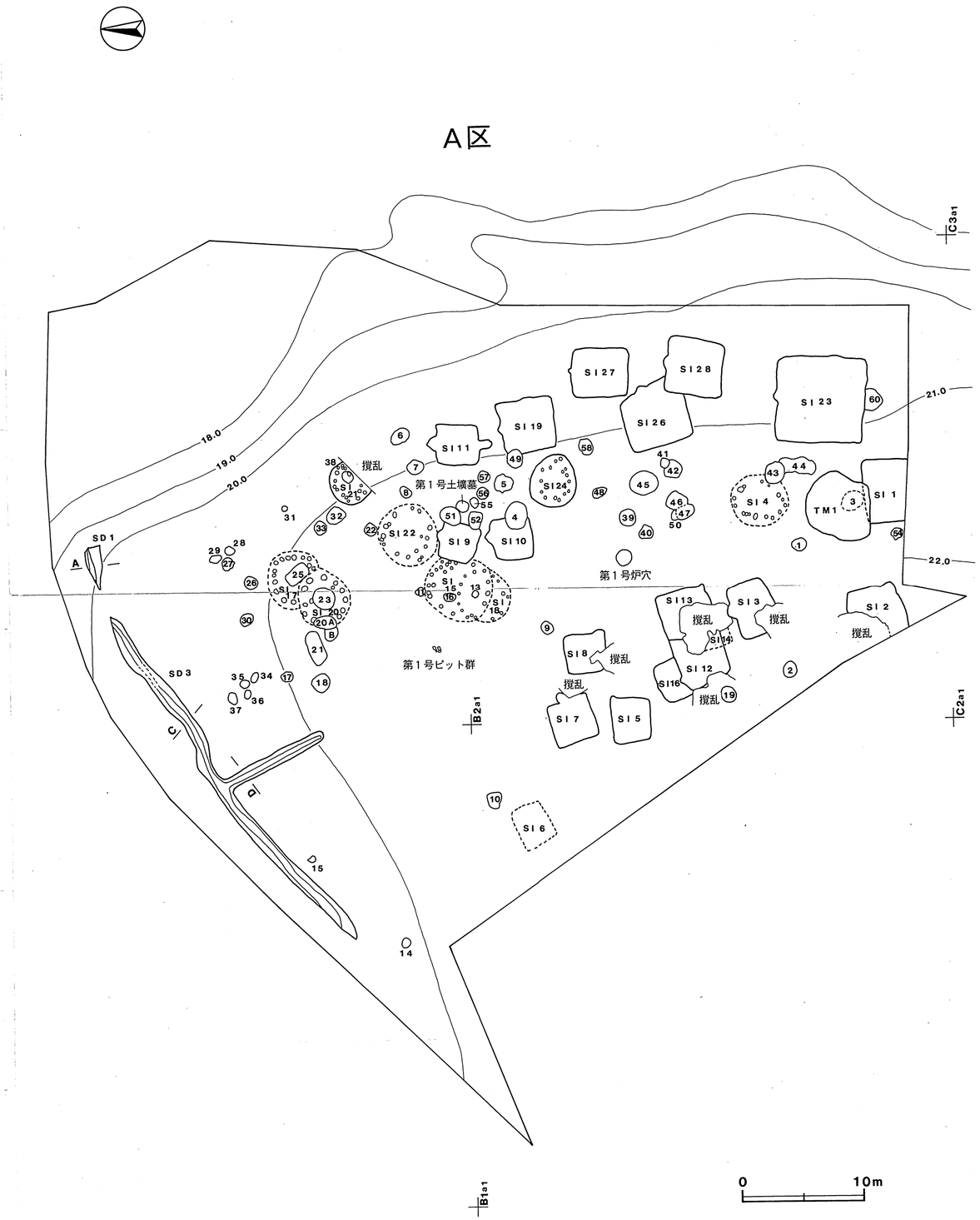
発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310－0911 水戸市見和１丁目356番地２号
茨城県水戸生涯学習センター分館内
ＴＥＬ 029－225－6587

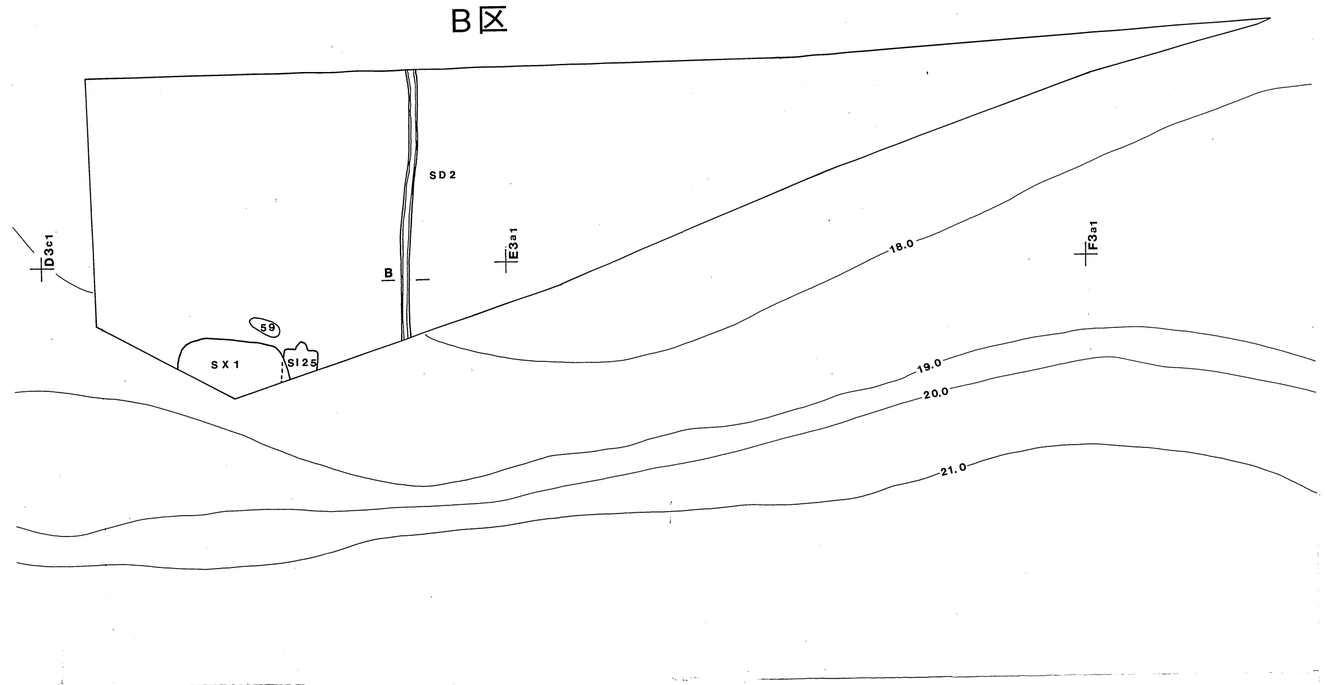
印刷　山三印刷株式会社
〒311－4153 水戸市河和田町4433－33
ＴＥＬ 029－252－8481

付　　図

茨城県教育財団文化財調査報告第171集

下大井遺跡遺構全体図





付　図　　下大井遺跡遺構全体図